

宮崎市埋蔵文化財調査報告書 第119集

KIYOTAKEKAMIINOHARU

清武上猪ノ原遺跡  
第5地区

県営農免農道整備事業船引2期地区工事にかかる埋蔵文化財調査報告書

2018

宮崎市教育委員会

宮崎市埋蔵文化財調査報告書 第119集

KIYOTAKEKAMIINOHARU

清武上猪ノ原遺跡

第5地区

県営農免農道整備事業船引2期地区工事にかかる埋蔵文化財調査報告書





清武上猪ノ原遺跡第5地区 縄文時代草創期住居跡群空中写真①（真上から）



清武上猪ノ原遺跡第5地区 縄文時代草創期住居跡群空中写真②（南から）



清武上猪ノ原遺跡第5地区 遠景



縄文時代草創期住居跡群（北東から）



1～4号住居（西から）



調査区南側旧石器出土状況



調査区北側縄文時代早期集石遺構群



縄文時代早期巨大集石遺構 (SI-277)

# 序

本書は宮崎市清武町船引県営農免農道整備事業に伴い、平成17年度から平成20年度にかけて発掘調査を行った清武上猪ノ原遺跡第5地区の発掘調査報告書です。

本発掘調査は、旧清武町教育委員会によって実施され、合併後は宮崎市教育委員会に引き継がれて、整理作業が行われて本発掘調査報告書の刊行となりました。

本遺跡からは平成18年度に九州で初めての出土となる矢柄研磨器が8例も発見され、平成19年度には全国的にも希少な縄文草創期の住居跡が14棟も検出されて西日本最古最大級の集落跡として注目を集めました。

この調査成果は「定住生活」を始めた頃の人々の生活を復元していく上で非常に重要であり、全国的にも類例の少ない歴史的遺産であることを考慮し、関係各局との協議の上、集落の大部分を現状保存することができました。そして平成25年度には宮崎県の指定史跡となりました。

このような重要な調査成果が学術研究、学校教育、生涯学習の資料として活用され、文化財を保護する意識向上に向かえば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施及び本遺跡の保存に関しまして、地元の皆様及び関係各局の方々の深いご理解とご協力を賜りました。心から感謝し、御礼申し上げます。

平成30年3月

宮崎市教育委員会  
教育長 二見 俊一

# 例 言

1. 本書は県営農免農道整備事業船引2期地区工事に伴って平成17年度から平成20年度にかけて行われた清武上猪ノ原遺跡第5地区の発掘調査報告書である。
2. 現場における測量・実測作業は秋成雅博・若杉知和・今村結記(現鹿児島県埋蔵文化財センター)・平山景将及び実測補助員が主に行い、一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステム及び有限会社ジパングサーベイに委託した。
3. 本書で使用した写真について現場における撮影は秋成・今村が行い、空中写真撮影については有限会社スカイサーベイ及び有限会社ジパングサーベイに委託した。また遺物撮影については秋成が生目の杜遊古館で行った。
4. 本書で使用した出土炭化物の放射性炭素年代測定及び樹種同定分析については主に株式会社古環境研究所及び株式会社加速器研究所に委託した。またそのほかに遠部慎氏による分析も行われている。
5. 出土遺物の実測図作成については整理作業員の協力を得て調査担当者が行い、一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステム・有限会社ジパングサーベイ・九州文化財研究所・株式会社イビソクに委託し、その監修は秋成が行った。なお、遺物番号186と187については寒川朋枝氏が実測したもの(寒川朋枝2014「使用痕分析からみた南九州細石刃石器群の特徴と地域性」『新田栄治先生退職記念論文集』新田栄治先生退職記念事業会に掲載)を再トレースしている。
6. 本書で使用した黒曜石製遺物の産地推定については明治大学文化財研究施設に分析を依頼した。また安山岩製遺物の産地推定分析については株式会社古環境研究所に委託した。
7. 本書で使用した土層及び土器の色調は『新盤 標準土色帖(1997年後期版)』の土色に準拠した。
8. 本書で使用した記号は以下の通りである。  
SB…掘立柱建物 SC…炉穴・陥し穴・土坑類 SE…溝状遺構 SI…集石遺構 SR…礫群  
SZ…遺物集中箇所
9. 本書で使用した方位には磁北(M.N)と真北(G.N)がある。座標北を用いる場合はG.Nと表示している。レベルは海拔絶対高である。
10. 調査組織は以下の通りである。

平成17年度(発掘調査)

調査主体(清武町教育委員会)

事務局 教育長 神川孝志(～平成17年10月)  
水元三千夫(平成17年10月～)

教育次長 小城 員久

生涯学習課長 落合 兼雄

生涯学習課長補佐 長友 真一

生涯学習課係長 伊東 但

生涯学習課主任 井田 篤

調査員 生涯学習課主事 秋成 雅博

生涯学習課嘱託 若杉 知和

生涯学習課嘱託 今村 結記

平成18年度(発掘調査)

調査主体(清武町教育委員会)

事務局 教育長 水元三千夫

教育次長 小城 員久

生涯学習課長 落合 兼雄

生涯学習課長補佐 窪田 清士

生涯学習課係長 伊東 但

生涯学習課主任 井田 篤

調査員 生涯学習課主事 秋成 雅博

生涯学習課嘱託 今村 結記

生涯学習課嘱託 平山 景将

平成 19 年度(発掘調査)

調査主体(清武町教育委員会)

事務局 教育長 神川 孝志  
教育次長 小城 員久  
生涯学習課長 長友 公春  
生涯学習課長補佐 内藤 和弘  
生涯学習課係長 伊東 但  
生涯学習課主任 井田 篤  
調査員 生涯学習課主事 秋成 雅博  
生涯学習課嘱託 今村 結記

平成 20 年度(発掘調査)

調査主体(清武町教育委員会)

事務局 教育長 神川 孝志  
教育次長 児玉 秀樹  
生涯学習課長 日高 貞幸  
生涯学習課係長 伊東 但  
生涯学習課主任 井田 篤  
調査員 生涯学習課主事 秋成 雅博  
生涯学習課嘱託 今村 結記

平成 21 年度(整理作業)

調査主体(清武町教育委員会)

事務局 教育長 神川 孝志  
教育次長 児玉 秀樹  
生涯学習課長 日高 貞幸  
生涯学習課長補佐 川越 健  
生涯学習課係長 伊東 但  
生涯学習課主査 井田 篤  
調査員 生涯学習課主事 秋成 雅博  
生涯学習課嘱託 今村 結記

平成 24 年度(整理作業)

調査主体(宮崎市教育委員会)

事務局 教育長 二見 俊一  
教育局長 帖佐 伸一  
文化財課長 田村 泰彦  
補佐兼文化財管理係長 山田 典嗣  
副主幹兼埋蔵文化財係長 島田 正浩  
文化財課主査 井田 篤  
調査員 文化財課主任技師 秋成 雅博  
文化財課嘱託 山下 啓子  
文化財課嘱託 佐伯 美佐子

平成 25 年度(整理作業)

調査主体(宮崎市教育委員会)

事務局 教育長 二見 俊一  
教育局長 二宮 利尚  
文化財課長 橋口 一也  
補佐兼文化財管理係長 山田 典嗣  
副主幹兼埋蔵文化財係長 島田 正浩  
文化財課主査 井田 篤  
調査員 文化財課主任技師 秋成 雅博  
文化財課嘱託 船石 涼代  
文化財課嘱託 沼口 常子  
文化財課嘱託 徳丸 理奈

平成 26 年度(整理作業)

調査主体(宮崎市教育委員会)

事務局 教育長 二見 俊一  
教育局長 二宮 利尚  
文化財課長 橋口 一也  
補佐兼文化財管理係長 日高 貞幸  
副主幹兼埋蔵文化財係長 島田 正浩  
文化財課主査 井田 篤  
調査員 文化財課主査 秋成 雅博  
文化財課嘱託 船石 涼代  
文化財課嘱託 沼口 常子  
文化財課嘱託 徳丸 理奈

平成 27 年度(整理作業)

調査主体(宮崎市教育委員会)

事務局 教育長 二見 俊一  
教育局長 二宮 俊尚  
文化財課長 日高 貞幸  
補佐兼文化財管理係長 小窪 裕俊  
埋蔵文化財係長 井田 篤  
調査員 文化財課主査 秋成 雅博  
文化財課嘱託 船石 涼代  
文化財課嘱託 沼口 常子  
文化財課嘱託 徳丸 理奈

平成 28 年度(整理作業)

調査主体(宮崎市教育委員会)

事務局 教育長 二見 俊一  
教育局長 小泉 英一  
文化財課長 日高 貞幸  
補佐兼文化財管理係長 小窪 裕俊  
埋蔵文化財係長 井田 篤  
調査員 文化財課主査 秋成 雅博  
文化財課嘱託 船石 涼代  
文化財課嘱託 沼口 常子  
文化財課嘱託 徳丸 理奈

平成 29 年度(整理作業)

調査主体(宮崎市教育委員会)

事務局 教育長 二見 俊一

教育局長 小泉 英一

文化財課長 羽木本 光男

補佐兼文化財管理係長 小窪 裕俊

副主幹兼埋蔵文化財係長 井田 篤

調査員 文化財課主査 秋成 雅博

文化財課嘱託 徳丸 理奈

文化財課嘱託 船石 涼代

文化財課嘱託 小野 貞子

文化財課嘱託 沼口 常子

文化財課嘱託 菊地 ひろみ

文化財課嘱託 小牟田 智子

文化財課嘱託 佐伯 美佐子

文化財課嘱託 永友 加奈子

11. 本書の執筆と編集は秋成が担当した。

12. 本書で報告した清武上猪ノ原遺跡第 5 地区における出土遺物、実測図、撮影写真などは全て宮崎市教育委員会で保管している。

13. 本発掘調査に係る文書手続きは以下のとおりである。

工事通知(文化財保護法第 94 条) 宮崎県中部農林振興局長より 平成 17 年 4 月 12 日付 6001-110-6 号

着手届 平成 17 年 7 月 19 日 清教生第 171 号

終了報告 平成 21 年 3 月 30 日 清教生第 454 号

発見通知 平成 20 年 6 月 13 日 清教生第 126 号

保管証 平成 24 年 11 月 26 日 宮教文第 620 号

14. 調査及び報告書作成において以下の方々にご指導・ご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

(敬称略：順不同)

小林達雄、水ノ江和同、橘昌信、佐藤宏之、稲田孝司、木下尚子、柳沢一男、小畑弘己、柳田俊雄、小林謙一、森先一貴、清野孝之、坂井秀弥、岩永哲夫、菅付和樹、谷口武範、長津宗重、永友良典、吉本正典、赤崎広志、東憲章、日高広人、松本茂、藤木聡、今塩屋毅行、柳田裕三、飯田博之、福田聡、日高優子、藤木晶子、堀田孝博、岸田裕一、重留康博、栗畑光博、山下大輔、栗山葉子、加覧淳一、近沢恒典、矢部喜多夫、東和幸、下東嘉也、岡本武憲、新東晃一、宮田栄二、寺原徹、前迫亮一、黒川忠広、堂込秀人、宮尾亨、寒川朋枝、下山覚、鎌田洋昭、佐藤雅一、東徹志、村上昇、岩永勇亮、遠部慎、原田昌幸、岩崎厚志、岩谷史記、杉原敏之、吉留秀敏、芝康次郎、藤山龍造、杉山真一、雨宮瑞生、甲斐康大、藤井大祐、中村友昭、綿貫俊一、佐野英司、佐野良文、若月省吾、萩谷千明、深野信之、川道寛、鹿又良隆、辻田直人、木崎康弘、馬籠亮道、井上隆弘、川内野篤、及川穰、萩原博文、宮田剛、山田しょう、今田秀樹、前田潤一郎、面高哲郎、稲岡洋道、金丸武司、石村友規

# 本文目次

第Ⅰ章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	遺跡の立地と環境	1
第3節	調査の概要と基本層序	1
第4節	調査区域の現状保存と普及活動について	7
第Ⅱ章	旧石器時代の調査	9
第1節	ナイフ形石器文化期の遺物の出土状況と文化層の認定について	9
第2節	ナイフ形石器文化Ⅱ期の調査	9
第3節	ナイフ形石器文化Ⅰ期の調査	35
第4節	細石刃文化期の遺物について	41
第Ⅲ章	縄文時代草創期の調査	53
第1節	縄文時代草創期の遺構の検出状況と文化層の認定について	53
第2節	遺構について	53
第3節	遺物包含層中の出土遺物について	116
第Ⅳ章	縄文時代早期の調査	171
第1節	遺構の分布状況と遺物包含層の出土状況について	171
第2節	遺構について	171
第3節	遺物包含層出土遺物について	232
第Ⅴ章	アカホヤ火山灰層上位の調査	355
第1節	縄文時代前期～後期の遺構と遺物について	355
第2節	古代以降の遺構について	355
第3節	時期不明の遺構について	359
第Ⅵ章	自然科学分析について	365
第Ⅶ章	まとめ	369
第1節	清武上猪ノ原遺跡第5地区の立地環境について	369
第2節	旧石器時代の調査成果	369
第3節	縄文時代草創期の調査成果	370
第4節	縄文時代早期の調査成果	374
第5節	古代の調査成果	375

# 挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図(S=1/25000) ……………	3	第25図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図⑨(S=2/3) ……………	31
第2図	清武上猪ノ原遺跡第5地区周辺地形図 (S=1/1500) ……………	4	第26図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器・礫分布図【石材別】(S=1/500) ……	32
第3図	基本土層図(S=1/30) ……………	5	第27図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器分布図【器種別】(S=1/500) ……	33
第4図	清武上猪ノ原遺跡第5地区保存範囲図 (S=1/1000) ……………	6	第28図	ナイフ形石器文化Ⅰ期礫群実測図 (S=1/30)及び遺物包含層出土石器 実測図①(S=2/3) ……………	34
第5図	旧石器時代遺物分布図(S=1/500) ……	10	第29図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器実測図②(S=2/3) ……………	35
第6図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群と礫の 分布図(S=1/500) ……………	11	第30図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器実測図③(S=2/3・1/2) ……………	36
第7図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群実測図① (S=1/30) ……………	12	第31図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器実測図④(S=1/2) ……………	37
第8図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群実測図② (S=1/30) ……………	13	第32図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器実測図⑤(S=2/3) ……………	38
第9図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群実測図③ (S=1/30) ……………	14	第33図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器実測図⑥(S=2/3) ……………	39
第10図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群実測図④ (S=1/30)及び礫群内出土遺物実測図① (S=2/3) ……………	15	第34図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器実測図⑦(S=2/3) ……………	40
第11図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群内出土遺物 実測図②(S=1/2) ……………	16	第35図	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物包含層出土 石器実測図⑧(S=2/3) ……………	41
第12図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群内出土遺物 実測図③(S=2/3) ……………	17	第36図	細石刃文化期遺物分布図(S=1/500) ……	42
第13図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群内出土遺物 実測図④(S=2/3) ……………	18	第37図	細石刃文化期遺物実測図(S=2/3) ……	43
第14図	ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群内出土遺物 実測図⑤(S=2/3) ……………	19	第38図	縄文時代草創期遺構配置図(S=1/500) ……	54
第15図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器分布図①【器種別】(S=1/500) ……	21	第39図	縄文時代草創期遺構内遺物分布図 (S=1/250) ……………	55
第16図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器分布図②【石材別】(S=1/500) ……	22	第40図	1号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50)及び出土遺物実測図(S=2/3) ……	56
第17図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図①(S=2/3) ……………	23	第41図	2号住居跡実測図(S=1/50) ……………	57
第18図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図②(S=2/3) ……………	24	第42図	2号住居跡石組み炉及び土坑1・2実測図 (S=1/20) ……………	58
第19図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図③(S=2/3・1/2) ……………	25	第43図	2号住居跡出土遺物分布図(S=1/50) 及び出土遺物実測図①(S=1/3) ……	59
第20図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図④(S=2/3) ……………	26	第44図	2号住居跡出土遺物実測図② (S=1/3・2/3・1/2) ……………	60
第21図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図⑤(S=2/3) ……………	27	第45図	2号住居跡出土遺物実測図③(S=2/3) ……	61
第22図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図⑥(S=2/3) ……………	28	第46図	2号住居跡出土遺物実測図④(S=2/3・1/2) ……	62
第23図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図⑦(S=2/3) ……………	29	第47図	3号住居跡実測図(S=1/50)及び遺物 出土状況図(S=1/10) ……	63
第24図	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土 石器実測図⑧(S=2/3) ……………	30	第48図	3号住居跡出土遺物分布図(S=1/50) 及び出土遺物実測図①(S=1/3) ……	63
			第49図	3号住居跡出土遺物実測図②(S=1/3・1/2) ……	64
			第50図	4号住居跡実測図(S=1/50)及び遺物 出土状況図(S=1/10) ……	65
			第51図	4号住居跡出土遺物分布図(S=1/50) 及び出土遺物実測図①(S=1/3) ……	66
			第52図	4号住居跡出土遺物実測図② (S=1/3・2/3・1/2) ……………	67

第53図	5号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50) ……………	68	第79図	14号住居跡出土遺物実測図③(S=2/3) …	94
第54図	5号住居跡出土遺物実測図(S=2/3・1/3) …	69	第80図	14号住居跡出土遺物実測図④(S=1/2) …	95
第55図	6号住居跡実測図(S=1/50)及び遺物 出土状況図(S=1/20)……………	70	第81図	縄文草創期貯蔵穴実測図(S=1/30)及び 出土遺物実測図(S=1/3・2/3) ……………	96
第56図	6号住居跡出土遺物分布図(S=1/50) 及び出土遺物実測図①(S=1/3) ……………	71	第82図	縄文草創期炉跡・炉穴及び土坑実測図 (S=1/30)及び出土遺物実測図 (S=1/3・2/3) ……………	97
第57図	6号住居跡出土遺物実測図②及び SC-305出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2) ……………	72	第83図	縄文草創期集石遺構実測図(S=1/30) …	98
第58図	7・8・9号住居跡実測図(S=1/50) ……………	73	第84図	縄文草創期土坑実測図①(S=1/30) ……	99
第59図	7・8号住居跡土層断面図(S=1/50) 及び遺物出土状況図(S=1/10) ……………	74	第85図	縄文草創期土坑実測図②(S=1/30)及び 出土遺物実測図①(S=1/3・2/3) ……………	100
第60図	7・8・9号住居跡出土遺物分布図(S=1/50) 及び7号住居跡出土遺物実測図① (S=1/3) ……………	75	第86図	縄文草創期遺物集中箇所実測図(S=1/30) 及び出土遺物実測図(S=1/3・1/2) ……………	101
第61図	7号住居跡出土遺物実測図②(S=1/3) ……	76	第87図	縄文草創期ハイヒール状土坑実測図① (S=1/40) ……………	102
第62図	7号住居跡出土遺物実測図③ (S=1/3・2/3・1/2) ……………	77	第88図	縄文草創期ハイヒール状土坑実測図② (S=1/40) ……………	103
第63図	7号住居跡出土遺物実測図④(S=1/2) …	78	第89図	縄文草創期ハイヒール状土坑実測図③ (S=1/40) ……………	104
第64図	8号住居跡出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2) ……………	79	第90図	縄文草創期ハイヒール状土坑実測図④ (S=1/40) ……………	105
第65図	9号住居跡出土遺物実測図及びSC-323 出土遺物実測図(S=1/3・2/3・1/2) ……	80	第91図	縄文草創期ハイヒール状土坑実測図⑤ (S=1/40) ……………	106
第66図	10号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50)……………	81	第92図	縄文草創期ハイヒール状土坑実測図⑥ (S=1/40) ……………	107
第67図	10号住居跡出土遺物実測図① (S=1/3・2/3) ……………	82	第93図	縄文草創期ハイヒール状土坑出土遺物 実測図(S=1/3・2/3) ……………	108
第68図	10号住居跡出土遺物実測図② (S=1/2・2/3) ……………	83	第94図	縄文草創期土坑実測図③(S=1/30)及び 出土遺物実測図②(S=1/3) ……………	109
第69図	11号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50)及び出土遺物実測図①(S=1/3) …	84	第95図	縄文草創期土坑出土遺物実測図③ (S=1/3・1/2) ……………	110
第70図	11号住居跡出土遺物実測図②及び SC-342・SC-350出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2) ……………	85	第96図	縄文時代草創期遺物包含層出土土器 分布図(S=1/500)……………	117
第71図	12号住居跡実測図(S=1/50) ……………	86	第97図	縄文草創期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3) ……………	118
第72図	12号住居跡出土遺物分布図(S=1/50) 及び出土遺物実測図(S=1/3・2/3) ……	87	第98図	縄文草創期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3) ……………	119
第73図	13号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50) ……………	88	第99図	縄文草創期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3) ……………	120
第74図	13号住居跡出土遺物実測図① (S=1/3・2/3) ……………	89	第100図	縄文草創期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3) ……………	121
第75図	13号住居跡出土遺物実測図② (S=2/3・1/2) ……………	90	第101図	縄文草創期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3) ……………	122
第76図	14号住居跡実測図(S=1/50)及び 遺物出土状況図(S=1/10) ……………	91	第102図	縄文草創期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3) ……………	123
第77図	14号住居跡出土遺物分布図(S=1/50) 及び出土遺物実測図①(S=1/3) ……	92	第103図	縄文草創期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3) ……………	124
第78図	14号住居跡出土遺物実測図② (S=1/3・2/3) ……………	93	第104図	縄文草創期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3)及びNo.708出土状況図 (S=1/10) ……………	125

第105図	縄文草創期遺物包含層出土土器及び土製品実測図(S=1/3・1/2) …… 126	第140図	縄文早期集石遺構実測図⑳(S=1/30) …… 192
第106図	縄文時代草創期遺物包含層出土主要石器分布図①【器種別】(S=1/500) …… 128	第141図	縄文早期集石遺構実測図㉑(S=1/30) …… 193
第107図	縄文時代草創期遺物包含層出土主要石器分布図②【石材別】(S=1/500) …… 129	第142図	縄文早期集石遺構実測図㉒(S=1/30) …… 194
第108図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図①(S=2/3) …… 130	第143図	縄文早期集石遺構実測図㉓(S=1/30) …… 195
第109図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図②(S=2/3) …… 131	第144図	縄文早期集石遺構実測図㉔(S=1/30) …… 196
第110図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図③(S=2/3) …… 132	第145図	縄文早期集石遺構実測図㉕(S=1/30) …… 197
第111図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図④(S=2/3) …… 133	第146図	縄文早期集石遺構実測図㉖(S=1/30) …… 198
第112図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑤(S=2/3) …… 134	第147図	縄文早期集石遺構実測図㉗(S=1/30) …… 199
第113図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑥(S=2/3) …… 135	第148図	縄文早期集石遺構実測図㉘(S=1/30) …… 200
第114図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑦(S=2/3) …… 136	第149図	縄文早期集石遺構出土遺物実測図①(S=1/3・2/3) …… 201
第115図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑧(S=2/3) …… 137	第150図	縄文早期集石遺構出土遺物実測図②(S=1/3・2/3) …… 202
第116図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑨(S=2/3) …… 138	第151図	縄文早期集石遺構出土遺物実測図③(S=1/3・2/3・1/2) …… 203
第117図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑩(S=2/3・1/2) …… 139	第152図	縄文早期集石遺構出土遺物実測図④(S=1/3・2/3) …… 204
第118図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑪(S=1/2) …… 140	第153図	縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑤(S=1/3・2/3・1/2) …… 205
第119図	縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑫(S=1/2・1/3) …… 141	第154図	縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑥(S=1/3・1/2) …… 206
第120図	縄文時代早期遺構配置図(S=1/500) …… 172	第155図	縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑦(S=1/3・2/3) …… 207
第121図	縄文早期集石遺構実測図①(S=1/30) …… 173	第156図	縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑧(S=1/3・2/3) …… 208
第122図	縄文早期集石遺構実測図②(S=1/30) …… 174	第157図	縄文早期炉穴実測図①(S=1/40) …… 209
第123図	縄文早期集石遺構実測図③(S=1/30) …… 175	第158図	縄文早期炉穴実測図②(S=1/40) …… 210
第124図	縄文早期集石遺構実測図④(S=1/30) …… 176	第159図	縄文早期炉穴実測図③(S=1/40) …… 211
第125図	縄文早期集石遺構実測図⑤(S=1/30) …… 177	第160図	縄文早期炉穴実測図④(S=1/40) …… 212
第126図	縄文早期集石遺構実測図⑥(S=1/30) …… 178	第161図	縄文早期炉穴実測図⑤(S=1/40) …… 213
第127図	縄文早期集石遺構実測図⑦(S=1/30) …… 179	第162図	縄文早期炉穴実測図⑥(S=1/40) …… 214
第128図	縄文早期集石遺構実測図⑧(S=1/30) …… 180	第163図	縄文早期炉穴出土遺物実測図①(S=1/3・2/3) …… 215
第129図	縄文早期集石遺構実測図⑨(S=1/30) …… 181	第164図	縄文早期炉穴出土遺物実測図②(S=1/3・2/3) …… 216
第130図	縄文早期集石遺構実測図⑩(S=1/30) …… 182	第165図	縄文早期炉穴出土遺物実測図③(S=1/3・2/3・1/2) …… 217
第131図	縄文早期集石遺構実測図⑪(S=1/30) …… 183	第166図	縄文早期陥し穴状遺構実測図①(S=1/40) …… 218
第132図	縄文早期集石遺構実測図⑫(S=1/30) …… 184	第167図	縄文早期陥し穴状遺構実測図②(S=1/40)及び出土遺物実測図(S=1/3・2/3) …… 219
第133図	縄文早期集石遺構実測図⑬(S=1/30) …… 185	第168図	縄文早期ハイヒール状土坑実測図(S=1/40) …… 220
第134図	縄文早期集石遺構実測図⑭(S=1/30) …… 186	第169図	縄文早期ハイヒール状土坑出土遺物実測図(S=1/3・2/3) …… 221
第135図	縄文早期集石遺構実測図⑮(S=1/30) …… 187	第170図	縄文早期土坑実測図①(S=1/40) …… 222
第136図	縄文早期集石遺構実測図⑯(S=1/30) …… 188	第171図	縄文早期土坑実測図②(S=1/40) …… 223
第137図	縄文早期集石遺構実測図⑰(S=1/30) …… 189	第172図	縄文早期土坑出土遺物実測図①(S=1/3・2/3) …… 224
第138図	縄文早期集石遺構実測図⑱(S=1/30) …… 190	第173図	縄文早期土坑出土遺物実測図②(S=1/3・2/3・1/2) …… 225
第139図	縄文早期集石遺構実測図⑲(S=1/30) …… 191		

第174図	縄文時代早期遺物包含層出土土器分布 図①【貝殻文系土器】(S=1/500) ……	233	第197図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑳	(S=1/3) ……	256
第175図	縄文時代早期遺物包含層出土土器分布 図②【押型文系土器】(S=1/500) ……	234	第198図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉑	(S=1/3) ……	257
第176図	縄文時代早期遺物包含層出土土器分布 図③【平椀式・塞ノ神式・早期末条痕文】 (S=1/500) ……	235	第199図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉒	(S=1/3) ……	258
第177図	縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図④ 【その他】(S=1/500) ……	236	第200図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉓	(S=1/3) ……	259
第178図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3) ……	237	第201図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉔	(S=1/3) ……	260
第179図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3) ……	238	第202図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉕	(S=1/3) ……	261
第180図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3) ……	239	第203図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉖	(S=1/3) ……	262
第181図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3) ……	240	第204図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉗	(S=1/3) ……	263
第182図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)及びNo.1281出土状況図 (S=1/10) ……	241	第205図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉘	(S=1/3) ……	264
第183図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3) ……	242	第206図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉙	(S=1/3) ……	265
第184図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3) ……	243	第207図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉚	(S=1/3) ……	266
第185図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3) ……	244	第208図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉛	(S=1/3) ……	267
第186図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑨ (S=1/3) ……	245	第209図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉜	(S=1/3) ……	268
第187図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3) ……	246	第210図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉝	(S=1/3) ……	269
第188図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑪ (S=1/3) ……	247	第211図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉞	(S=1/3) ……	270
第189図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑫ (S=1/3) ……	248	第212図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉟	(S=1/3) ……	271
第190図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑬ (S=1/3) ……	249	第213図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㊱	(S=1/3) ……	272
第191図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑭ (S=1/3) ……	250	第214図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㊲	(S=1/3) ……	273
第192図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑮ (S=1/3) ……	251	第215図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㊳	(S=1/3) ……	274
第193図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑯ (S=1/3) ……	252	第216図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㊴ 及び土製品実測図(S=1/2・1/3) ……	275	
第194図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑰ (S=1/3)及びNo.1512出土状況図 (S=1/10) ……	253	第217図	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布 図①【狩猟具】(S=1/500) ……	277	
第195図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図⑱ (S=1/3) ……	254	第218図	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布 図②【狩猟具以外】(S=1/500) ……	278	
第196図	縄文早期遺物包含層出土土器実測図㉑ (S=1/3) ……	255	第219図	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布 図③【石材別】(S=1/500) ……	279	
			第220図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3) ……	280	
			第221図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3) ……	281	

第222図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3) .....	282
第223図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3) .....	283
第224図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3) .....	284
第225図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3) .....	285
第226図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3) .....	286
第227図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3) .....	287
第228図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑨ (S=2/3) .....	288
第229図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑩ (S=2/3) .....	289
第230図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑪ (S=2/3) .....	290
第231図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑫ (S=2/3) .....	291
第232図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑬ (S=2/3) .....	292
第233図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑭ (S=2/3) .....	293
第234図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑮ (S=2/3) .....	294
第235図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑯ (S=2/3) .....	295
第236図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑰ (S=2/3) .....	296
第237図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑱ (S=2/3) .....	297
第238図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑲ (S=2/3・1/2) .....	298
第239図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図⑳ (S=1/2) .....	299
第240図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図㉑ (S=1/2) .....	300
第241図	縄文早期遺物包含層出土石器実測図㉒ (S=1/2) .....	301
第242図	基本土層IV層(アカホヤ火山灰層) 上面検出遺構配置図(S=1/500) .....	356
第243図	基本土層III層出土遺物実測図 (S=2/3・1/2) .....	357
第244図	SC-19実測図(S=1/40)及び出土遺物 実測図(S=1/3) .....	357
第245図	基本土層IV層検出掘立柱建物跡実測図 ①(S=1/80) .....	358
第246図	基本土層IV層検出掘立柱建物跡実測図 ②(S=1/80) .....	359

第247図	基本土層IV層検出掘立柱建物跡実測図 ③(S=1/80)及び出土遺物実測図 (S=1/3) .....	360
第248図	基本土層IV層検出溝状遺構土層断面図 (S=1/20) .....	361
第249図	基本土層IV層検出溝状遺構SE-1出土遺物 実測図(S=1/3・1/2)及びSC-8実測図 (S=1/40) .....	361
第250図	ガラス質安山岩産地推定判別図(1) .....	368
第251図	ガラス質安山岩産地推定判別図(2) .....	368
第252図	縄文時代草創期竪穴住居跡配置及び 包含層出土土器分布図(S=1/700) .....	371
第253図	縄文時代草創期竪穴住居跡配置及び 包含層出土土器分布図(S=1/700) .....	371
第254図	清武上猪ノ原遺跡第5地区出土早期土器 編年図 .....	374

## 表 目 次

第1表	船引地区遺跡群の発掘調査概要一覧表 .....	2
第2表	旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表 .....	44
第3表	縄文草創期遺構内出土土器観察表 .....	111
第4表	縄文草創期遺構内出土石器計測分類表 .....	114
第5表	縄文草創期遺物包含層出土土器観察表 .....	142
第6表	縄文草創期遺物包含層出土石器計測分類表 .....	144
第7表	縄文早期集石遺構計測表 .....	226
第8表	縄文早期遺構内出土土器観察表 .....	228
第9表	縄文早期遺構内出土石器計測分類表 .....	231
第10表	縄文早期遺物包含層出土土器観察表 .....	301
第11表	縄文早期遺物包含層出土石器計測分類表 .....	310
第12表	基本土層III層出土及びIV層上面検出 遺構内出土土器観察表 .....	362
第13表	放射性炭素年代測定法結果 .....	365
第14表	清武上猪ノ原遺跡出土黒曜石製遺物の 原産地推定結果 .....	366
第15表	清武上猪ノ原遺跡出土石器の蛍光X線 分析値及び産地推定結果 .....	368
第16表	清武上猪ノ原遺跡第5地区縄文草創期 竪穴住居跡内遺物一覧及び放射性炭素 年代測定値 .....	373

# 図 版 目 次

- 巻頭カラー 1 清武上猪ノ原遺跡第5地区  
縄文時代草創期住居跡群空中写真①  
(真上から)
- 巻頭カラー 2 清武上猪ノ原遺跡第5地区  
縄文時代草創期住居跡群空中写真②  
(南から)
- 巻頭カラー 3 清武上猪ノ原遺跡第5地区 遠景  
縄文時代草創期住居跡群(北東から)  
1～4号住居(西から)  
調査区南側旧石器出土状況
- 巻頭カラー 4 調査区北側縄文時代早期集石遺構群  
縄文時代早期巨大集石遺構(SI-277)

図版 1	基本土層断面	5	図版34	縄文早期遺構②	316
図版 2	3D画像及び縄文草創期遺構埋め戻し状況	8	図版35	縄文早期遺構③	317
図版 3	旧石器時代遺構	47	図版36	縄文早期遺構④	318
図版 4	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物①	48	図版37	縄文早期遺構⑤	319
図版 5	ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物②	49	図版38	縄文早期遺構⑥	320
図版 6	ナイフ形石器文化Ⅰ・Ⅱ期遺物	50	図版39	縄文早期遺構⑦	321
図版 7	ナイフ形石器文化Ⅰ期遺物	51	図版40	縄文早期遺構⑧	322
図版 8	礫群内出土遺物及び細石器文化期遺物	52	図版41	縄文早期遺構⑨	323
図版 9	縄文草創期遺構①	147	図版42	縄文早期遺構⑩及び遺物出土状況	324
図版10	縄文草創期遺構②	148	図版43	縄文早期遺構内出土遺物①	325
図版11	縄文草創期遺構③	149	図版44	縄文早期遺構内出土遺物②	326
図版12	縄文草創期遺構④	150	図版45	縄文早期遺構内出土遺物③	327
図版13	縄文草創期遺構⑤	151	図版46	縄文早期遺構内出土遺物④	328
図版14	縄文草創期遺構⑥	152	図版47	縄文早期遺構内出土遺物⑤	329
図版15	縄文草創期遺構⑦	153	図版48	縄文早期遺構内出土遺物⑥	330
図版16	縄文草創期遺物出土状況	154	図版49	縄文早期遺構内出土遺物⑦	331
図版17	縄文草創期遺構内出土遺物①	155	図版50	縄文早期遺物包含層出土土器①	332
図版18	縄文草創期遺構内出土遺物②	156	図版51	縄文早期遺物包含層出土土器②	333
図版19	縄文草創期遺構内出土遺物③	157	図版52	縄文早期遺物包含層出土土器③	334
図版20	縄文草創期遺構内出土遺物④	158	図版53	縄文早期遺物包含層出土土器④	335
図版21	縄文草創期遺構内出土遺物⑤	159	図版54	縄文早期遺物包含層出土土器⑤	336
図版22	縄文草創期遺構内出土遺物⑥	160	図版55	縄文早期遺物包含層出土土器⑥	337
図版23	縄文草創期遺構内出土遺物⑦	161	図版56	縄文早期遺物包含層出土土器⑦	338
図版24	縄文草創期遺構内出土遺物⑧	162	図版57	縄文早期遺物包含層出土土器⑧	339
図版25	縄文草創期遺構内出土遺物⑨	163	図版58	縄文早期遺物包含層出土土器⑨	340
図版26	縄文草創期遺構内出土遺物⑩	164	図版59	縄文早期遺物包含層出土土器⑩	341
図版27	縄文草創期遺構内出土遺物⑪	165	図版60	縄文早期遺物包含層出土土器⑪	342
図版28	縄文草創期遺構内出土遺物⑫	166	図版61	縄文早期遺物包含層出土土器⑫	343
図版29	縄文草創期遺物包含層出土土器①	167	図版62	縄文早期遺物包含層出土土器⑬	344
図版30	縄文草創期遺物包含層出土土器②	168	図版63	縄文早期遺物包含層出土土器⑭	345
図版31	縄文草創期遺物包含層出土土器③	169	図版64	縄文早期遺物包含層出土土器⑮	346
図版32	縄文草創期遺物包含層出土土器④	170	図版65	縄文早期遺物包含層出土土器⑯	347
図版33	縄文早期遺構①	315	図版66	縄文早期遺物包含層出土土器⑰	348
			図版67	縄文早期遺物包含層出土土器⑱	349
			図版68	縄文早期遺物包含層出土土器⑲	350
			図版69	縄文早期遺物包含層出土土器⑳	351
			図版70	縄文早期遺物包含層出土土器㉑	352
			図版71	縄文早期遺物包含層出土土器㉒	353
			図版72	縄文早期遺物包含層出土土器㉓	354
			図版73	基本土層Ⅳ層上面検出遺構全景	362
			図版74	基本土層Ⅳ層上面検出遺構	363
			図版75	基本土層Ⅲ層出土遺物及びⅣ層 上面検出遺構内出土遺物	364



# 第 I 章 はじめに

## 第 1 節 調査に至る経緯

平成 17 年度から実施されることとなった県営農免農道整備事業(船引 2 期地区工事)において、事業区内に清武上猪ノ原遺跡の一部が含まれることが確認された。本遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会、宮崎県中部農林振興局、清武町教育委員会等関係各局で協議を行ったところ、遺跡の現状保存が困難な事業区については宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査期間は平成 17 年 7 月 26 日から平成 20 年 5 月 30 日までで、調査面積は約 3700 m<sup>2</sup>である。

## 第 2 節 遺跡の立地と環境

宮崎市清武町は宮崎平野の南西部に位置している。本遺跡は旧清武町の北西部の船引地区に所在し、町内を北西から東へ流れる清武川左岸のシラス台地の南東端部(標高は約 62 ~ 75 m)に立地する。このシラス台地は地元では船引原とも呼ばれ、台地の中腹には湧水地点が多く存在しており、遺跡が立地するには良い条件であったと考えられ、台地上には上の原遺跡や滑川遺跡、坂元遺跡など数多くの遺跡が存在する。

清武上猪ノ原遺跡の周辺では県営農地保全整備事業(時屋工区・船引工区)や東九州自動車道建設に伴ってそれらの遺跡の発掘調査が行われ、その調査件数は 18 遺跡 26 調査区域に及び、旧石器時代から近世までの様々な遺構・遺物が確認されている。その中でも縄文時代早期の遺構・遺物は突出しており、五反畑遺跡 A 地区を除く全ての遺跡で検出され、土器埋設遺構や遺物の環状遺棄遺構等の貴重な発見が相次いでいる。それらの調査成果については表 1 にその概要を示す。

清武上猪ノ原遺跡は平成 12 年度から 16 年度に行われた県営農地保全整備事業に伴って第 1 地区から第 4 地区までの発掘調査が行われており、本事業での調査地点は第 5 地区と設定された。なお、第 4 地区と第 5 地区は隙間なく隣接する状況となっている。この第 5 地区は本遺跡の東端に位置しており、船引原台地の端部にもあたる。その東側にある斜面の中腹には現在も豊富な水量を誇る湧水地点が存在し、地元の人々が生活用水として使用している。

## 第 3 節 調査の概要と基本土層

### 1. 調査方法

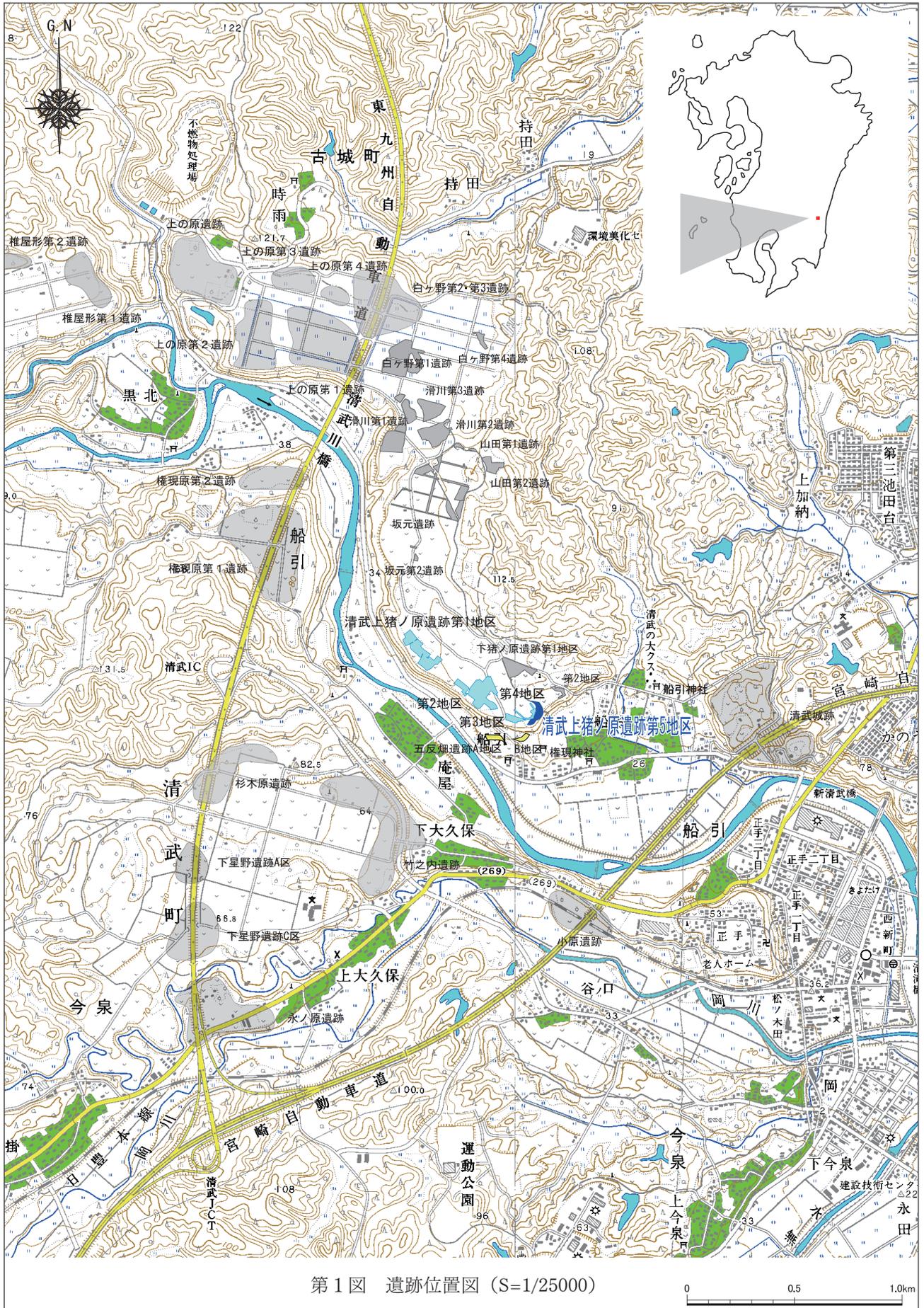
当遺跡の調査前は畑地と杉林であった。重機によって表土(耕作土：基本土層 I 層)を掘削し、地山の検出に努めた。地山を検出したところ、大規模に地形を削平したような状況ではなかったものの、特に杉林の範囲において木根等の攪乱坑が多数確認され、その多くがアカホヤ火山灰層(基本土層 IV 層)まで影響を及ぼしているようであった。

調査区内の表土を全て除去したところ、表面にはアカホヤ火山灰層上位の黒色シルト質ローム層(基本土層 II 層：クロボク)～アカホヤ火山灰層下位の黒色シルト質ローム層(基本土層 V 層)までが確認された。そこで一旦精査を行い、遺構・遺物の検出に努めたが、II 層中では目立った遺物の出土は見られず、明確に遺構の平面プランを検出することはできなかったので、II 層までは重機により掘削を行うこととした。III 層～IV 層上面において再度遺構検出を行って溝状遺構 10 条、道路状遺構 2 条、掘立柱建物跡 4 棟、土坑 4 基、多数の柱穴が検出された。また III 層中での遺構検出時に縄文土器などが少量出土している。

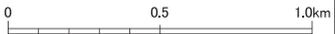
これらのアカホヤ火山灰層上面にて検出された遺構の調査が終了した後は、アカホヤ火山灰層を再び重機で除去し、鬼界カルデラ噴火直前の当遺跡の地形を把握するため、V 層上面での等高線の記録作業を行った。V 層下位の調査については西側に隣接する圃場整備区内の工事計画に合わせて調査区の西側部分の調査を優先的に進めることとなり、さらに廃土置き場を確保するために調査区の北部→南部→中央部と順番に調査することとなった。本調査区ではこのように工事計画に合わせて調査を進める必要があったため、平面的に全ての縄文時代早期以前の遺構・遺物を検出することができなかった。縄文早期遺物包含層中からは大量の遺物と集石遺構 153 基、炉穴 29 基(燃烧部を数える)、陥し穴状遺構 4 基、ハイヒール状土坑 8 基、土坑 22 基を検出した。なお、縄文

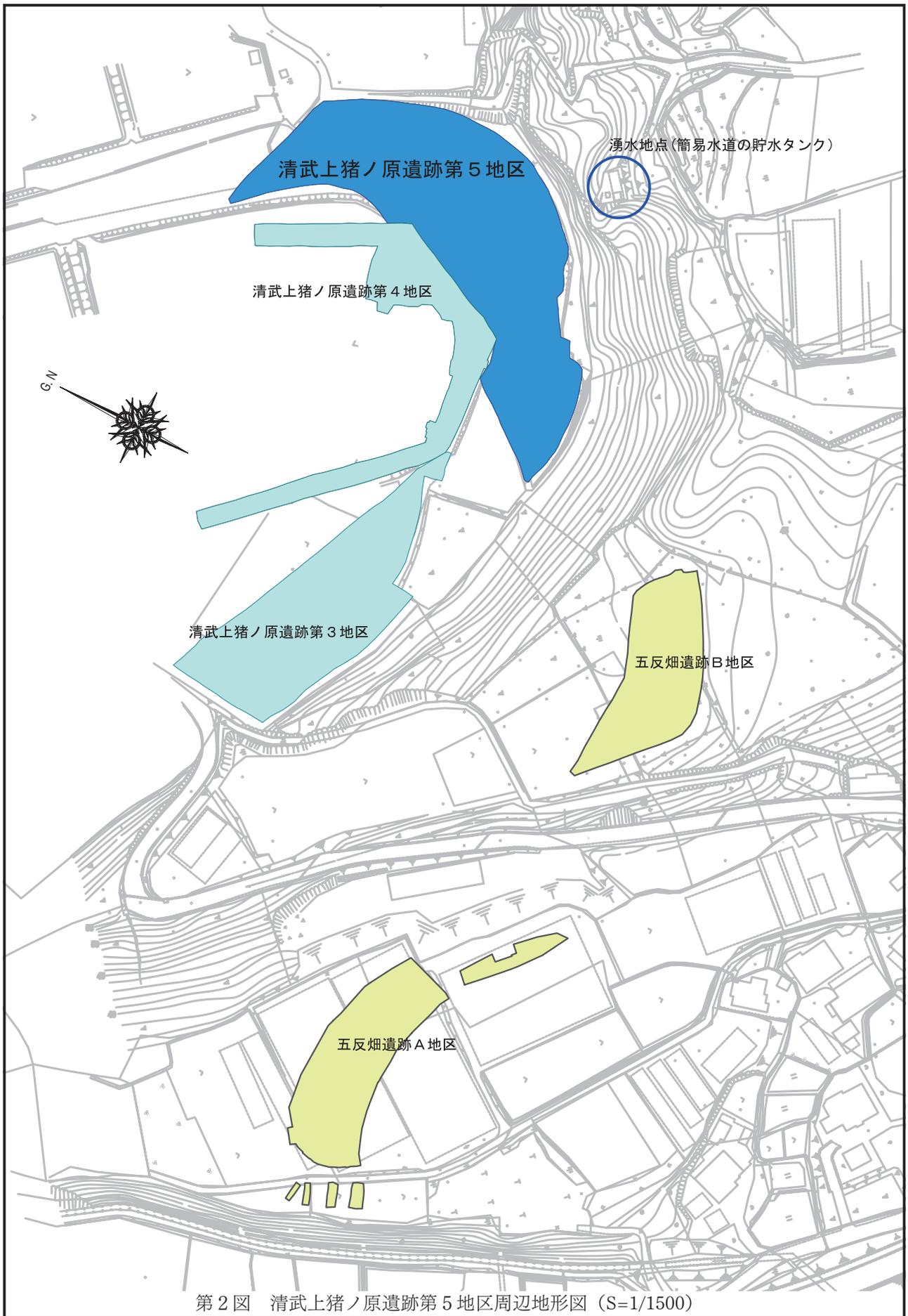
第1表 船引地区遺跡群の発掘調査概要一覧表

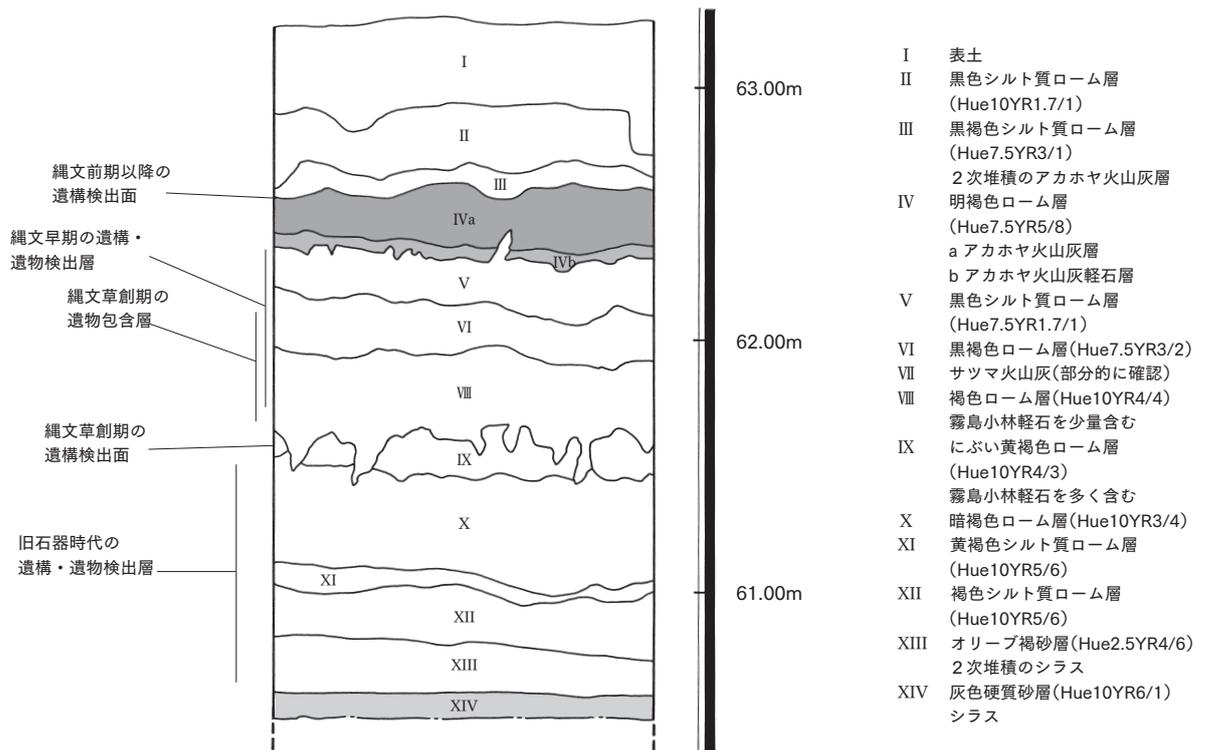
No	遺跡名	調査面積 (㎡)	主な時代(特徴的な遺構・遺物)	調査年	調査機関
1	上の原第1遺跡	48000	縄文早期・縄文(中期～晩期:石刀)・弥生時代・古墳時代(竪穴住居・土器埋納遺構)・中世・近世	1995	宮崎県埋蔵文化財センター
2	上の原第1遺跡(B地区)	2100	旧石器・縄文早期(磨製石鏃)・縄文晩期・弥生時代(磨製石剣)・古墳時代	1995	宮崎県埋蔵文化財センター
3	上の原第2遺跡	45500	旧石器・縄文早期・縄文(中期～晩期:竪穴住居)・古墳時代・古代・中世・近世(石造物)	1994	宮崎県埋蔵文化財センター
4	上の原第3遺跡	15500	縄文早期・古墳時代(竪穴住居)	1994	宮崎県埋蔵文化財センター
5	上の原第4遺跡	3400	弥生時代・古墳時代	1995	宮崎県埋蔵文化財センター
6	白ヶ野第3遺跡(B区)	25000	縄文早期・弥生時代・古代	1996	宮崎県埋蔵文化財センター
7	白ヶ野第3遺跡(A地区)	300	縄文時代・近世	1996	宮崎県埋蔵文化財センター
8	白ヶ野第2・3遺跡	18000	旧石器・縄文草創期(神子柴型石斧)・縄文早期・縄文(前期～晩期:竪穴住居)・古代(竪穴住居)・近世	1995	宮崎県埋蔵文化財センター
9	白ヶ野第1遺跡	17200	旧石器・縄文(早期～中期・晩期)・弥生時代・古代	1995～96	清武町教育委員会
10	白ヶ野第4遺跡	1900	縄文早期(垂飾・腕輪)	1996	清武町教育委員会
11	滑川第1遺跡	17620	旧石器・縄文(草創期)・縄文早期(直径2mを越える集石遺構)・縄文(前期・中期・晩期:集石遺構・滑石が混入した曾畑式土器・蛇紋岩製石斧・825gの姫島産黒曜石製の石核)・弥生時代・古墳時代・古代	1997～99	清武町教育委員会
12	滑川第2遺跡	10420	旧石器(細石刃文化期礫群)・縄文早期(1250gの姫島産黒曜石製石核)・縄文(前期:轟B式・野口式・滑石が混入した曾畑式土器)・縄文(中期～晩期)・弥生時代(管玉)・古代	1997～99	清武町教育委員会
13	滑川第3遺跡	6940	旧石器・縄文草創期(集石遺構・土坑)・縄文早期(土製品)・縄文前期(轟B式)・縄文(中期・晩期)・弥生時代	1998～99	清武町教育委員会
14	山田第1遺跡	7700	旧石器・縄文草創期(爪形土器)・縄文早期(耳栓・土製品・尖頭器)・弥生時代・古墳時代(竪穴住居)	1999～00	清武町教育委員会
15	山田第2遺跡	4300	縄文(草創期～早期)・弥生時代・古代	1999～00	清武町教育委員会
16	坂元遺跡	9000	旧石器・縄文草創期・縄文早期(土器埋設遺構・尖頭器)・弥生時代	2000	清武町教育委員会
17	坂元第2遺跡	530	旧石器・縄文早期	2004～05	清武町教育委員会
18	下猪ノ原遺跡第1地区	7000	旧石器(角錐状石器及び瀬戸内技法関連の接合資料)・縄文早期(玦状耳飾・尖頭器)・弥生時代(木棺墓・土壙墓)・古代・中世	2002～03	清武町教育委員会
19	下猪ノ原遺跡第2地区	1200	旧石器・縄文草創期・縄文早期(環状遺棄遺構・土器埋設遺構・石器の埋納遺構・丹塗耳栓)・弥生時代・古代・中世・近世	2004～05	清武町教育委員会
20	清武上猪ノ原遺跡第1地区	14000	縄文草創期(集石遺構・隆線土器)・縄文早期(土器埋設遺構・完形の耳栓)・弥生時代(竪穴住居)・古代(掘立柱建物跡・黒色土器)	2000～01	清武町教育委員会
21	清武上猪ノ原遺跡第2地区	15200	旧石器(土坑)・縄文草創期(集石遺構・尖頭器)・縄文早期(土器埋設遺構・列状に並ぶ陥し穴状遺構・尖頭器)・古代・中世・近世	2001～02	清武町教育委員会
22	清武上猪ノ原遺跡第3地区	2000	縄文早期(列状に並ぶ陥し穴状遺構・石斧の埋納遺構)・縄文後期・中世	2002～03	清武町教育委員会
23	清武上猪ノ原遺跡第4地区	1300	旧石器(細石刃核の接合資料)・縄文草創期・縄文早期(竪穴状遺構・下剝峯式土器の埋設遺構・環状石斧・尖頭器)・縄文(中期～後期)・古代(掘立柱建物跡)	2003～04	清武町教育委員会
24	清武上猪ノ原遺跡第5地区	3700	旧石器(ナイフ形石器文化期の2枚の文化層)・縄文草創期(竪穴住居・隆線土器・矢柄研磨器・尖頭器・丸ノミ形石斧)・縄文早期(直径4mを越える集石遺構)・縄文(前期～後期)・古代(掘立柱建物跡)・中世・近世	2005～08	清武町教育委員会
25	五反畑遺跡A地区	1370	縄文後期・古代(土坑墓・墨書土器・緑釉陶器・黒色土器・長沙窯系水差)・中世・近世	2007	清武町教育委員会
26	五反畑遺跡B地区	1110	旧石器・縄文草創期・縄文早期(局部磨製尖頭器・石器の埋納遺構)・弥生時代・古墳時代(木棺墓・石棺墓・地下式横穴墓・珠文鏡)・古代・中世・近世	2007～08	清武町教育委員会



第1図 遺跡位置図 (S=1/25000)







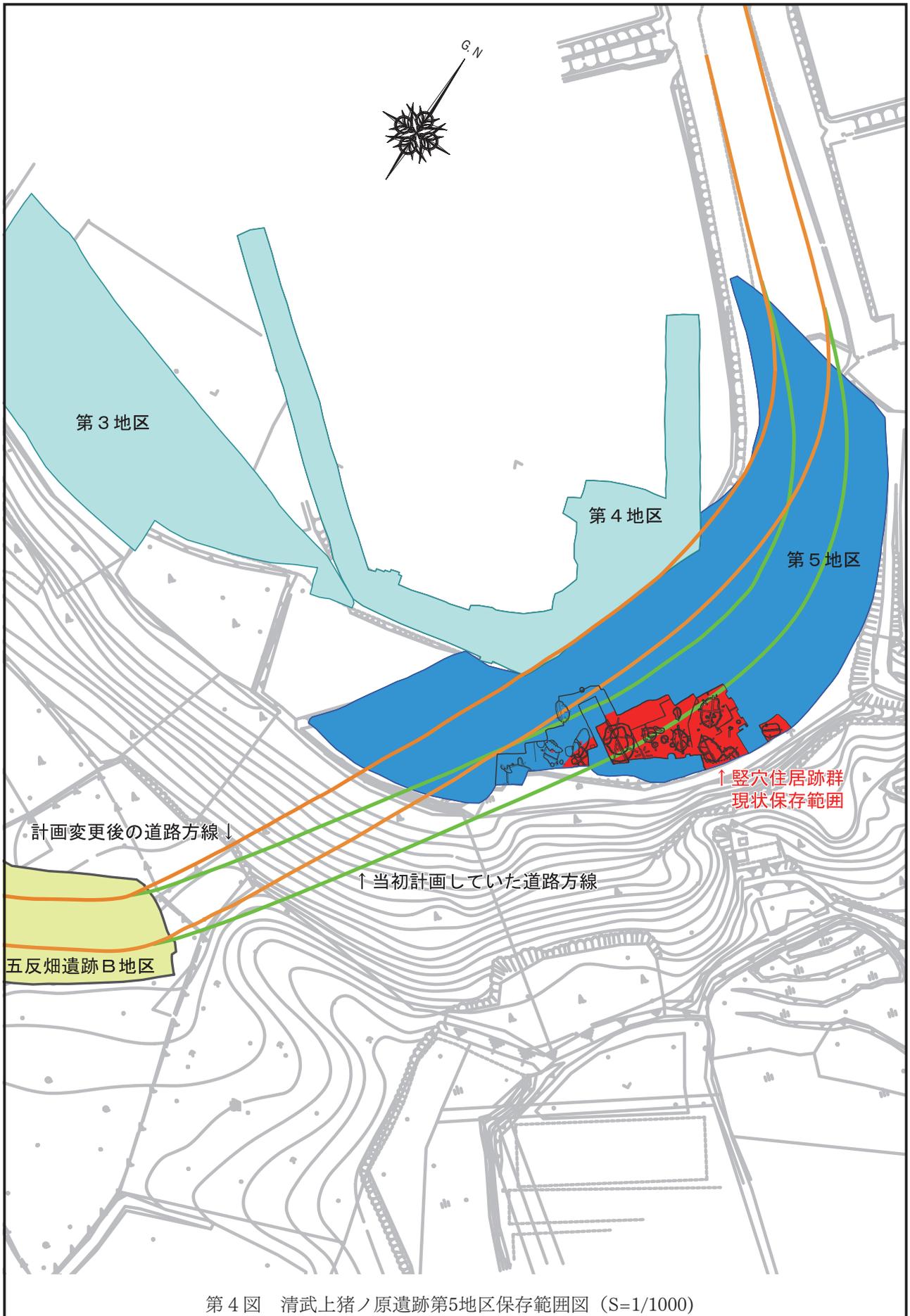
第3図 基本土層図 (S=1/30)



図版1 基本土層断面

早期の遺物包含層の調査中に縄文草創期の遺物が特に調査区中央部付近で頻繁に出土したため、一部に草創期の遺物包含層がある可能性を考えることとなった。結果的には基本土層VI層下部からVIII層にかけては縄文早期の遺物よりも草創期の遺物のほうが出土量が多かった。なお、これらの遺物包含層中からは細石刃文化期の遺物も混在していた。

縄文早期～草創期の調査が終了した箇所では随時旧石器時代の遺物包含層の確認を行うために小規模なトレンチを設定して基本土層IX層からXII層の掘削を行った。その結果、基本土層X層からXII層にかけて旧石器時代の遺物が出土することがわかった。旧石器時代の調査についてはトレンチを設定して遺物が出土した場合にその分布を追いかけてトレンチを拡張して遺構・遺物の検出を行うという調査の進め方を採用しており、最終的な旧石器時代の調査面積は2550㎡となった。旧石器時代の遺構としては礫群21基が検出されている。また旧石器時代の遺物包含層の掘削作業中には地震により発生した液状化現象の痕跡が部分的に確認された。この液状化現象の痕跡は近接する下猪ノ原遺跡第2地区でも見られており、それと同様に小林軽石を多く含むローム層(基本土層IX層)より上の層では確認されなかったため、IX層が形成される頃に起きた地震の痕跡であることが推測される。



前述のとおり、本調査区では最後に調査を行うこととなった調査区中央部付近で特に縄文草創期の遺物が集中して出土する傾向がみられ、さらに基本土層IX層中において草創期の竪穴住居跡 14 棟が検出された。そのほかに草創期の遺構としては、Ⅷ層からIX層にかけて集石遺構 4 基、炉跡(焼土を伴う土坑)1 基、炉穴 2 基、遺物集中地点 1 箇所、ハイヒール状土坑 37 基、土坑 23 基を検出している。

草創期の竪穴住居跡等の調査と並行して、後述する遺跡の現状保存についての協議が行われた。その結果、道路方線を変更して調査区の一部を現状保存することとなったので、調査区中央部においては旧石器時代の調査は行われていない。

なお、個別の遺構実測図は遺構のサイズに合わせて 1/10 又は 1/20 で作成した。調査区全体の遺構配置図等の作成については光波測量機及びデータコレクターを使用して、現地の公共座標を記録した。また遺物の出土地点の記録についても同様である。そのほかに今回の調査で最も重要な遺構である縄文草創期の竪穴住居跡群については遺構写真図化による 3D モデルを作成した。その結果、画面上であらゆる角度から竪穴住居跡を見ることができ、さらに任意断面図の作成についても可能な状態にしている(図版 2 上段を参照)。それらの調査成果は宮崎市生目の杜遊古館で保管している。

写真撮影については 6×9 版及び 6×6 版モノクロ・リバーサルフィルム、35 mmモノクロ・リバーサルフィルムを併用した。

## 2. 基本土層 (第 3 図・図版 1)

当遺跡の土層の堆積状況は、船引原台地の基本的な土層堆積とほぼ同様であったが、調査区の西側よりも東側のほうが基本土層 X 層以下の堆積が厚くなっているような状況がみられた。調査区全体の地形の傾斜は西側から東側に向けて緩やかに下る状況だが、基本土層 IX 層が堆積する以前はやや強い傾斜であった可能性が考えられる。また基本土層 VII 層にあたるサツマ火山灰層については調査区の中央部付近においてブロック状に点在する様子か、後述する縄文草創期の 7 号～9 号住居跡の検出時において確認されているだけであった。各土層の堆積が最も良好に確認された調査区北西部の土層断面を第 3 図に示す。

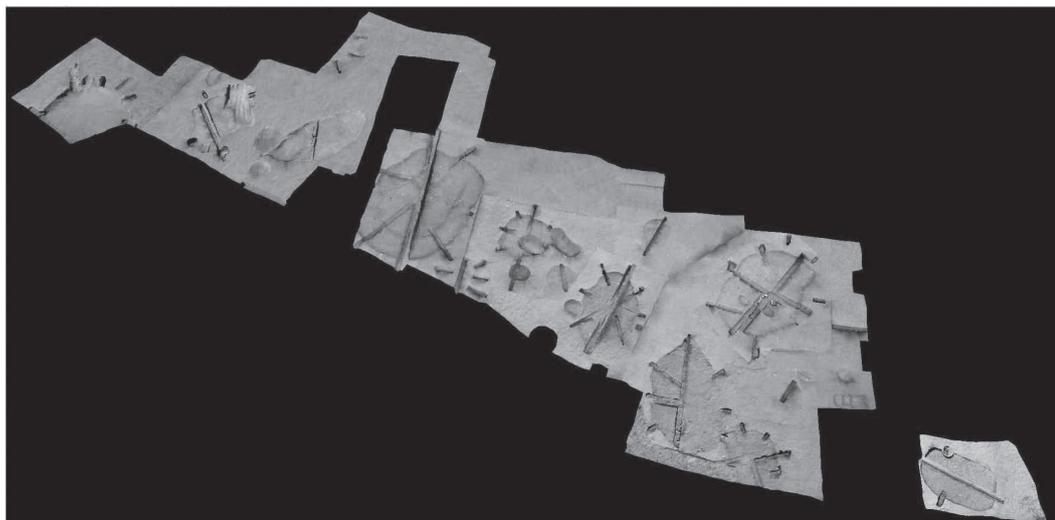
## 第 4 節 調査区域の現状保存と普及活動について (第 4 図・図版 2)

平成 18 年度には九州初の矢柄研磨器の出土事例と報道され、さらに平成 19 年度においては縄文時代草創期の竪穴住居跡が 14 棟も検出され、国内最大級の縄文草創期の集落跡として全国的にも注目を集めることとなった。平成 19 年 5 月 20 日に現地説明会を行ったところ県内外から 270 名以上の参加者があり、本遺跡の関心の高さを認識することとなった。同年 8 月 9 日には文化庁記念物課から水ノ江と同調査官の招聘を行い、遺跡の重要性について高い評価を得ることができた。このような評価を受けて清武町では遺跡を現状で保存すべく、宮崎県中部農林振興局及び地元の方々との協議を重ねて道路工事の計画変更を要望し、最終的には道路方線を変更することをご理解いただいた。この結果、縄文草創期の竪穴住居 14 棟のうち 10 棟を現状で保存できることとなった。

現状保存となった区域においては遺構の保護のために、遺構を山砂で埋め戻し、さらに保存区域全体を山砂で覆うこととした。保存区域を覆った山砂の厚みは約 30～40 cm である。作業は平成 20 年 3 月 12 日から 21 日にかけて人力で行った。

その後、平成 22 年度には保存区域が町指定史跡となり、宮崎市との合併後には市指定史跡として引き継がれた。さらに平成 27 年 2 月には「全国的にも希少なかつ最大規模の縄文草創期の集落跡で、遺構の数や出土遺物の量から一定期間継続した集落と考えられ、定住生活を始めた頃の集落を復元する上で重要であり、また多量の出土遺物によって他地域との時間的対比を可能にする材料も得られており、学術的にも大変貴重な遺跡」ということで県指定史跡となっている。

主な普及活動としては平成 19 年度のきよたけ歴史館の企画展「縄文の清武」の中で清武上猪ノ原遺跡の出土遺物を展示し、さらにその特別講演会として「縄文革命」という演題で國學院大學小林達雄教授の講演会を開催した。平成 20 年度には文化庁主催の「発掘された日本列島 2008」において遺跡解説パネルと出土遺物の展示が行われた。また考古学研究会の会誌を始め、多くの専門書で本遺跡の調査成果についての紹介が行われている。



3D画像データ



埋め戻し作業風景



埋め戻し作業終了

図版2 3D画像及び縄文草創期遺構埋め戻し状況

## 第Ⅱ章 旧石器時代の調査

### 第1節 ナイフ形石器文化期の遺物の出土状況と文化層の認定について(第5図)

基本土層のX層からXII層にかけて旧石器時代(ナイフ形石器文化期)の遺物が出土した。ナイフ形石器文化期の遺物は調査区のほぼ全面で出土しているが、特に中央部より南側において多くの遺物が出土している。さらに調査区南側では特徴的な遺物の出土状況が認められており、IX層下部～X層上部から後述するナイフ形石器4・5類と台形石器等が出土し、その下のX層下部は無遺物層となっており、次のXI層～XII層中からナイフ形石器1・2類等が出土する状況が認められた。これらの両石器群ともに礫群を伴っており、その礫群についても明確にレベル差を持って検出されていることから、層位的にナイフ形石器文化期の文化層が2枚存在することが確認された。本報告では上からナイフ形石器文化期I期、II期として報告を行う。なお、調査区南側以外では両石器群を分ける無遺物層が明瞭には確認されなかったため、多少の遺物の混在を覚悟の上で概ねX層中の遺物をナイフ形石器文化I期の遺物、X層下位の遺物をナイフ形石器文化II期の遺物として分類した。

なお、縄文時代草創期の竪穴住居群が検出された調査区中央部よりやや南東側については現状保存されたため、部分的な調査にとどまっている。

各文化層の剥片石器についての出土点数をみると、ナイフ形石器文化II期は頁岩製石器708点・砂岩製石器217点・チャート製石器130点・ホルンフェルス製石器118点・鹿児島県産黒曜石(日東産が主体)製石器272点・桑ノ木津留産黒曜石製石器8点・流紋岩製石器4点である。またナイフ形石器文化I期は頁岩製石器229点・流紋岩製石器2点・砂岩製石器8点・チャート製石器140点・ホルンフェルス製石器33点・鹿児島県産(主に上牛鼻産)黒曜石製石器8点・桑ノ木津留産黒曜石製石器1点・緑色堆積岩2点である。

### 第2節 ナイフ形石器文化II期の調査

#### 1. ナイフ形石器文化II期の礫群について(第6図～第10図)

ナイフ形石器文化II期では総数で3213点の礫が出土し、その中でも特に礫の密集する礫群20基については個別に実測図を作成した。以下にそれらの報告を行う。

SR-48の構成礫は疎らでその範囲は0.79m×0.57mを測る。構成礫数は6点で総重量は1.3kgを量る。

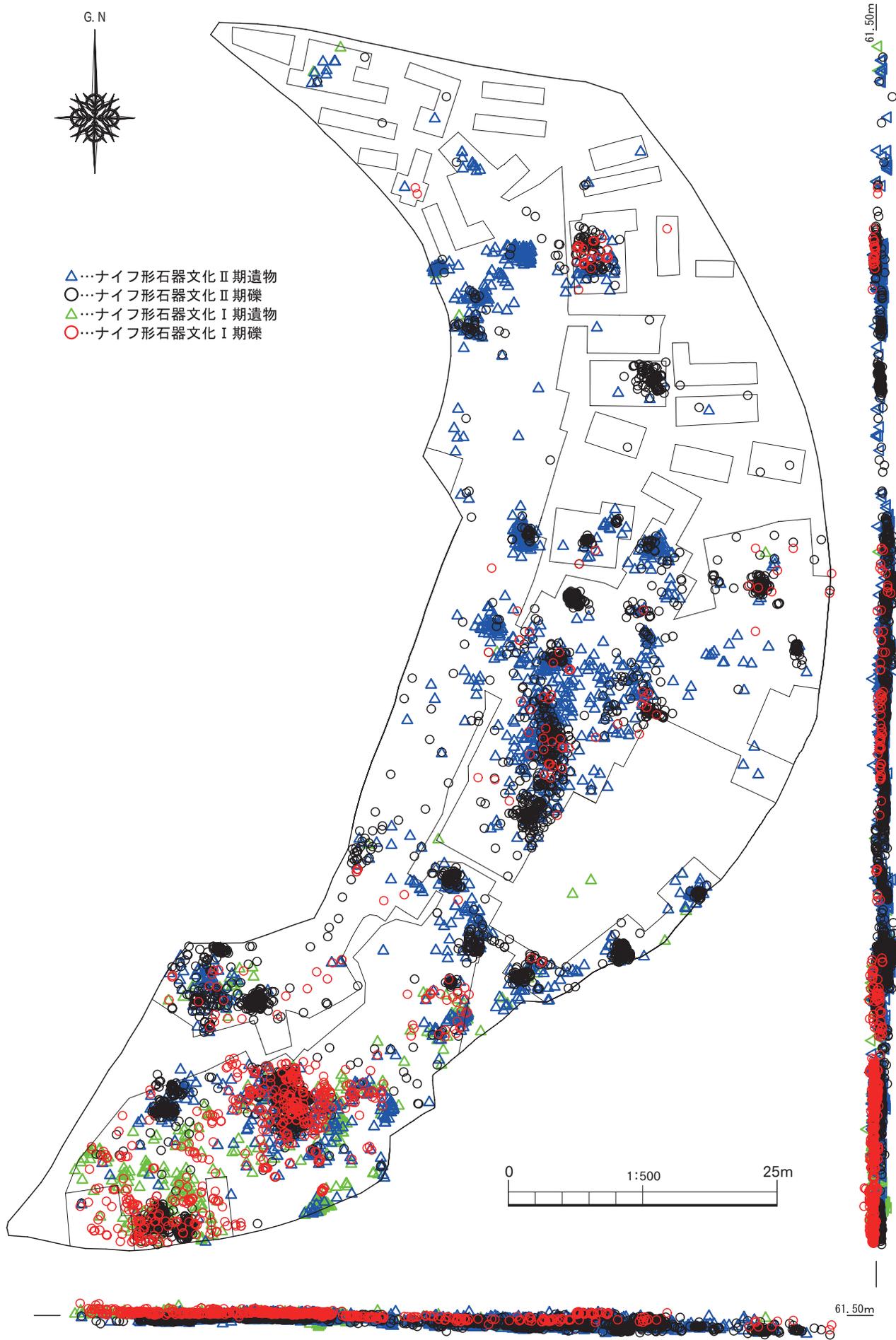
SR-52はSR-48の南側に隣接する。構成礫は疎らでその範囲は2.86m×1.56mを測る。構成礫数は8点を数える。本礫群では5組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫1組とSR-65の構成礫2組、SR-331の構成礫2組との接合関係が含まれる。頁岩製の剥片12点(接合資料①を含む)、砂岩製の二次加工有る剥片1点、砂岩製の敲石1点が出土している。

SR-65の構成礫は疎らでその範囲は1.71m×0.9mを測る。構成礫数は35点を数える。本礫群では7組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫3組とSR-52の構成礫1組、SR-322の構成礫1組との接合関係が含まれる。砂岩製の敲石が1点出土している。

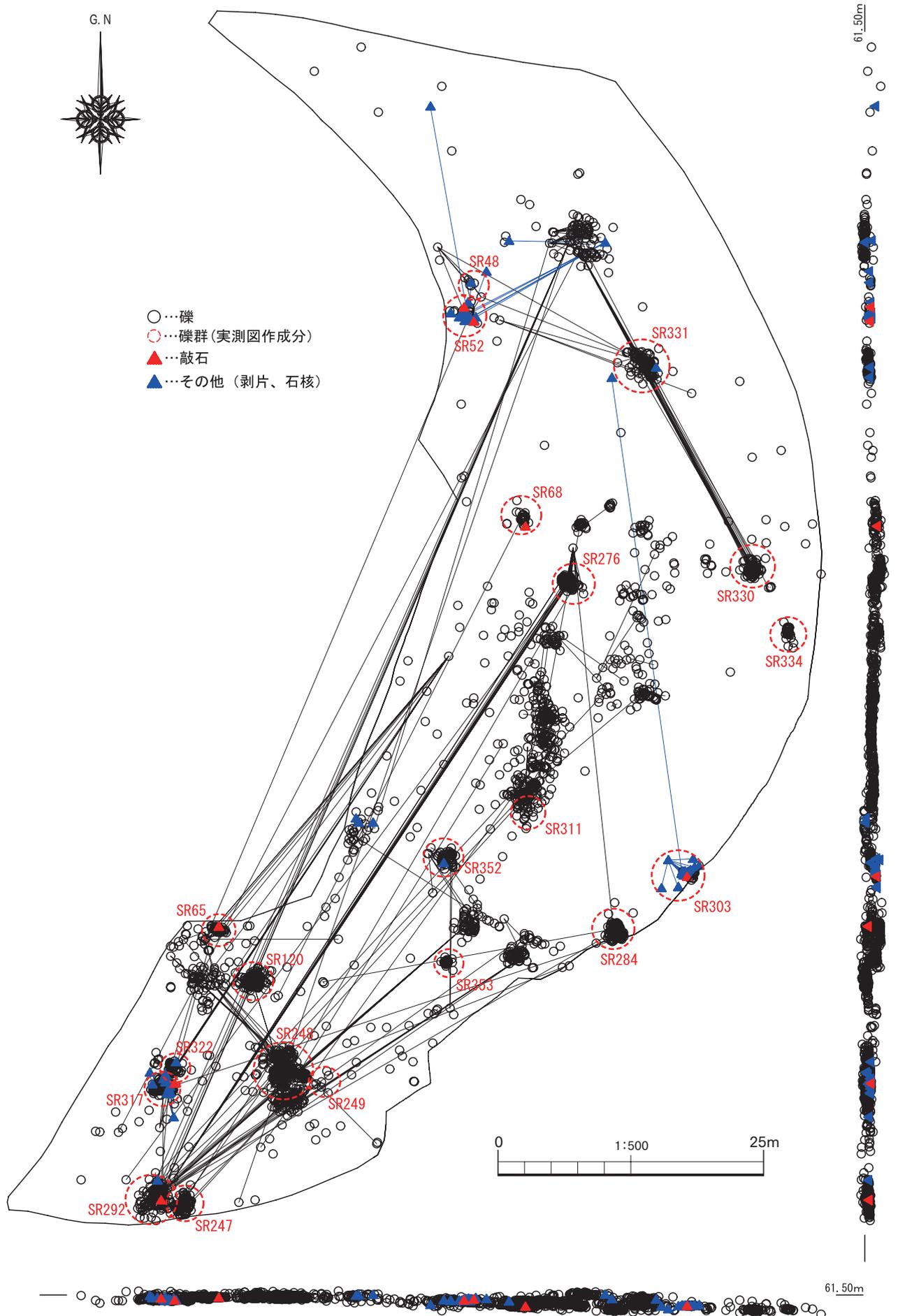
SR-68の構成礫は疎らでその範囲は1.46m×0.63mを測る。構成礫数は23点で総重量は2.9kgを量る。本礫群では2組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫1組との接合関係が含まれる。砂岩製の敲石が1点出土している。また炭化物も検出されており、放射性炭素年代測定の結果23410±120BPという補正年代が得られている。

SR-120の構成礫はやや密集しており、その範囲は2.81m×1.47mを測り、構成礫数は131点を数える。本礫群では24組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫4組との接合関係が含まれる。本遺構周辺の土がやや黒く見えるほどの炭化物の分布が認められ、放射性炭素年代測定の結果24680±140BPという補正年代が得られている。

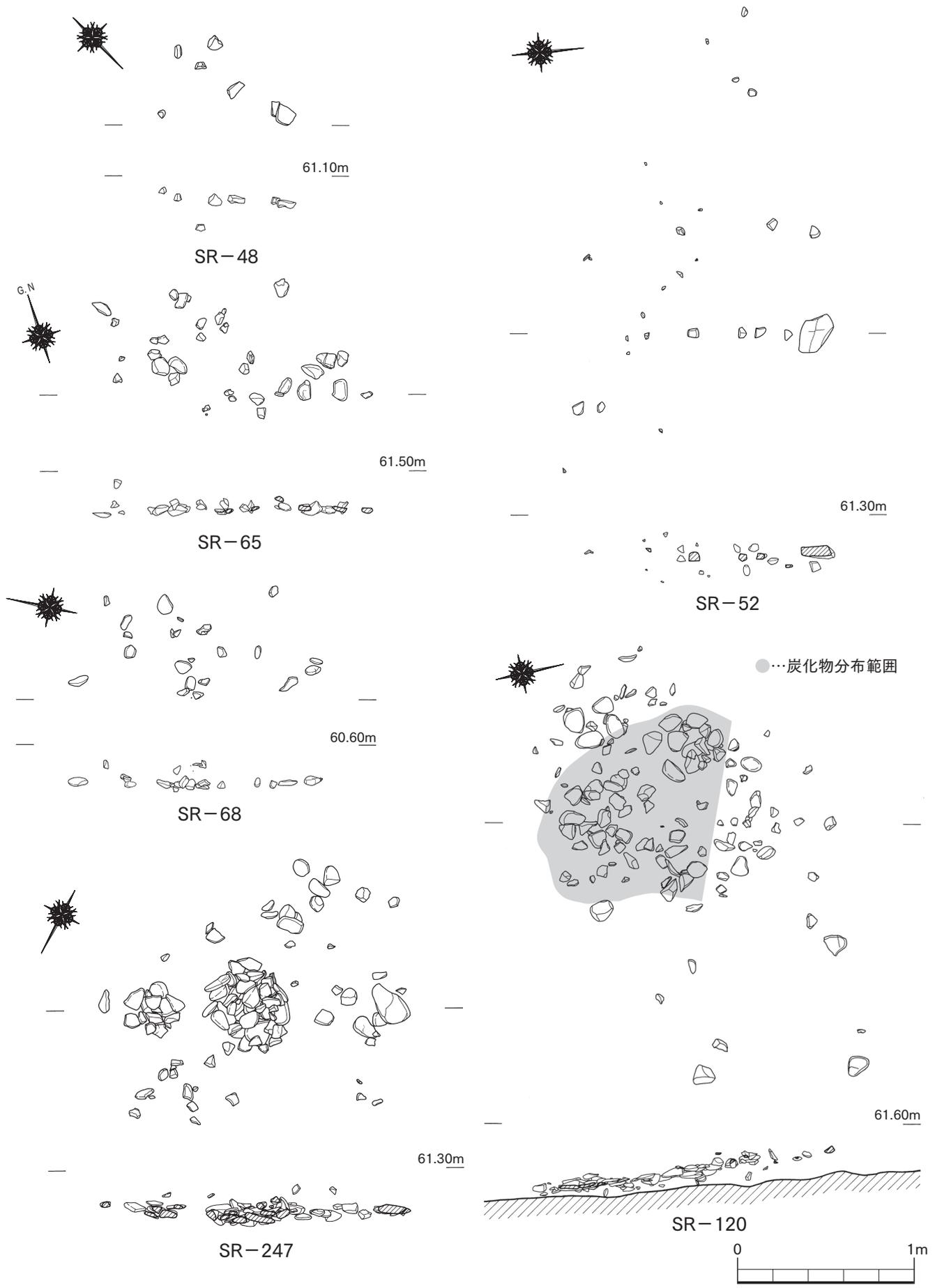
SR-247は構成礫の密集する箇所が2か所あり、本来は2基以上の礫群であった可能性が考えられる。その礫の密集箇所は掘り込みを想定させるような皿状の断面形であったが、掘り込みのプランを検出することはできなかった。それらの範囲は1.79m×1.48mを測り、構成礫数は111点、総重量は27kgを量る。本礫群では29組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫11組とSR-249の構成礫1組との接合関係も含まれる。



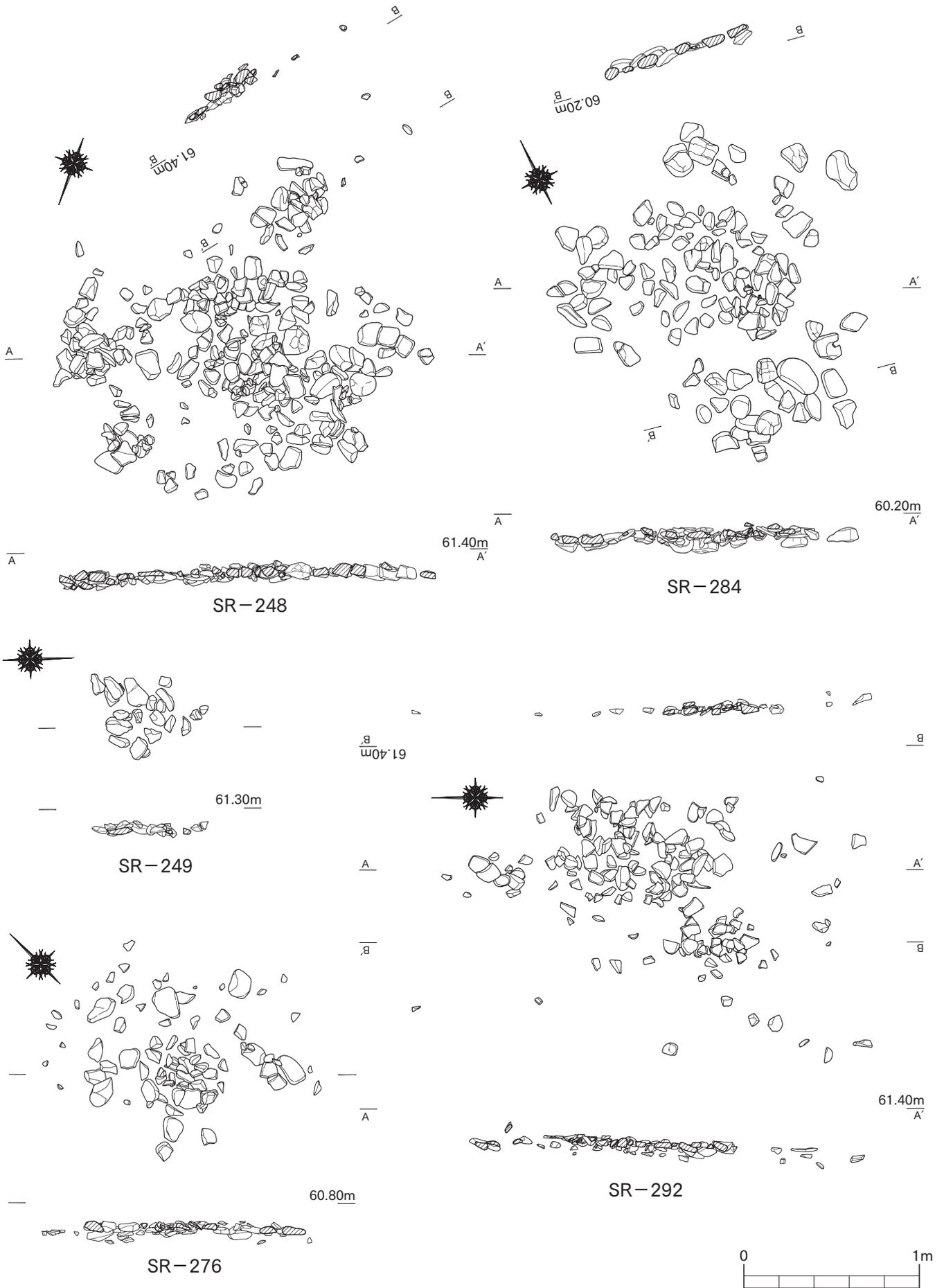
第5図 旧石器時代遺物分布図 (S=1/500)



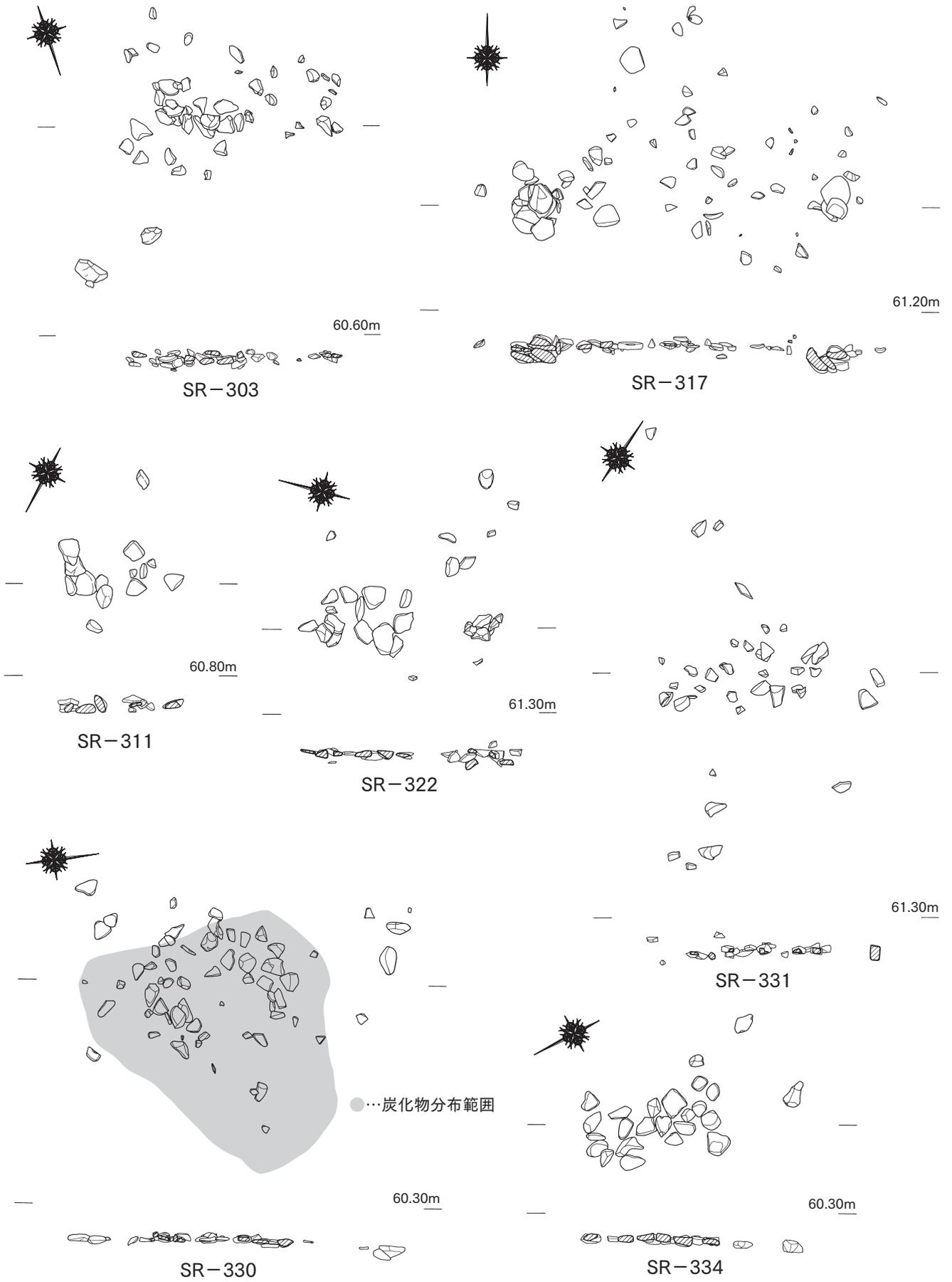
第6図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群と礫の分布図 (S=1/500)



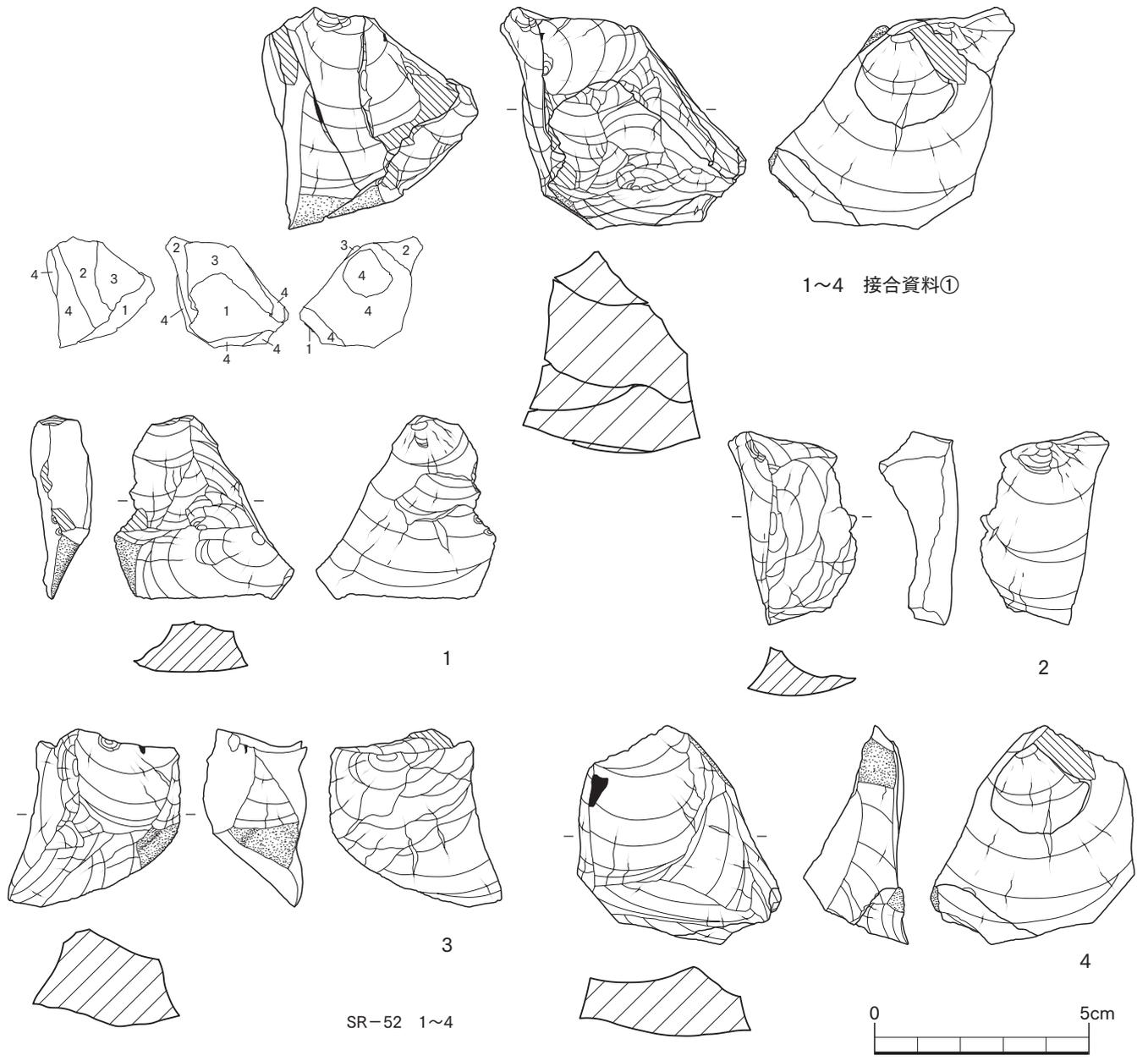
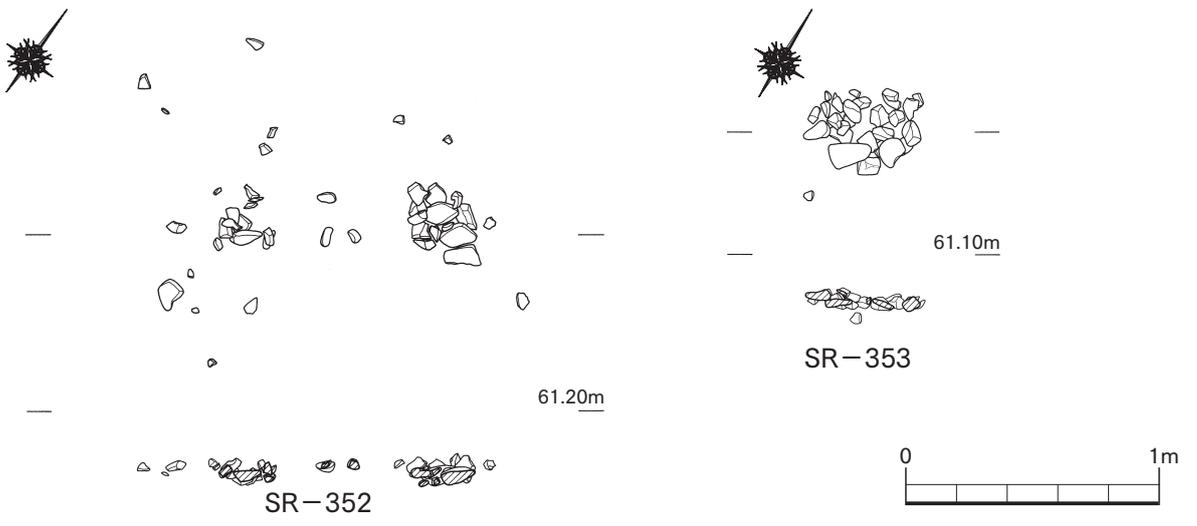
第7図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群実測図① (S=1/30)



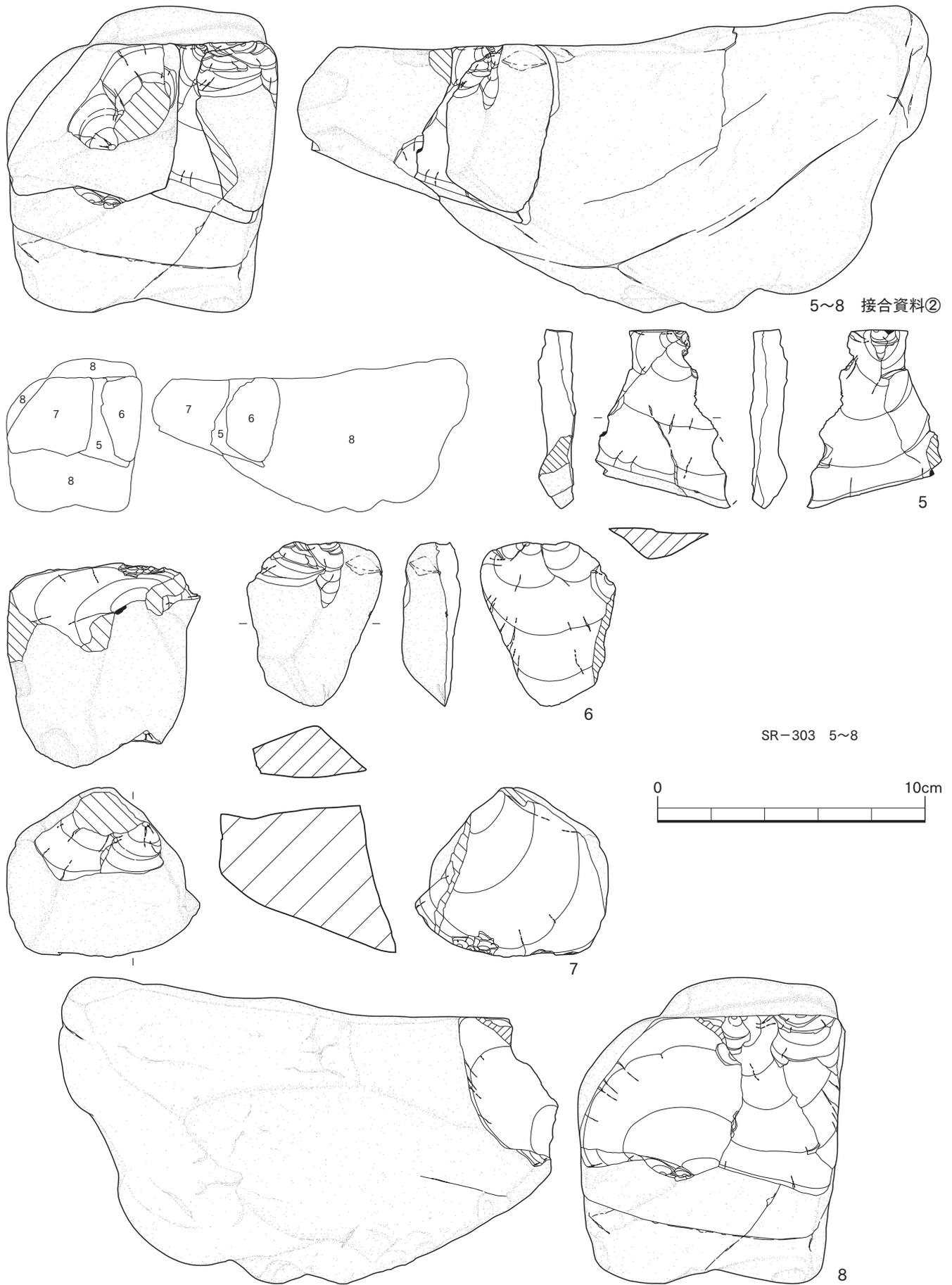
第8図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群実測図② (S=1/30)



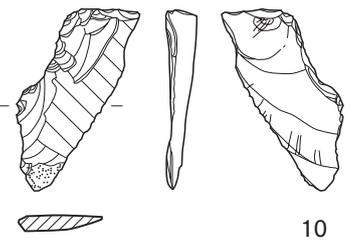
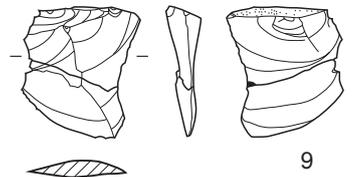
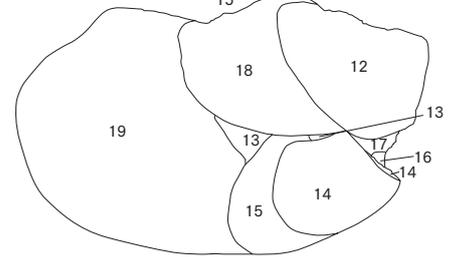
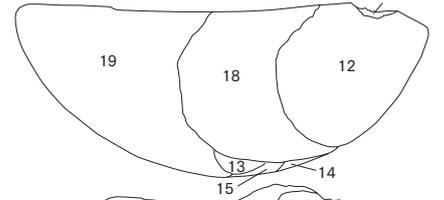
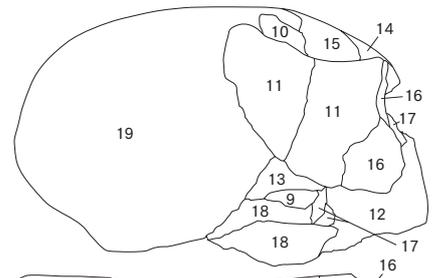
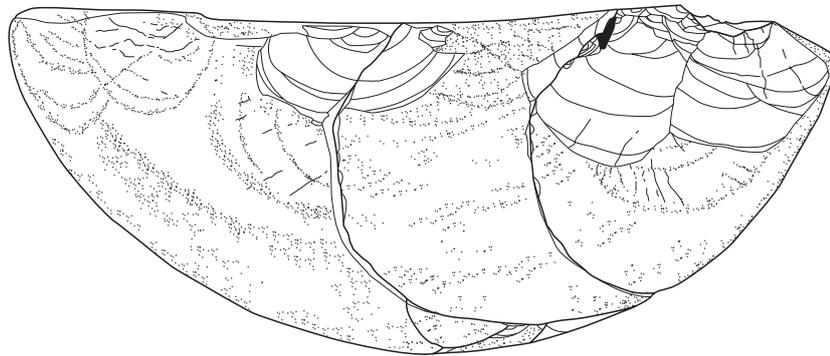
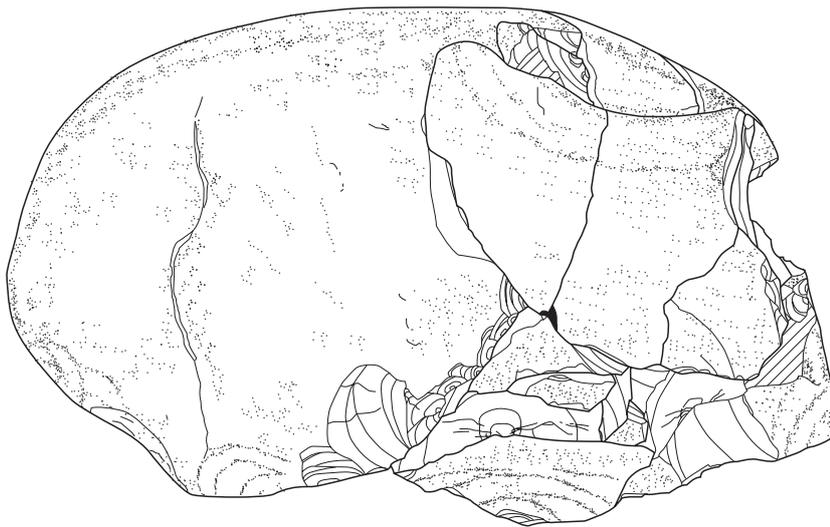
第9図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群実測図③ (S=1/30)



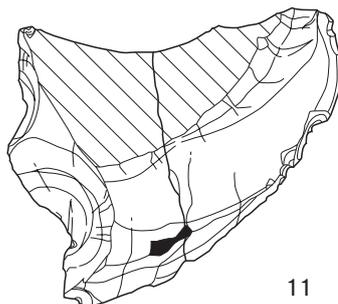
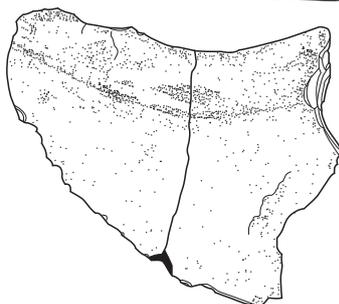
第10図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群実測図④ (S=1/30) 及び礫群内出土遺物実測図① (S=2/3)



第11図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群内出土遺物実測図② (S=1/2)



9~19 接合資料③

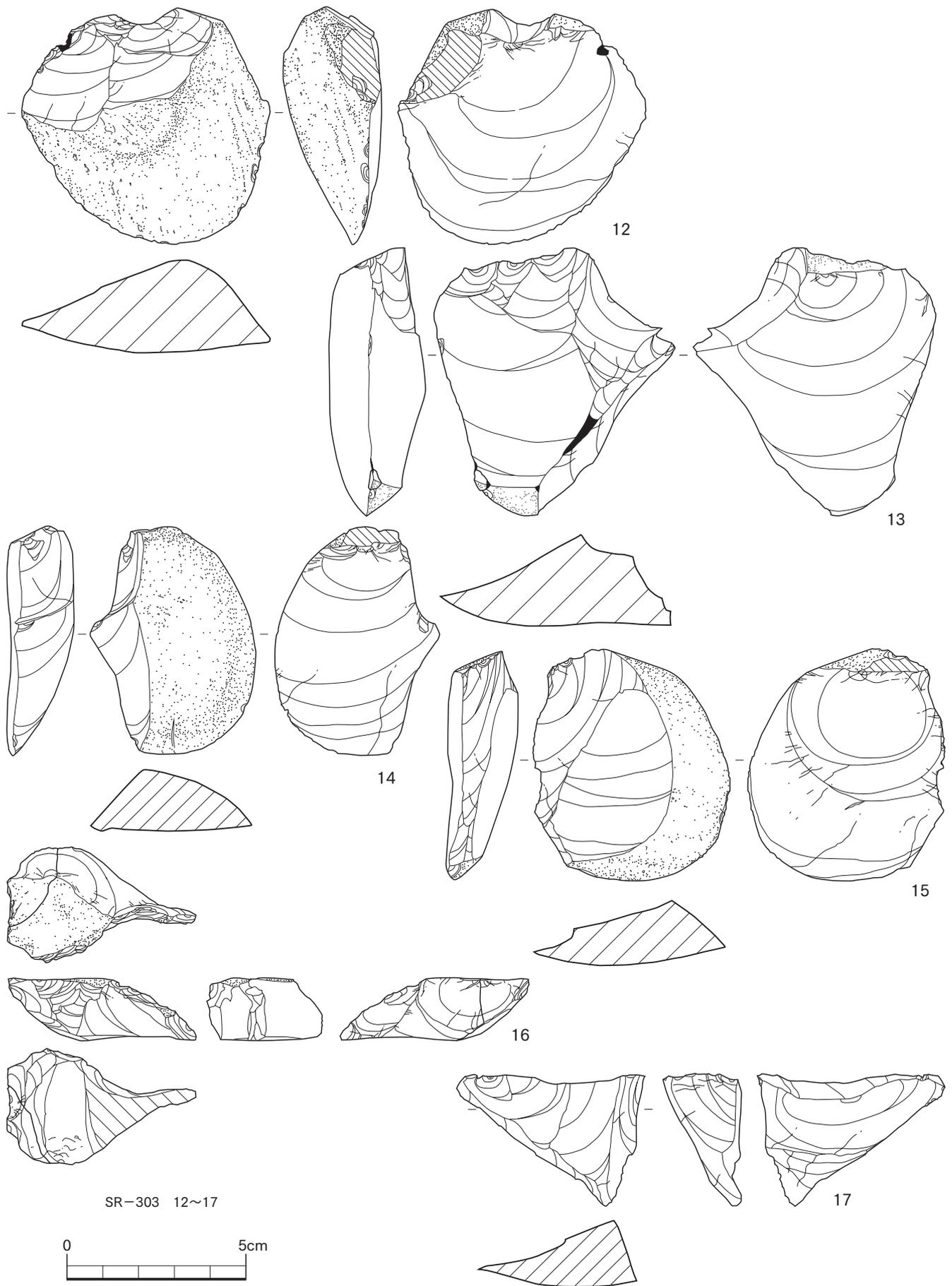


11

SR-303 9~11



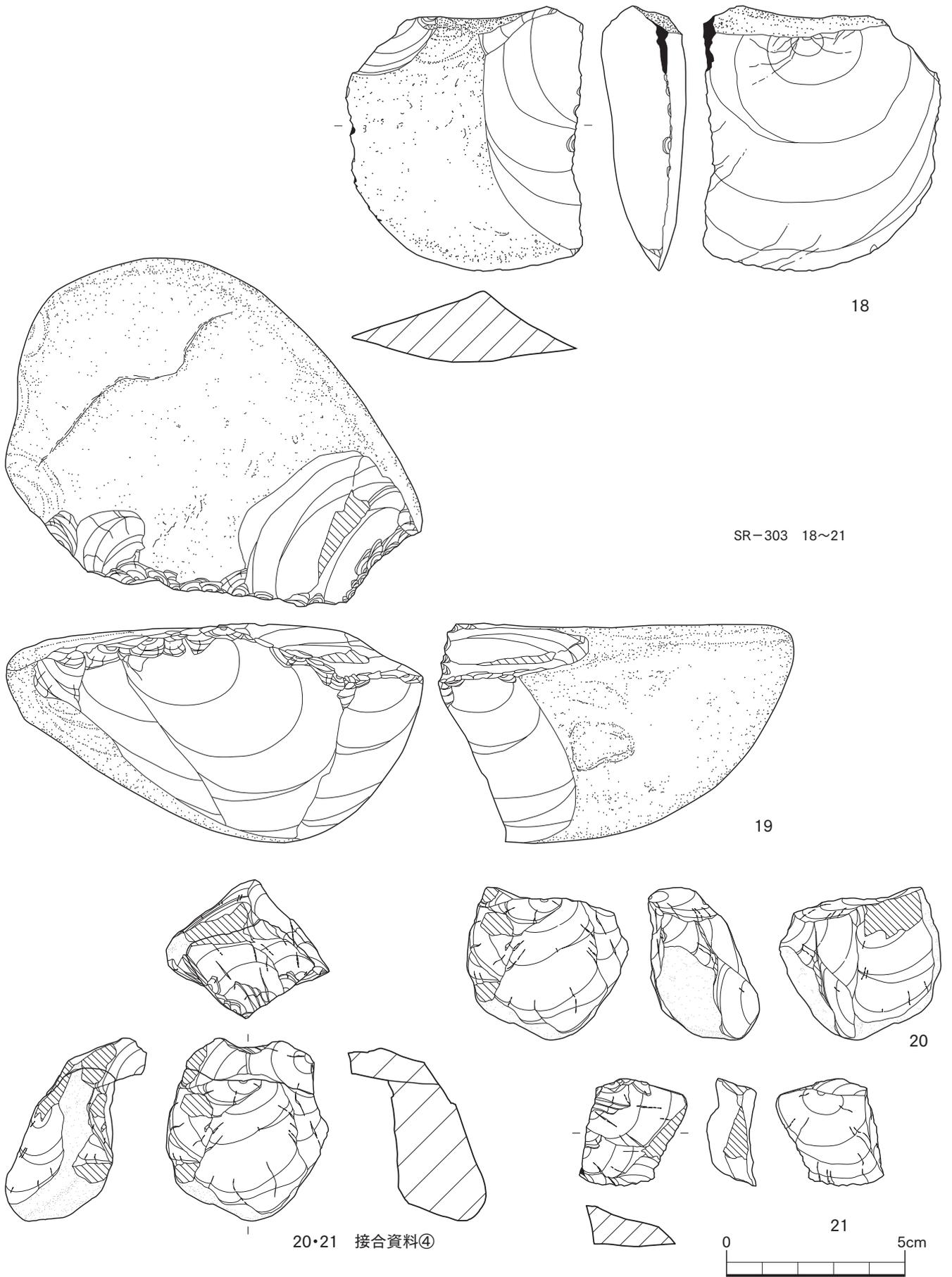
第12図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群内出土遺物実測図③ (S=2/3)



SR-303 12~17

0 5cm

第13図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群内出土遺物実測図④ (S=2/3)



第14図 ナイフ形石器文化Ⅱ期礫群内出土遺物実測図⑤ (S=2/3)

SR-248 の構成礫は密集しており、その範囲は 2.52m×2.02m を測るが、複数の礫の密集個所があるようにも見える。構成礫数は 213 点、総重量は 71.7kg を量る。本礫群では 67 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 13 組と SR-249 の構成礫 1 組との接合関係が含まれる。

SR-249 の構成礫は密集しており、その範囲は 0.71m×0.51m を測る。構成礫数は 23 点、総重量は 6.5kg を量る。本礫群では 7 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 2 組と SR-247 の構成礫 1 組、SR-248 の構成礫 1 組との接合関係も含まれる。

SR-276 の構成礫は密集しており、その範囲は 1.16m×1.19m を測る。やや小ぶりの礫が中央にまとまり、その周辺に大ぶりの礫が囲むように分布する印象を受ける。構成礫数は 80 点、総重量は 21.6kg を量る。本礫群では 11 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 3 組との接合関係も含まれる。

SR-284 の構成礫は密集しており、その範囲は 2m×1.92m を測るが、複数の礫の密集個所があるようにも見える。構成礫数は 127 点、総重量は 67.6kg を量る。構成礫は風化が著しくもろい印象を受ける。本礫群では 19 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 5 組と SR-292 の構成礫 1 組、SR-317 の構成礫 1 組との接合関係も含まれる。炭化物が多く分布していた。

SR-292 の構成礫は密集しており、その範囲は 2.66m×1.83m を測るが、複数の礫の密集個所があるようにも見える。構成礫数は 174 点、総重量は 32.9kg を量る。本礫群では 38 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 17 組と SR-317 の構成礫 1 組との接合関係も含まれる。砂岩製の剥片 1 点と砂岩製の敲石 1 点が出土している。

SR-303 の構成礫はやや密集しており、その範囲は 1.83m×1.27m を測る。構成礫数は 34 点、総重量は 8.2kg を量る。実測図中心の礫のまとまりの北側から接合資料を含む多くの石器が出土しており、本礫群を囲むように石器製作をしていたかのような遺物の出土状況が確認された。その出土遺物の内訳は頁岩製剥片 11 点、頁岩製石核 1 点(接合資料③を含む)、砂岩製剥片 3 点、砂岩製石核 1 点(接合資料②)、チャート製剥片と石核が各 2 点(接合資料④を含む)、砂岩製敲石 1 点が出土している。本礫群では 5 組の礫の接合関係が認められた。

SR-311 の構成礫は疎らでその範囲は 0.94m×0.72m を測る。構成礫数は 14 点、総重量は 5kg を量る。本礫群では遺物包含層中の礫 2 組との接合関係が認められた。

SR-317 の構成礫は西側に密集個所が見られるが全体的には疎らで、その範囲は 2.36m×1.75m を測る。密集個所については掘り込みを想定させるような椀状の断面形だが掘り込みは検出できなかった。構成礫数は 68 点、総重量は 19.5kg を量る。本礫群では 15 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 5 組と SR-284 の構成礫 1 組と SR-292 の構成礫 1 組と SR-322 の構成礫 5 組との接合関係も含まれる。頁岩製剥片 2 点、砂岩製石核 1 点、砂岩製敲石 1 点が出土している。また炭化物も検出されており、放射性炭素年代測定の結果 24710±140BP という補正年代が得られている。

SR-322 の構成礫は疎らでその範囲は 1.43m×1.12m を測る。構成礫数は 29 点、総重量は 11.6kg を量る。本礫群では 11 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 3 組と SR-65 の構成礫 1 組と SR-317 の構成礫 5 組の接合関係も含まれる。砂岩製剥片 1 点が出土している。

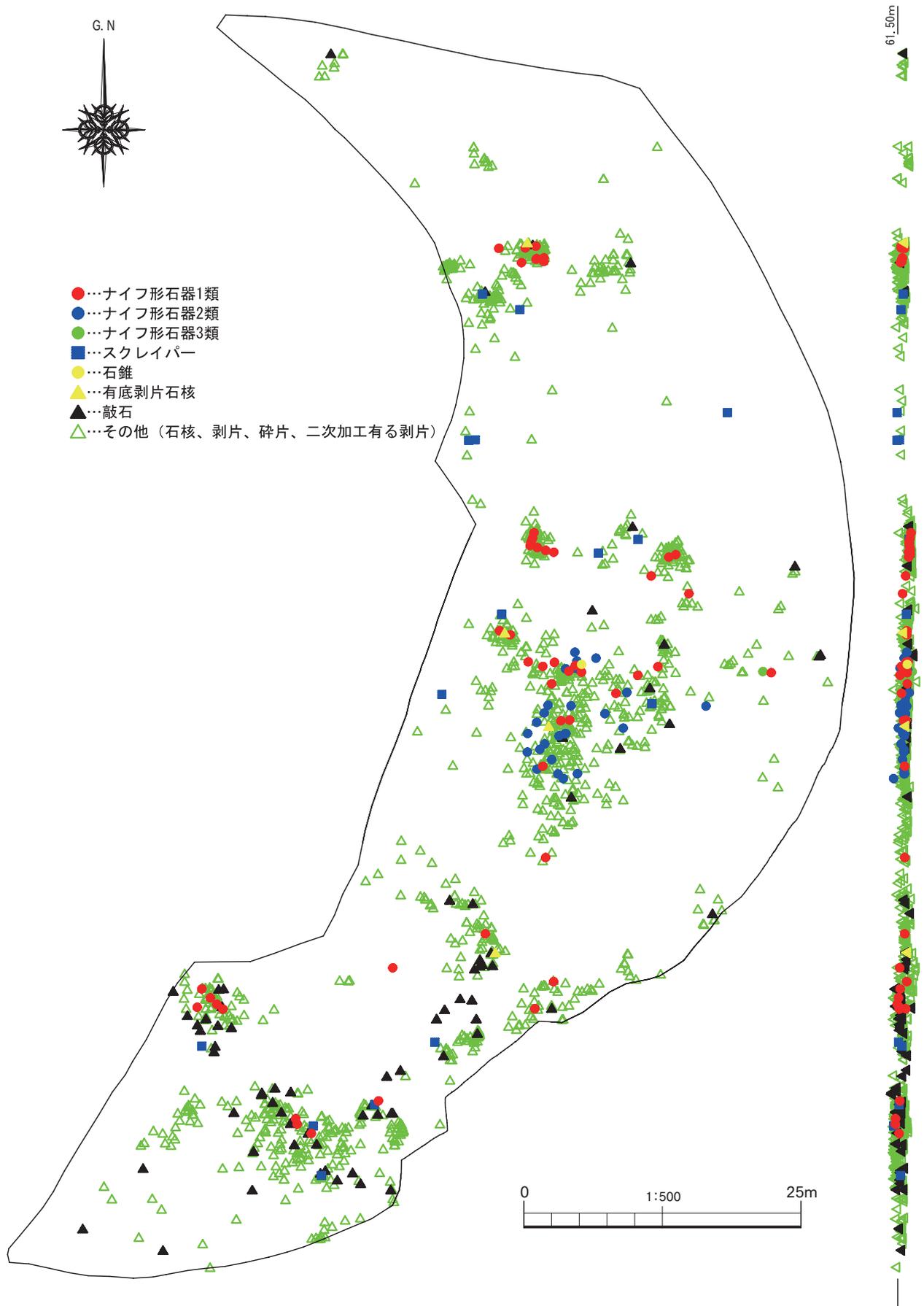
SR-330 の構成礫はやや密集しており、その範囲は 1.99m×1.74m を測る。構成礫数は 65 点、総重量は 8kg を量る。本礫群では 11 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 6 組との接合関係も含まれる。本遺構周辺の土がやや赤化して多くの炭化物の分布が認められたが、明確な掘り込みのプランは検出できなかった。炭化物の放射性炭素年代測定の結果 24390±140BP という補正年代が得られている。

SR-331 の構成礫は疎らでその範囲は 2.47m×1.25m を測る。構成礫数は 41 点、総重量は 5.6kg を量る。本礫群では 14 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 9 組と SR-52 の構成礫 1 組との接合関係も含まれる。チャート製石核 1 点が出土している。

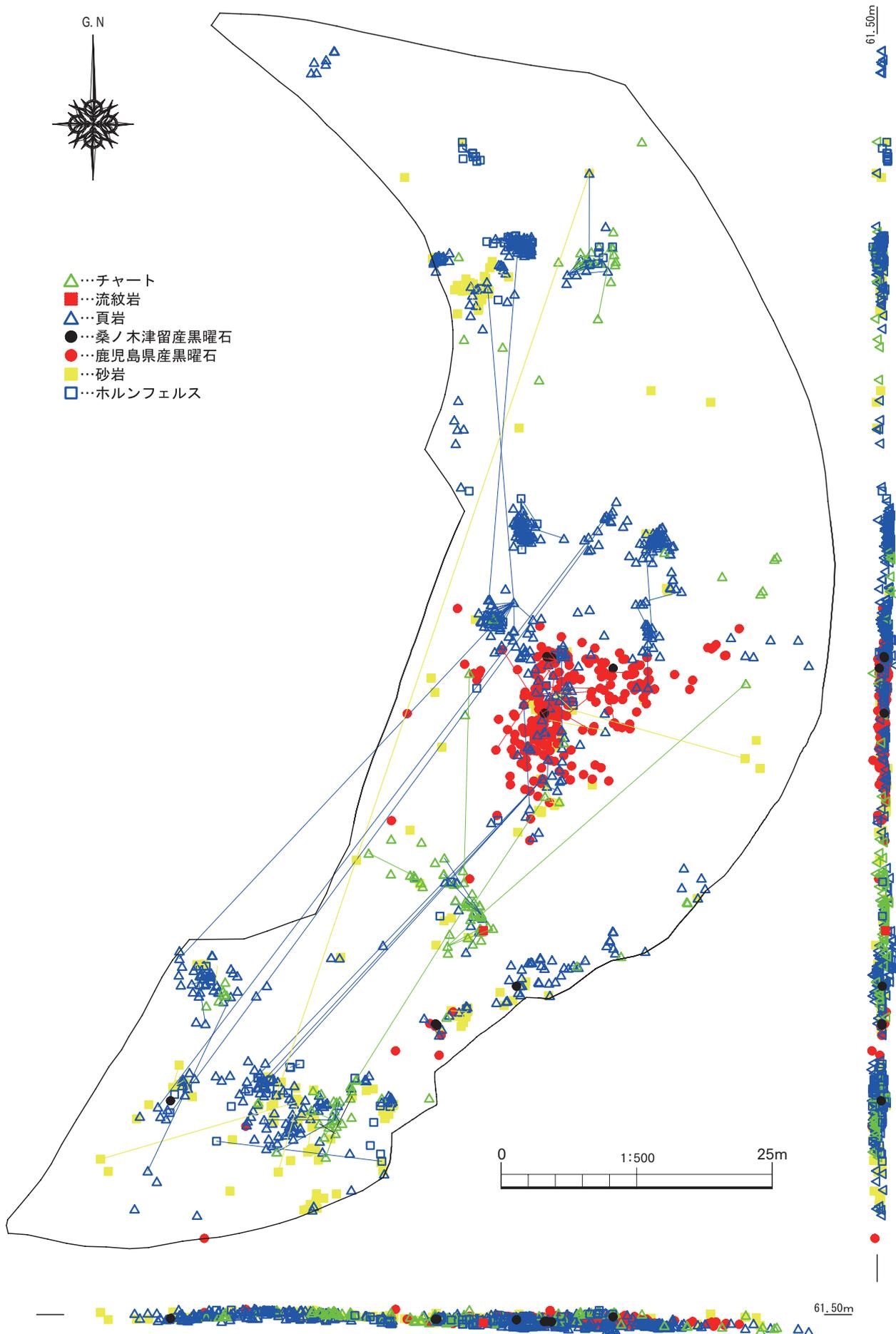
SR-334 の構成礫はやや密集しており、その範囲は 1.27m×0.59m を測る。構成礫数は 24 点、総重量は 10.5kg を量る。

SR-352 の構成礫は密集する箇所が 2ヶ所あり、両者ともに掘り込みを想定させるような椀状の断面形だが掘り込みは検出できなかった。全体の礫の範囲は 1.79m×1.32m を測り、構成礫数は 43 点、総重量は 7.6kg を量る。本礫群では 12 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 6 組との接合関係も含まれる。砂岩製剥片 1 点が出土している。

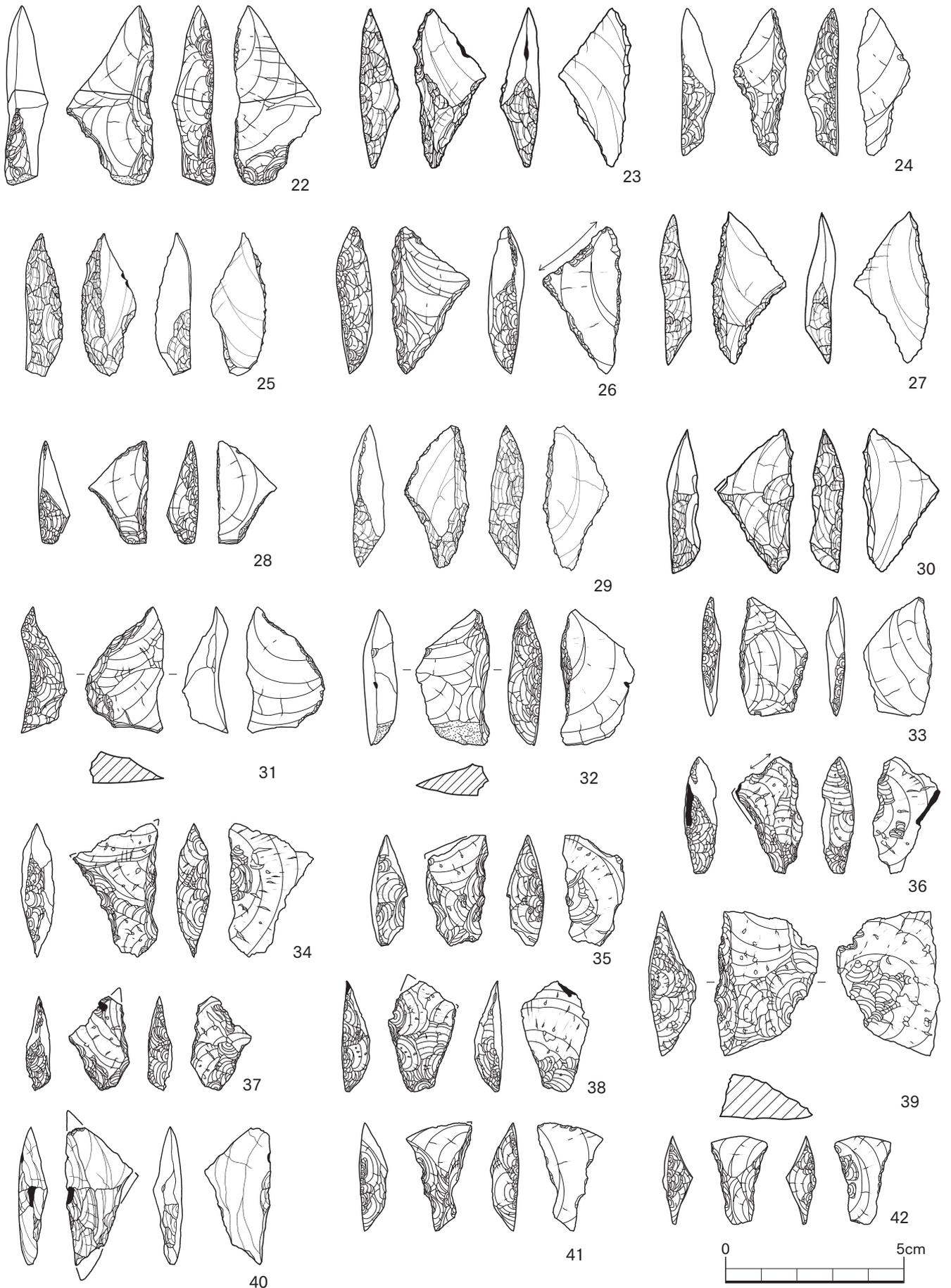
SR-353 の構成礫は密集しており、その範囲は 0.61m×0.42m を測る。構成礫数は 27 点、総重量は 5kg を量る。本礫群では 8 組の礫の接合関係が認められ、それには遺物包含層中の礫 3 組との接合関係も含まれる。



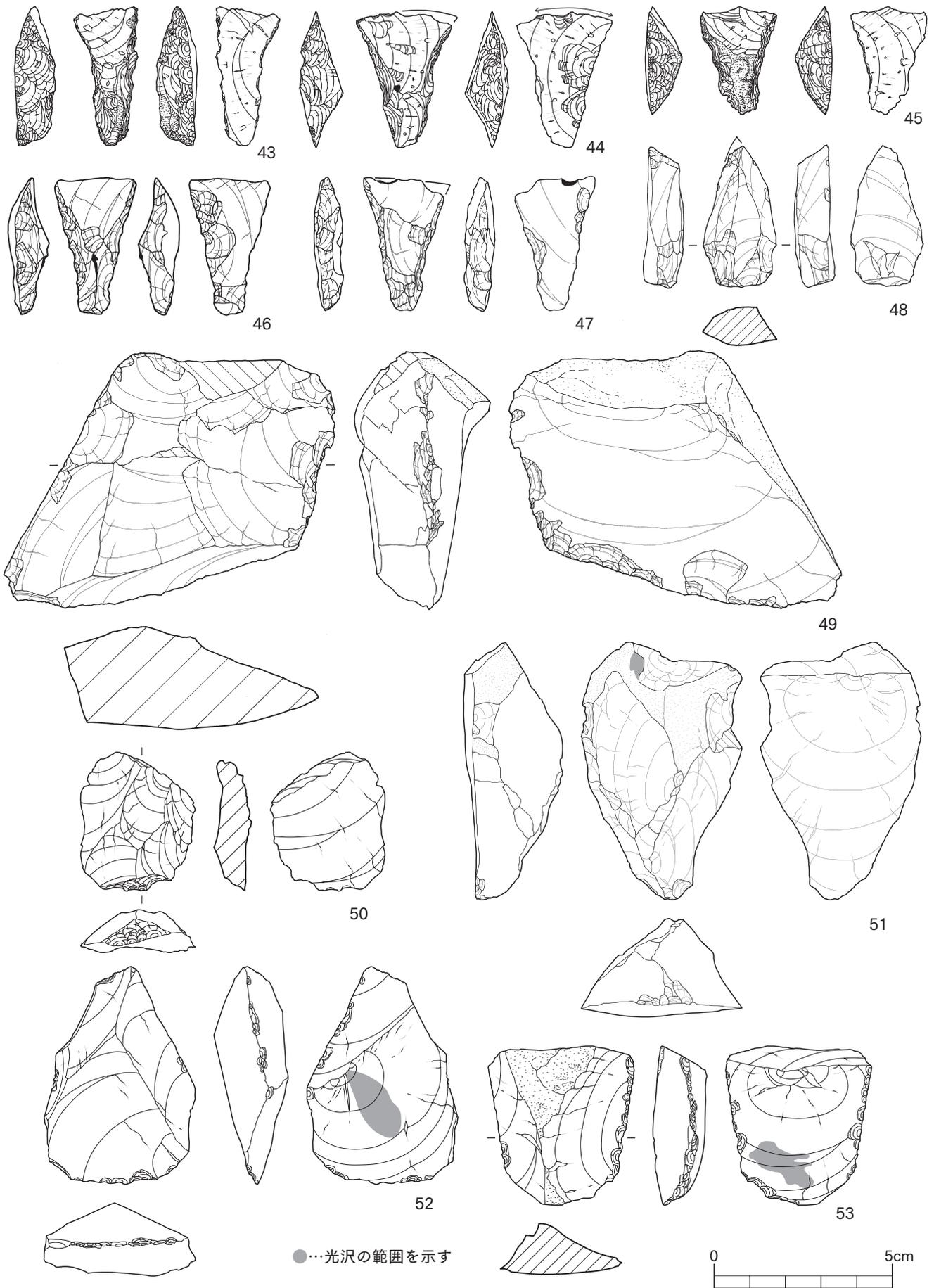
第15図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器分布図①【器種別】(S=1/500)



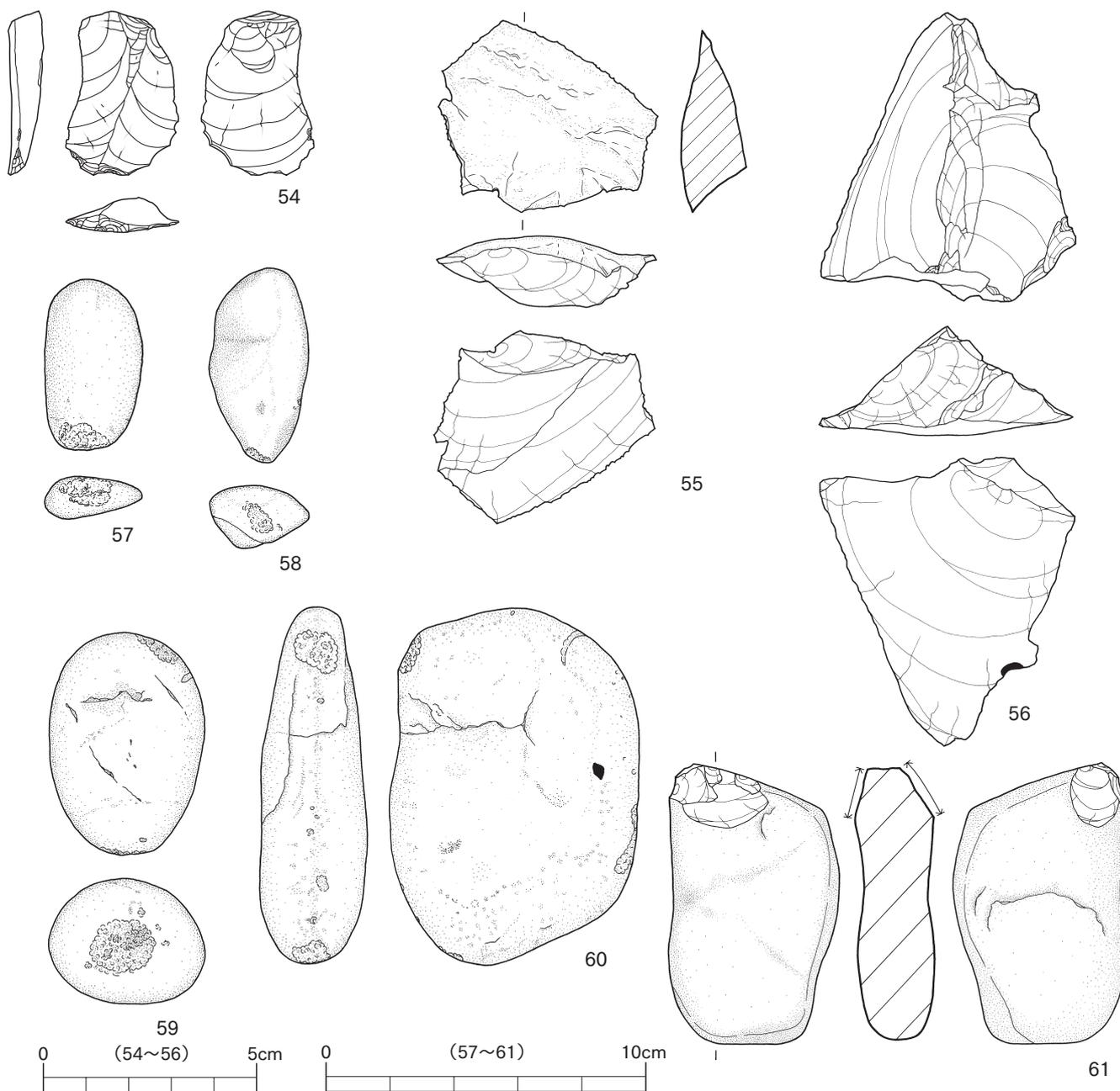
第16図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器分布図②【石材別】(S=1/500)



第17図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



第18図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)



第19図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3・1/2)

## 2. 礫群内出土の接合資料について(第10図～第14図)

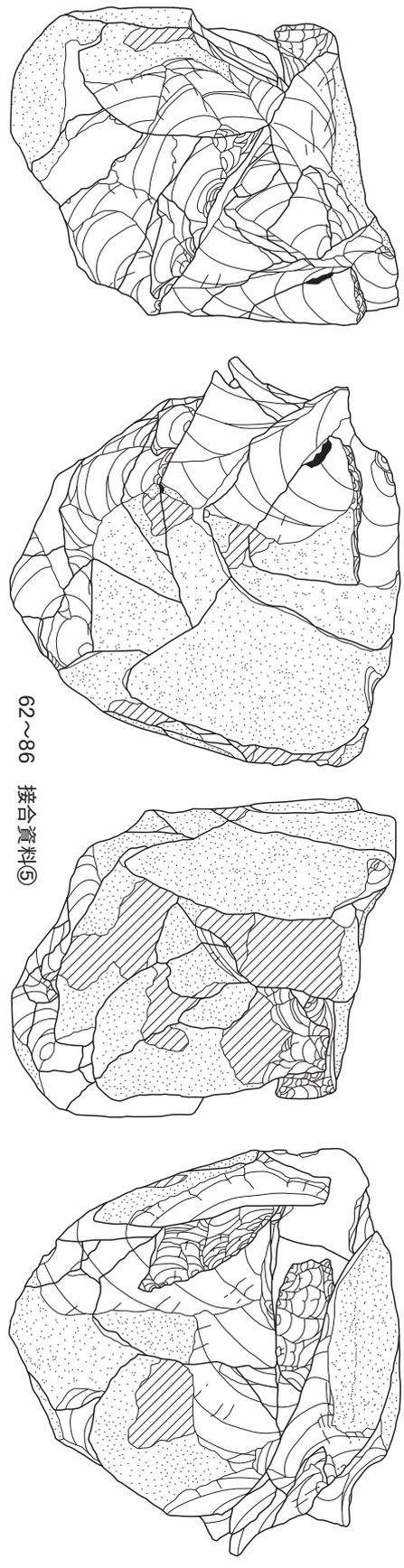
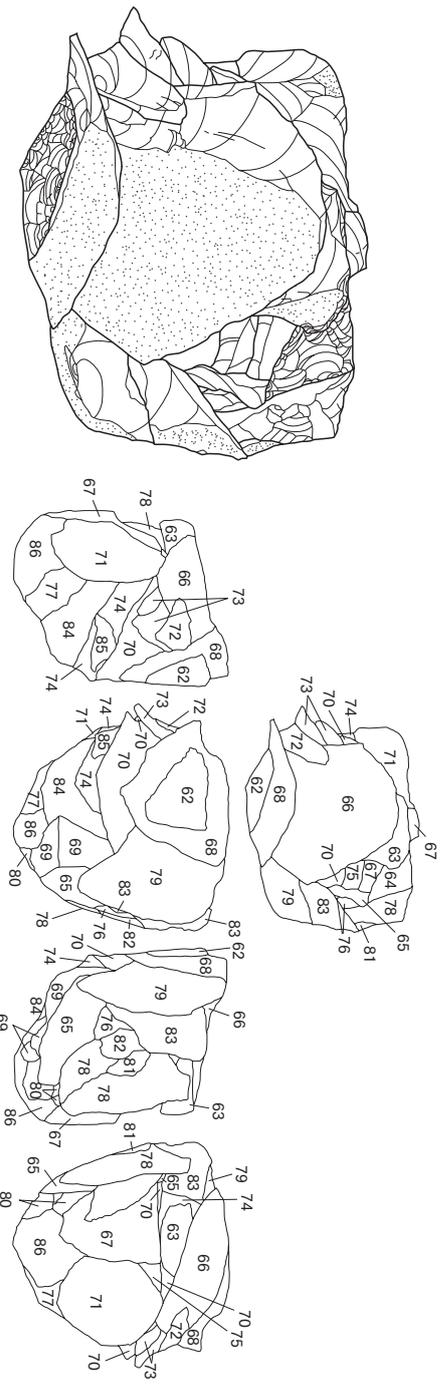
本調査区で検出された礫群の半数から剥片・石核・敲石が出土している。特にSR-52とSR-303は遺物を多く伴って接合資料も見られる。本項ではこの2基の礫群の接合資料について報告を行う。

接合資料①は頁岩製剥片4点(1～4)で構成される。打面を展開させながら不整形な縦長剥片を生産するものである。

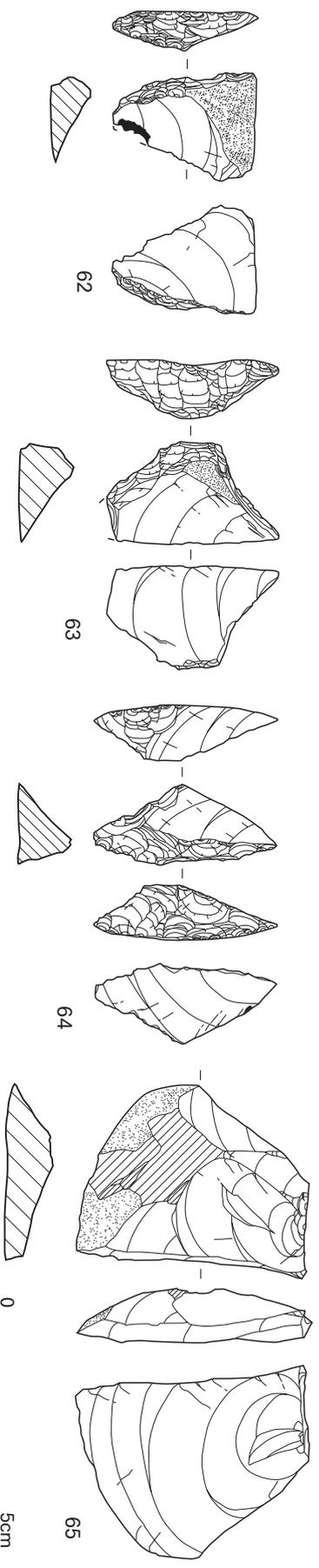
接合資料②は砂岩製剥片3点(5～7)と石核1点(8)で構成され、接合するとほぼ原礫の状態になる。剥片の生産はほとんど行われておらず、砂岩礫を試し割りしたという印象を受ける資料である。

接合資料③は頁岩製剥片10点(9～18)と石核1点(19)で構成され、接合するとほぼ原礫の状態になる。大ぶりの頁岩礫から11・16を作出して、その平坦面を打面として概ね長さ6～7cm、幅5～6cmの幅広の縦長剥片を生産している。生産された剥片に二次加工を施されたものは見られない。

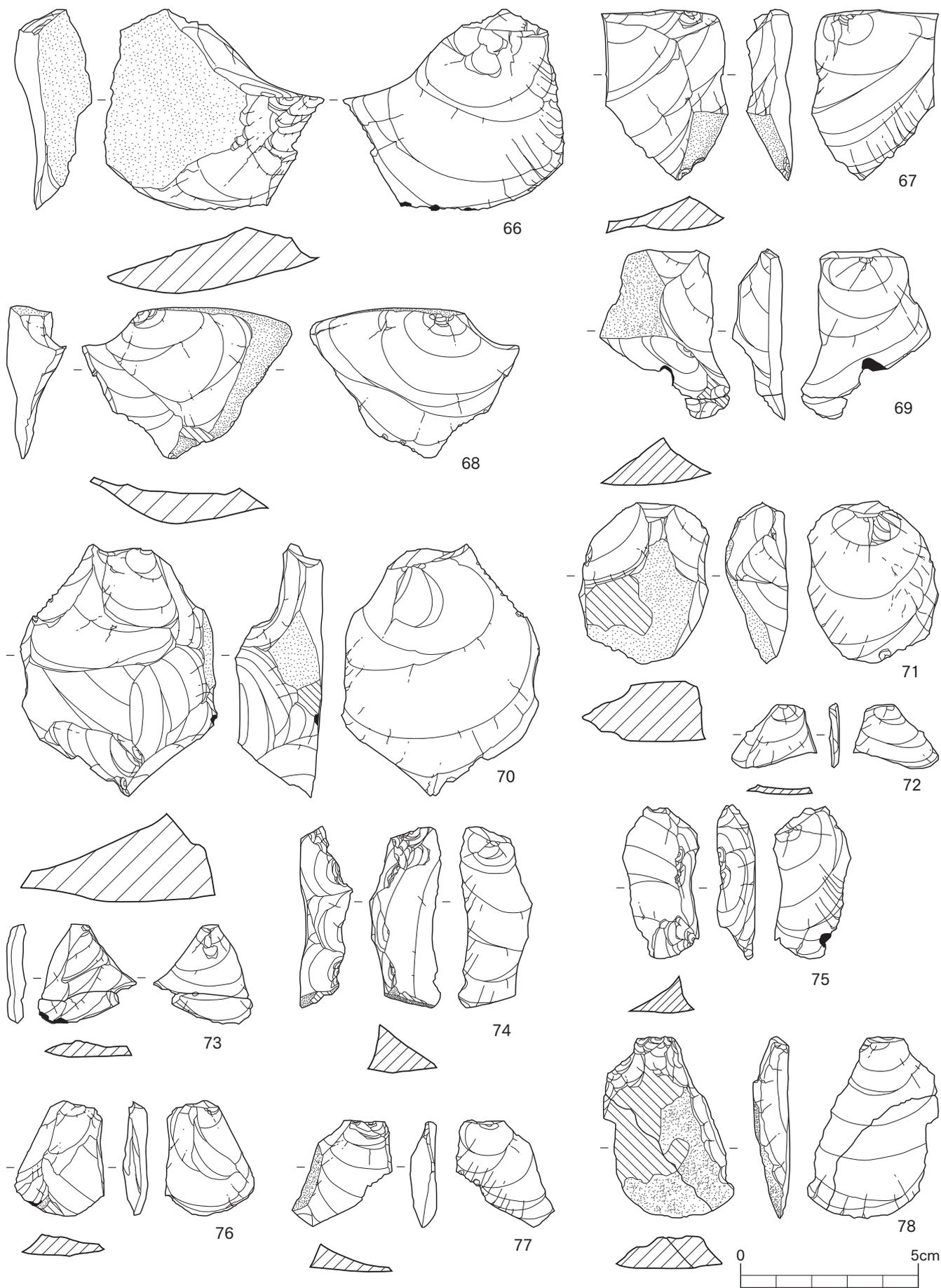
接合資料④はチャート製剥片1点(21)と石核1点(20)で構成される。21は打面再生剥片である。20の作業面をみると21を作出後、数枚の剥片剥離が行われていることがわかる。



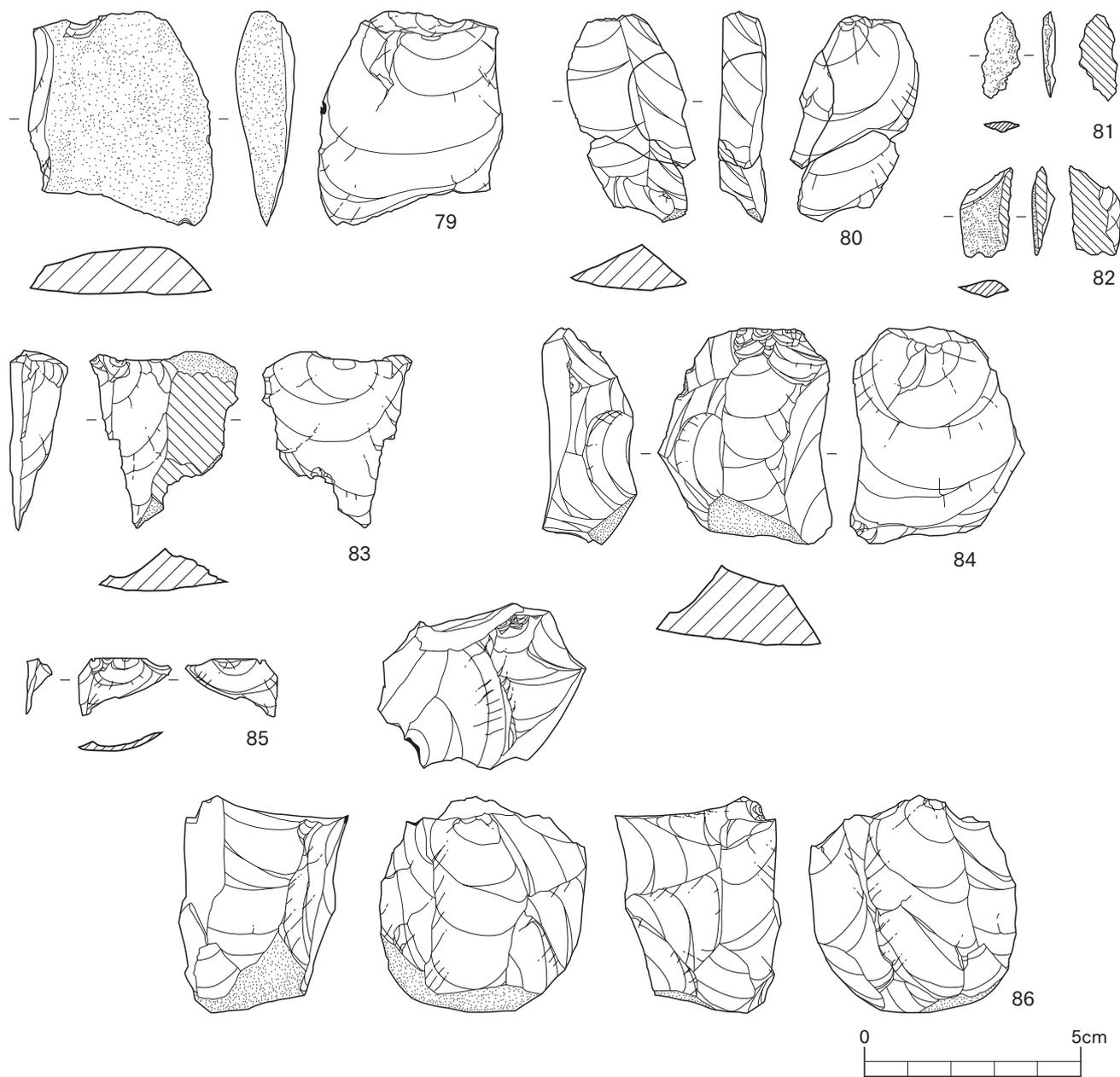
62~86 接合資料⑤



第20図 ナイノ形石器文化II期遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)



第21図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



第22図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)

### 3. ナイフ形石器文化Ⅱ期の遺物について(第15図～第25図)

ナイフ形石器文化Ⅱ期の遺物としてはナイフ形石器76点(未製品・欠損品も含む)、スクレイパー15点、錐状石器1点、敲石80点、剥片・碎片・石核1362点(有底剥片石核4点を含む)が出土している。石器群の分布は調査区のほぼ全面に認められるが、調査区中央部付近に黒曜石の分布が集中することが特徴的である。以下に製品類を中心に報告を行う。

#### ナイフ形石器(22～48)

本文化層のナイフ形石器は以下の1類から3類に分類される。

- 1類(22～40): 不定形な幅広の縦長剥片や横長剥片を素材とする二側縁加工の切り出し型のナイフ形石器で、既存の分類ではいわゆる狸谷型ナイフ形石器に該当する。総数で49点出土している。26・36は先端部に使用痕の可能性のある槌状剥離が見られ、刃縁に再加工の可能性のある二次加工が施されている。28も刃縁に二次加工が見られる。これは先端部を作るためのものと考えられる。頁岩の使用が目立つ。
- 2類(41～47): 1類と同様の剥片を素材とする二側縁加工のナイフ形石器だが、刃部が基部に対して直交し



第23図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3)

ており、既存の分類では台形様石器に該当する。総数で26点出土している。鹿児島県産黒曜石の使用が目立つ。なお、32・33・34・39の加工は刃潰し加工が中途半端で1類か2類の未製品と考えられる。

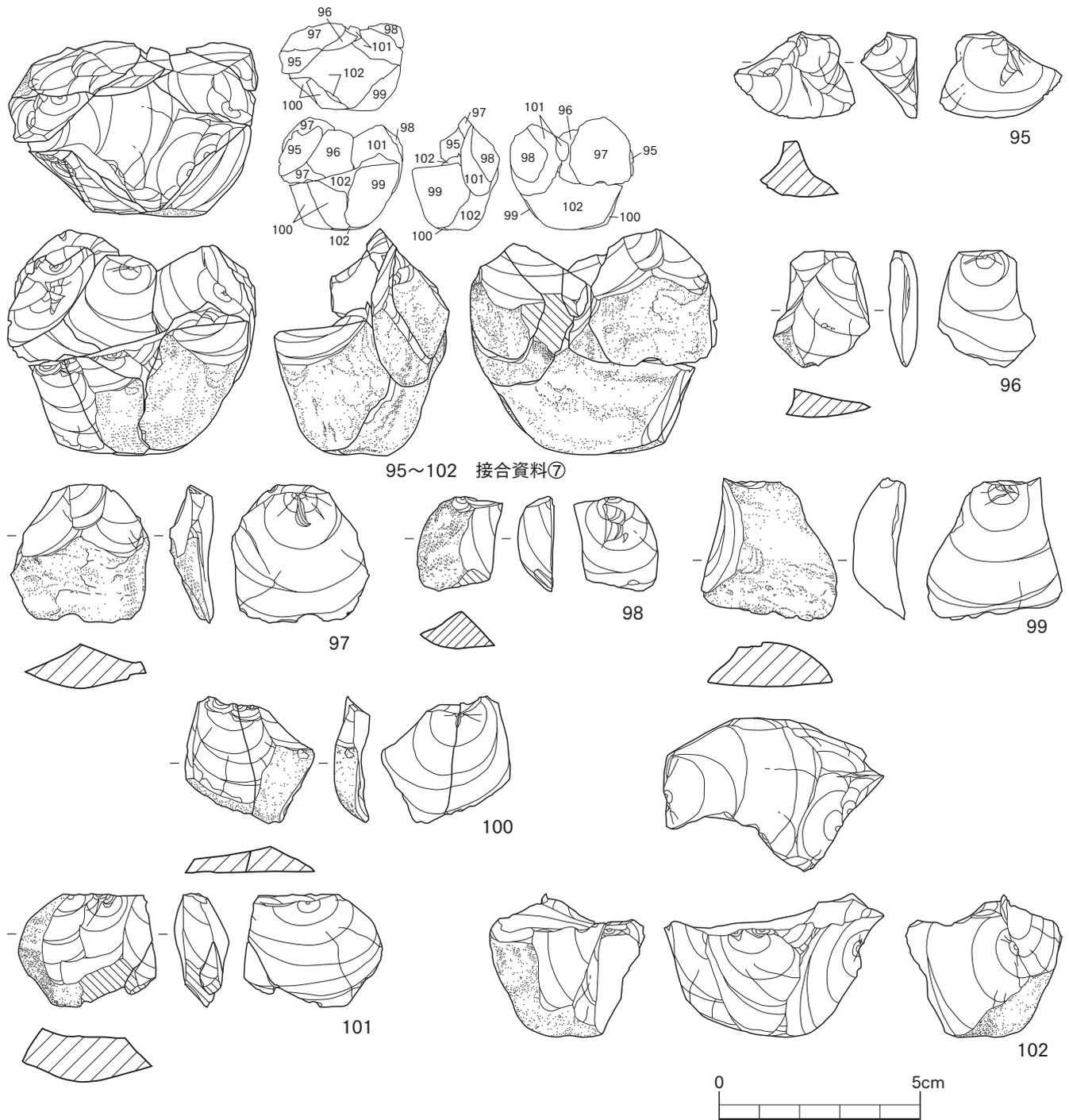
- ・3類(48): 1点のみ出土している。不定形な縦長剥片を素材として、打面部を基部として刃潰し加工を施す。既存の分類では剥片尖頭器に分類されるが、基部の挟りが不明瞭な印象を受ける。

**スクレイパー (49～54)**

49・53は削器では刃部加工を側縁部から下縁部にかけて施している。50～52・54は不定形な縦長剥片の端部に刃部加工を施す搔器である。52・53は主要剥離面側に光沢が認められる。

**有底剥片石核(55・56)**

接合資料⑩を含めると4点出土している。剥片を素材としてその打面付近から主要剥離面を取り込む横長剥片を生産したもので、瀬戸内技法に類するとも考えられるが、55・56には打面調整が認められない。打面調整の見られる接合資料⑩については後述する。56は本調査区唯一の流紋岩製である。



第24図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3)

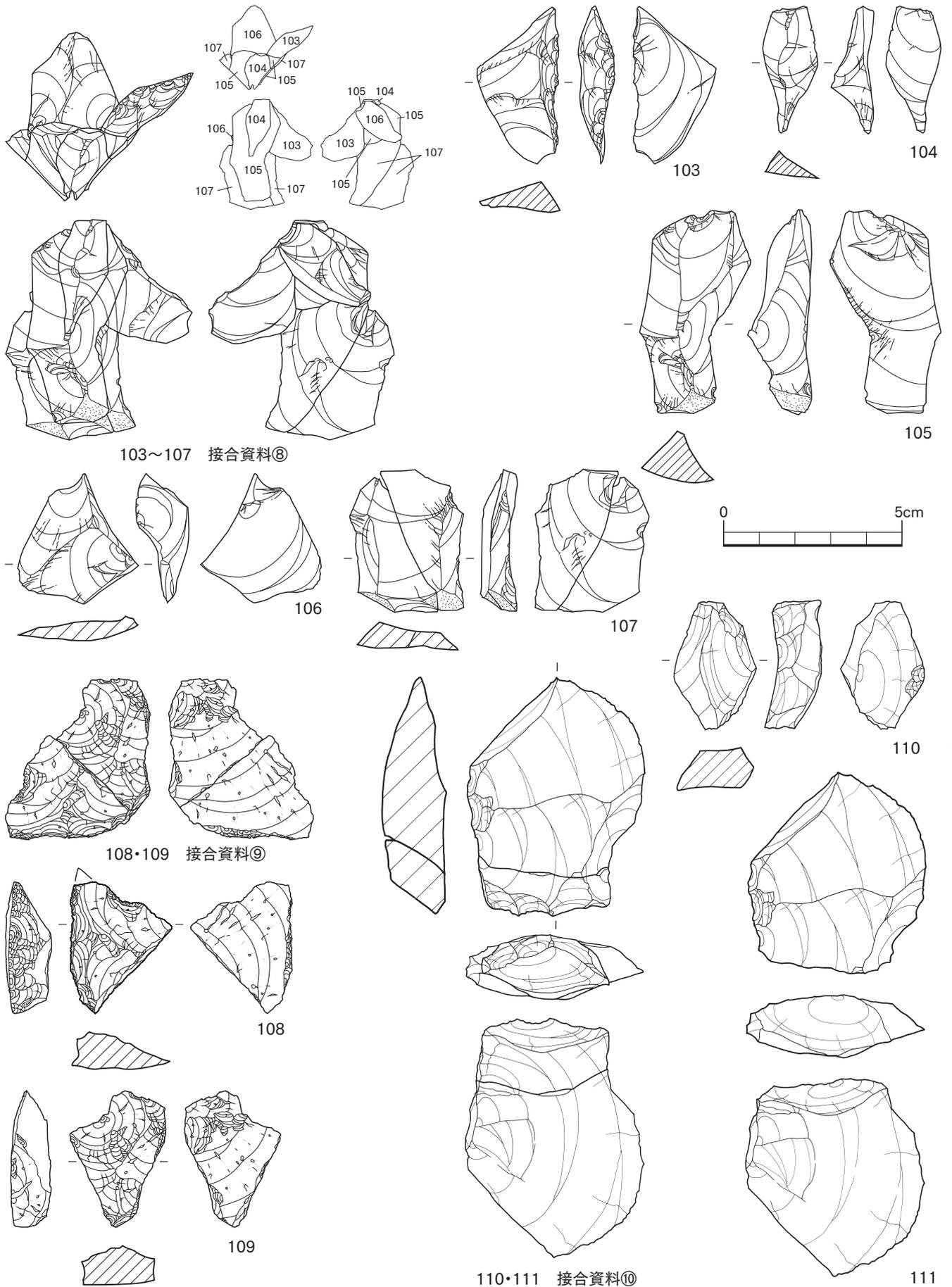
**敲石(57 ~ 61)**

砂岩製の円礫や棒状礫、角礫の一端に敲打痕が観察されるもので、敲打痕は数箇所見られるものもある。重量や規模から 250 g 以上のもの(60:21 点)、250g ~ 100g のもの(59・61:25 点)、100g 以下のもの(57・58:29 点)と分類することができ、石器製作の工程によって各種が使い分けられていたと考えられる。

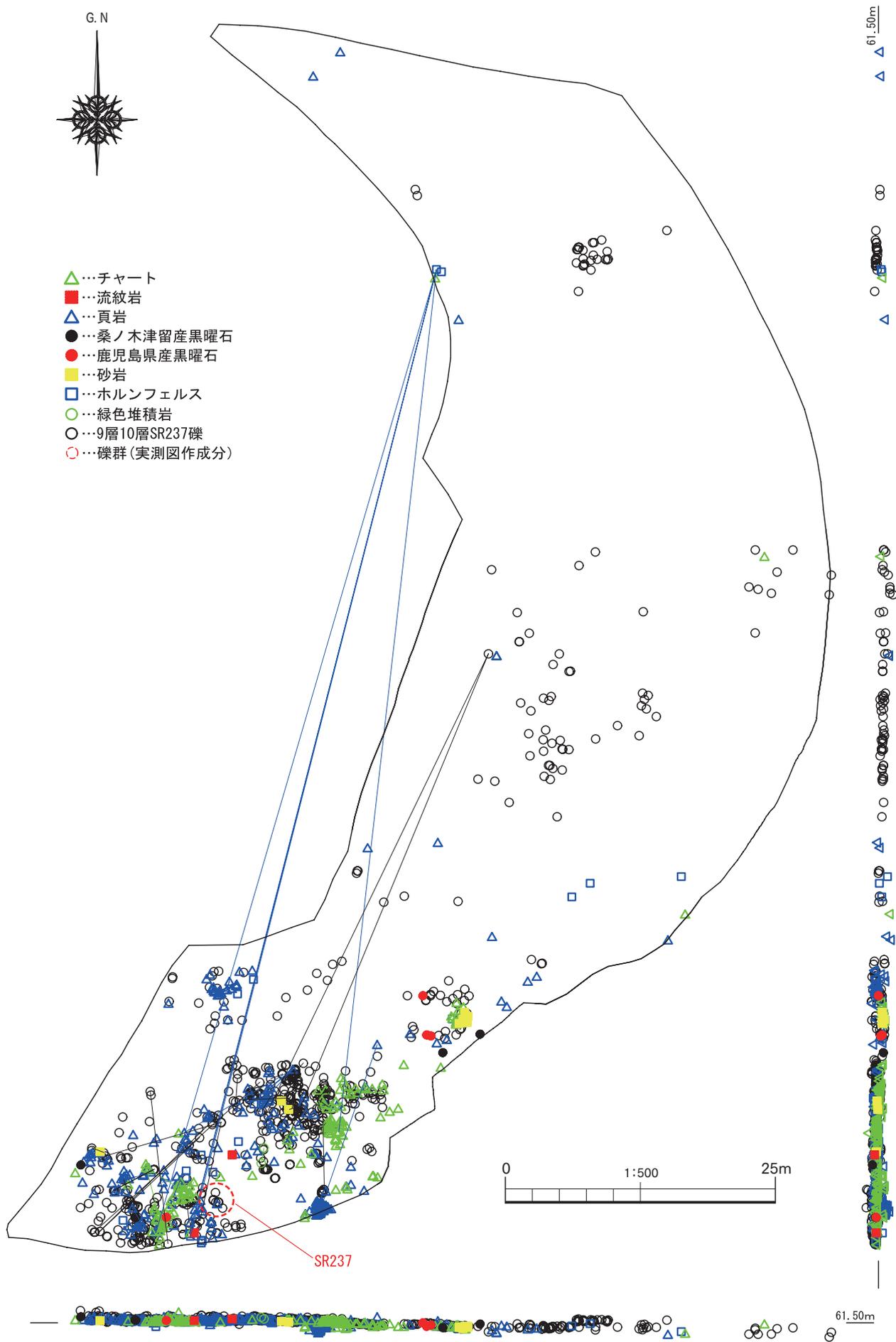
**接合資料について(接合資料⑤~⑩)**

本文化層からは多くの接合資料が確認されており、前述の礫群内の資料も含めると頁岩製資料 44 組、チャート製資料 17 組、砂岩製資料 27 組、日東産黒曜石製資料 10 組、ホルンフェルス製資料 3 組の合計 101 組が出土している。そのうちの 6 組の報告を行う。

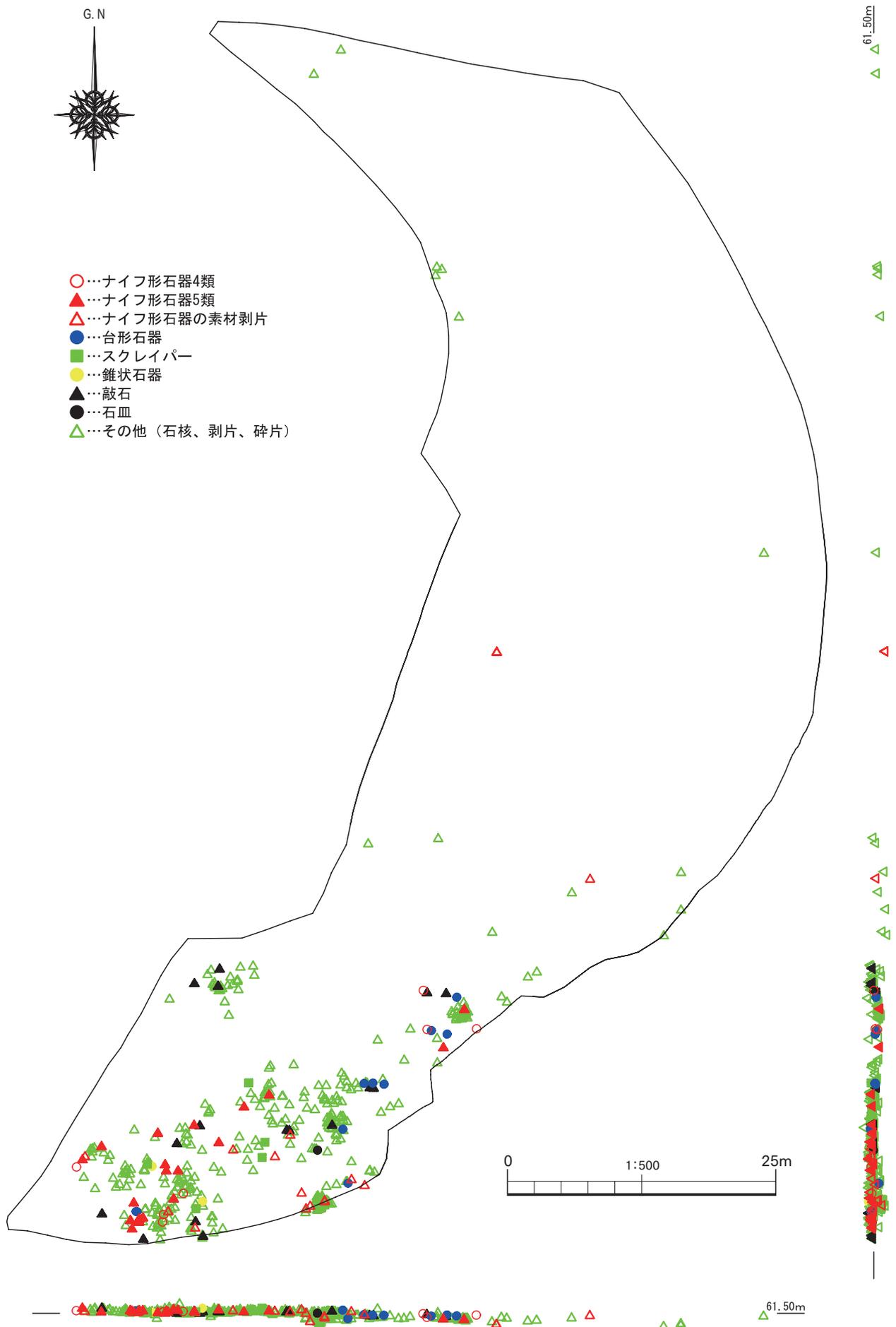
接合資料⑤は頁岩製のナイフ形石器 3 点(62 ~ 64)、剥片 21 点(65 ~ 85)、石核 1 点(86)で構成され、接合するとほぼ原礫の状態となる。打面を展開させながら不定形な縦長剥片や横長剥片を生産しており、残核 86 は下



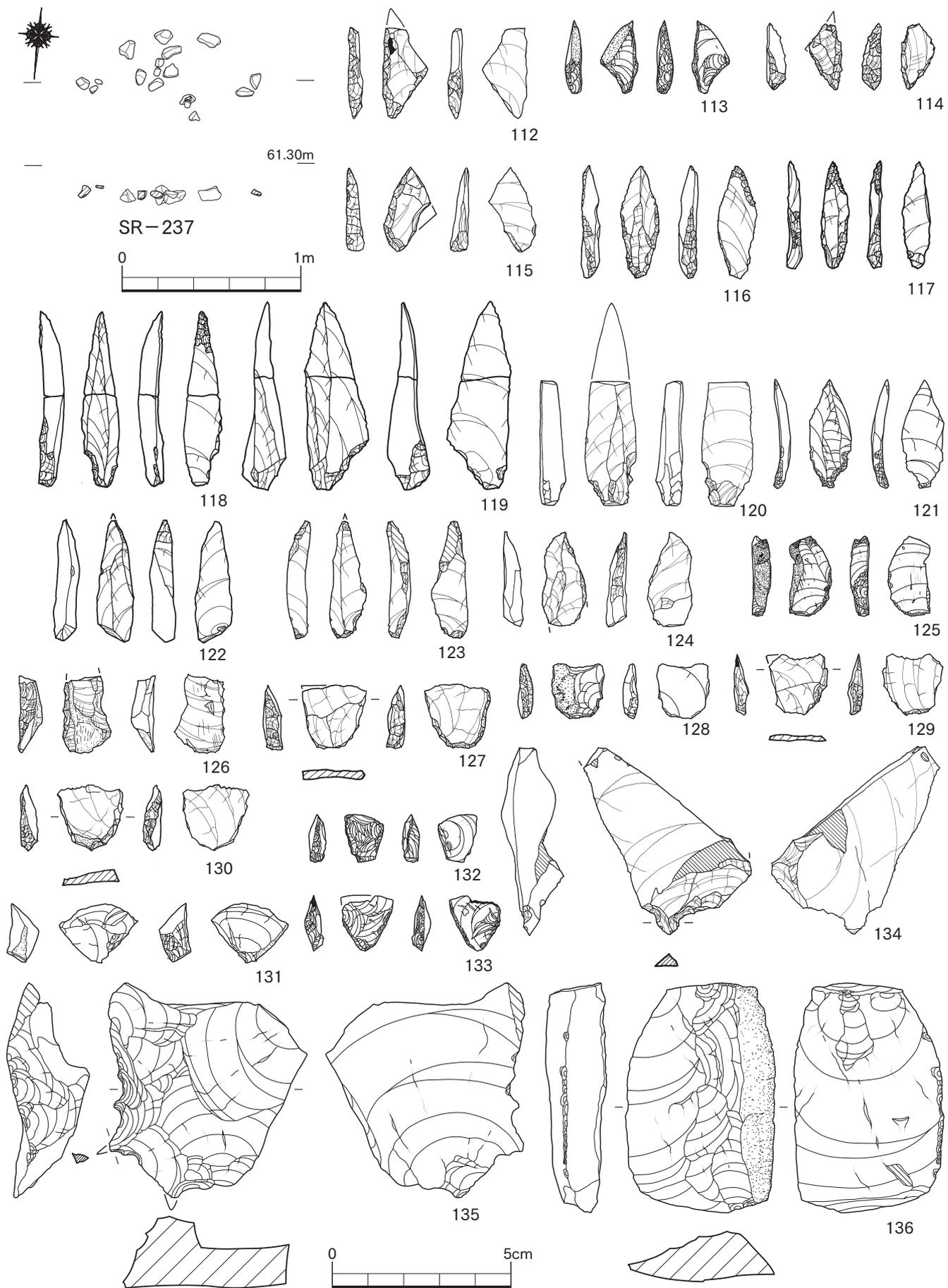
第25図 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物包含層出土石器実測図㊸ (S=2/3)



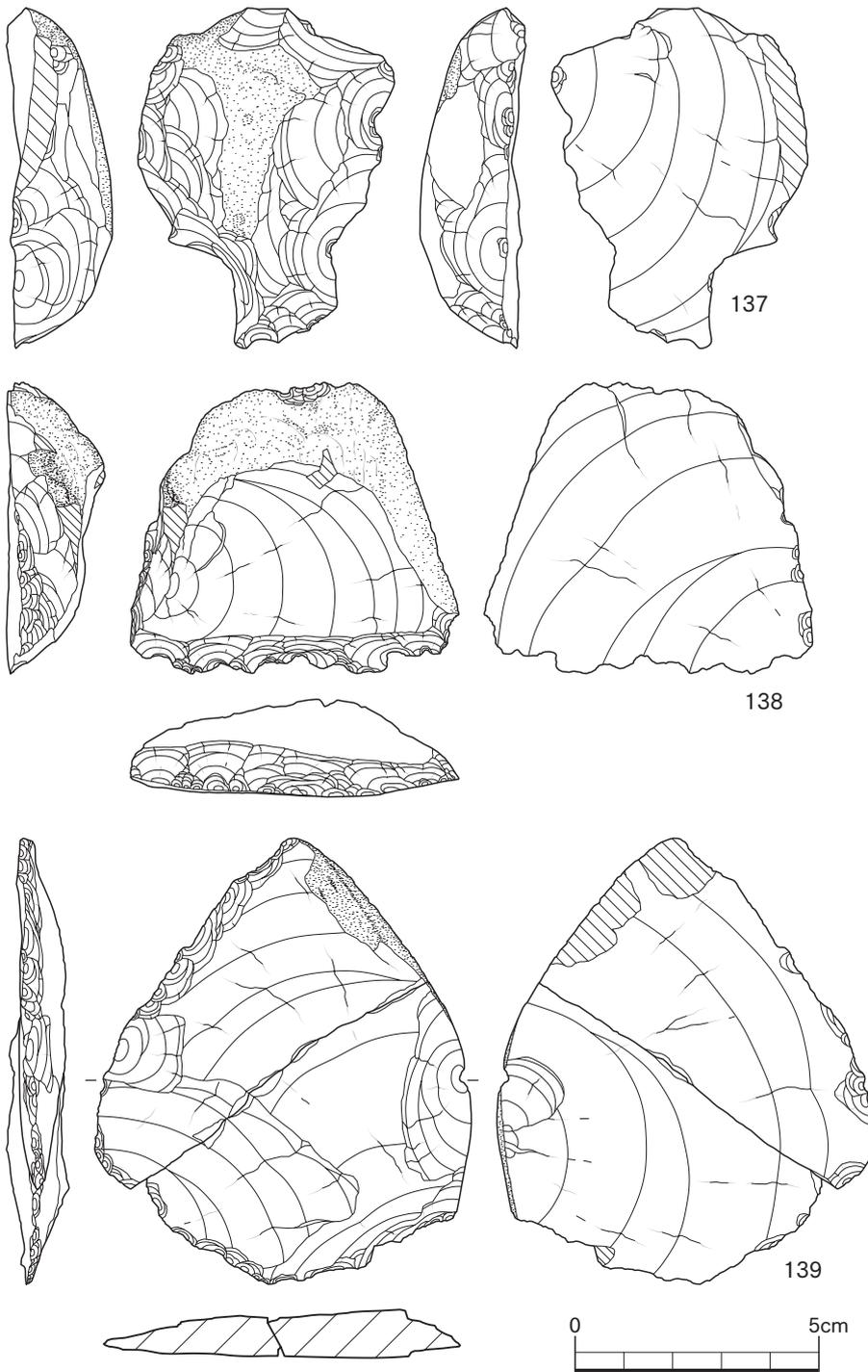
第26図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器・礫分布図【石材別】(S=1/500)



第27図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器分布図【器種別】(S=1/500)



第28図 ナイフ形石器文化 I 期礫群実測図 (S=1/30) 及び遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



第29図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)

接合資料⑩はホルンフェルス製の剥片 1 点(110)と剥片素材の石核 1 点(111)で構成される。111 は横長剥片で、その側縁部に打面調整を施して、1～2 枚の剥片を生産後、有底剥片である 110 を剥ぎ取っている。瀬戸内技法に類する資料である。

### 第 3 節 ナイフ形石器文化 I 期の調査

#### 1. ナイフ形石器文化 I 期の礫群について(第 26 図・第 28 図)

X 層中より礫は調査区のほぼ全面で出土しているが特に調査区南側において集中する傾向が見られる。その中

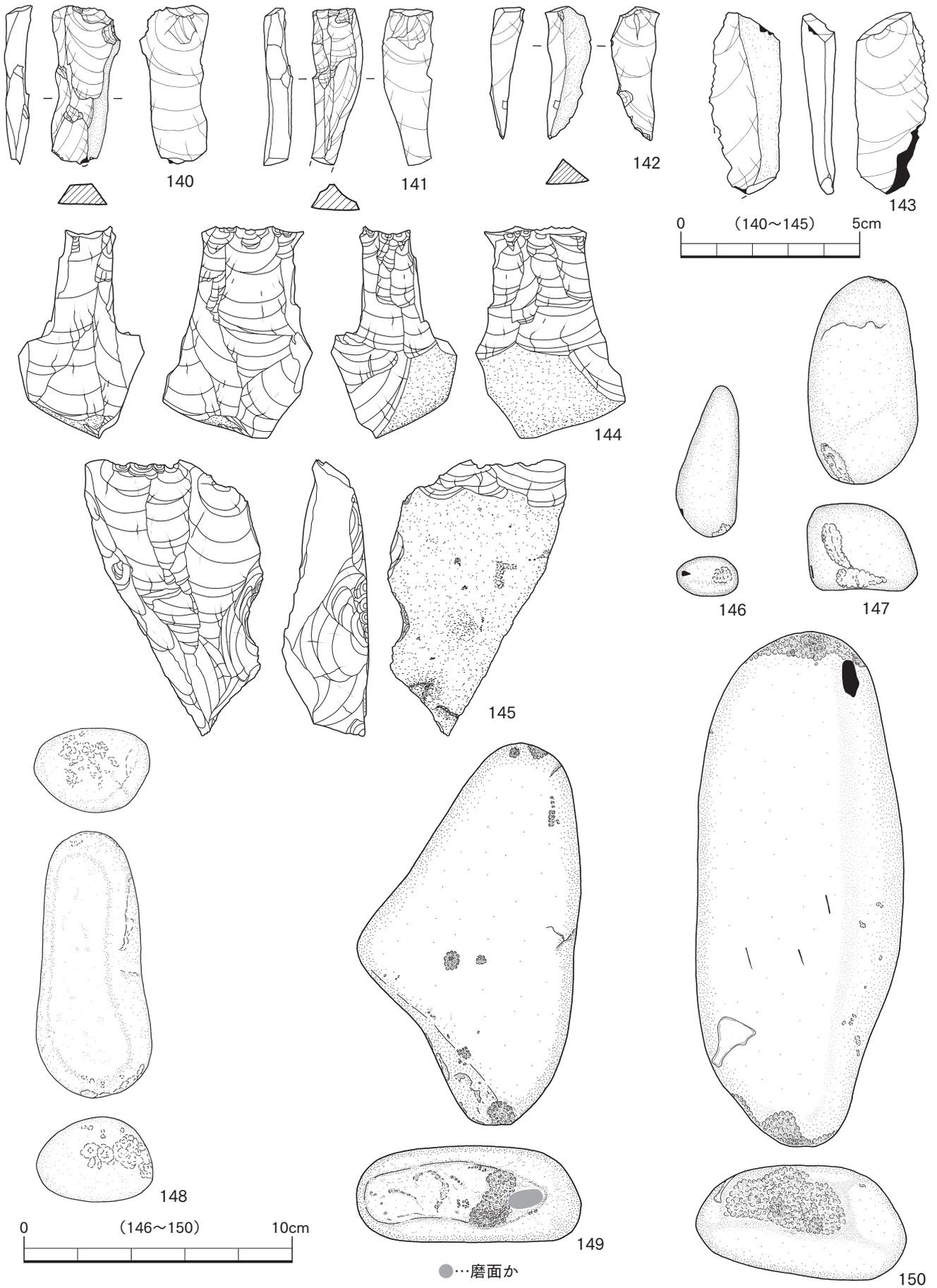
部のみ自然面が確認される。64 がナイフ形石器 1 類に該当し、62・63 はその未製品であろう。なお、62・64 の接合する剥離面の大きさをみると長さは 3.5～6.5cm、幅は 3.5cm であり、この母岩資料においてはこれくらいの規模の剥片がナイフ形石器の素材として用いられたようである。同様の規模のものは 67・69・71・78・83 などが該当すると考えられるが、平面形の不都合や分厚さの問題からか二次加工は行われていない。

接合資料⑥は頁岩製のナイフ形石器 1 類の未製品 1 点(87)、剥片 6 点(88～93)、石核 1 点(94)で構成される。接合資料⑤と同様に打面を展開させながら不定形な剥片を生産しているが、接合している剥片の規模は小規模である。

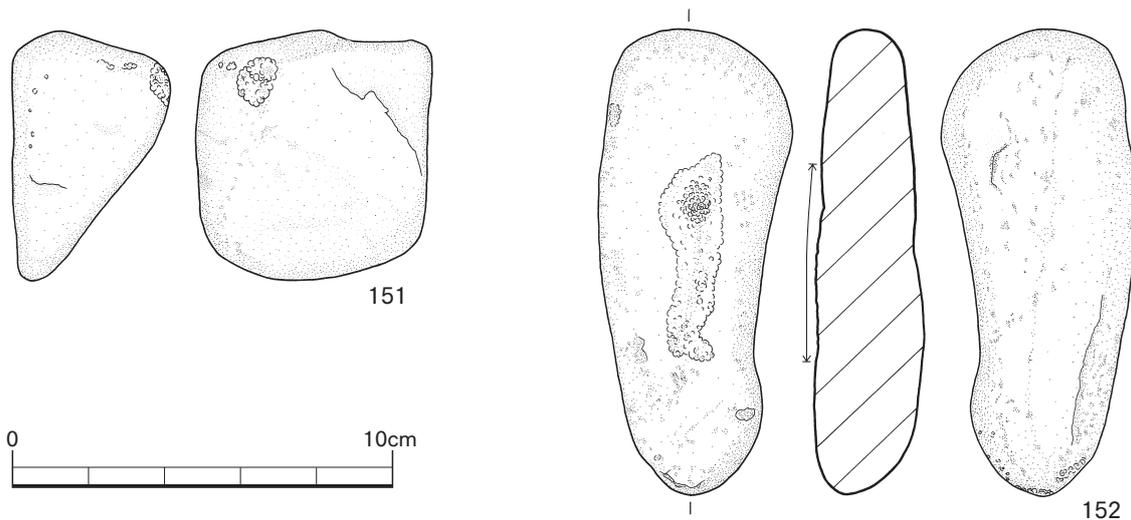
接合資料⑦は頁岩製の剥片 7 点(95～101)、石核 1 点(102)で構成される。剥片の多くが自然面除去のためのものである。

接合資料⑧は頁岩製のナイフ形石器 1 類の未製品 1 点(103)、剥片 4 点(104～107)で構成される。

接合資料⑨は日東産黒曜石製のナイフ形石器 1 点(108)、剥片(109) 1 点で構成され、接合状態では不定形な縦長剥片となる。その剥片を切断して 108 に刃潰し加工を施す。刃潰し加工は一側縁にしか見られないが平面形はナイフ形石器 1 類であり、完成品の可能性もある。



第30図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3・1/2)



第31図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器実測図④ (S=1/2)

でやや礫が密集する礫群(SR-237)については実測図を作成した。接合関係については概ね調査区南側で完結するが、調査区中央部のものと接合するものが1組だけ認められた。本文化層の礫の総数は618点である。

SR-237の構成礫は疎らでその範囲は1.04m×0.54mを測り、構成礫数は16点、総重量は3.5kgを量る。本礫群内で7点の礫が接合した。

## 2. ナイフ形石器文化 I 期の遺物について(第26図～第35図)

ナイフ形石器文化 I 期の遺物としてはナイフ形石器29点(未製品・欠損品も含む)、台形石器9点、スクレイパー5点、錐状石器2点、敲石16点、剥片(ナイフ形石器の素材剥片も含む)・碎片・石核378点が出土している。以下に製品類を中心に報告を行う。

### ナイフ形石器(112～126)

本文化層のナイフ形石器は以下の4類と5類に分類される。

- ・4類(112～115): 小型の剥片を素材とする二側縁加工のナイフ形石器で、平面形が三角形や切り出し形を呈する。総数で4点出土している。
- ・5類(116～126): 細身の縦長剥片を素材として、その打面部側を基部とする基部加工や部分加工のナイフ形石器である。既存の分類では片島型ナイフ形石器に該当する。総数で25点出土している。

### 台形石器(127～133)

縦長剥片を素材としてそれを折断し、その折断部分に刃潰し加工を施して平面形を台形状に作り上げている。出土した9点中、チャート製が5点とその使用が目立つ。

### 錐状石器(134・135)

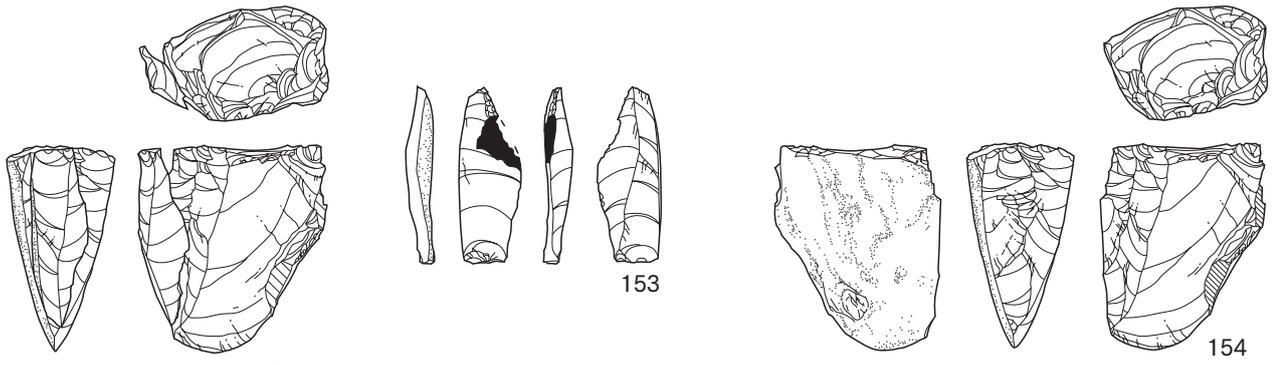
本調査区からは頁岩製のものが2点出土している。不定形な剥片の一部に調整を施して錐部を作り出している。135は複数の錐部が認められる。

### スクレイパー(136～139)

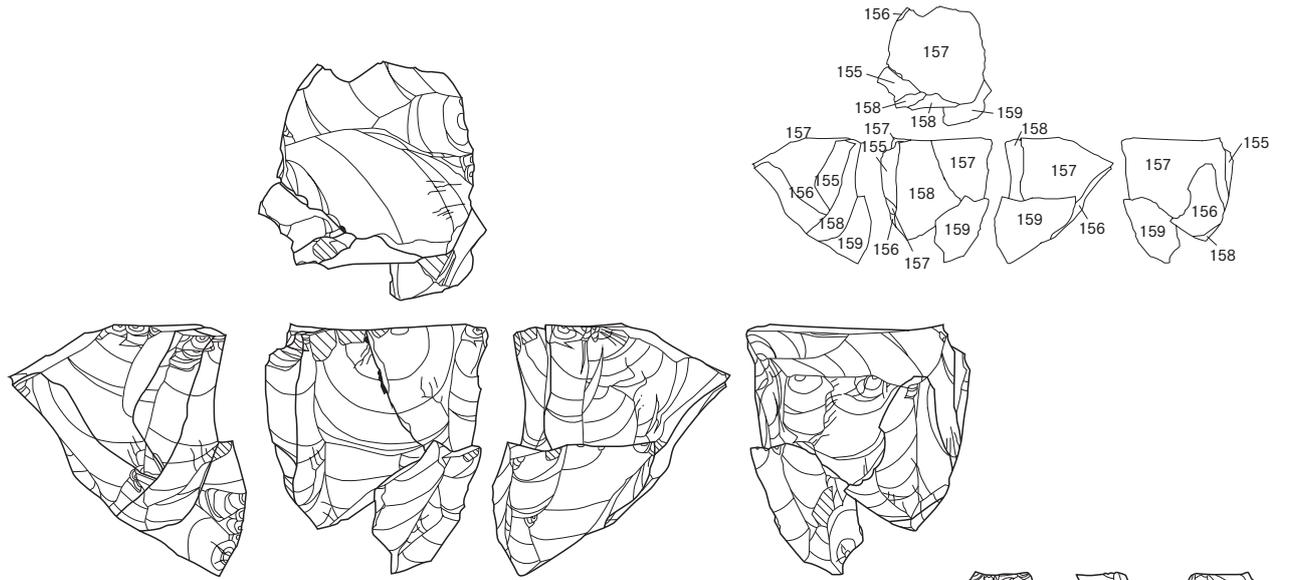
136は縦長剥片を素材として主要剥離面の右側縁に細かい刃部加工を施す。137～139は不定形な大ぶりの剥片を素材とする。137は自然面を残す剥片の周縁に加工を施しており、下部は錐部とした可能性も考えられる。138は分割礫の分割面を作業面とした石核から生産された剥片を素材としてその側縁部に急角度の刃部加工を施すものである。139は緑色堆積岩製のもので幅広剥片の下縁に刃部加工を施す。

### ナイフ形石器4・5類の素材剥片(140～143)と縦長剥片石核(144・145)

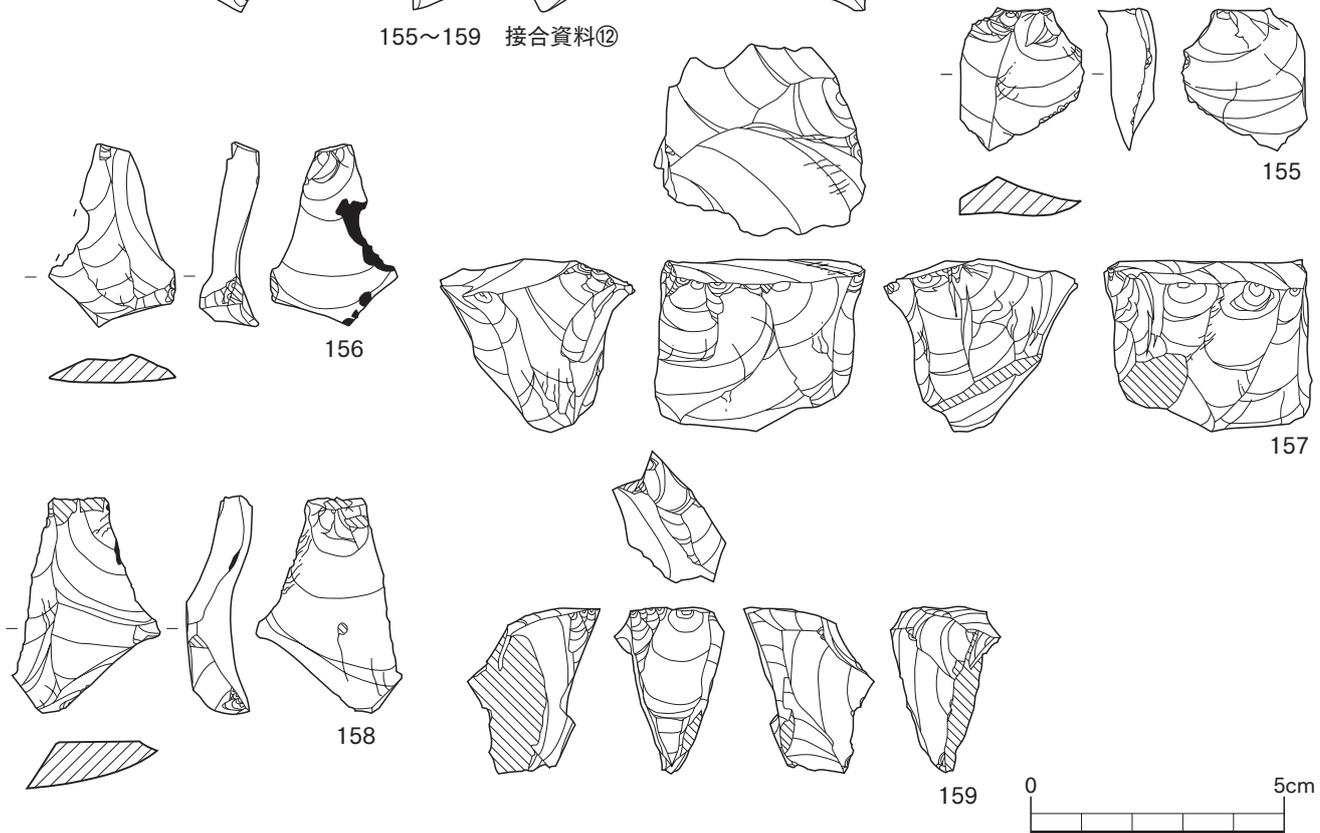
本文化層からは細身の縦長剥片が出土しており、ナイフ形石器4・5類の素材と考えられる。一部は台形石器の素材ともなったものもあろう。背面側には縦長剥片を連続的に生産した剥離面も確認できる。144や145はこれらを生産した残核である。144は縦長剥片生産が石核を一周するように行われたもので、不整角柱状の残核と



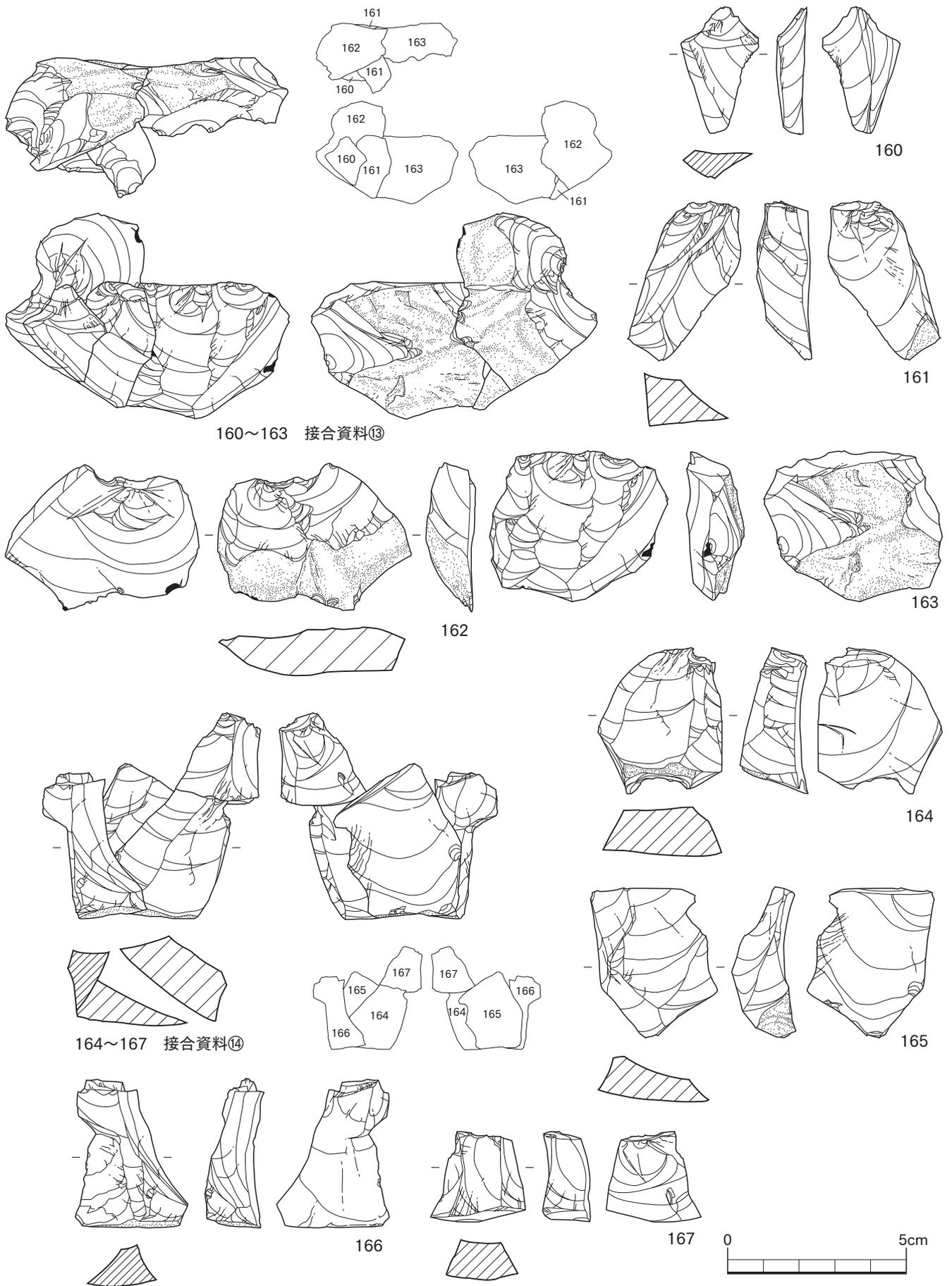
153・154 接合資料⑪



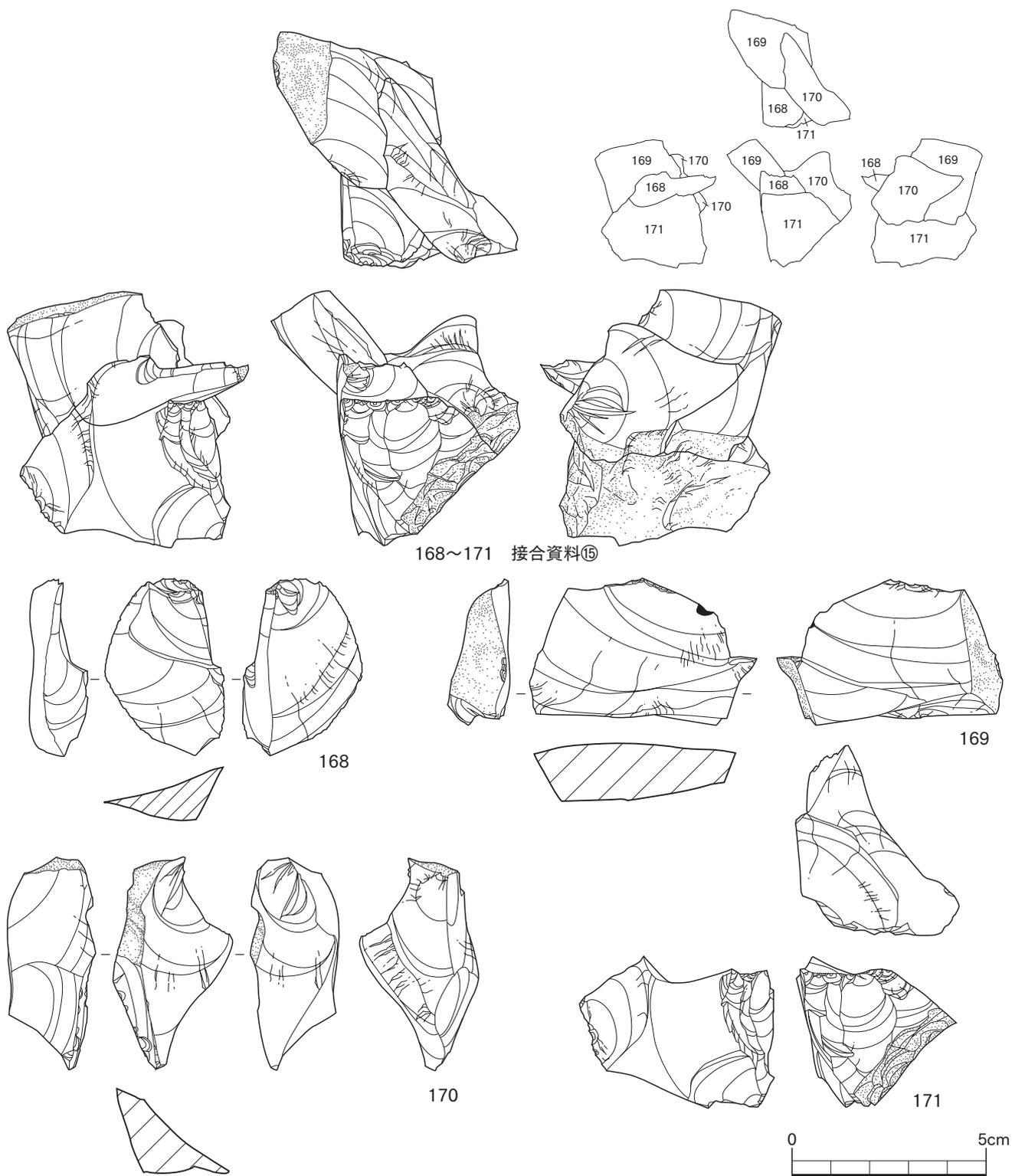
155~159 接合資料⑫



第32図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



第33図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)

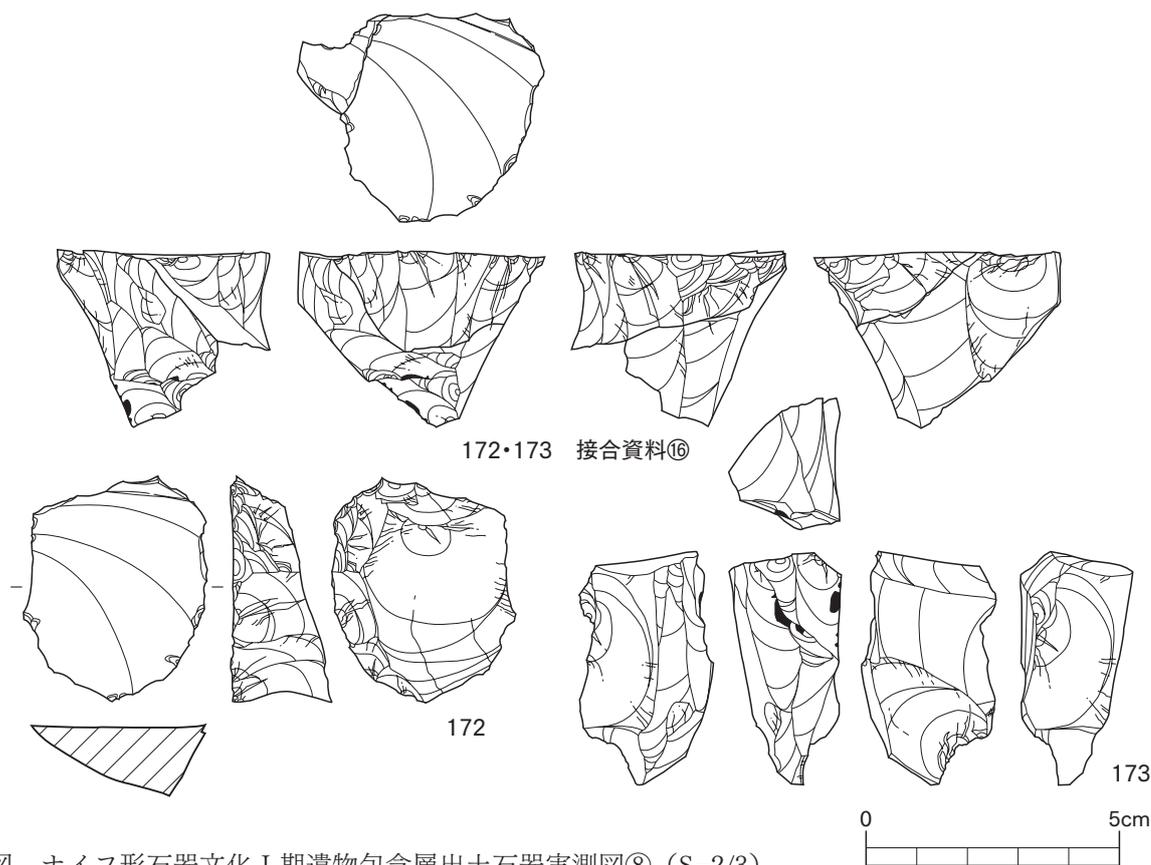


第34図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3)

なっている。145 は同一方向から縦長剥片生産が行われた石核で板状の残核となっている。

#### 敲石(146 ~ 152)

砂岩製の円礫や棒状礫の一端に敲打痕が観察されるものである。ナイフ形石器 II 期の資料と同様に分類すると 350g 以上のもの(149・150 : 6 点)、250g ~ 100g のもの(147・148・151・152 : 7 点)、100g 以下のもの(146 : 3 点)が見られる。150 は 800g を超えており、かなり規模の大きいものである。152 は亜円礫の平坦面に使用痕が見られており、石器製作に関わるものではない可能性がある。



第35図 ナイフ形石器文化 I 期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3)

#### 接合資料について(接合資料⑪～⑯)

本文化層からも多くの接合資料が確認されており、頁岩製資料 20 組、チャート製資料 5 組、砂岩製資料 2 組、ホルンフェルス製資料 11 組が出土している。そのうち 6 組の報告を行う。

接合資料⑪はナイフ形石器 1 点(153)と石核 1 点(154)で構成される。ナイフ形石器は細身の縦長剥片に部分加工を施すものである。154 は分割礫の一端から連続的に縦長剥片を作出するものである。

接合資料⑫は剥片 3 点(155・156・158)と石核 2 点(157・159)で構成される。打面を展開させながら縦長剥片を生産するものである。

接合資料⑬は剥片 3 点(160～162)と石核 1 点(163)で構成される。同一方向から縦長剥片を生産するもので、162 は打面調整剥片で、161・162 が目的剥片であろう。

接合資料⑭は縦長剥片 4 点で構成される。同一方向からの剥片生産が行われている。

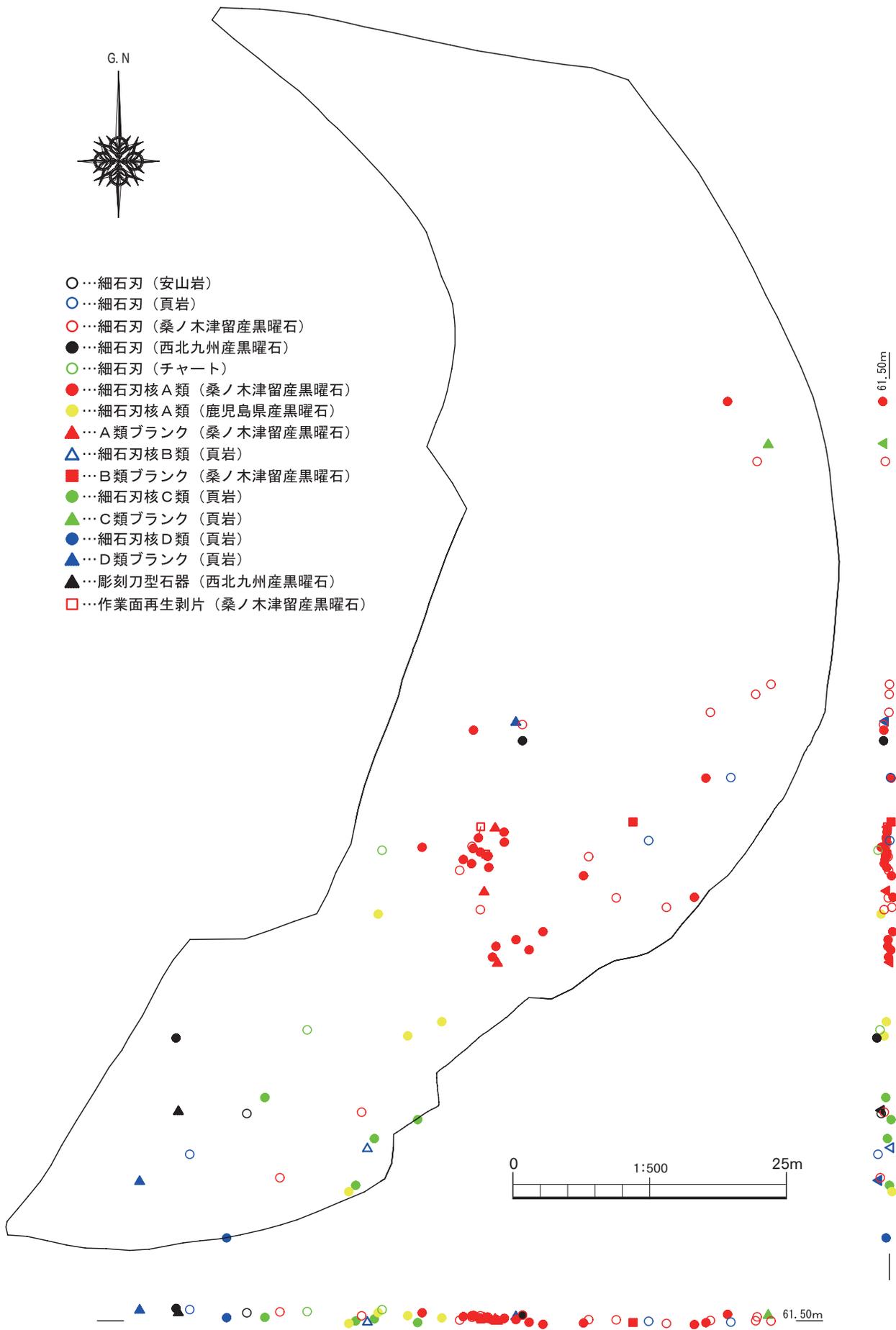
接合資料⑮は剥片 3 点(168～170)と石核 1 点(171)で構成される。当初は 168 の剥片剥離方向からの剥片の生産が行われ、その後打面を展開して不定形な剥片素材の石核(171)の木口部分に縦長剥片生産の作業面が設定されている。

接合資料⑯は打面再生剥片 1 点(172)と石核 1 点(173)の接合資料である。接合状態である旧石核から 172 を作出するが、その後の剥片生産は行われていない。新石核 173 は作業面を設定して剥片生産を行っている。

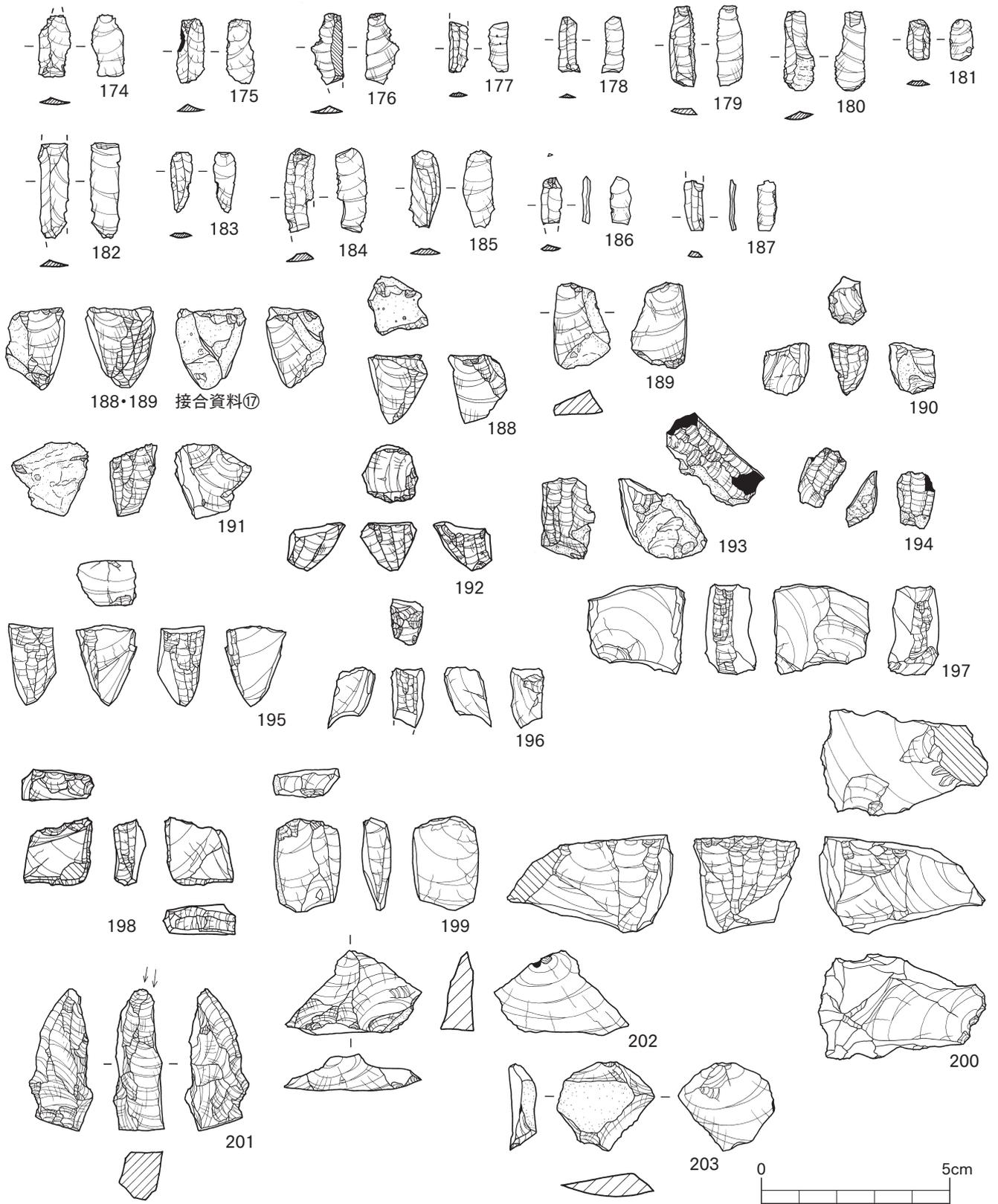
## 第 4 節 細石刃文化期の遺物について

### 1. 遺物の出土状況について (第 36 図)

本調査区において細石器文化期の遺物は基本土層の VI 層から VIII 層にかけて縄文時代草創期・早期の遺物と混在して出土しているため、明確に細石刃文化期の遺物だけが出土する土層が確認されたわけではない。しかし、数量的には一定量出土しており、本報告では確実に細石刃文化期の遺物と認定できる資料だけで分布図を作成している。それによると桑ノ木津留産黒曜石製の資料が調査区中央部よりやや南側に集中しており、その南側では他の石材を使用する資料が分布している。また細石刃核の形態別の分布状況に注目すると細石刃核 A 類が調査区



第36図 細石刃文化期遺物分布図 (S=1/500)



第37図 細石刃文化期遺物実測図 (S=2/3)

中央部よりやや南側に集中し、他はその南側において確認される。なお、分布図には反映されていないが、清武上猪ノ原遺跡第4地区で報告された全く光を通さない白い粒状の混入物を含む桑ノ木津留産黒曜石B類と分類した資料は本調査区からも一定量出土している。

細石刃文化期に該当する石材ごとの遺物の点数は桑ノ木津留産黒曜石製石器 40 点・鹿児島県産黒曜石製石器

4点、西北九州産黒曜石製石器3点、頁岩製石器12点、チャート製石器2点、安山岩製石器1点である。

## 2. 細石器文化期の遺物について（第37図）

### 細石刃(174～187)

チャート、黒曜石(桑ノ木津留産・西北九州産)、頁岩、安山岩と様々な石材のものが見られる。これまで船引地区遺跡群ではチャート、安山岩のものは確認されていなかったもので注目される。186・187については使用痕が確認されており、寒川朋枝によってその分析が行われている。

### 細石刃核(188～200)

細石刃核はブランクを含めると41点出土しており、12点を図化した。以下のA類からD類に分類される。

- ・A類(188～194)：黒曜石の小礫を使用するもの。打面調整を施すもの(190・192・194)や施さないもの(接合資料⑰・191)、作業面を複数持つもの(193・194)など細分が可能である。

接合資料⑰は細石刃核(188)と作業面再生剥片(189)の接合資料である。作業面再生後の細石刃の生産は行われていない。

- ・B類(195)：素材剥片を分割し、打面調整を施さないもの。既存の分類では上下田型細石刃核に分類される。複数の作業面が設定されている。
- ・C類(196～199)：剥片を素材としてその木口部分に作業面を設定するもの。打面調整を施すもの(196・198・199)と施さないもの(197)に細分される。また作業面を複数設定するもの(197・198)もある。
- ・D類(200)：分割礫を素材として側面調整を行うもので、打面調整は施さないもの。既存の分類では船野型細石刃核に分類される。

### 彫刻刀型石器(201)

分厚い剥片か小礫を素材としていると考えられる。多方向からの調整により全体の形状を角錐状に整えて2～4枚の槌状剥離によって彫刀面を作り出している。

### 剥片(202・203)

前述の桑ノ木津留産黒曜石B類製の剥片である。202は打面再生剥片の可能性がある。203は細石刃核の製作に関わる剥片の可能性がある。

第2表 旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
1	2312	剥片	SR-52	—	頁岩	4.3	4.2	1.45	17.3	接合資料①
2	2313	剥片	SR-52	—	頁岩	4.55	3	1.85	14.6	接合資料①
3	2310	剥片	SR-52	—	頁岩	4.2	4	2.4	32.9	接合資料①
4	2311	剥片	SR-52	—	頁岩	5.15	4.75	2.45	43.8	接合資料①
5	2209	剥片	SR-303	—	砂岩	6.7	(5)	1.4	(30.57)	接合資料② 側縁部欠損
6	2208	剥片	SR-303	—	砂岩	6.15	5.05	2.2	64.1	接合資料②
7	2214	二次加工有る剥片	SR-303	—	砂岩	6.4	7.2	7.7	316	接合資料②
8	2213	石核	SR-303	—	砂岩	11.5	10	18.7	2850	接合資料②
9	2061	剥片	SR-303	—	頁岩	2.6	2.3	0.7	2.4	接合資料③
10	2059	剥片	SR-303	—	頁岩	3.6	2.5	0.6	2.6	接合資料③
11	2063	剥片	SR-303	—	頁岩	5.9	6.65	1.6	(47.5)	接合資料③ 欠損有
12	2066	剥片	SR-303	—	頁岩	6.7	6.95	2.75	(106)	接合資料③ 欠損有
13	2060	剥片	SR-303	—	頁岩	7.5	6.8	2.7	(91)	接合資料③ 欠損有
14	2067	剥片	SR-303	—	頁岩	6.4	4.65	1.85	46.4	接合資料③
15	2068	剥片	SR-303	—	頁岩	6.6	5.5	2	57.9	接合資料③
16	2069	剥片	SR-303	—	頁岩	1.8	5.3	3.2	17.9	接合資料③
17	2062	剥片	SR-303	—	頁岩	4.1	4.8	2	18.9	接合資料③
18	2065	剥片	SR-303	—	頁岩	7.5	6.7	2.4	(100.1)	接合資料③ 欠損有
19	2064	石核	SR-303	—	頁岩	6.2	11.7	9.9	731	接合資料③
20	2206	石核	SR-303	—	チャート	5.7	6.05	4.15	125.21	接合資料④
21	2207	剥片	SR-303	—	チャート	4	4	1.85	25.1	接合資料④
22	2270	ナイフ形石器	D2	X	頁岩	5.05	2.45	1.2	11.2	1類 折れ面同士の接合
23	96	ナイフ形石器	D2	X	頁岩	4.5	2	1	(6.2)	1類 刃部欠損
24	2266	ナイフ形石器	B	XIII	頁岩	4.15	1.5	0.95	4.3	1類
25	2314	ナイフ形石器	B2	XI	頁岩	4	1.5	1	(4.8)	1類 刃部欠損
26	2267	ナイフ形石器	B2	XIII	頁岩	4.15	2.2	1	7.7	1類 槌状剥離有 刃部に二次加工有
27	105	ナイフ形石器	B	XII	頁岩	4.3	2.1	0.9	4.5	1類
28	2265	ナイフ形石器	B	XIII	頁岩	2.9	1.65	0.9	3	1類 刃部に二次加工有
29	2353	ナイフ形石器	B	XIII	頁岩	4.05	1.8	0.95	4.8	1類 刃部に微細剥離有
30	102	ナイフ形石器	D2	XI	頁岩	4.1	(2.1)	1	(5.2)	1類 刃部欠損
31	2264	ナイフ形石器	C	XII	頁岩	3.55	2.2	1.3	6.6	1類 未製品
32	2263	ナイフ形石器	C	XI	頁岩	3.85	2.05	0.95	7.2	1類 未製品
33	2271	ナイフ形石器	A4	XII	頁岩	3.35	1.9	0.5	3.5	1類 未製品

( ) の値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
34	2280	ナイフ形石器	B3	XII	黒曜石(鹿児島県：日東)	(3.75)	(2.35)	0.95	(5.7)	1類 刃部欠損 試料No.KIH1-069
35	2273	ナイフ形石器	D2	XII	※黒曜石(鹿児島県：日東)	3.15	(1.75)	1.05	(4.8)	1類 刃部欠損 試料No.KIH1-074
36	2272	ナイフ形石器	B2	XII	黒曜石(日東)	(3.3)	(1.9)	0.9	(4.2)	1類 刃部欠損 礎状剥離有 刃部に二次加工有
37	2277	ナイフ形石器	B2	XIII	黒曜石(日東)	(2.65)	1.7	0.7	(2.3)	1類 刃部欠損
38	2278	ナイフ形石器	B2	XI	黒曜石(鹿児島県：日東)	(3.15)	1.9	0.8	(3.7)	1類 刃部欠損 試料No.KIH1-072
39	2275	ナイフ形石器	B3	XI	黒曜石(日東)	4.1	2.9	1.3	11.4	未製品
40	2387	ナイフ形石器	B2	XII	ホルンフェルス	(3.9)	(1.9)	0.8	(4)	1類 刃部 基部欠損
41	2268	ナイフ形石器	B2	XIII	頁岩	(3.05)	1.85	0.8	(3)	2類 刃部欠損
42	2269	ナイフ形石器	B2	XIII	頁岩	2.5	1.55	0.85	2.1	2類
43	2274	ナイフ形石器	D2	XII	黒曜石(日東)	3.95	1.8	1.15	6.2	2類 試料No.KIH1-068
44	2279	ナイフ形石器	B3	XI	黒曜石(日東)	3.85	(2.65)	1.2	(7.1)	2類 刃部欠損
45	2276	ナイフ形石器	B2	X	黒曜石(鹿児島県：日東)	3.05	2.15	1.05	4.7	2類 試料No.KIH1-070
46	104	ナイフ形石器	B2	XIII	ホルンフェルス	3.8	2.3	1.2	5.8	2類
47	2388	ナイフ形石器	B2	X	ホルンフェルス	3.8	(2.3)	0.85	(4.8)	2類 刃部欠損
48	2019	ナイフ形石器	D4	XII	頁岩	(4)	2.1	1.2	(8.4)	3類 先端部欠損
49	2385	スクレイパー	A3	XIII	砂岩	7.3	9.3	3.8	185.3	
50	2297	スクレイパー	B2	XI	頁岩	3.95	3.2	1.2	15.7	
51	2293	スクレイパー	D2	XIII	頁岩	7.3	4.5	2.8	74.6	自然面に光沢有
52	2288	スクレイパー	D	XI	頁岩	6.15	4.25	2.1	40.2	主要剥離面に光沢有
53	2289	スクレイパー	D	XII	頁岩	4.5	4.1	1.5	33.5	主要剥離面に光沢有
54	2290	スクレイパー	A3	IX	頁岩	3.85	2.65	0.85	6.9	
55	2349	石核	B2	XI	砂岩	4.3	5.3	1.6	27	
56	2389	石核	A4	XII	流紋岩	2.6	5.9	6.9	67.3	有底剥片石核
57	1878	敲石	A3	XII	砂岩	5.35	3.05	1.8	27.8	
58	1879	敲石	A3	XII	砂岩	6.1	2.6	2	40.4	
59	1880	敲石	C	XII	砂岩	7	4.75	3.9	183	
60	1882	敲石	D2	XIII	砂岩	11.2	7.75	3.35	382.6	
61	1885	敲石	A4	XII	砂岩	8.7	5.4	3.25	215.2	
62	2034	ナイフ形石器	C	XII	頁岩	3.3	2.5	0.9	(4.88)	接合資料⑤ 未製品か基部欠損
63	2041	ナイフ形石器	C	XII	頁岩	(3.9)	2.35	1.35	(8.32)	接合資料⑤ 未製品か基部欠損
64	2038	ナイフ形石器	C	XII	頁岩	4.1	1.9	1.3	6.17	接合資料⑤ 1類
65	2045	剥片	C	XII	頁岩	5.3	4.4	1.3	22.7	接合資料⑤
66	2056	剥片	C	XII	頁岩	5.5	6.1	2.1	(40.83)	接合資料⑤ 下部欠損
67	2032	剥片	C	XI	頁岩	4.8	3.6	1.3	15.32	接合資料⑤
68	2039	剥片	C	XII	頁岩	4.2	5.8	1.7	21.16	接合資料⑤
69	2053	剥片	C	XII	頁岩	4.8	3.7	1.5	(13.71)	接合資料⑤ 下部欠損
70	2037	剥片	C	XII	頁岩	7.2	5.5	2.5	(75.46)	接合資料⑤ 欠損有
71	2040	剥片	C	XII	頁岩	4.6	3.7	1.3	28.15	接合資料⑤
72	2046	剥片	C	XII	頁岩	1.8	2.5	0.3	0.79	接合資料⑤
73	2033	剥片	C	XII	頁岩	2.8	2.8	0.5	(3.15)	接合資料⑤ 下部欠損
74	2030	剥片	C	X	頁岩	5.2	2	1.5	10.4	接合資料⑤
75	2031	剥片	C	XI	頁岩	4.3	2.2	1.1	(7.2)	接合資料⑤ 下部欠損
76	2057	剥片	C	XII	頁岩	3.3	2.5	0.7	4.53	接合資料⑤
77	2050	剥片	C	XII	頁岩	3	2.9	0.8	3.46	接合資料⑤
78	2049	剥片	C+D	XII	頁岩	5.1	3.7	1	16.19	接合資料⑤
79	2044	剥片	C	XII	頁岩	5	4.3	1.4	(27.22)	接合資料⑤ 欠損有
80	2054	剥片	C+D	XI+XII	頁岩	4.85	3	1.15	13	接合資料⑤
81	2036	剥片	C	XII	頁岩	2	0.9	0.3	0.44	接合資料⑤
82	2035	剥片	C	XII	頁岩	2.1	1.2	0.6	0.88	接合資料⑤
83	2042	剥片	C	XII	頁岩	4.1	3.5	1.3	9.85	接合資料⑤
84	2043	剥片	C	XII	頁岩	5.1	4	2.1	38.95	接合資料⑤
85	2051	剥片	C	XIII	頁岩	1.3	2.2	0.5	0.47	接合資料⑤
86	2047	石核	D	XII	頁岩	5	4.8	3.9	(95.98)	接合資料⑤ 欠損有
87	2072	ナイフ形石器	C	XII	頁岩	3	1.5	0.75	2	接合資料⑥ 未製品か
88	2075	剥片	C	XII	頁岩	3.1	2.15	1.1	3	接合資料⑥
89	2077	剥片	D	XII	頁岩	2.1	1.35	0.6	2	接合資料⑥
90	2076	剥片	D	XII	頁岩	2	1.75	0.7	1	接合資料⑥
91	2073	剥片	C	XII	頁岩	3.75	2.1	1.05	5	接合資料⑥
92	2071	剥片	C	XI	頁岩	3.05	3.6	1.4	11	接合資料⑥
93	2078	剥片	C	XII	頁岩	3.7	3.8	1.7	16	接合資料⑥
94	2074	石核	C	XII	頁岩	3.9	3.7	3.5	56	接合資料⑥
95	2084	剥片	D2	XIII	頁岩	2.15	3	1.5	4.5	接合資料⑦
96	2088	剥片	D2	XIII	頁岩	2.9	2.4	0.7	4.3	接合資料⑦
97	2087	剥片	D2	XIII	頁岩	3.5	3.4	1.1	10.6	接合資料⑦
98	2083	剥片	D2	XIII	頁岩	2.35	2.1	0.9	3.7	接合資料⑦
99	2080	剥片	D2	XII	頁岩	3.55	3.4	1.3	12.6	接合資料⑦
100	2081	剥片	D2	XII+XIII	頁岩	3.2	3.2	0.85	6	接合資料⑦ 折れ面同士の接合
101	2086	剥片	D2	XIII	頁岩	2.8	3.3	1.35	12.1	接合資料⑦
102	2082	石核	D2	XII	頁岩	3.6	5.5	3.9	53.6	接合資料⑦
103	2026	ナイフ形石器	D2	XI	頁岩	4.4	2.3	1	6.5	接合資料⑧ 未製品か
104	2027	剥片	D2	XII	頁岩	3.5	1.5	1.1	3.2	接合資料⑧
105	2025	剥片	D2	XI	頁岩	5.7	3.1	1.8	17.8	接合資料⑧
106	2028	剥片	D2	XII	頁岩	3.65	3.3	1.45	9	接合資料⑧
107	2024	剥片	D2	X	頁岩	4	3.2	1	11	接合資料⑧ 折れ面同士の接合
108	2308	ナイフ形石器	B2	XII	黒曜石(日東)	(3.7)	2.85	1.3	(11.3)	接合資料⑨ 未製品か 刃部欠損
109	2307	剥片	B	XI	黒曜石(日東)	3.9	2.7	1.15	10.1	接合資料⑨
110	1543	剥片	C	XI	ホルンフェルス	3.6	2.3	1.6	10	接合資料⑩ 翼状剥片か
111	1542	石核	D	XII	ホルンフェルス	1.8	5	5.8	38	接合資料⑩ 翼状剥片石核か
112	2331	ナイフ形石器	A2	X	チャート	(2.55)	1.25	0.4	(1)	4類 刃部欠損
113	2282	ナイフ形石器	A4	IX	黒曜石(桑ノ木津留)	2.05	1.05	0.45	0.8	4類 試料No.KIH1-062
114	2351	ナイフ形石器	A4	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.85)	(0.9)	0.5	(0.6)	4類 刃部欠損 試料No.KIH1-187
115	2350	ナイフ形石器	A2	X	チャート	2.3	(1.3)	0.5	(0.6)	4類 刃部欠損
116	2344	ナイフ形石器	A2	X	頁岩	3.15	1.05	0.5	1.3	5類 刃部に微細剥離有
117	103	ナイフ形石器	A2	X	頁岩	3	0.8	0.4	0.7	5類
118	98	ナイフ形石器	A2	X	頁岩	4.9	1	0.7	2.6	5類 折れ面同士の接合

蛍光X線分析による原産地推定結果あり(※は原産地が判別できなかったもの)

( )の値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
119	97	ナイフ形石器	A2	X	頁岩	5.3	1.8	1.2	5.7	5類 折れ面同士の接合
120	2329	ナイフ形石器	A2	X	頁岩	(3.5)	1.4	0.7	(3.5)	5類 上半部欠損
121	2405	ナイフ形石器	A2	X	頁岩	3.05	1.1	0.4	(3.5)	5類
122	99	ナイフ形石器	A2	X	頁岩	(3.4)	1.1	0.7	(1.6)	5類 先端部欠損
123	2330	ナイフ形石器	A3	X	頁岩	(3.25)	1	0.6	(1.4)	5類 先端部欠損
124	2328	ナイフ形石器	A2	X	砂岩	(2.65)	(1.25)	(0.55)	(1.6)	5類 下半部欠損
125	2281	ナイフ形石器	A2	IX	黒曜石(桑ノ木津留)	2.25	1.15	0.55	1.6	5類
126	2316	ナイフ形石器	A4	X	黒曜石(桑ノ木津留)	(2.2)	1.4	0.65	(1.5)	5類 上部欠損
127	2319	台形石器	A3	IX	チャート	1.8	(1.75)	0.5	(1.4)	刃部欠損
128	2305	台形石器	A4	X	チャート	1.55	1.45	0.4	1	
129	2318	台形石器	A3	VIII	チャート	1.7	(1.6)	0.4	(0.7)	刃部欠損
130	2327	台形石器	A4	X	チャート	1.85	1.8	0.5	1.3	
131	2406	台形石器	A4	X	頁岩	2.2	2.2	0.9	2.0	
132	2303	台形石器	A2	X	黒曜石(桑ノ木津留)	1.35	1.1	0.5	0.7	試料No.KIH1-063
133	2304	台形石器	A2	X	黒曜石(桑ノ木津留)	1.55	(1.4)	0.55	(0.8)	刃部欠損 試料No.KIH1-067
134	2359	錐状石器	A2	IX	頁岩	5.3	(4.6)	1.7	(16.8)	基部欠損か
135	2295	錐状石器	A2	X	頁岩	(6.05)	5.55	2.3	(51.9)	スクレイパー兼用か 錐部欠損
136	2291	スクレイパー	A3	X	頁岩	6.5	4.2	1.7	51.4	
137	2292	スクレイパー	A2	X	頁岩	7.05	5.25	2.15	64	下端部錐部か
138	2296	スクレイパー	A2	X	頁岩	6	6.75	2	85.2	
139	2294	スクレイパー	A3	X	緑色堆積岩	9.2	7.7	1.3	77.7	折れ面同士の接合
140	2340	剥片	A3	IX	頁岩	4.5	1.9	0.7	(5.4)	下部欠損 ナイフ形石器5類の素材か
141	2342	剥片	A2	X	頁岩	(4.4)	1.4	0.8	(4.5)	下部欠損 ナイフ形石器5類の素材か
142	2343	剥片	A3	IX	頁岩	3.75	1.3	0.9	2.6	ナイフ形石器5類の素材か
143	2347	剥片	A3	X	頁岩	5.1	2	0.9	(7.4)	側縁部欠損 ナイフ形石器5類の素材か
144	2302	石核	A3	IX	頁岩	5.95	4.2	3.5	68.1	
145	2301	石核	A3	X	頁岩	7.8	5	2.4	75.3	
146	1875	敲石	A2	X	砂岩	5.6	2.3	1.5	23.8	
147	1877	敲石	A2	X	砂岩	7.8	4.1	3.3	140	
148	2346	敲石	A2	X	砂岩	10	4.3	3.2	182	
149	1883	敲石	A4	X	砂岩	14.3	8.25	3.6	504.7	
150	1887	敲石	A4	X	砂岩	19.3	7.8	4.3	870.9	
151	1881	敲石	A2	X	砂岩	6.65	6.2	4.1	212.9	
152	1884	敲石	A3	IX	砂岩	12.3	5.1	2.9	217.7	縄文草創期の可能性有
153	2022	ナイフ形石器	A3	X	頁岩	3.5	1.2	0.55	(1.9)	接合資料① 側縁部欠損
154	2021	石核	A3	IX	頁岩	4.1	3.2	2.1	30.7	接合資料①
155	2098	剥片	A3	X	頁岩	2.8	2.45	1.15	5.1	接合資料②
156	2099	剥片	A3	X	頁岩	3.6	2.5	1.1	(4.8)	接合資料② 側縁部欠損
157	2100	石核	A3	X	頁岩	3.4	4.1	3.8	57.7	接合資料②
158	2097	剥片	A3	X	頁岩	4.3	2.9	1.25	9.2	接合資料②
159	2096	石核	A3	X	頁岩	3.3	2.15	2.6	13.5	接合資料②
160	2112	剥片	A3	IX	頁岩	3.5	2.2	0.8	3.5	接合資料③
161	2111	剥片	A3	IX	頁岩	4.5	3.15	1.5	17.4	接合資料③
162	2113	剥片	A3	IX	頁岩	5.4	3.9	1.5	(28.4)	接合資料③ 下部欠損
163	2110	石核	A3	IX	頁岩	4.2	5	2.1	(33.9)	接合資料③ 側縁部欠損
164	2091	剥片	A3	IX	頁岩	4.1	3.5	1.9	29.5	接合資料④
165	2094	剥片	A3	X	頁岩	4.25	3.5	1.8	17.4	接合資料④
166	2093	剥片	A3	X	頁岩	4.2	3.2	1.55	15.6	接合資料④
167	2092	剥片	A3	X	頁岩	2.55	2.65	1.3	9.8	接合資料④
168	2106	剥片	A3	IX	頁岩	4.6	3.05	1.5	13.2	接合資料⑤
169	2105	剥片	A3	IX	頁岩	3.8	5.8	1.6	(31.2)	接合資料⑤ 側縁部欠損
170	2107	剥片	A3	IX	頁岩	5.5	3.6	2.25	21.4	接合資料⑤
171	2108	石核	A3	IX	頁岩	3.9	4.1	5	51.4	接合資料⑤
172	2102	剥片	A3	IX	頁岩	4.5	3.6	2	24.1	接合資料⑥ 打面再生剥片
173	2103	石核	A3	IX	頁岩	4.65	2.2	2.65	(21.9)	接合資料⑥ 作業面欠損
174	2324	細石刃	A	VI	チャート	(1.65)	0.85	0.15	(0.3)	上部欠損
175	2325	細石刃	A	VI	チャート	1.7	0.7	0.2	0.3	
176	2320	細石刃	A4	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.9)	0.85	0.2	(0.2)	下部欠損(折断か)
177	2321	細石刃	B2	IX	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.3)	0.5	0.1	(0.1以下)	上部欠損(折断か)
178	2323	細石刃	A3	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	0.55	0.1	0.1	
179	2334	細石刃	B2	V	※黒曜石(西北九州)	2.1	0.7	0.2	0.4	試料No.KIH1-049
180	2335	細石刃	A2	V	黒曜石(西北九州:腰岳)	(2.1)	0.8	0.2	(0.3)	上部下部欠損(折断か) 試料No.KIH1-025
181	2341	細石刃	B3	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1.05	0.6	0.15	(0.1以下)	下部欠損(折断か)
182	2322	細石刃	A2	V	頁岩	(2.55)	0.8	0.2	(0.5)	上部欠損(折断か)
183	2333	細石刃	B3	VI	頁岩	1.6	0.55	0.1	(0.1)	側縁部欠損
184	2326	細石刃	B3	VI	頁岩	(2.2)	0.8	0.25	(0.4)	下部欠損
185	2317	細石刃	A3	VI	安山岩	2.05	0.8	0.15	0.3	
186	2370	細石刃	B2	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.25)	0.55	0.2	(0.1以下)	下部欠損(折断か) 使用痕有 寒川2014
187	2371	細石刃	B2	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.35)	0.5	0.2	(0.1以下)	上部欠損(折断か) 使用痕有 寒川2014
188	2393	細石刃核	B2	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.85	1.6	1.6	3.2	接合資料⑦ 試料No.KIH1-031
189	2392	剥片	B2	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	2.3	1.5	0.7	2.6	接合資料⑦ 作業面再生
190	1921	細石刃核	A4	VI	※黒曜石(鹿児島:上牛鼻)	1.4	1	1.3	1.7	試料No.KIH1-048
191	2382	細石刃核	B2	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	2	2	1.2	3.6	試料No.KIH1-033
192	100	細石刃核	A4	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	1.5	1.6	2.2	試料No.KIH1-181
193	2380	細石刃核	B3	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	2.2	1.4	2.35	(6)	試料No.KIH1-027 作業面欠損
194	1920	細石刃核	A4	VIII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.55	1	0.8	(1)	作業面欠損
195	2390	細石刃核	A3	VIII	頁岩	2.1	1.6	1.2	4.5	
196	1919	細石刃核	A4	V	頁岩	(1.6)	0.9	(1.3)	(1.6)	下部欠損
197	2384	細石刃核	A3	VIII	頁岩	2.4	2.55	1.35	9.3	
198	101	細石刃核	A3	VIII	頁岩	1.8	1.9	0.8	3.1	
199	2381	細石刃核	A3	X	ホルンフェルス	2.5	1.75	0.7	4.2	
200	2395	細石刃核	A3	VIII	頁岩	4.4	2.8	2.6	33.2	
201	2396	彫刻刀型石器	A2	VI	黒曜石(西北九州:腰岳)	3.8	1.7	1.4	7.6	試料No.KIH1-019
202	2394	剥片	B2	VI	※黒曜石(桑ノ木津留)	2.3	3.5	0.95	4.5	打面再生剥片か 試料No.KIH1-050
203	2397	剥片	B2	VIII	※黒曜石(桑ノ木津留)	2.4	2.65	0.7	3	試料No.KIH1-051

蛍光X線分析による原産地推定結果あり(※は原産地が判別できなかったもの)

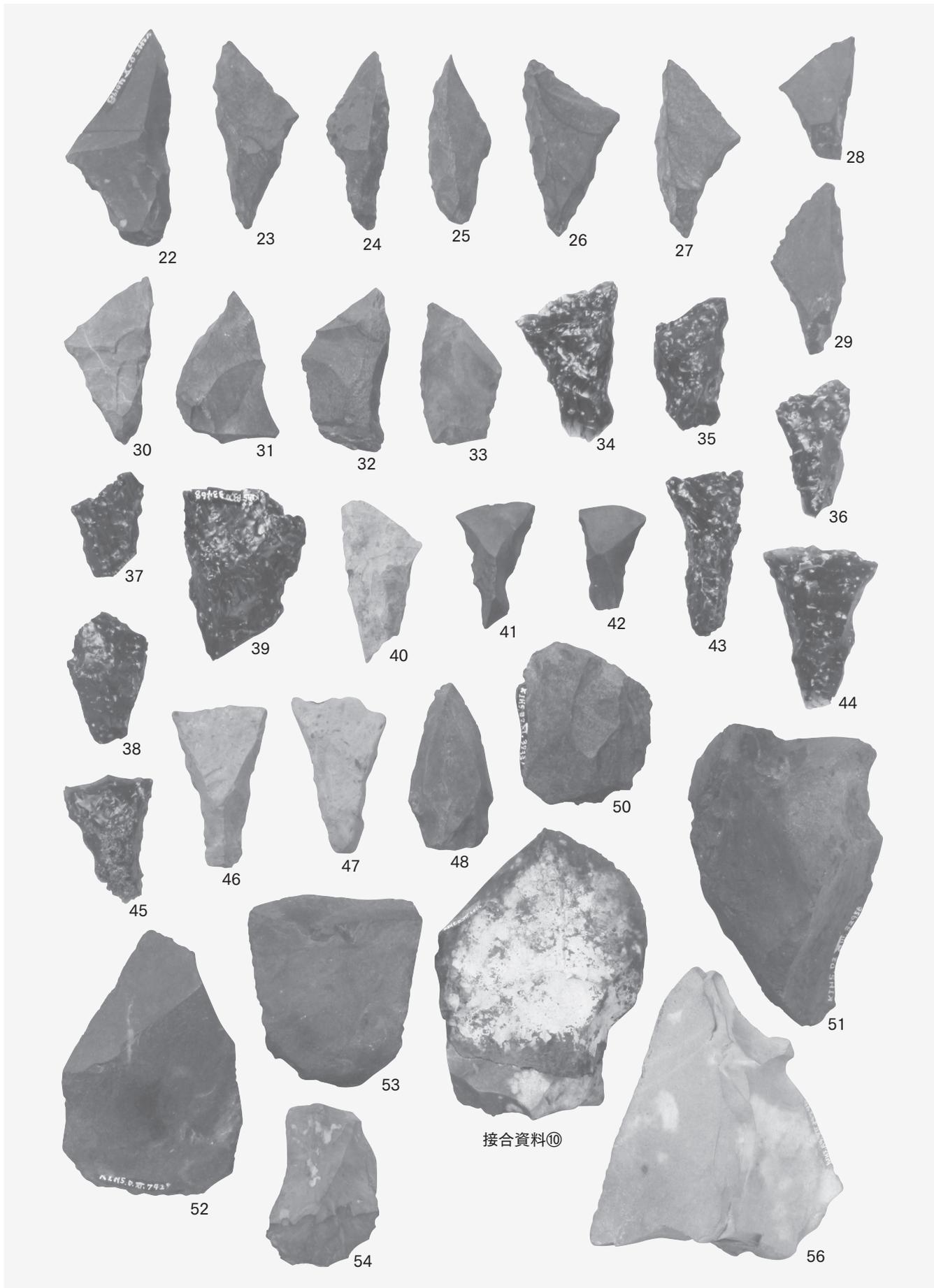
( )の値は残存値を示す



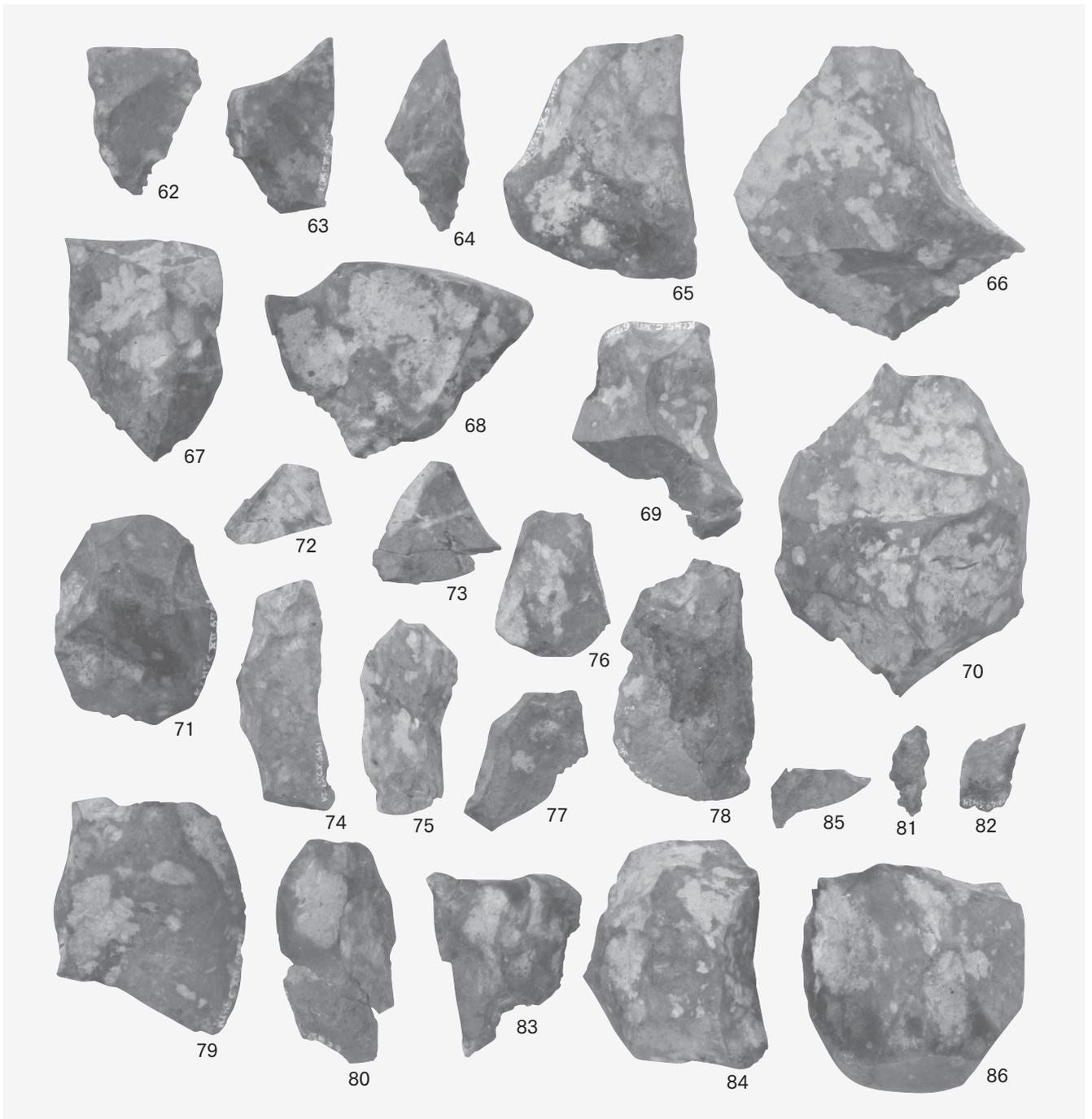
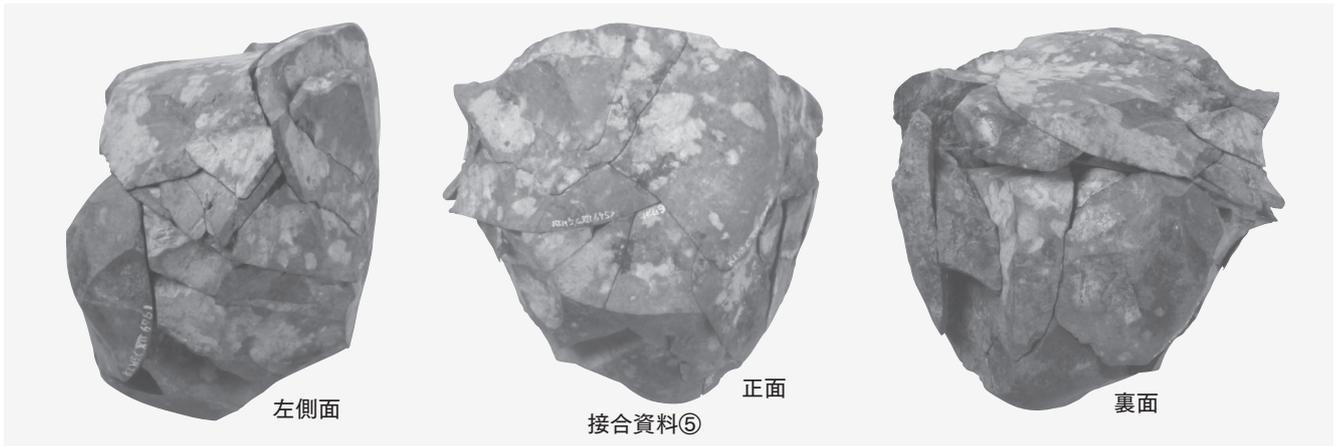
- ① SR-65
- ② SR-120
- ③ SR-248 (中央)・249 (右端)
- ④ SR-276
- ⑤ SR-284
- ⑥ SR-330
- ⑦ SR-237 (右)・247 (左)



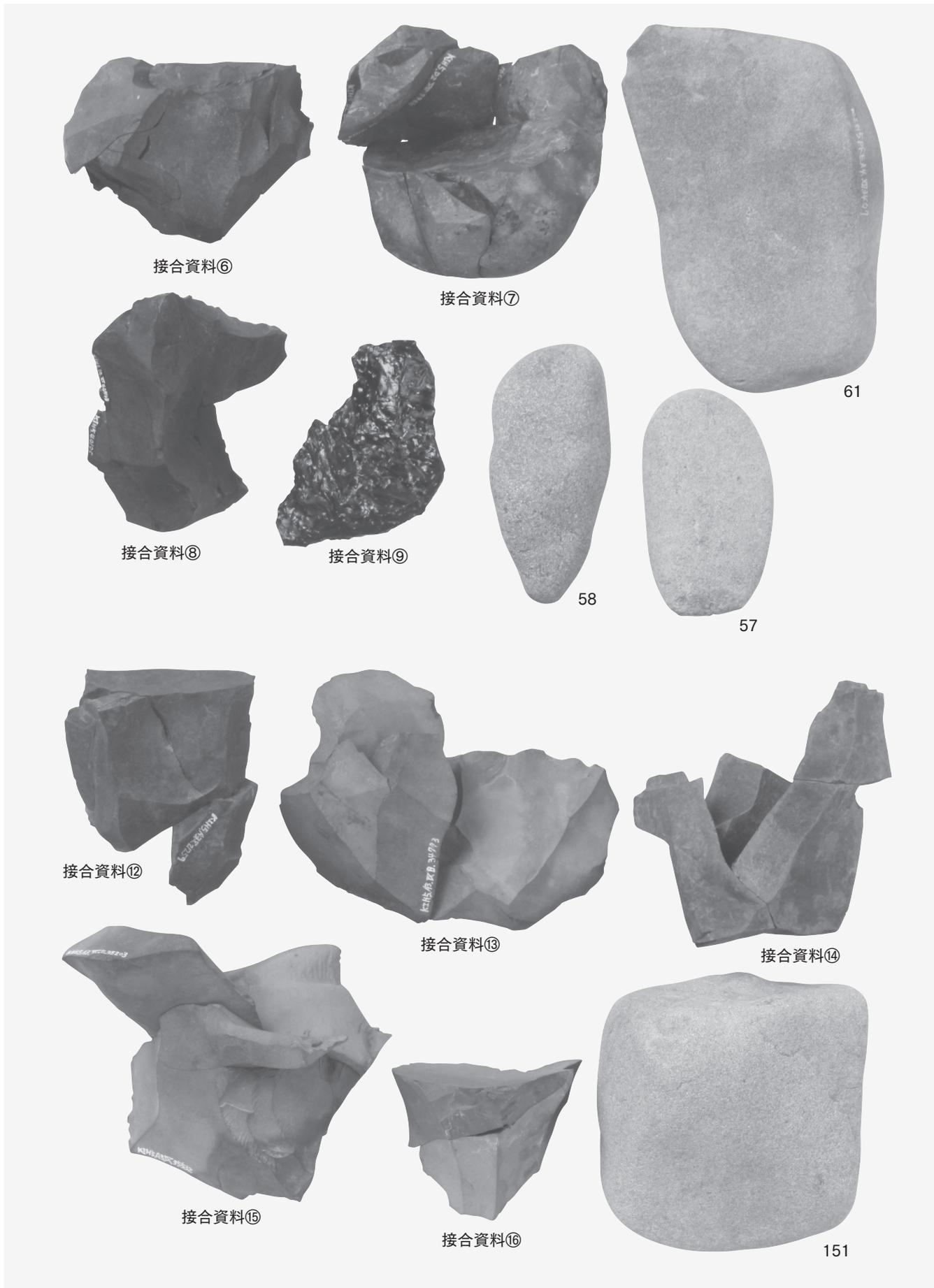
图版3 旧石器时代遺構



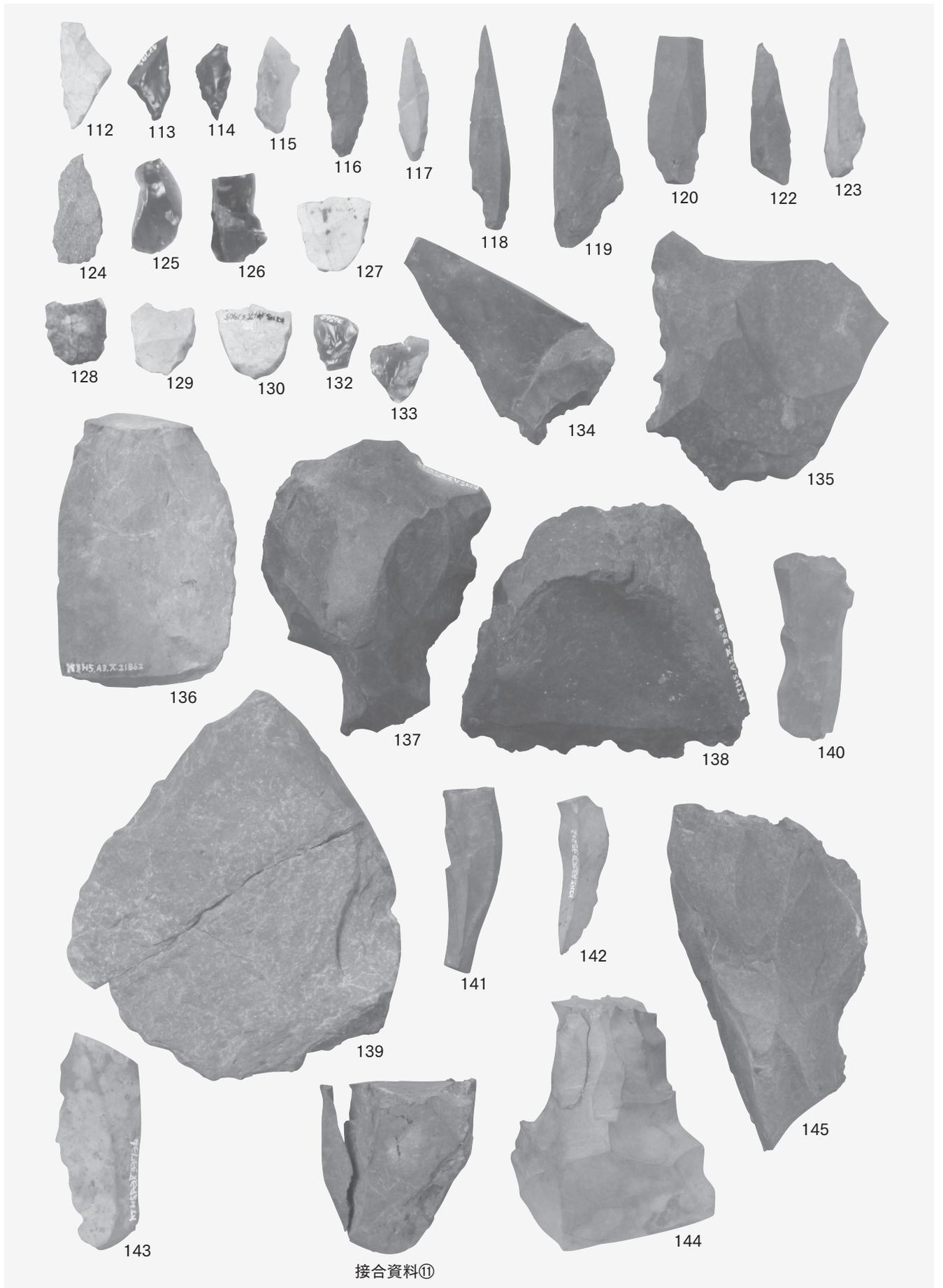
図版4 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物①



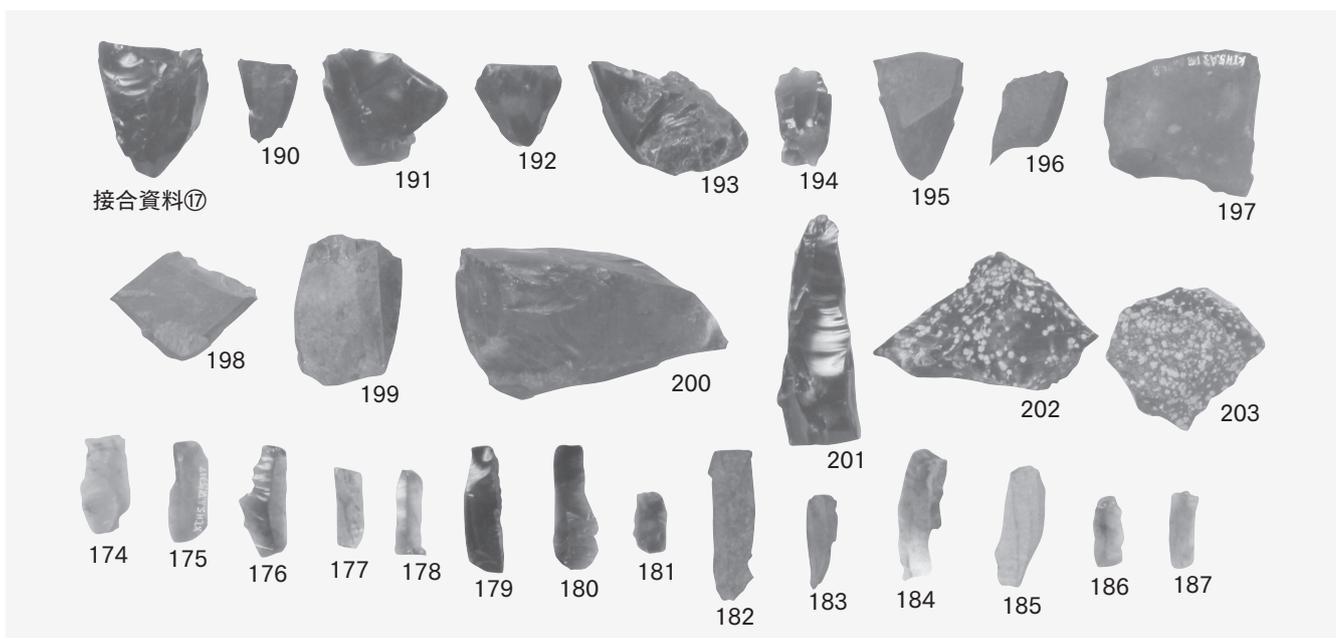
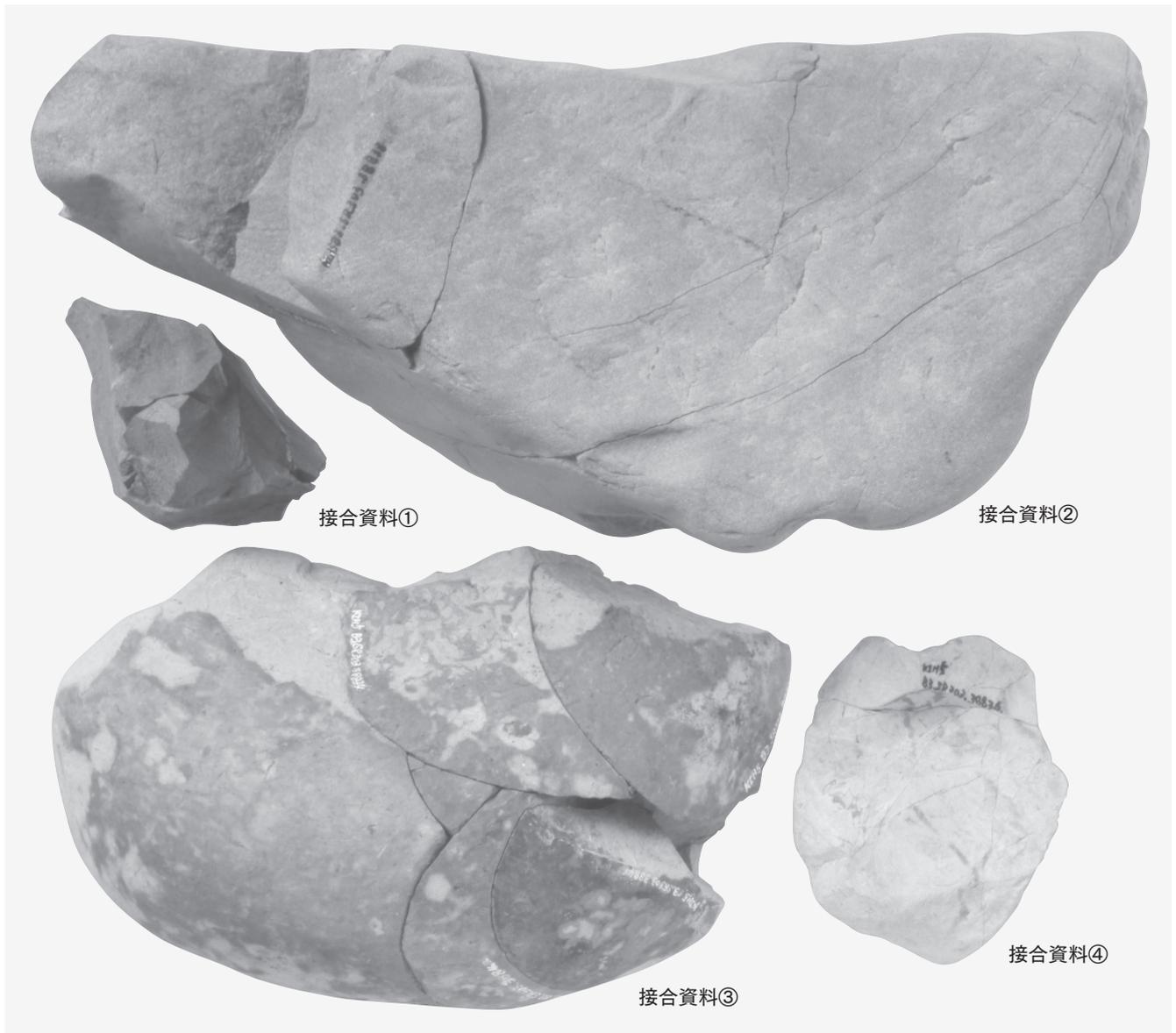
図版5 ナイフ形石器文化Ⅱ期遺物②



図版6 ナイフ形石器文化I・II期遺物



図版7 ナイフ形石器文化I期遺物



図版8 礫群内出土遺物及び細石器文化期遺物

# 第Ⅲ章 縄文時代草創期の調査

## 第1節 縄文時代草創期の遺構の検出状況と文化層の認定について

本調査区では縄文時代早期の遺物包含層である基本土層VI層の調査中に縄文草創期の隆帯文土器が混在して出土する様子が見られた。船引地区遺跡群において草創期の遺物が出土した調査地点は11箇所あり、いずれも早期の遺物包含層の下部付近から少量の遺物が出土するという状況であった。本調査区も出土層位については同じだったが、他の調査地点と異なり遺物の出土量が非常に多く、早期の遺物がほとんど出土しなくなるⅧ層中においても隆帯文土器等が出土し続けた。さらに他の調査区では掘削が進んで遺物自体がほとんど出土しない小林軽石を含むローム層(本遺跡のⅨ層に該当)中になっても遺物や礫が出土する状況が続いたので、改めてⅨ層中の遺物の分布状況を確認したところ遺物が集中する箇所がいくつか見られた。そこで遺構が存在する可能性を考えて精査を行ったところ、その付近にいくつかの平面プランを検出することができた。しかし、検出した平面プランと地山との境目が不明瞭であったため、土層観察用のあぜを残してその周囲を数センチ掘り下げて再度精査を行ったが状況はあまり変わらなかった。そこで検出された平面プランと地山との境目付近に複数の小規模なトレンチを設定して遺構の立ち上がりが存在するか否かを土層観察によって確認することとした。その結果、立ち上がりの土層ラインを確認することができたため、これらの不明瞭なプランが遺構であるという確信にいたった。

縄文草創期の遺構のほとんどはこのような土層観察用のトレンチを複数設定して、遺構の立ち上がりを土層断面で確認しながら遺構埋土を掘削するという調査方法を採用している。

このような遺物の出土状況と遺構の検出状況から本調査区における確実な縄文草創期の遺物包含層は早期の遺物がほとんど出土しない基本土層Ⅷ層からⅨ層と捉えることが妥当と考えられる。そのため、多少の遺物の混在は覚悟の上でⅧ層～Ⅸ層から出土した遺物とⅥ層中から出土した明らかに縄文草創期の遺物と認定できる資料を加えて遺物分布図は作成している。なお、遺構については埋土中から縄文草創期の資料が主体となって出土したもの、遺物がほとんど伴わなかったものについては明らかに早期のものとはレベル差を持って検出されたもの(具体的にはⅧ層中部からⅨ層を検出層とする)を草創期の遺構と認定することとした。

本報告にあたって、改めて遺構内の出土遺物と各遺構の検出層を検討した結果、竪穴住居跡14棟、集石遺構4基、炉跡(焼土を伴う土坑)1基、炉穴2基(燃焼部を数える)、遺物集中地点1箇所、ハイヒール状土坑37基、土坑23基が縄文草創期に該当すると判断された。それらの分布状況をみると主に調査区中央部より北西側でハイヒール状土坑が多くみられ、竪穴住居等は南東部に集中するという傾向が見て取れる。

## 第2節 遺構について

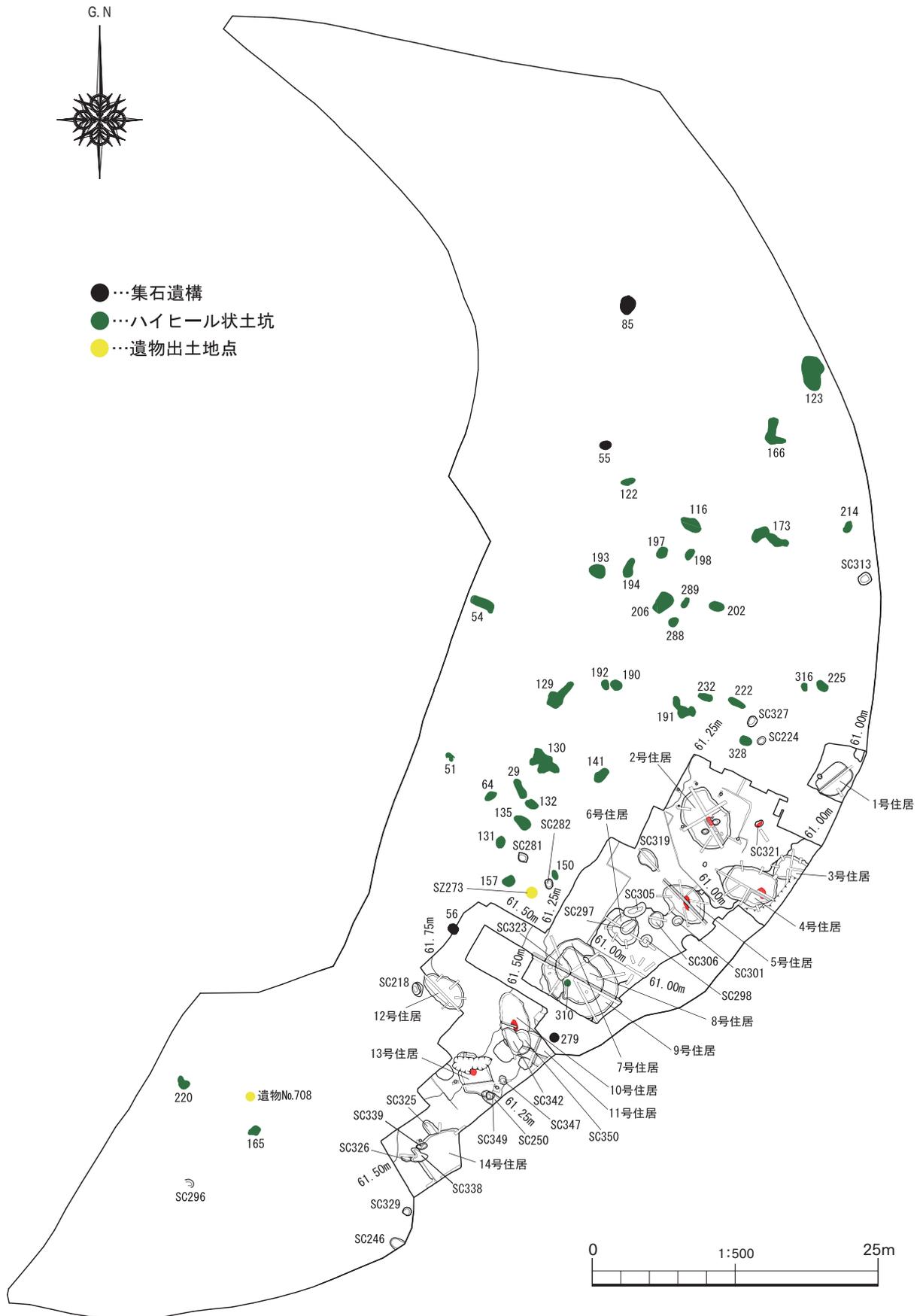
### 1. 竪穴住居跡(第38図～第80図)

竪穴住居跡は前述の通り、基本土層Ⅸ層中において検出しているが、本来はⅥ層下部付近からⅧ層中にかけて掘られていたものと考えられる。これらは調査区中央部より南側で検出され、北東から南西方向に長さ約55m、幅約20mの範囲にほぼ一直線に並んでいる。以下に個別の所見を記載するが、竪穴住居跡と切り合い関係にある土坑の一部は各住居跡と共に報告する。また各出土遺物の分類基準は第3節で報告する遺物と同じ基準を用いる。なお出土遺物の個別の詳細については第3表及び第4表を参照していただきたい。

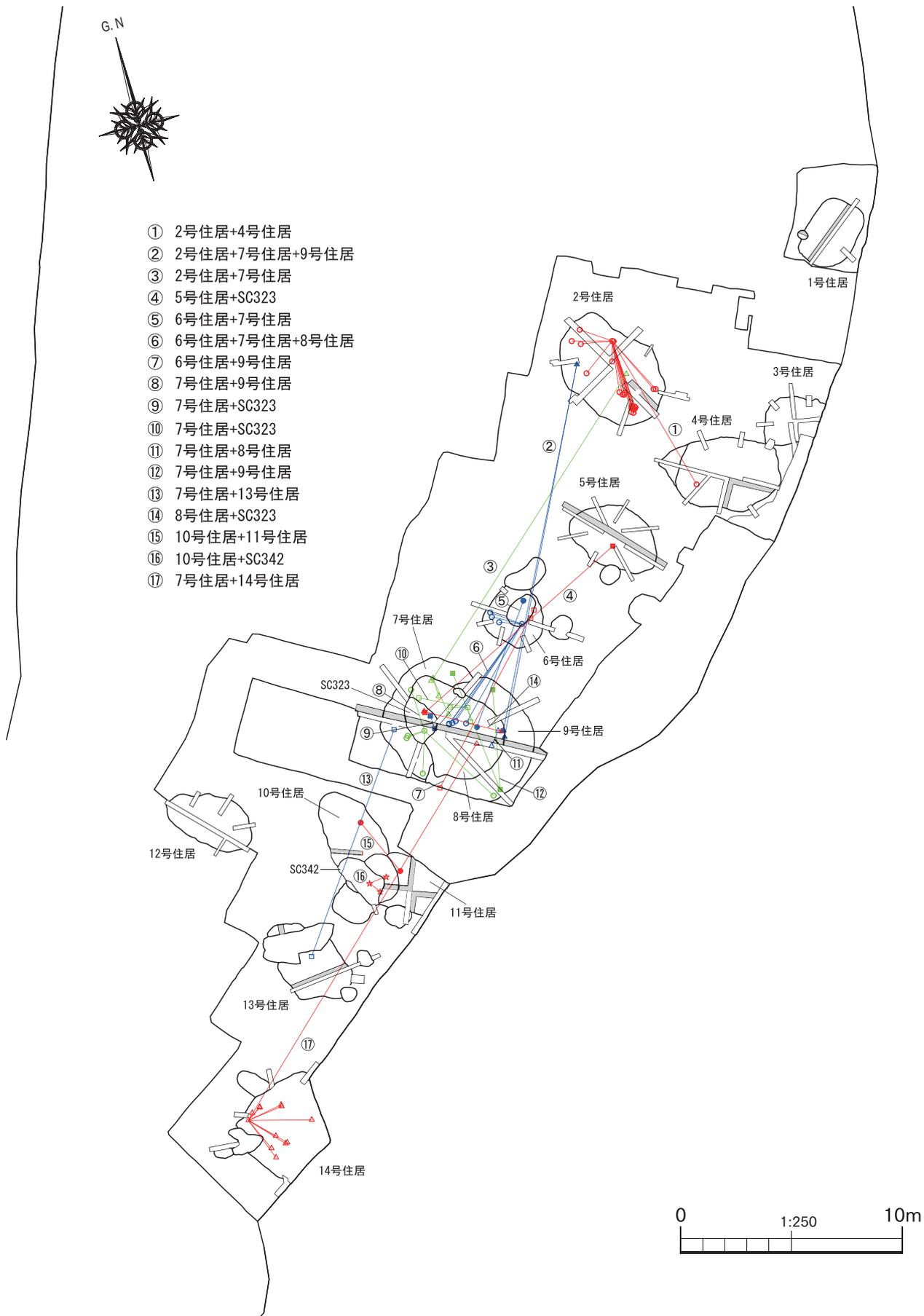
1号住居跡は本調査区で検出された竪穴住居跡の中で最も北側で検出された。本遺構は土層観察用のあぜを残して現状保存されている。規模は3m×2.16mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは13cmを測る。北西側に本遺構を切る柱穴が1基見られる。遺構埋土から土器片5点、石器28点(石鏃2点：頁岩1・桑ノ木津留産黒曜石1、頁岩製石錐1点、剥片24点：頁岩1・チャート7・桑ノ木津留産黒曜石4・砂岩10・ホルンフェルス2、チャート製石核1点)、礫102点が出土している。

204と205は打製石鏃である。204はD類に該当する。205はC類に分類されるが、やや不整形で素材の主要剥離面を大きく残すため、未製品の可能性もある。206は石錐である。207は石核である。

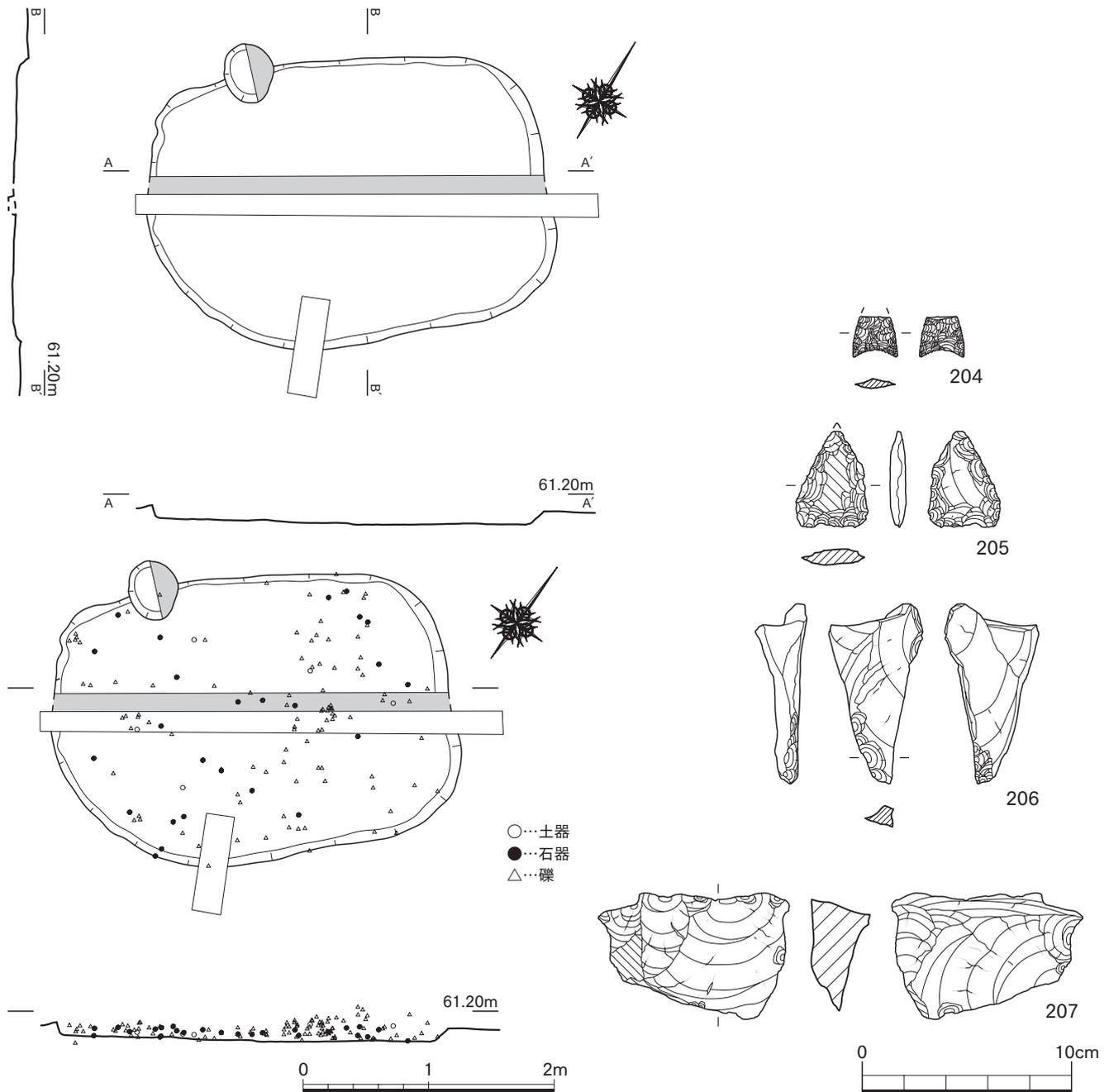
2号住居跡は1号住居跡の南西側で検出された。本遺構は土層観察用のあぜを一部残して現状保存されている。規模は5m×3.22mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは23cmを測る。床面中央部付近には石組炉が存在していた。これは元々東から南方向にかけて弧状に礫が並べられていたものと考えられるが、現状では東



第38図 縄文時代草創期遺構配置図 (S=1/500)



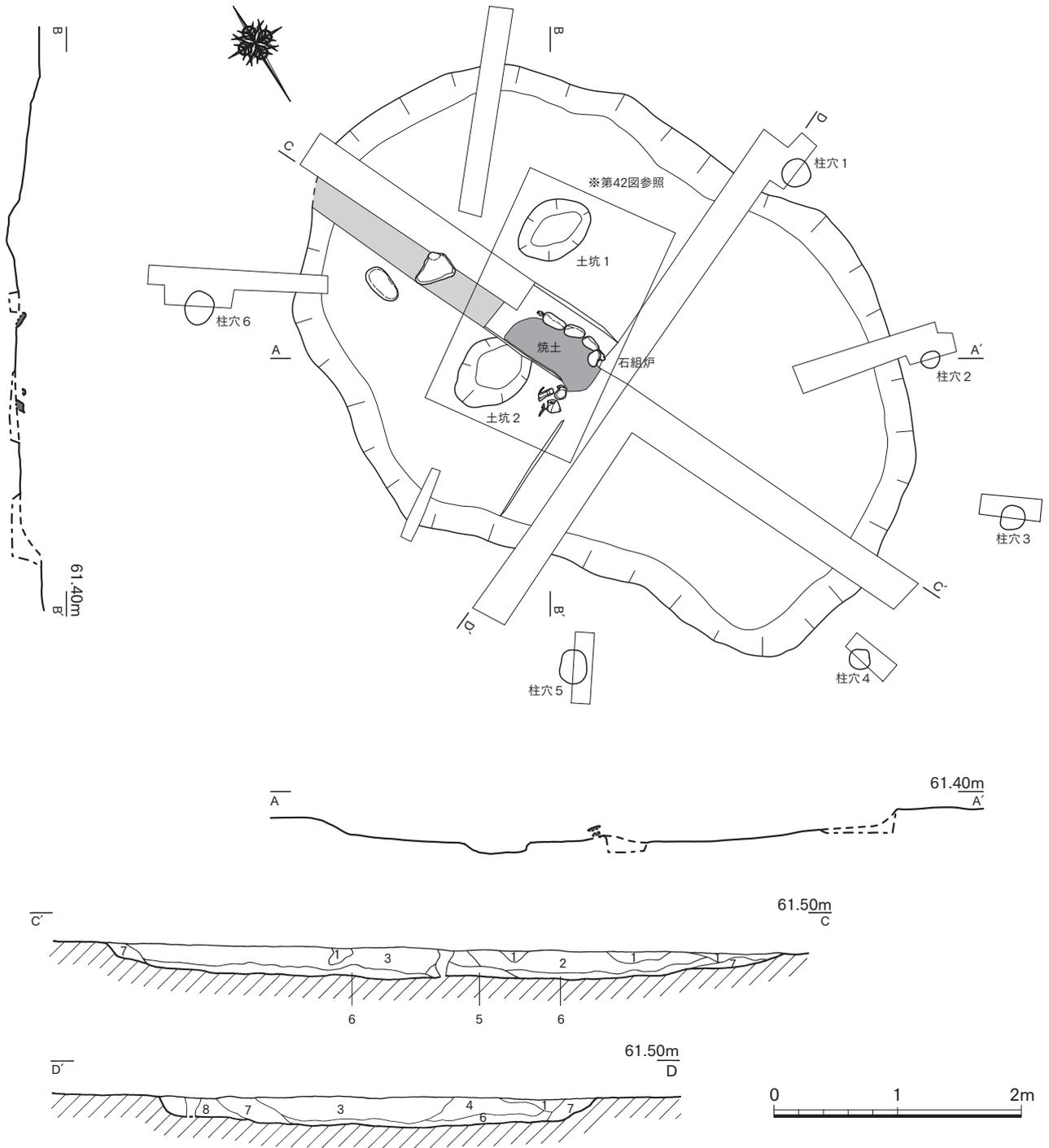
第39図 縄文時代草創期遺構内遺物分布図 (S=1/250)



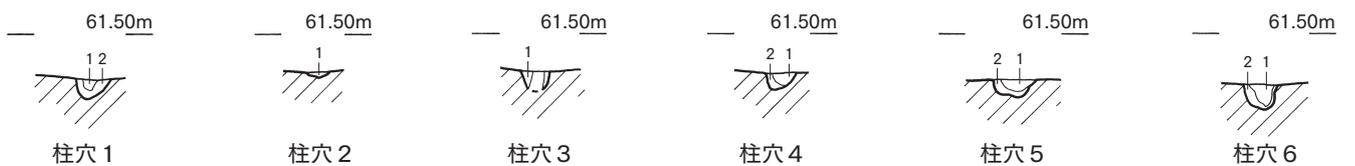
第40図 1号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50) 及び出土遺物実測図 (S=2/3)

側の礫は不揃いで規則性はなく、北から南方向にかけて大小の扁平な砂岩礫7点が直線状に配置され、その内側が赤化しているという状況であった。石組炉の規模は現状で74cm×54cmで、焼土の検出範囲は80cm×45cmを測る。石組炉内から検出された炭化物を放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で11330±60BPという年代が得られている。この石組炉の南側には64cm×46cmの楕円形プランで深さ10mの掘り込みと66+αcm×54cmの楕円形プランで深さ12cmの掘り込みが検出された。これらは土層観察の結果、本遺構に付随するものであった可能性が高いと考えられ、埋土中からは礫が出土している。そのほかに本住居跡の床面南側には石皿や台石が検出されている。また床面の掘り込みの周囲には6基の柱穴が見られた。これらは直径15cm～27cmで検出面からの深さは4cm～17cmを測る。遺構埋土から土器片344点、石器90点(石鏃5点:チャート3・桑ノ木津留産黒曜石2、石斧2点:頁岩1・緑色堆積岩1、砂岩製敲石7点、砂岩製石皿2点、石斧調整剥片11点:頁岩9・緑色堆積岩2、剥片62点:頁岩13・桑ノ木津留産黒曜石1・砂岩43・ホルンフェルス1・尾鈴山酸性岩4、三船産黒曜石製石核1点)、礫231点が出土しており、7号・9号住居跡と土器の接合関係も認められている。

208・209・211・213・214は隆帯文土器2類である。210と212は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器2類か3

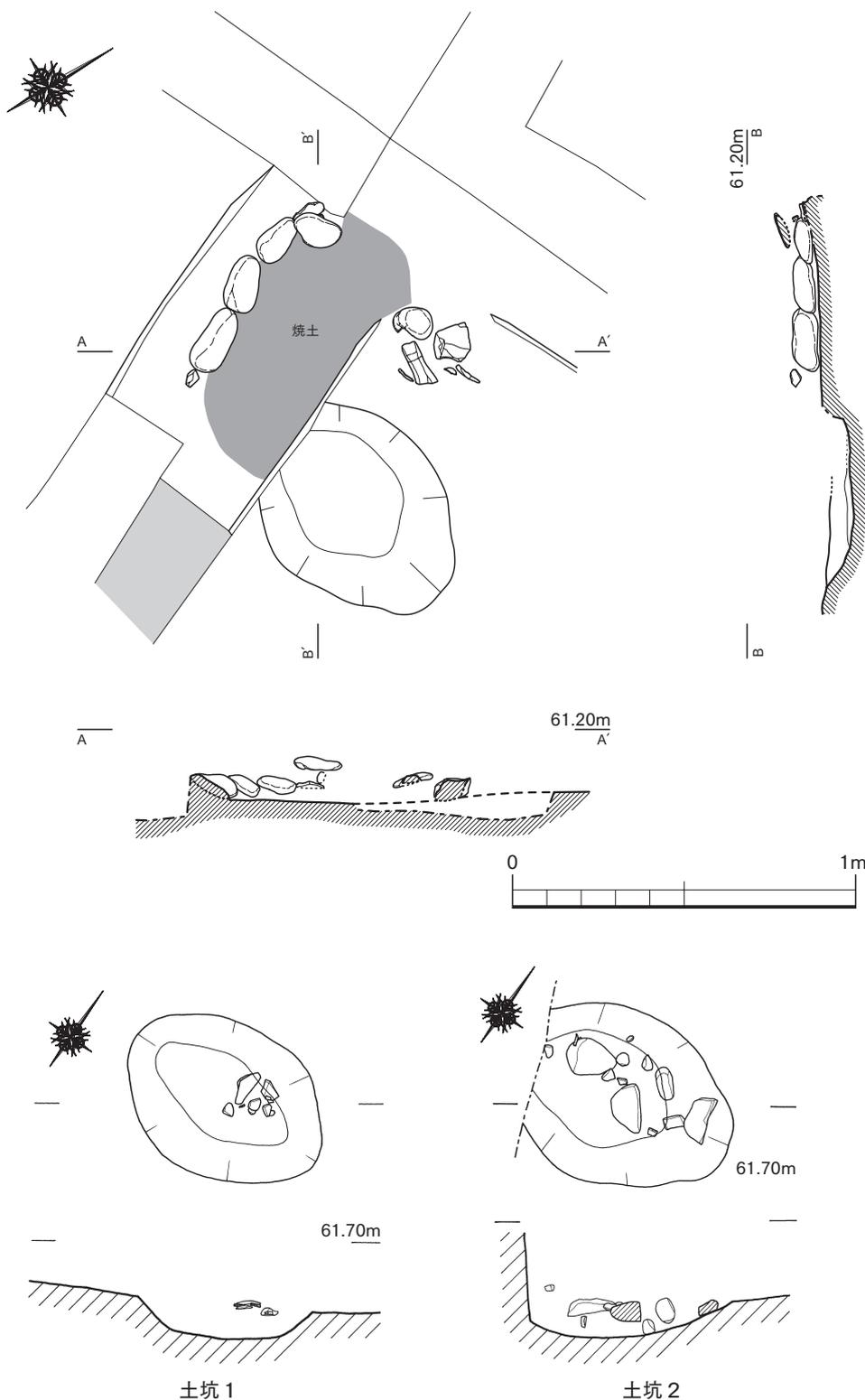


1：褐色ローム層 (Hue10YR4/4)。2：暗褐色ローム層 (Hue10YR3/3)。3：黒褐色ローム層 (Hue10YR3/2)。4：褐色ローム層 (Hue10YR4/4)。  
 5：褐色ローム層 (Hue7.5YR4/4)。6：褐色ローム層 (Hue10YR4/4)。7：にぶい黄褐色ローム層 (Hue10YR4/3)。8：にぶい黄褐色ローム層 (Hue10YR4/3)。  
 ※全て硬質。4・5は炭化物が少量混じる。6は3層ブロックが混じる。



1：黒褐色ローム層(Hue10YR2/2)硬め しまりは強め 白色パミスを含む。  
 2：暗褐色ローム層(Hue10YR3/4)硬め しまりは強め 白色パミス 小林ボラの粒を少量含む。

第41図 2号住居跡実測図 (S=1/50)

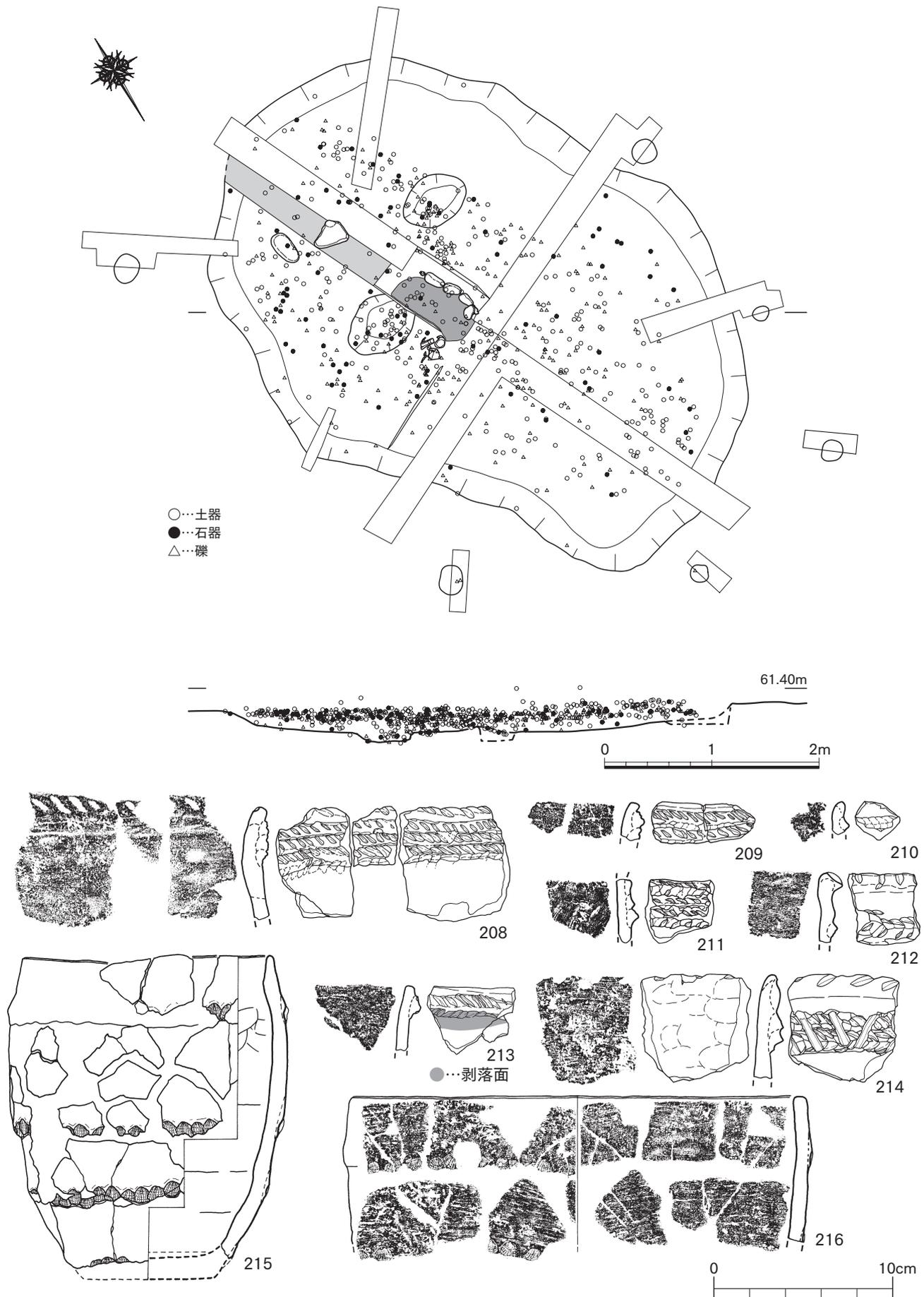


第42図 2号住居跡石組み炉及び土坑1・2実測図 (S=1/20)

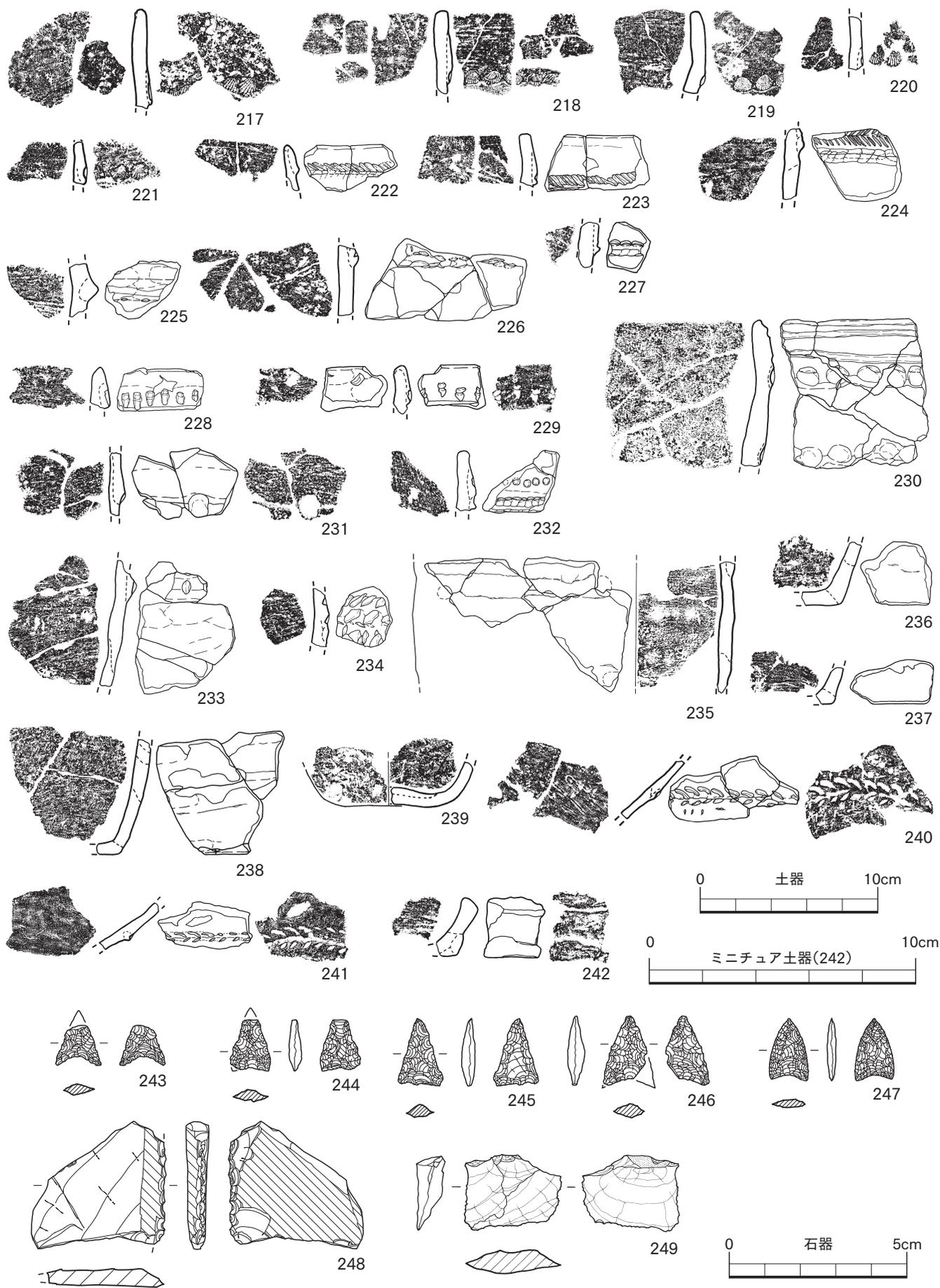
類か分類できない。215～232は隆帯文土器4類である。215は底部を除き完形に復元できるもので口縁部の肥厚帯の下あたりに最大径があり、口縁部はやや内傾する器形で口縁部から底部までに4段の貝殻押圧文が見られる。本資料の口縁部径は13.8cm、胴部最大径は15.6cmを測る。216の反転復元による口縁部径は24.5cmを測る。232には円形の刺突文がみられる。233は隆帯上にキザミを施している。234は爪形文土器1類で、235は無文の隆帯を巡らすもので補修孔が見られる。反転復元による胴部径は18cmを測る。236～239は底部片である。240・241は浅鉢形土器である。242はミニチュア土器である。243～247は打製石鏃である。243・246はE類に、244・247はD類に、245はC類に分類される。248は節理面を多く残す頁岩製の剥片を素材とするスクレイパーである。この石材は南東部に隣接する五反畑遺跡B地区のアカホヤ火山灰層下位の遺物包含層からも出土している。249は尾鈴山酸性岩製の剥片である。250～254は頁岩製の石斧製作にかかる接合資料である。石斧本体である250に剥片4点が接合している。接合状態でほぼ全面に研磨痕が見られるため、石斧の再加工を示す資料の可能性が高い。255は緑色堆積岩製の石斧の基部の破片で、256は同石材の石斧調整剥片

である。257は敲石、258は敲石と磨石の兼用品、259は石皿の破片で、いずれも砂岩製である。

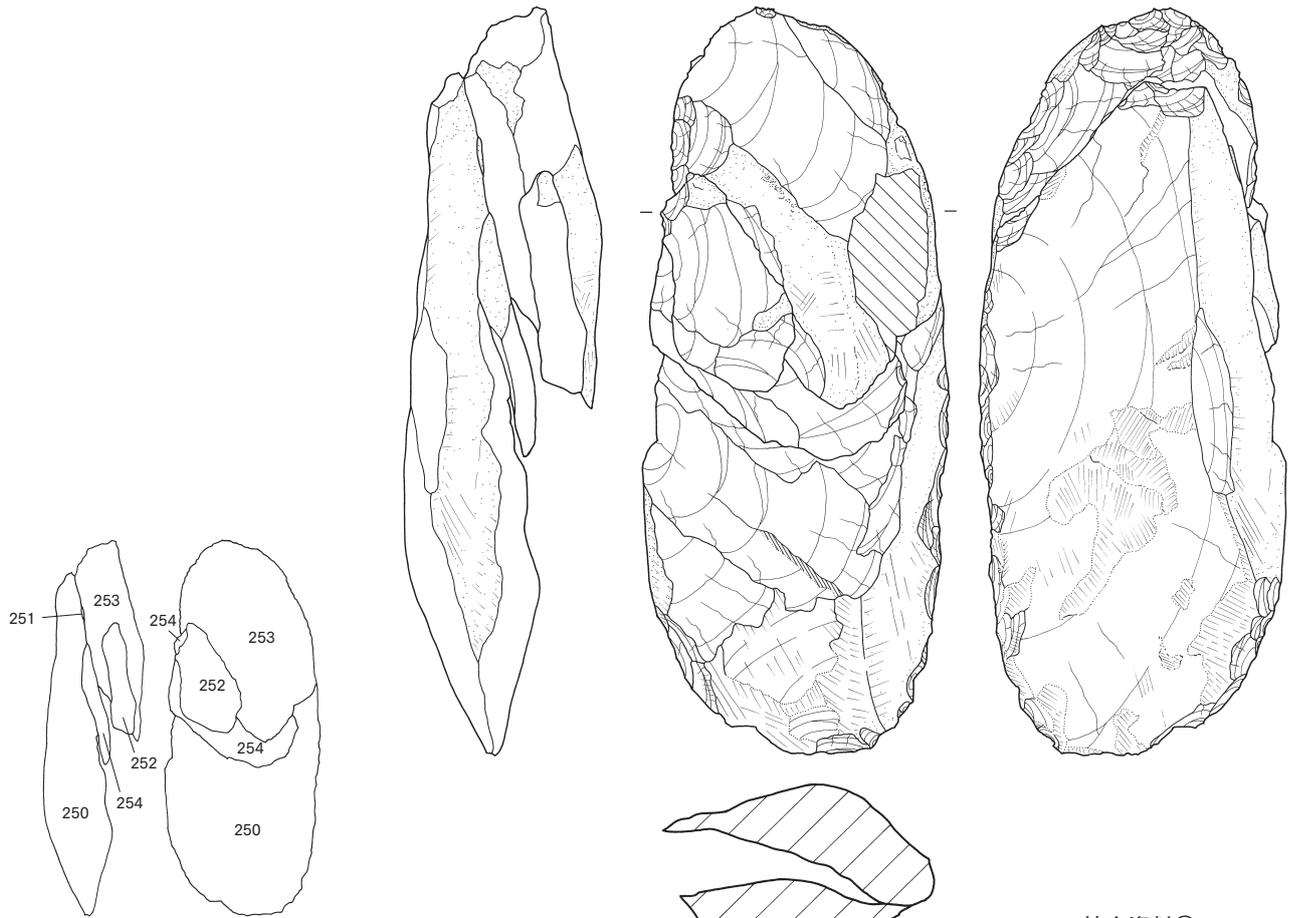
3号住居跡は2号住居跡の南東側で4号住居跡と近接して検出された。本遺構は現状保存されている。規模は東部が調査区外に延びているため不明瞭だが、現況では2.12m以上×1.8mの不整形プランを呈し、検出面からの深さは21cmを測る。床面の北側に遺物が集中して出土している様子が認められ、No.263や265がそこから出土している。なお遺構埋土からは土器片36点、石器11点(砂岩製敲石3点、砂岩製磨石1点、緑色堆積岩製



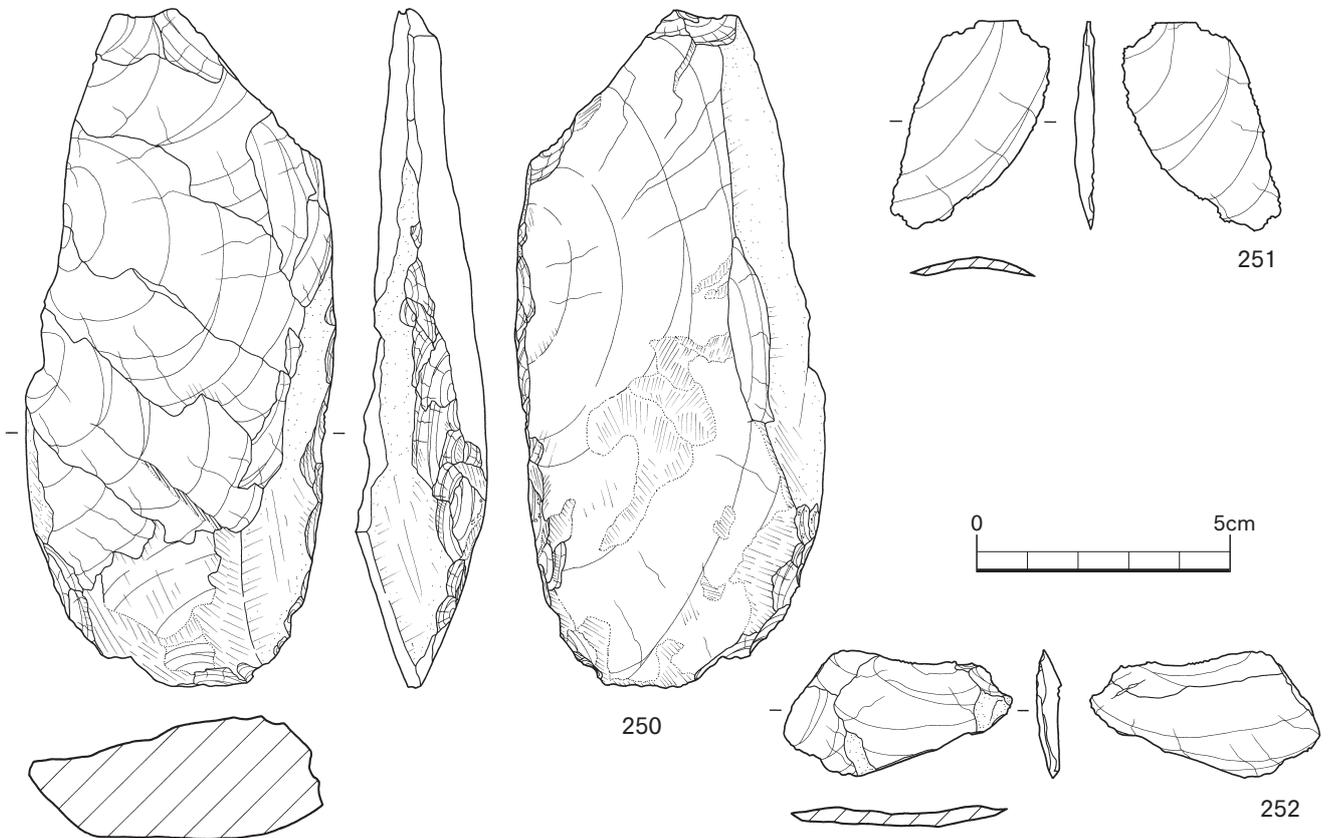
第43図 2号住居跡出土遺物分布図 (S=1/50) 及び出土遺物実測図① (S=1/3)



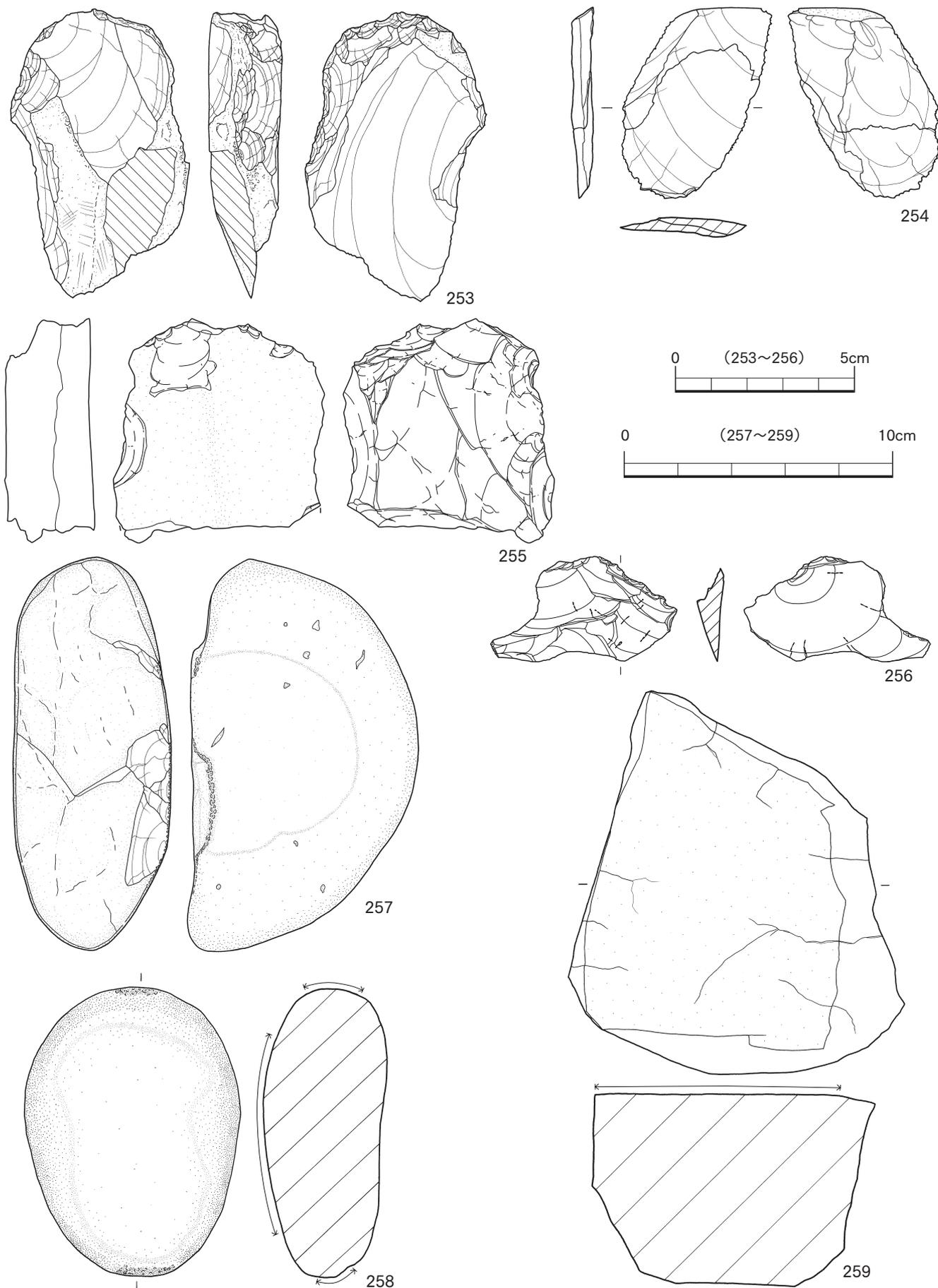
第44図 2号住居跡出土遺物実測図② (S=1/3・2/3・1/2)



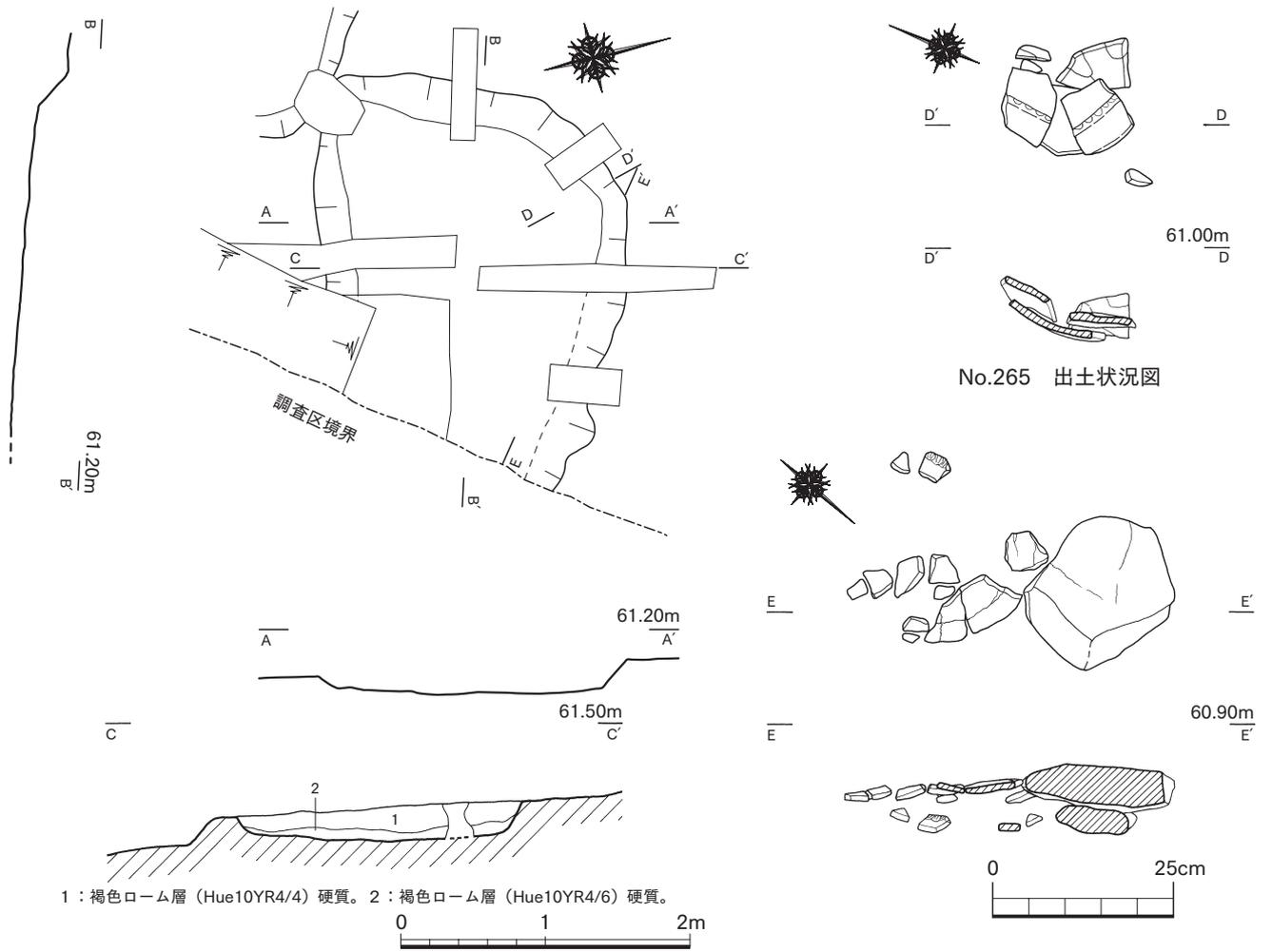
250~254 接合資料⑩



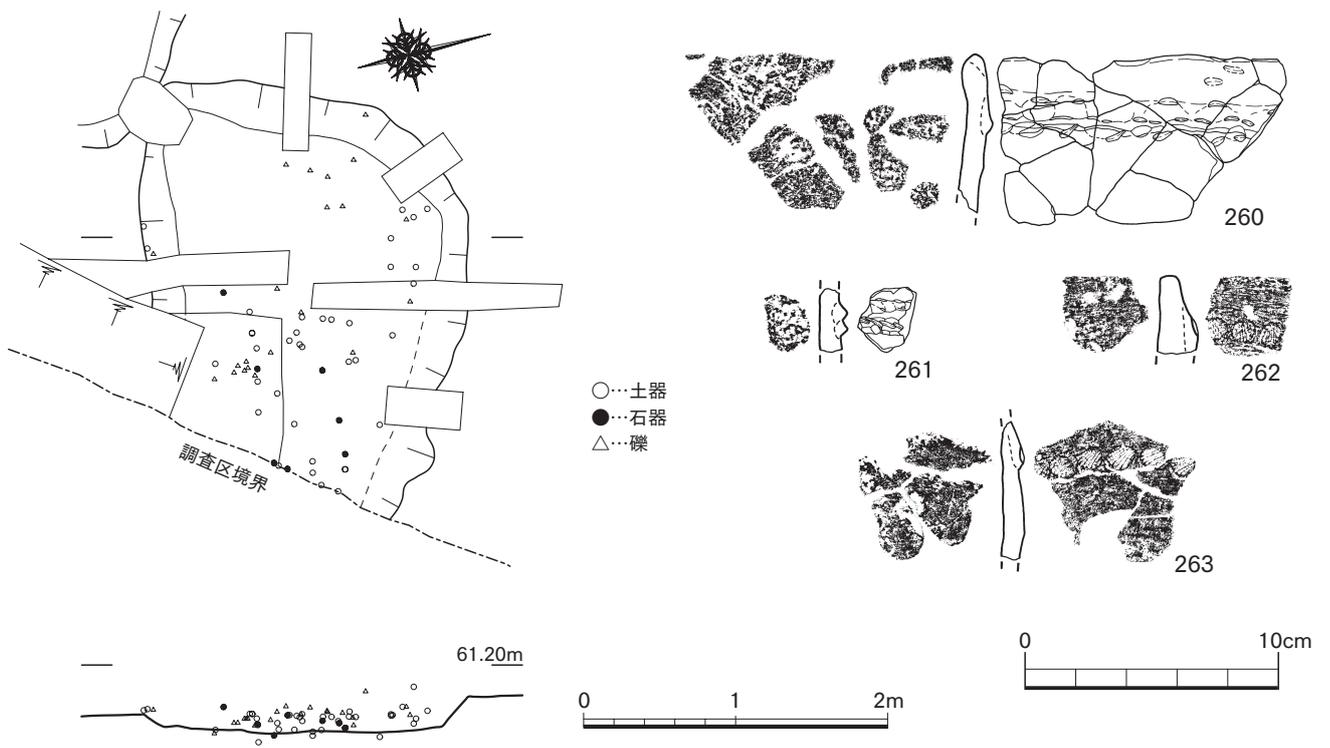
第45図 2号住居跡出土遺物実測図③ (S=2/3)



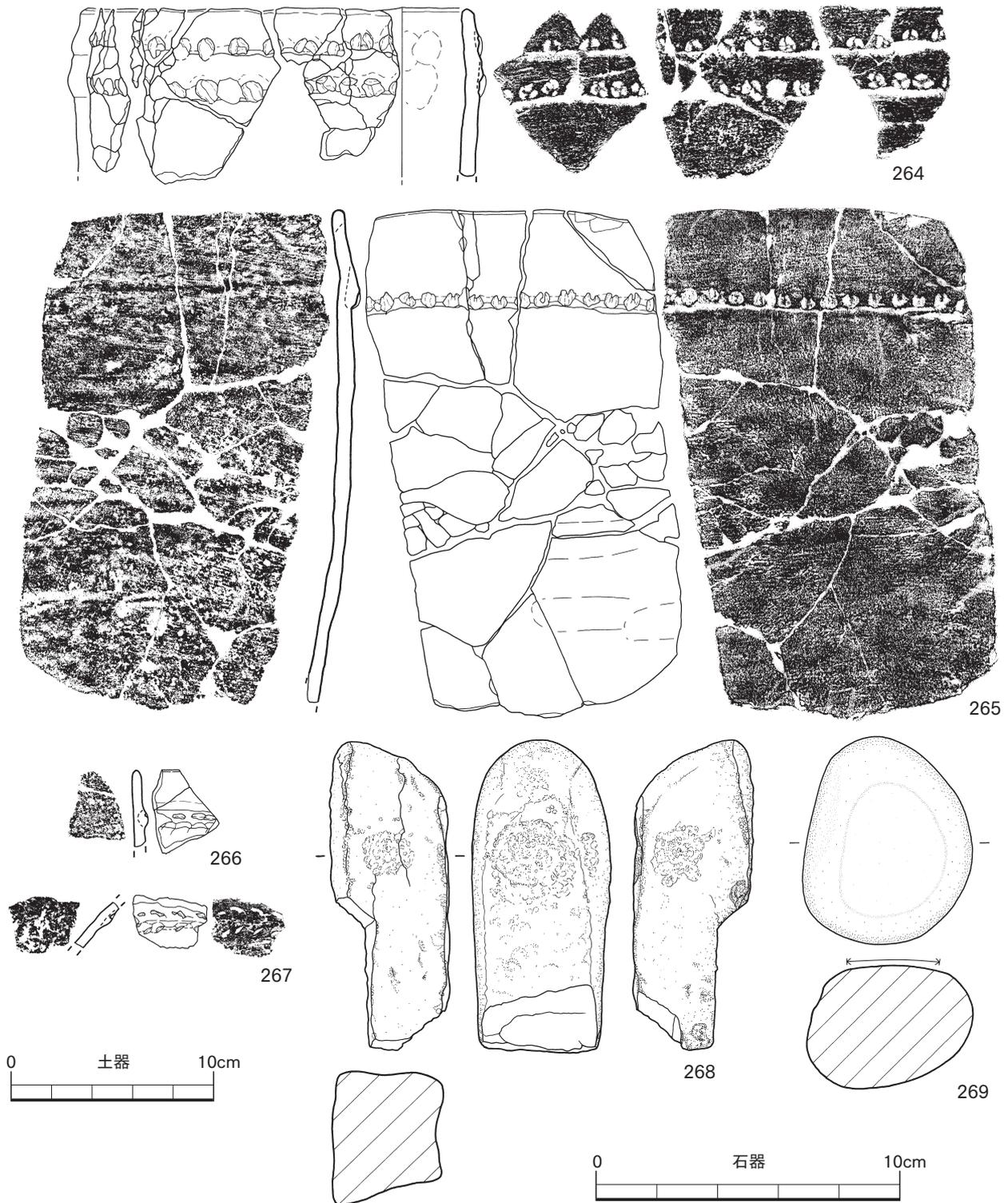
第46图 2号住居跡出土遺物実測図④ (S=2/3・1/2)



第47図 3号住居跡実測図 (S=1/50) 及び遺物出土状況図 (S=1/10)



第48図 3号住居跡出土遺物分布図 (S=1/50) 及び出土遺物実測図① (S=1/3)

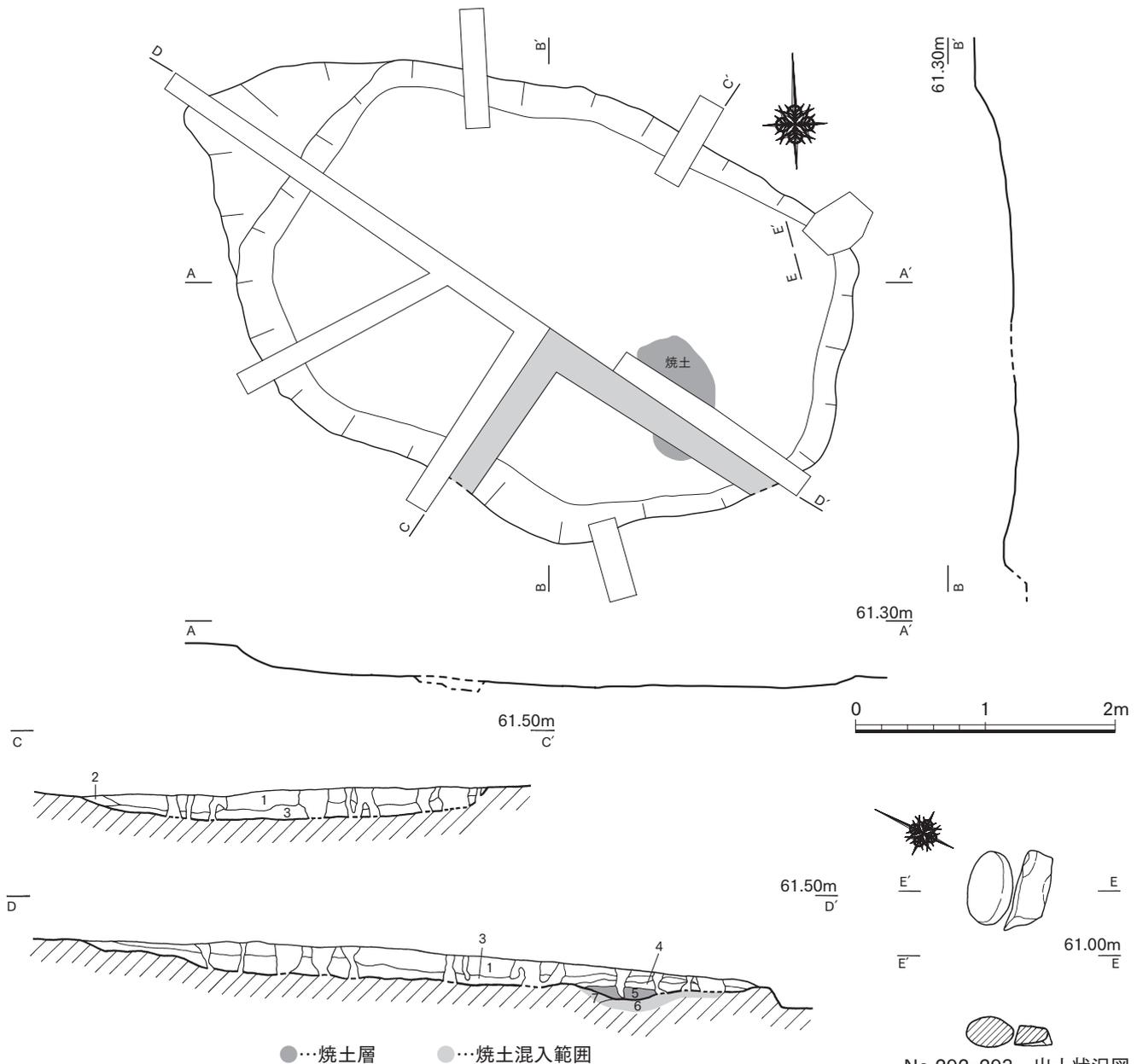


第49図 3号住居跡出土遺物実測図② (S=1/3・1/2)

石斧調整剥片2点、剥片5点：桑ノ木津留産黒曜石1・砂岩4)、礫21点が出土している。

260・262～266は隆帯文土器4類である。264と265には不整形な円形の文様が見られる。264の反転復元による口縁部径は18.6cmを測る。261は隆帯文土器2類である。267は浅鉢形土器である。268は敲石、269は磨石で、いずれも砂岩製である。268は赤化した垂角礫を使用する。

4号住居跡は3号住居跡の南西側に近接して検出された。本遺構は土層観察用のあぜを一部残して現状保存されている。規模は4.22m×2.64mの不整形円形プランを呈し、検出面からの深さは18cmを測る。床面中央部よりやや南東側に96cm×54cmの範囲で焼土が検出されており地床炉と考えられる。トレンチを設定してこの一



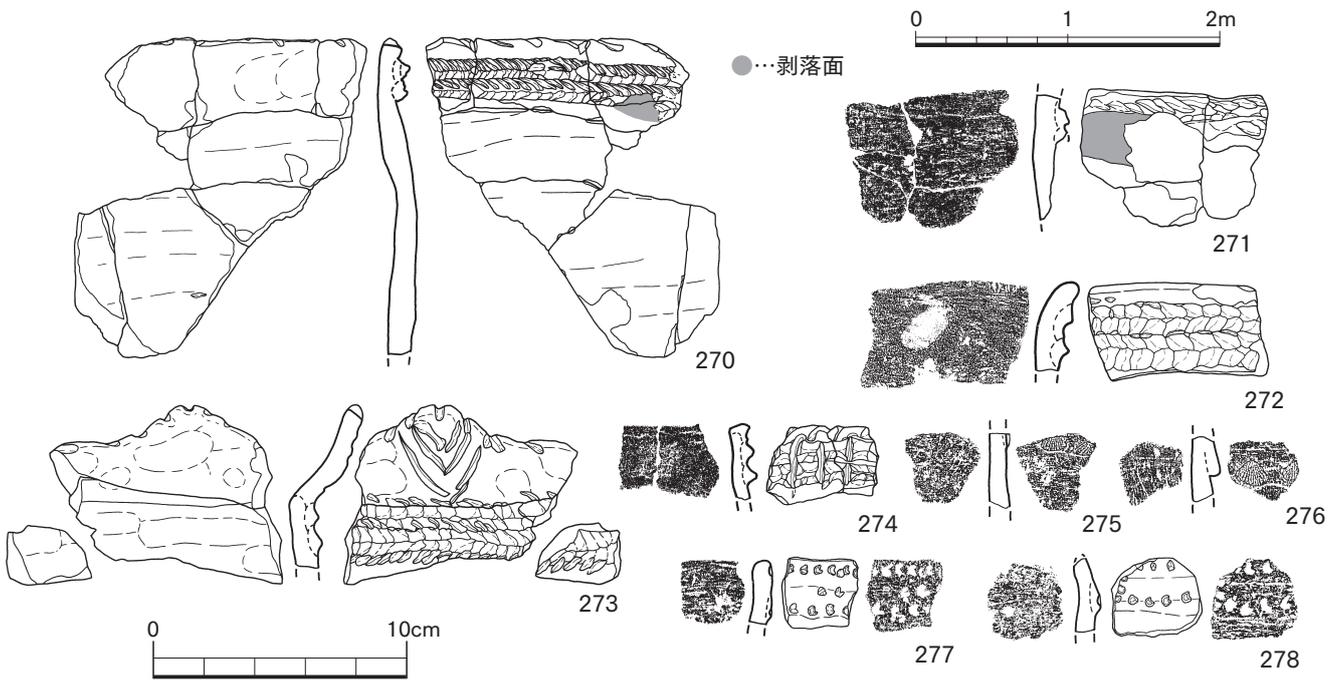
1：褐灰色ローム層 (Hue10YR4/1)。2：黄褐色ローム層 (Hue10YR5/8)。3：灰黄褐色シルト質ローム層 (Hue10YR4/2)。  
 4：褐色シルト質ローム層 (Hue7.5YR4/4)。5：にぶい赤褐色ローム層 (Hue5YR4/4)。6：褐色ローム層 (Hue7.5YR4/4)。  
 7：褐色シルト質ローム層 (Hue7.5YR4/4)。

※2・7はやや軟質。それ以外は硬質。1～3は炭化物を少量含む。4は炭化物を含む。5は焼土層。6は縦稿状に焼土が混じる。7は焼土粒を少量含む。

第50図 4号住居跡実測図 (S=1/50) 及び遺物出土状況図 (S=1/10)

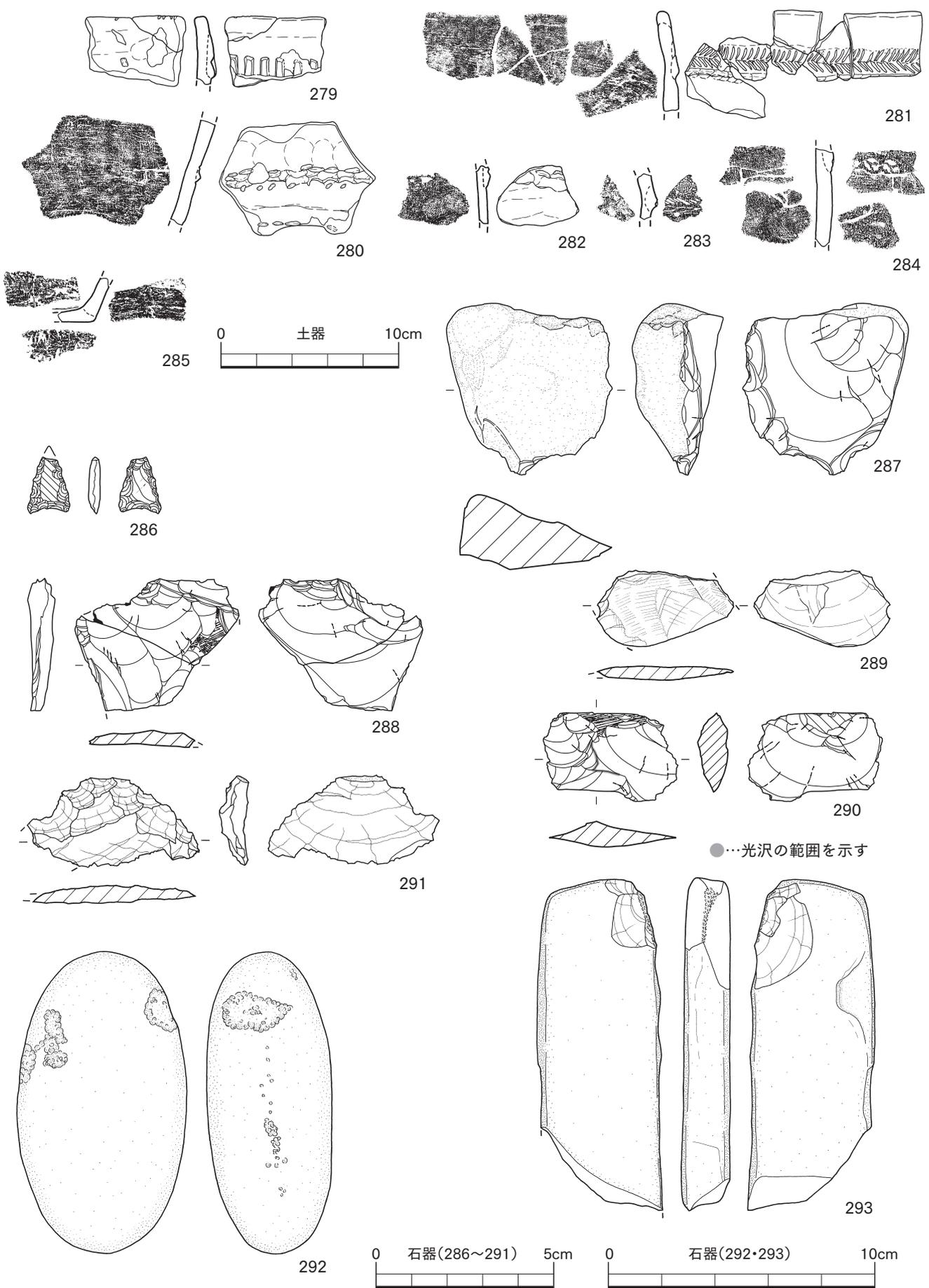
部を掘り下げたところ、10 cm程度の焼土層が確認された。この炉内から検出された炭化物を放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で11660±40BPという年代が得られている。南東側壁面付近にNo. 292・293が並んで出土した。その他に遺構埋土からは土器片130点、石器29点(ホルンフェルス製石鏃1点、砂岩製スクレイパー1点、砂岩製敲石2点、石斧調整剥片10点：緑色堆積岩8・ホルンフェルス1・砂岩1、剥片13点：頁岩4・桑ノ木津留産黒曜石5・砂岩3・尾鈴山酸性岩1・桑ノ木津留産黒曜石製石核2点)、礫41点が出土している。

270～274は隆帯文土器2類である。273は口縁部に沈線によって施文された突出部が見られ、波状を呈している。275～284は隆帯文土器4類である。277・278は不整形な円形の刺突文が施されている。281は肥厚帯下部に羽状の爪形文を施す。285は底部片である。286は打製石鏃D類である。287はスクレイパーだが、突出部があり石錐との兼用品の可能性もある。289～290は石斧調整剥片である。291は尾鈴山酸性岩製の剥片である。292・293は砂岩製敲石である。

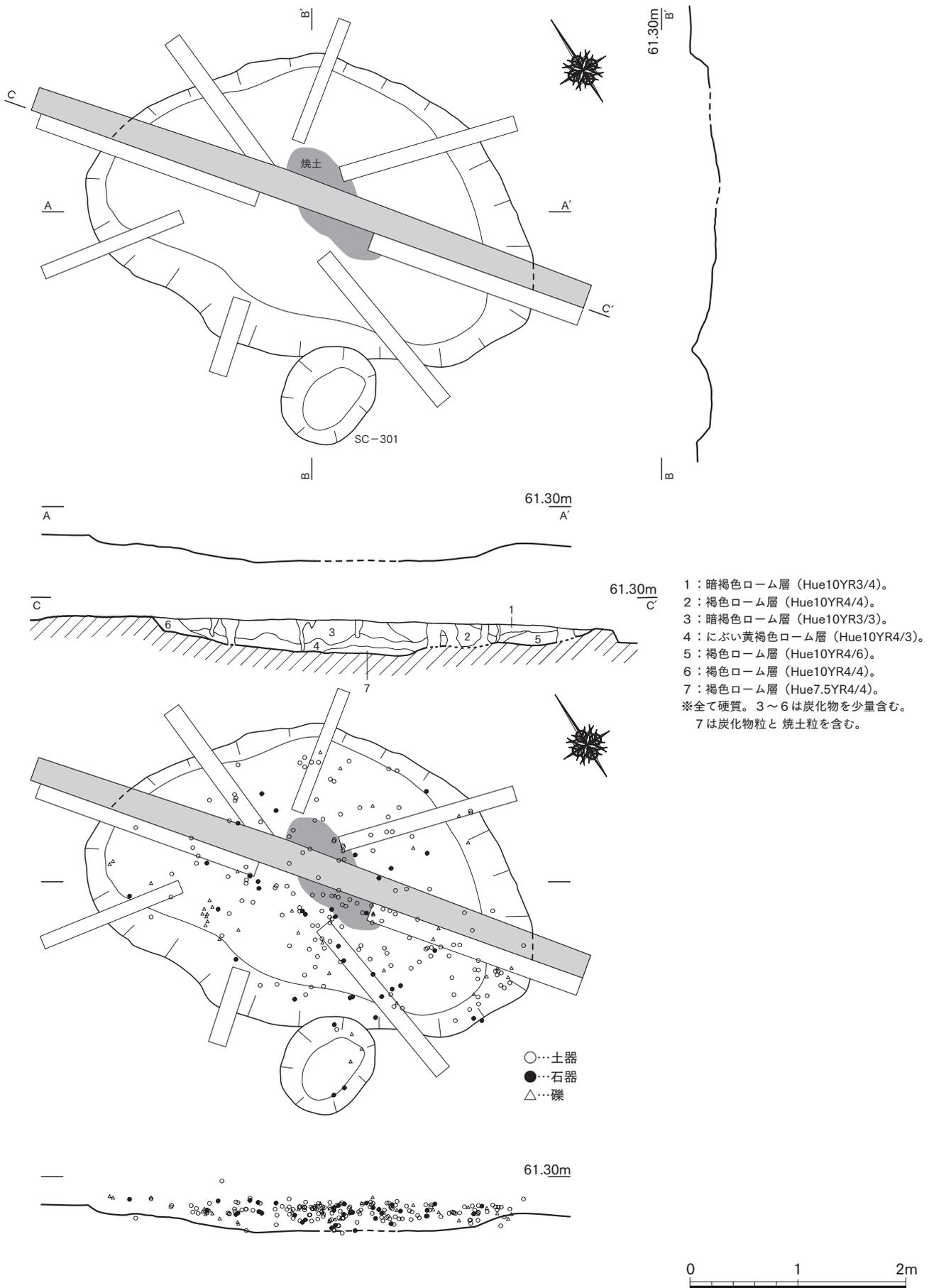


第51図 4号住居跡出土遺物分布図 (S=1/50) 及び出土遺物実測図① (S=1/3)

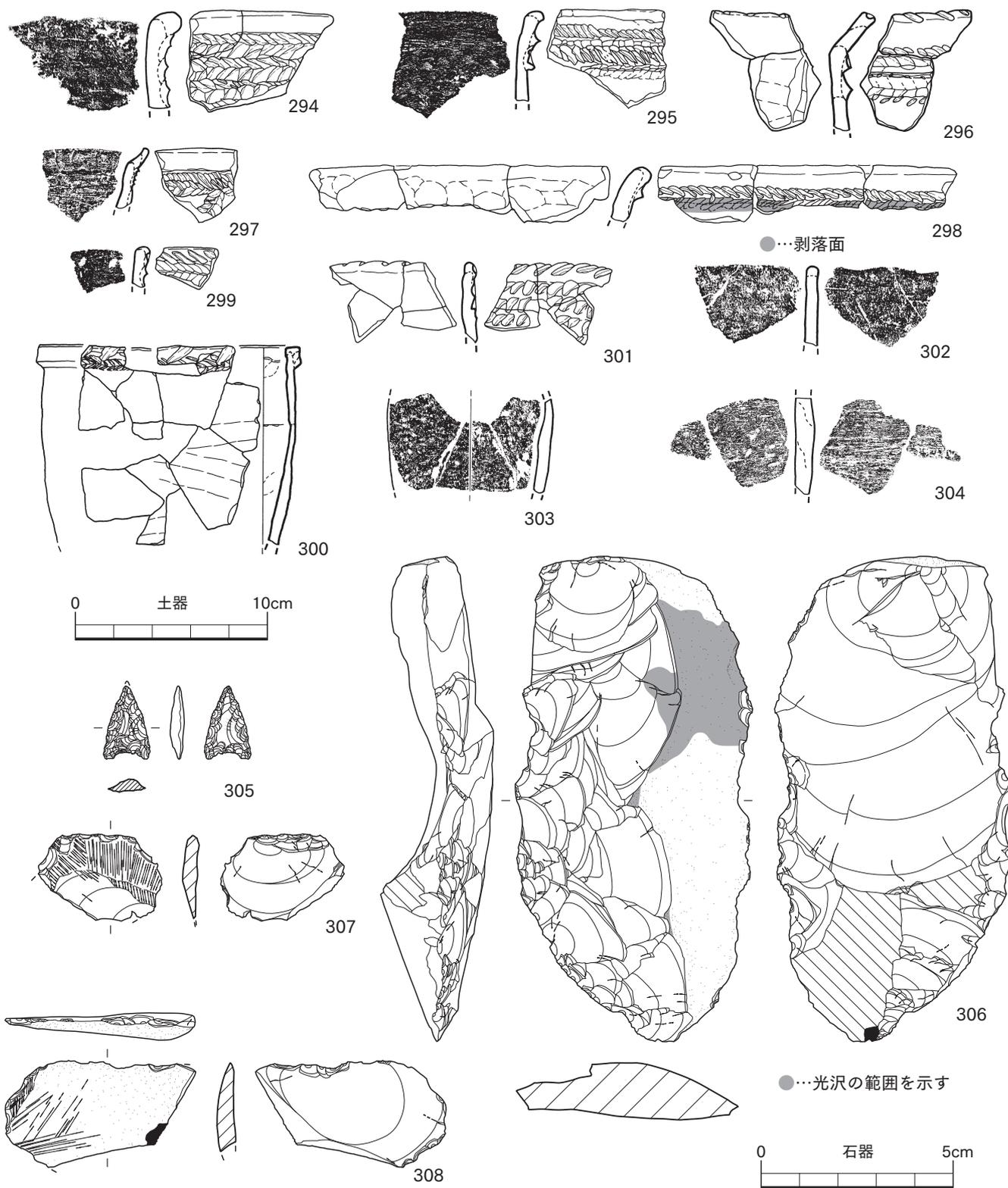
5号住居跡は4号住居跡の南西側に位置し、南西部をSC-301に切られている。本遺構は土層観察用のあぜを残して現状保存されている。規模は3.66m×2.2mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは23cmを測る。床面中央部付近に124cm×54cmの範囲で焼土が検出されており地床炉と考えられる。この炉周辺から検出された炭化物を放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で11730±40BPという年代が得られている。遺構埋土からは土器片155点、石器38点(桑ノ木津留産黒曜石製石鏃1点、頁岩製スクレイパー2点、砂岩製敲石1点、砂岩製磨石1点、石斧調整剥片10点：頁岩6・緑色堆積岩4、剥片23点：頁岩16・チャート3・砂岩3・尾鈴山酸性岩1)、礫45点が出土しており、SC-323と土器の接合関係が確認されている。



第52図 4号住居跡出土遺物実測図② (S=1/3・2/3・1/2)

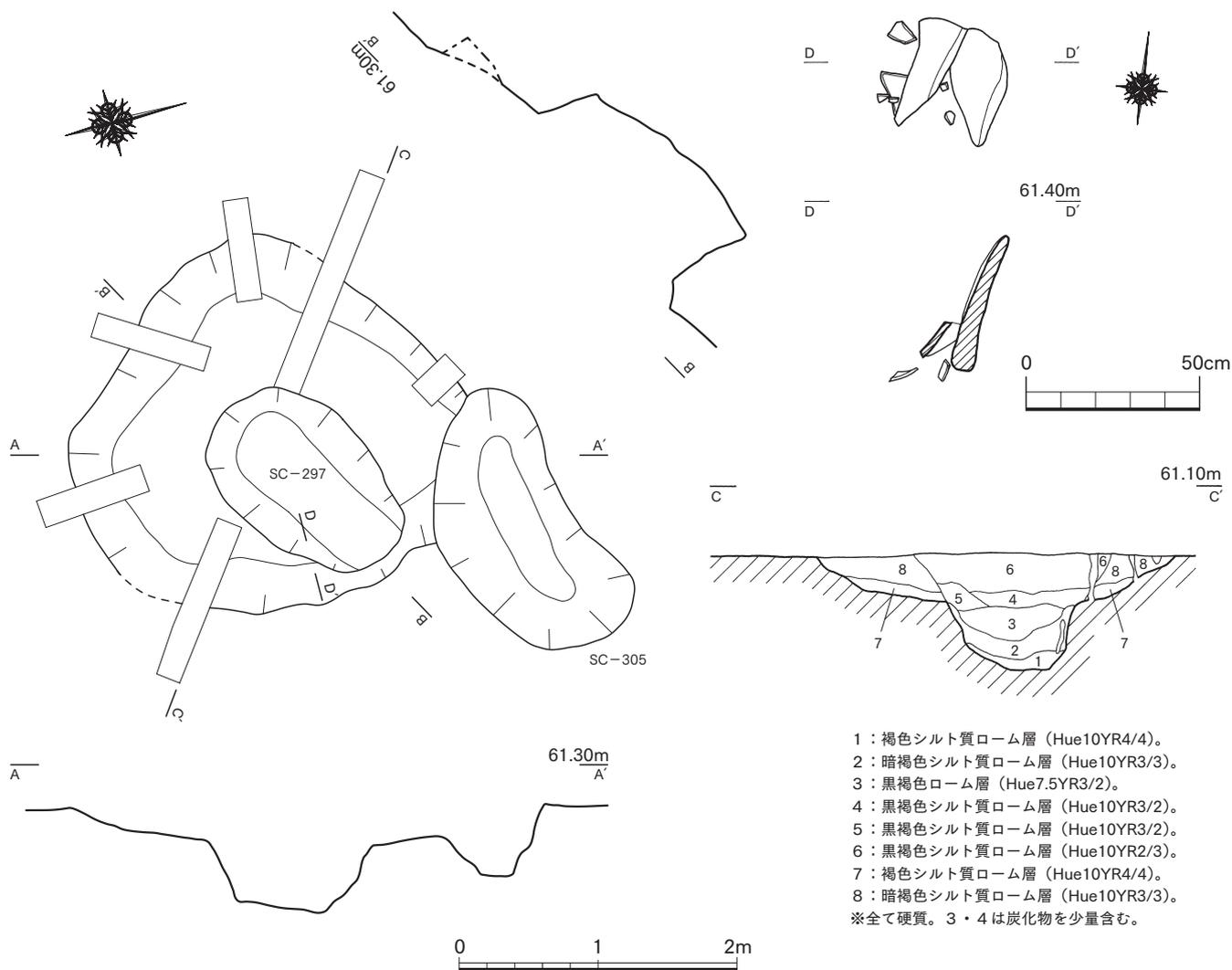


第53図 5号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50)



第54図 5号住居跡出土遺物実測図 (S=2/3・1/3)

294～297は隆帯文土器2類である。297は縦方向の隆帯が見られる。298・299は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器2類か3類か分類できない。300は隆帯文土器3類で、隆帯施文後口縁部にキザミを施す。反転復元による口縁部径は13.6cmを測る。301は爪形文土器1類である。302は無文の口縁部片である。303・304は胴部片である。305は打製石鏃D類である。306はスクレイパーで、素材剥片の下部に加工が集中しており、先端部



第55図 6号住居跡実測図 (S=1/50) 及び遺物出土状況図 (S=1/20)

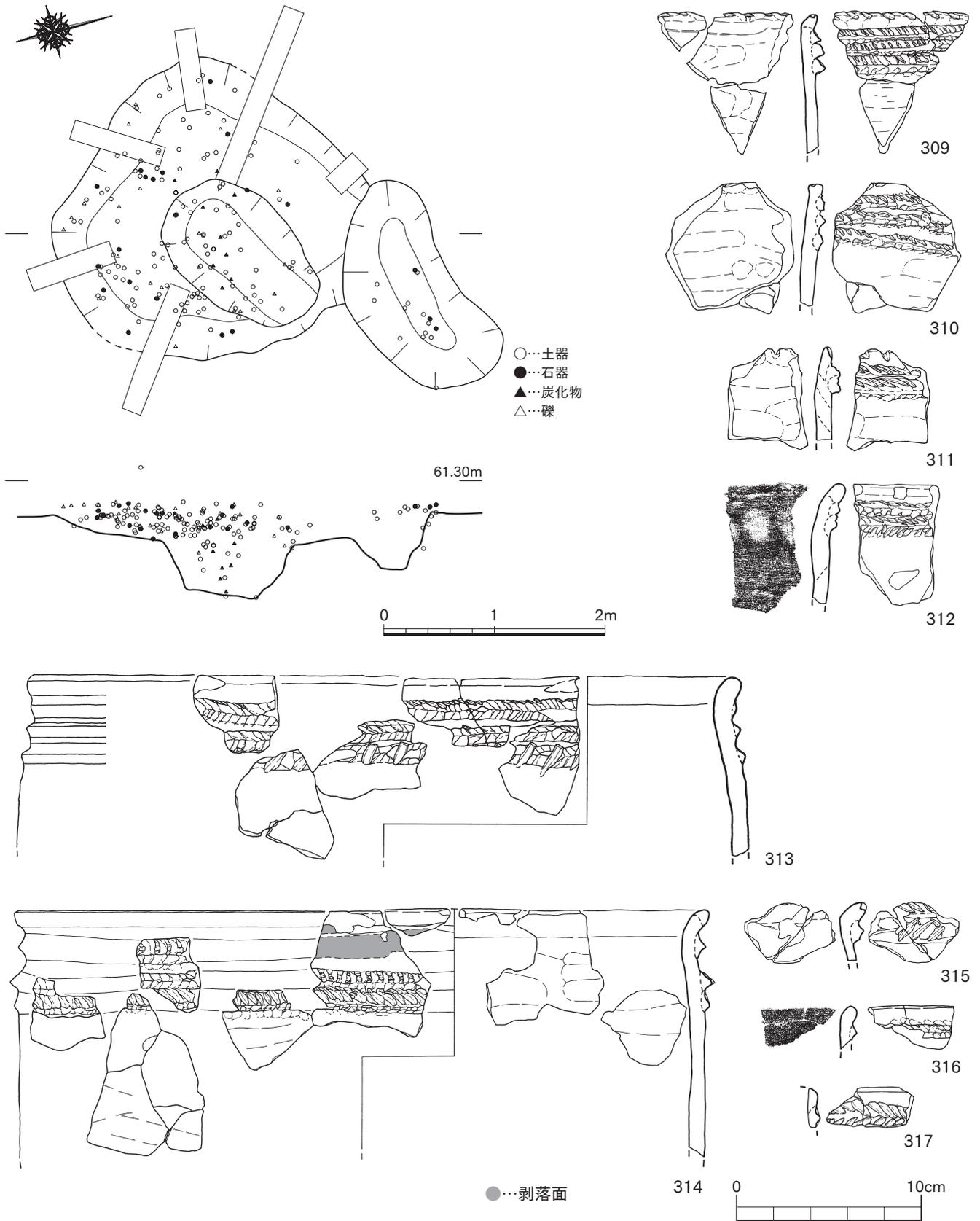
を意識しているような印象を受ける。また一部に光沢が見られる。307・308は石斧調整剥片である。

SC-301は0.92m×0.8mの不整円形プランを呈し、検出面からの深さは20cmを測る。

6号住居跡は5号住居跡の南西側に位置している。本遺構は現状保存されており、規模は2.16m×1.86mの不整円形プランを呈し、検出面からの深さは28cmを測る。床面中央部にSC-297が、北側にはSC-305があり、土層観察の結果両者に切られていることが分かった。これらの遺構埋土中から検出された炭化物を放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で6号住居跡は11710±40BP、SC297は11705±45BP、SC-305は11630±40BPという年代が得られている。6号住居跡とSC-297の遺構埋土からは土器片127点、石器22点(桑ノ木津留産黒曜石製石鏃2点・砂岩製磨石1点・砂岩製石皿1点・緑色堆積岩製石斧調整剥片7点、剥片11点・頁岩4・桑ノ木津留産黒曜石1・砂岩6)、礫26点が出土しており、7～9号住居跡と土器の接合関係が確認されている。

309・311・312・318・321は隆帯文土器2類である。318は炭化物が付着しており、それを放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で11810±60BPという年代が得られている。310・313・314は隆帯文土器1c類である。313は下部の隆帯にだけキザミを施しており、反転復元による口縁部径は38cmを測る。314はつまみ手法によって隆帯を張り付けた後、工具によって刺突(押し引き)文を施しており、反転復元による口縁部径は37cmを測る。なお313と314の下部の隆帯は密接しており、2類にも分類できるかもしれない。315は隆帯文土器3類である。316・317・319・320は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器2類か3類か分類できない。322～324は底部よりやや上部の破片である。325・326は打製石鏃で、325はD類、326はC類に分類される。327・328は石斧調整剥片で、327は光沢が見られる。329は砂岩製磨石である。

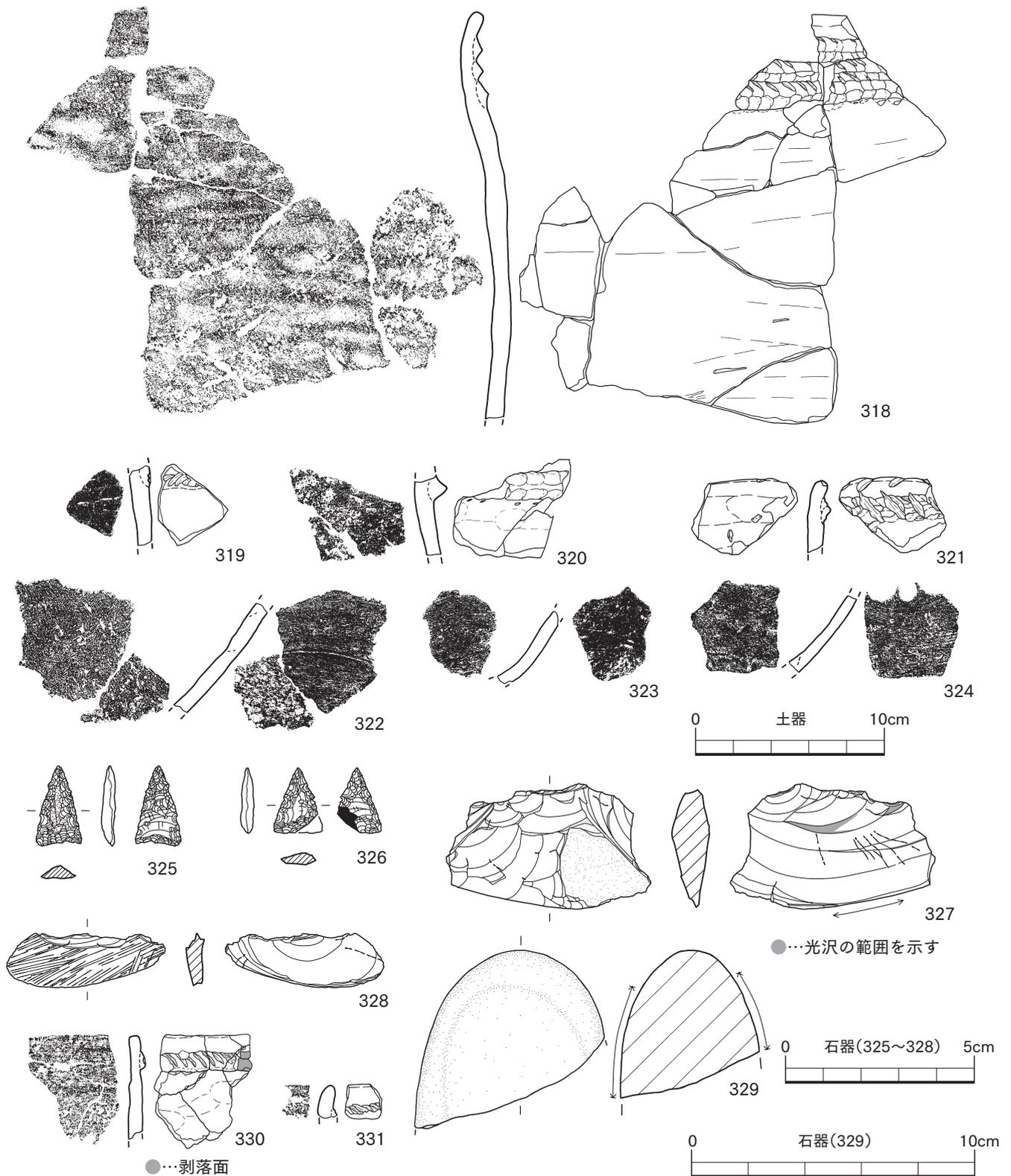
SC-297は1.57m×1mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは81cmを測る。西側壁面付近では大



第56図 6号住居跡出土遺物分布図 (S=1/50) 及び出土遺物実測図① (S=1/3)

振りの扁平な碟が立て掛けられているような状態で出土した。

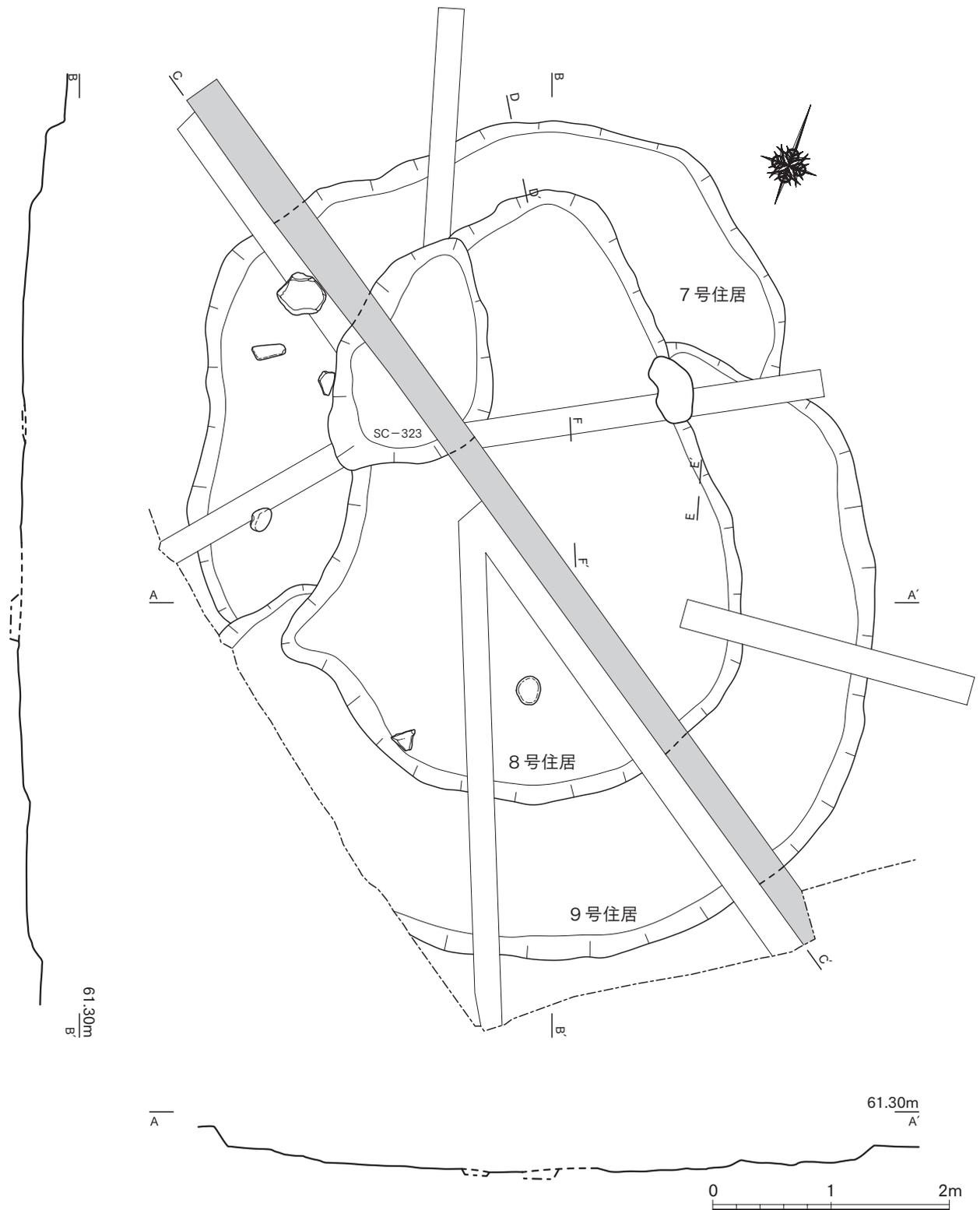
SC-305は2.02m×0.93mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは52cmを測る。遺構埋土からは土器片18点、石器3点(頁岩製石斧調整剥片1点、砂岩製剥片2点)が出土している。330は隆帯文土器3類である。



第57図 6号住居跡出土遺物実測図②及びSC-305出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2)

331は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器2類か3類か分類できない。

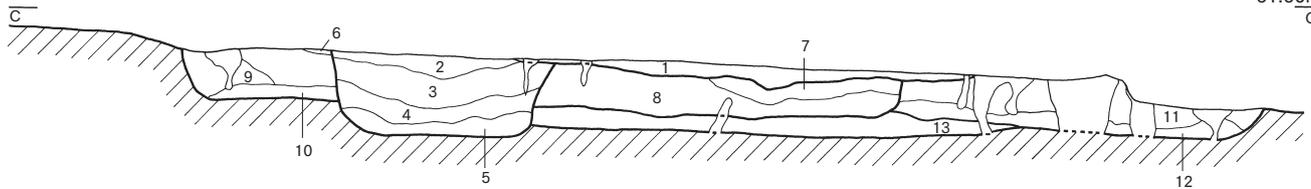
7～9号住居跡は6号住居跡の南西側に位置している。この3棟の住居跡とSC-323が切り合い関係にあり、新旧関係は土層観察の結果、8号住居→9号住居→7号住居→SC-323の順に構築されていたことが分かった。またこれらの遺構の埋土の最上層にはサツマ火山灰層が堆積していた。この3棟の住居跡とSC-323は土層観察用のあぜを残して現状保存されている。



第58図 7・8・9号住居跡実測図 (S=1/50)

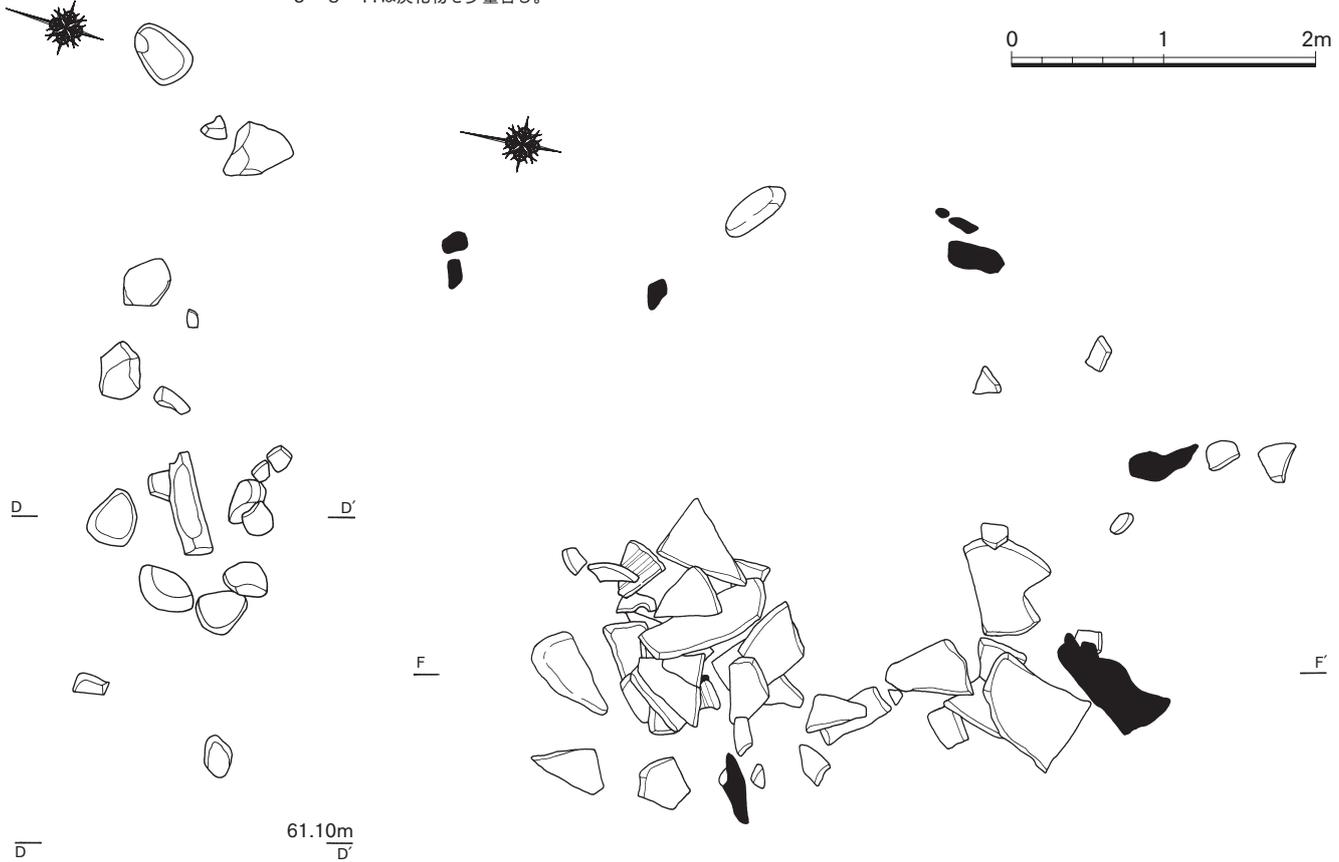
7号住居跡は5.22 m × 4.64 mの不整形円形プランを呈し、土層観察から本遺構の深さは36cmを測る。床面中央部よりやや北西側をSC-323に切られる。これらの遺構埋土中から検出された炭化物を放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で7号住居跡は11520 ± 40BP、SC-323は11450 ± 40BPという年代が得られている。7号住居跡の床面の南西部から北西部にかけては石皿や大ぶりの礫が出土しており、No. 377がその中から出土している。また東側壁面付近ではNo. 354がつぶれたような状態で出土していた。そのほかに遺構埋土から土器片310点、石器86点(石鏃3点：頁岩1・チャート1・桑ノ木津留産黒曜石1、石錐4点：頁岩2・桑ノ木津留産

61.60m  
C

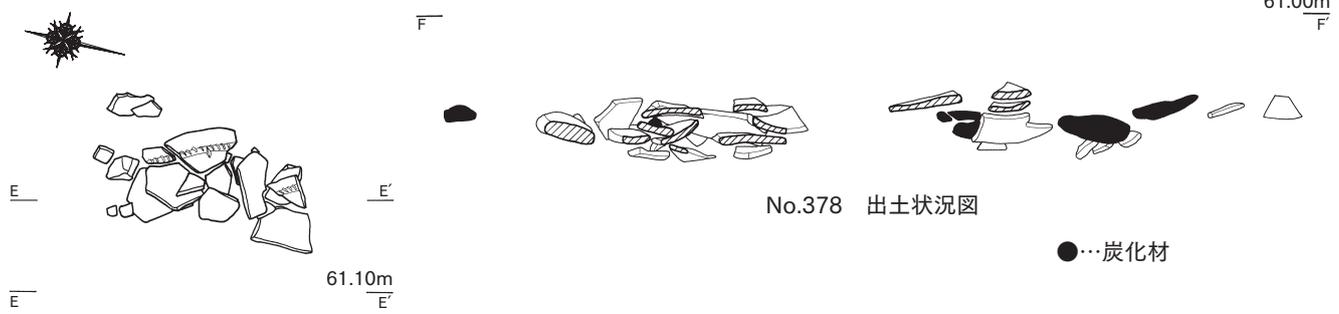


- 1：黄褐色砂質ローム層 (Hue10YR5/8)。2：暗褐色シルト質ローム層 (Hue10YR3/3)。3：黒褐色ローム層 (Hue10YR2/3)。  
 4：黒褐色ローム層 (Hue7.5YR3/2)。5：褐色シルト質ローム層 (Hue10YR4/4)。6：褐色ローム層 (Hue10YR4/4)。  
 7：褐色ローム層 (Hue7.5YR4/4) 硬質。8：暗褐色シルト質ローム層 (Hue10YR3/4)。9：黒褐色シルト質ローム層 (Hue10YR3/2)。  
 10：暗褐色シルト質ローム層 (Hue7.5YR3/4)。11：褐色ローム層 (Hue10YR4/6少量)。12：暗褐色ローム層 (Hue10YR2/4)。  
 13：褐色シルト質ローム層 (Hue10YR4/4)。14：にぶい黄褐色ローム層 (Hue10YR4/3)。15：褐色ローム層 (Hue7.5YR4/4)。  
 ※6・12・14・15はやや軟質。それ以外は硬質。1はサツマ火山灰ブロックを多量に含む。2はサツマ火山灰を少量含む。  
 5・8・11は炭化物を少量含む。

0 1 2m



No.377 出土状況図



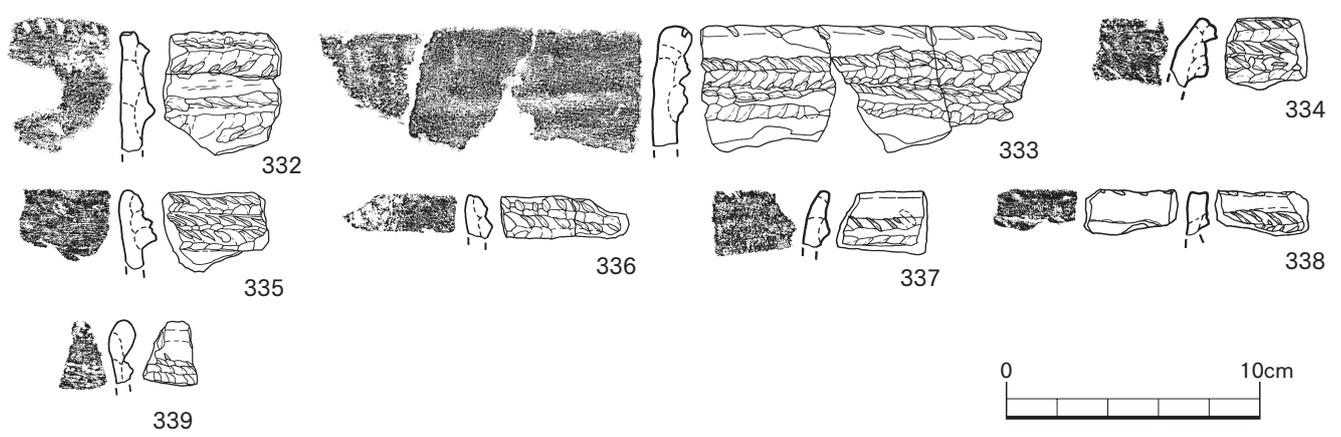
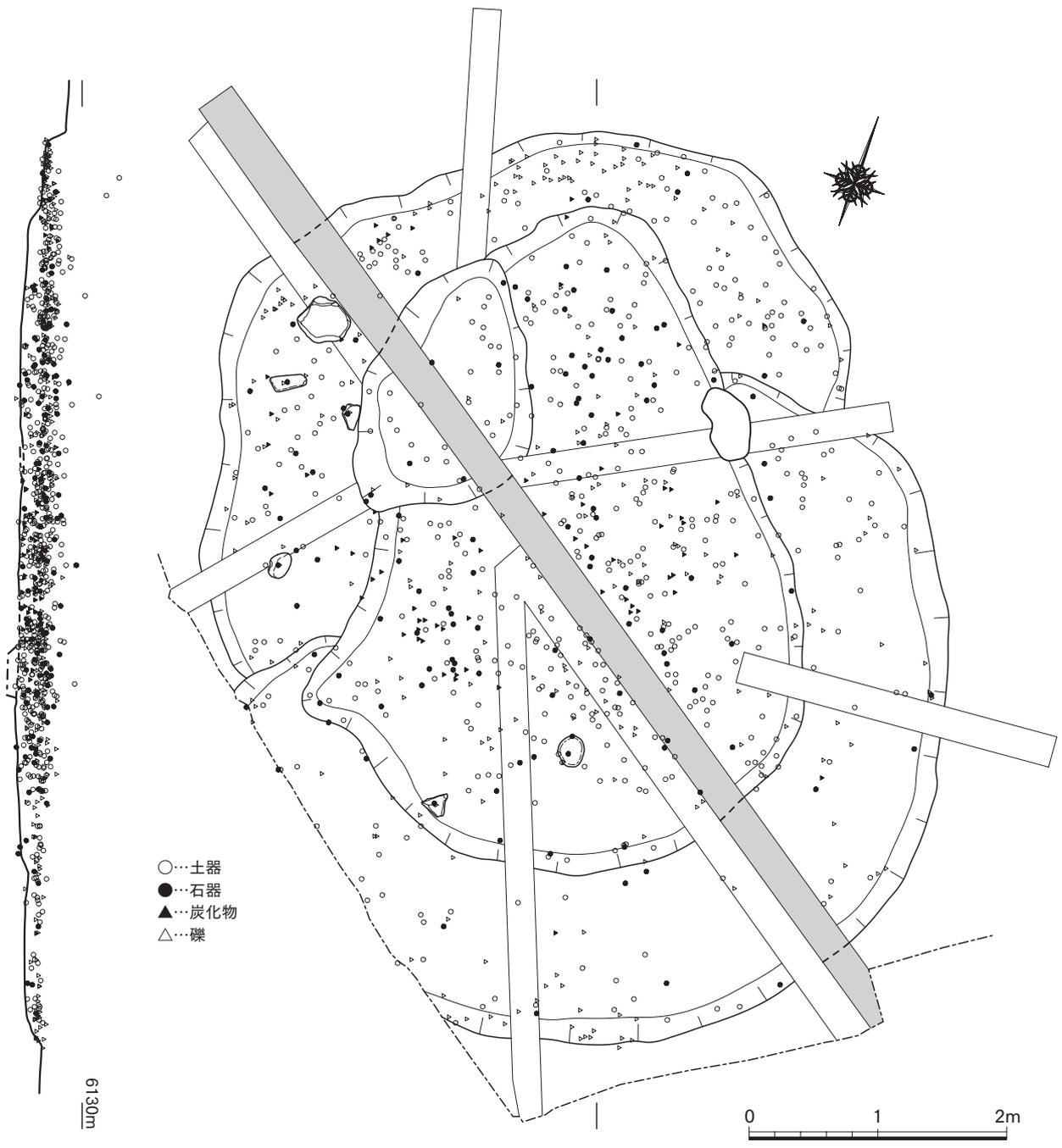
No.378 出土状況図

●…炭化材

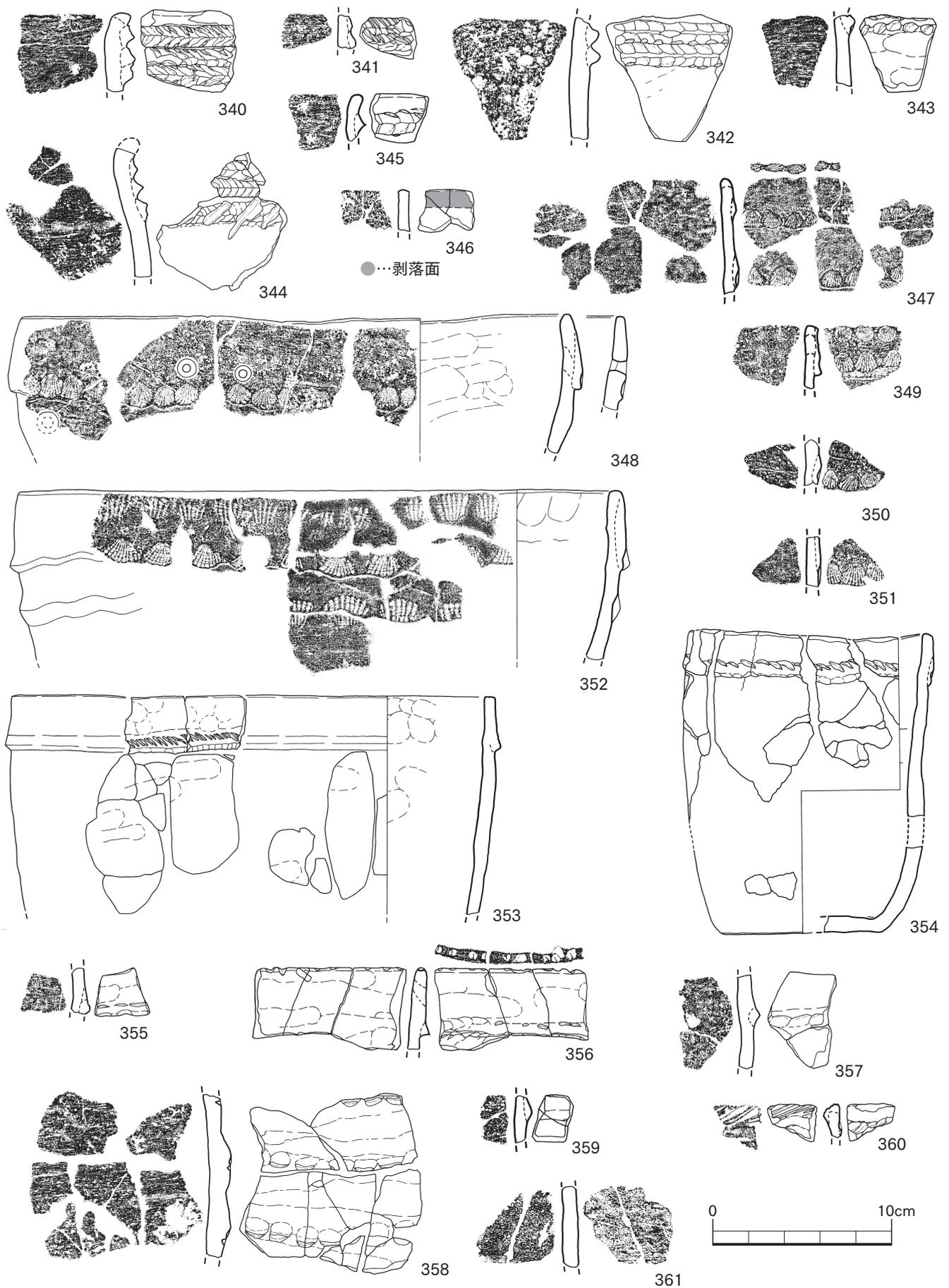


No.354 出土状況図

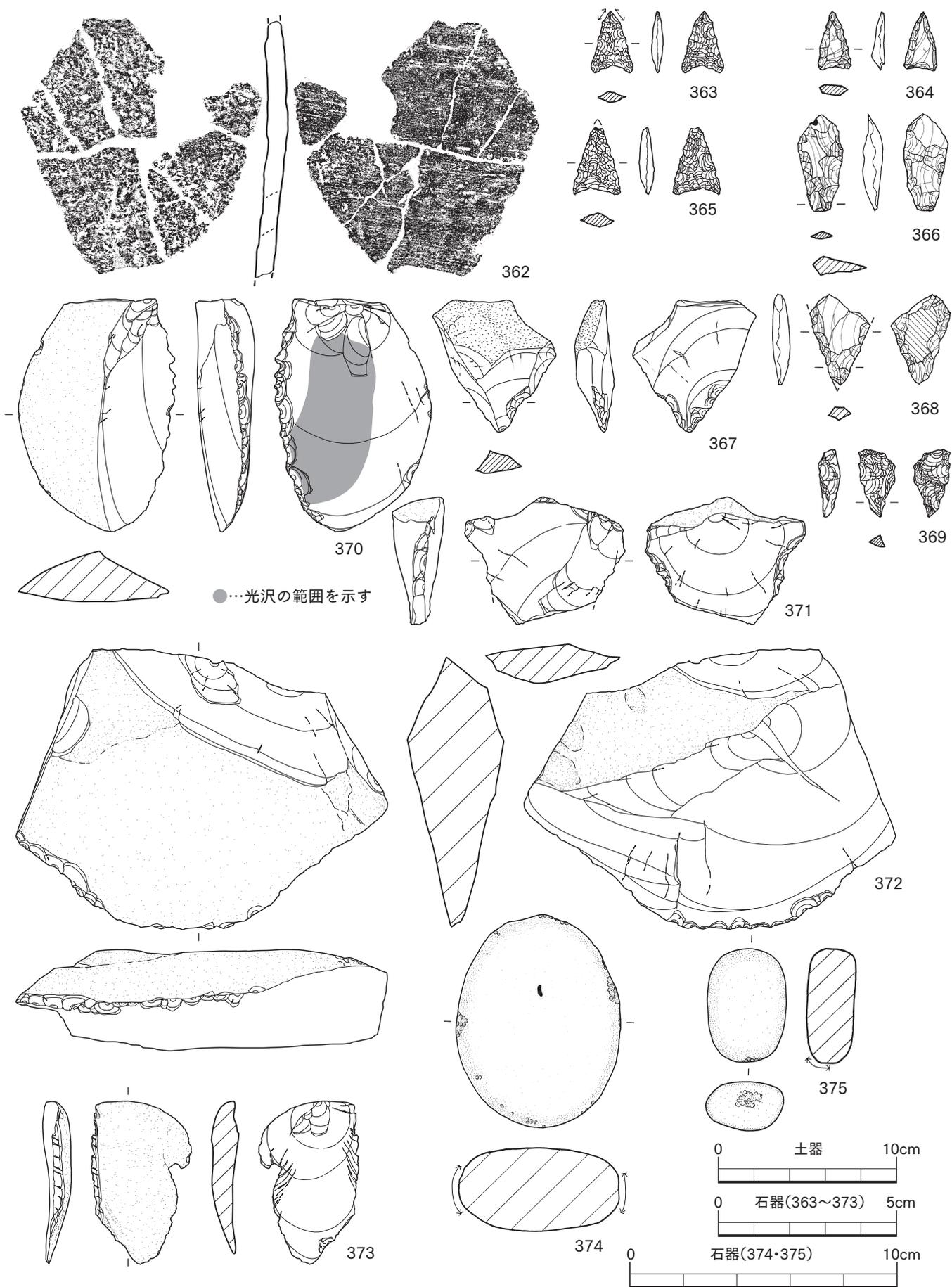
第59図 7・8号住居跡土層断面図 (S=1/50) 及び遺物出土状況図 (S=1/10)



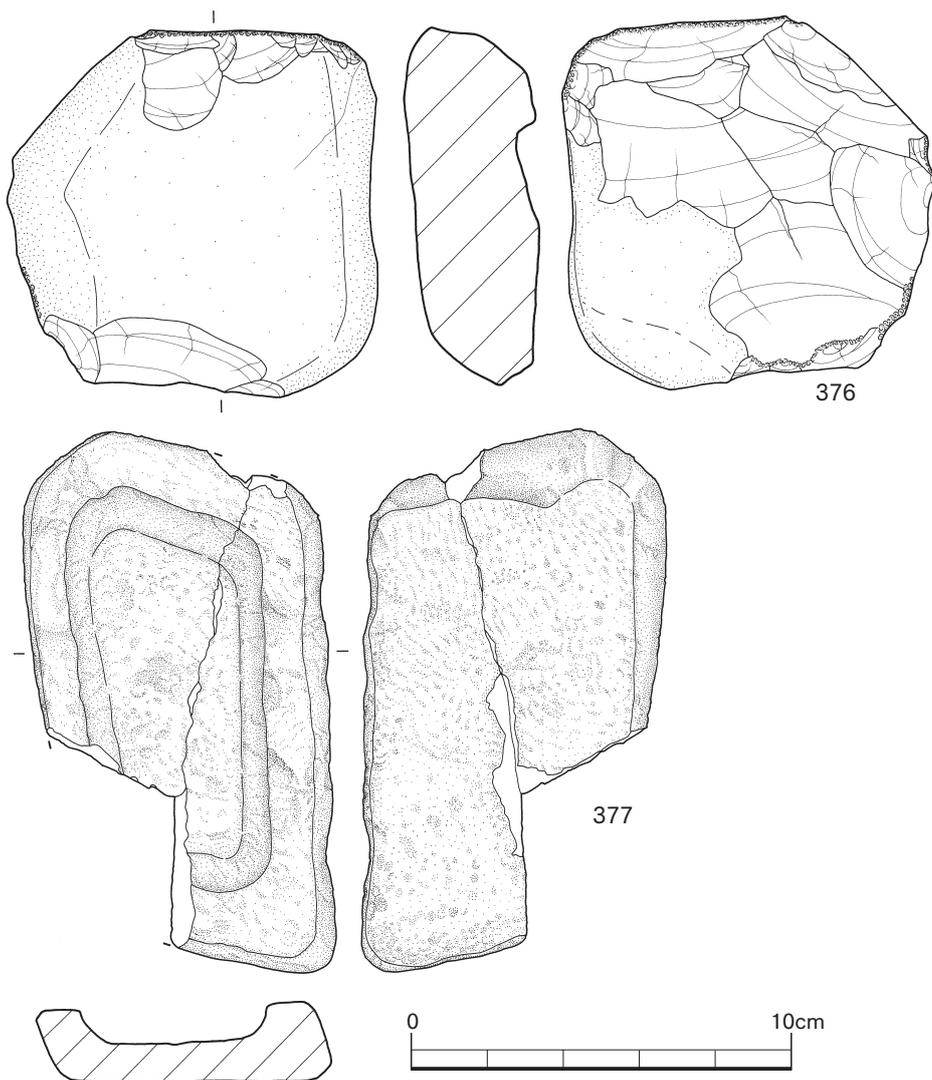
第60図 7・8・9号住居跡出土遺物分布図 (S=1/50) 及び7号住居跡出土遺物実測図① (S=1/3)



第61图 7号住居跡出土遺物実測図② (S=1/3)



第62図 7号住居跡出土遺物実測図③ (S=1/3・2/3・1/2)



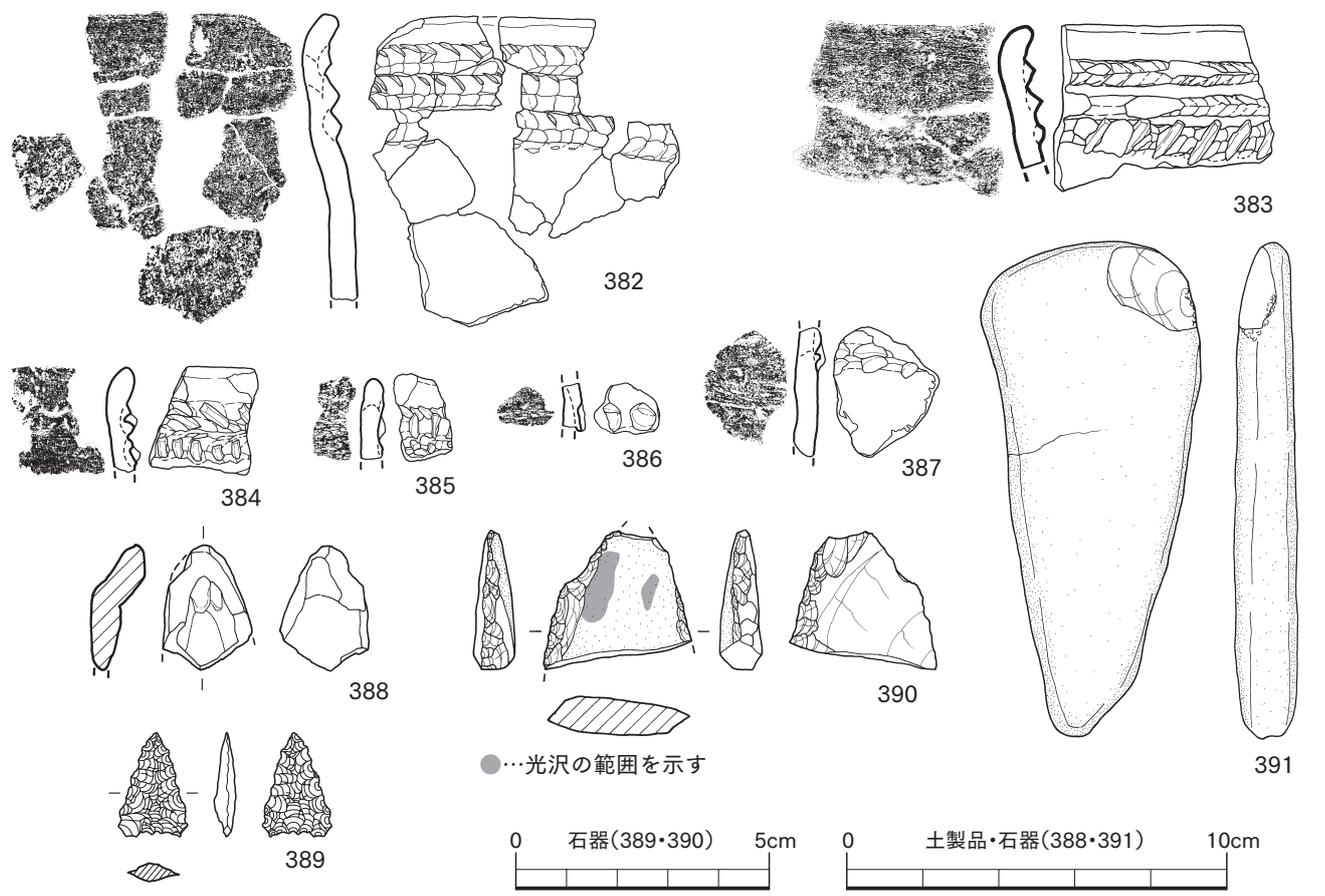
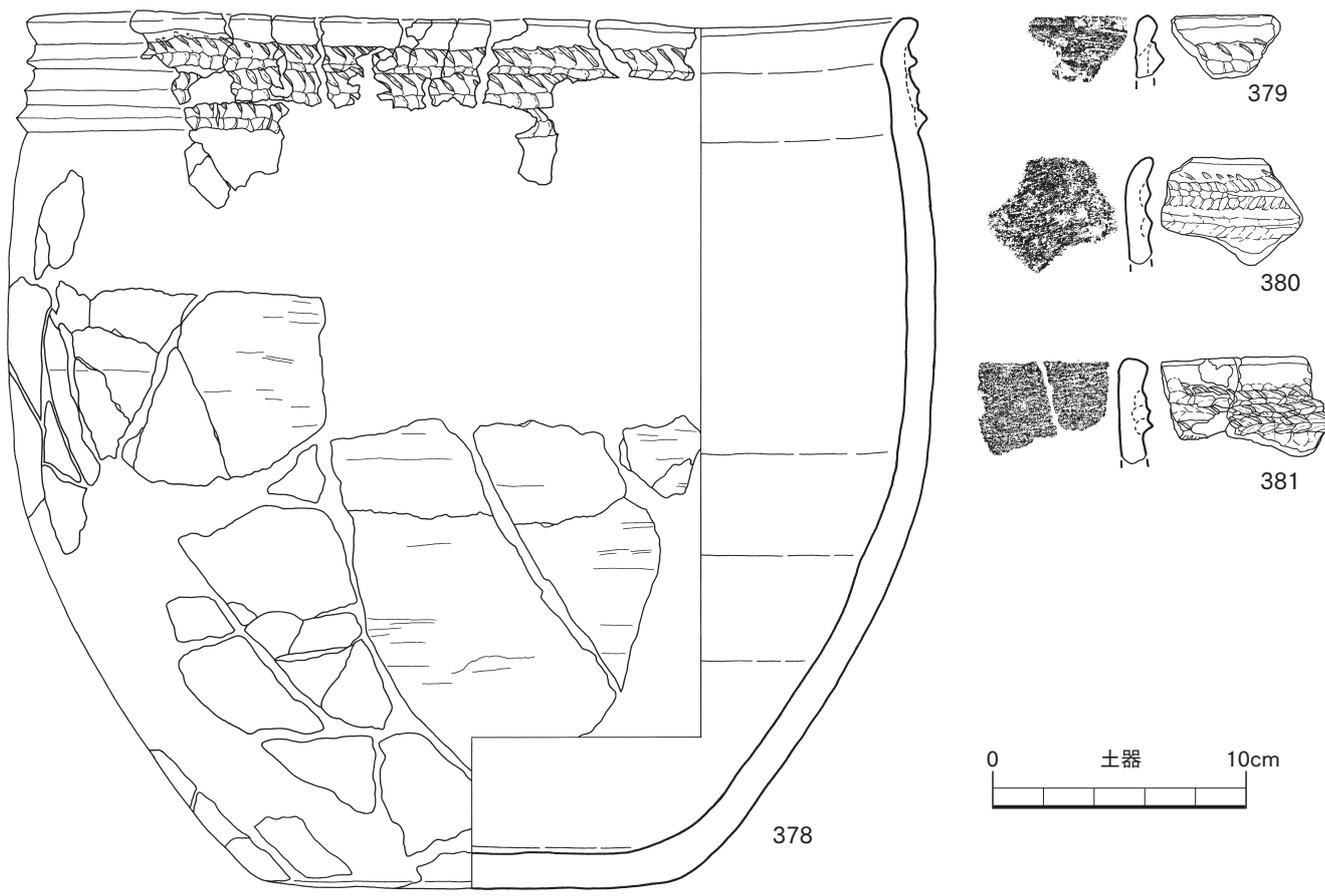
第63図 7号住居跡出土遺物実測図④ (S=1/2)

黒曜石2、レイパー2点：頁岩1・砂岩1、砂岩製敲石3点、砂岩製磨石1点、緑色堆積岩製石斧調整剥片1点・剥片66点：頁岩30・チャート3・桑ノ木津留産黒曜石8・砂岩18・ホルンフェルス7、尾鈴山酸性岩1、石核4点：桑ノ木津留産黒曜石3・砂岩1、砂岩製不明石製品1点)、礫177点が出土しており、2号・9号・13号・14号住居跡とSC-323との土器の接合関係が確認されている。

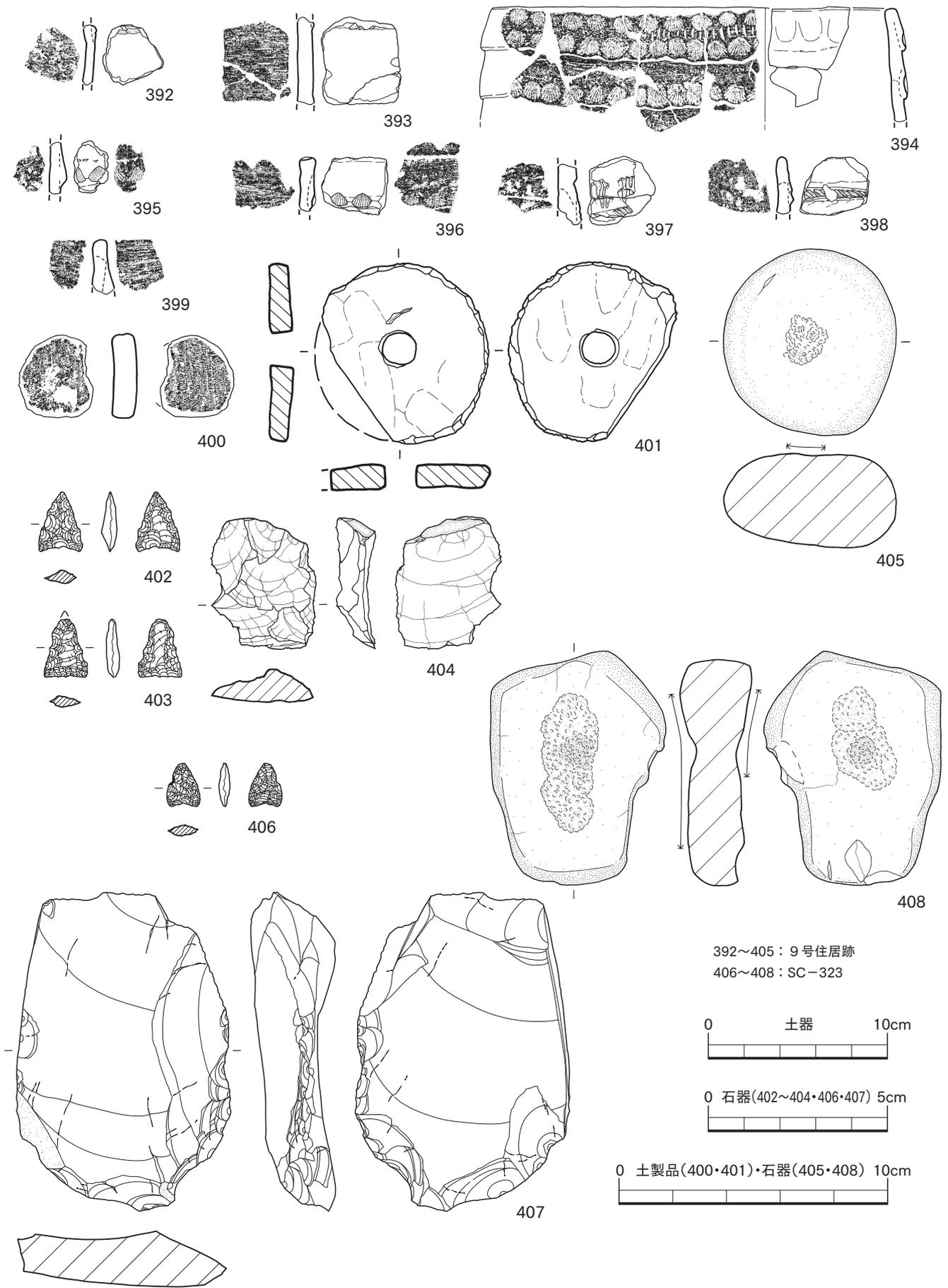
332は隆帯文土器1c類である。333～336・340～342・344は隆帯文土器2類である。334～336は口唇部につまみによる隆帯を貼り付けている。344は下部の隆帯にだけキザミを施す。337～339・343・345は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器2類か3類か分類できない。346は1条の隆帯文の剥落痕が明瞭に確認されるので隆帯文土器3類に該当する。347～359は隆帯文土器4類である。347は口唇部にも貝殻押圧文が見られる。348は補修孔が見られ、反転復元による口縁部径は30.4cmを測る。349は肥厚

帯に貝殻押圧文が2段に施文されている。352は異なる貝殻を使用した押圧文が3段に施文されており、反転復元による口縁部径は32.9cmを測る。353は肥厚帯下部につまみによる隆帯も巡らせるもので、反転復元による口縁部径は26.8cmを測る。354は肥厚帯の下部につまみによる隆帯文を一条巡らすおおむね完形品に接合できた資料で、円筒形に近い形状をしており、口縁径は13.1cm、器高17.1cm、底部径8.4cmを測る。356は口唇部に不整円形の刺突文を施している。360は残存部分が少なく分類が難しいがおそらく爪形文土器1類で、口唇部にキザミが施されている。361は無文の胴部片で、362は胴部片である。363～365は打製石鏃D類である。363は先端部が屈曲して側面の稜線が潰れており、再加工品として研磨を行ったか、石錐として転用されたものかもしれない。364は素材剥片の形状を大きく残す。366～369は石錐である。366は明瞭な錐部が見られないので未製品か、または石鏃の未製品の可能性も考えられる。370～372はスクレイパーである。370は主要剥離面側に光沢が見られる。371は突出部があり、石錐との兼用品の可能性もある。373は石斧調整剥片である。374～376は砂岩製敲石で、376には使用痕の剥離面が多く見られる。377は赤化した砂岩礫の不明石製品で、皿のような形状を呈している。

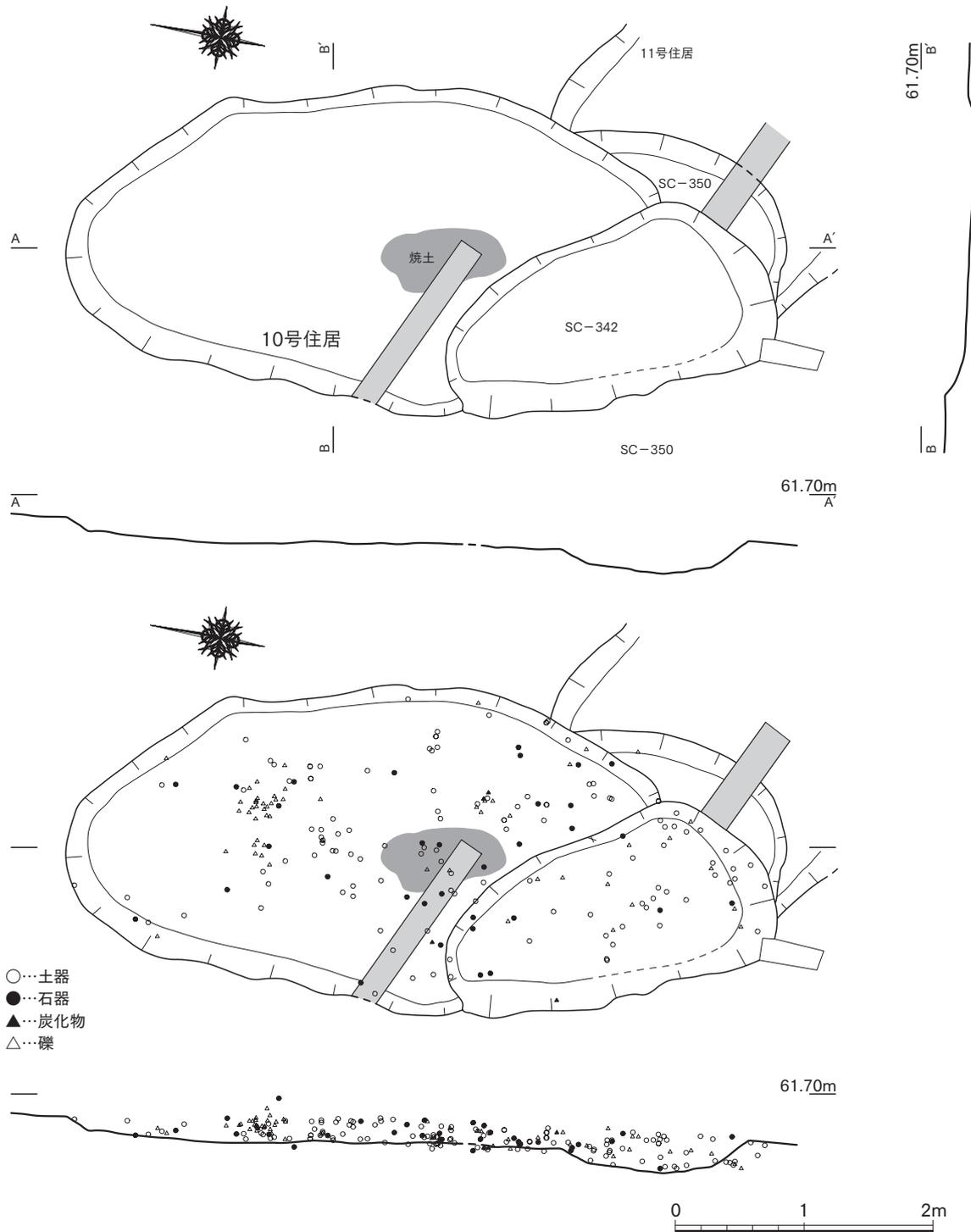
8号住居跡は遺構上部を7・9号住居跡に切られており、また北西部をSC-323に切られているため平面形は不明瞭だが、現状では4.98m×3.62mの不整楕円形プランを呈し、残存する深さは14cmを測る。床面中央よりやや東側付近では炭化物の集中が見られ、また数点の礫とともにNo.378がつぶれたような状態で検出されており、明確な焼土は検出されなかったものの、この辺りに炉が設定されていた可能性が考えられる。なおここで検出された炭化物を放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で11710±40BPという年代が得られている。遺構埋土からは土器片101点、石器24点(チャート製石鏃1点・ホルンフェルス製スクレイパー1点・砂岩製敲



第64図 8号住居跡出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2)



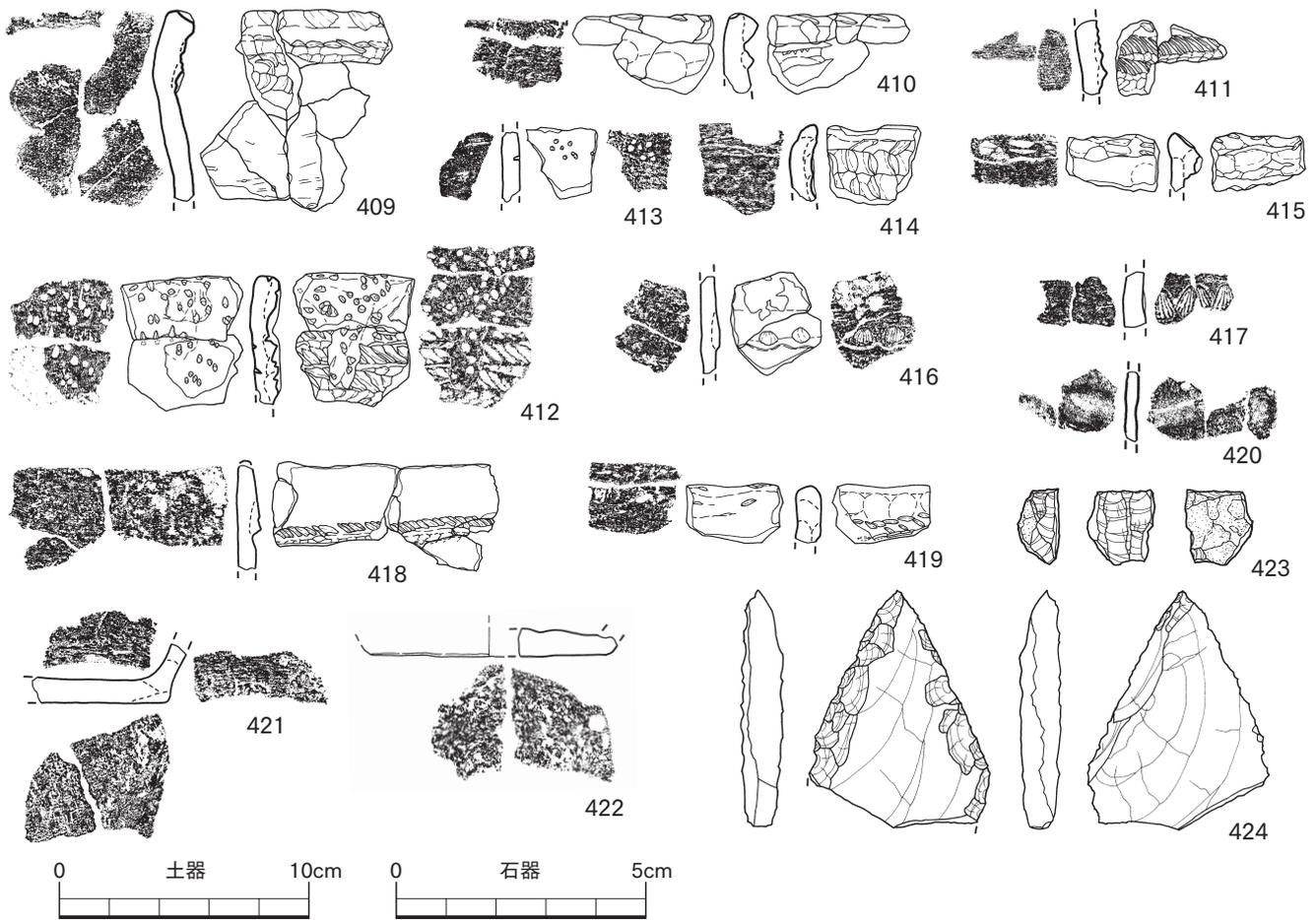
第65図 9号住居跡出土遺物実測図及びSC-323出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2)



第66図 10号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50)

石 1 点・砂岩製石皿 2 点・頁岩製石斧調整剥片 1 点・剥片 17 点：頁岩 5・砂岩 6・ホルンフェルス 6、ホルンフェルス製石核 1 点)、礫 40 点)が出土しており、6号・7号住居跡・SC-323 と土器の接合関係が確認されている。

378・381・382・384・385 は隆帯文土器 2 類である。378 はおおむね完形品に接合できた資料で、口縁部は内傾し、胴部に最大径をもつ形状を呈しており、口縁径は 34.4cm、器高 34.7cm、底部径 16cm を測る。384・385 はつまみによる隆帯の上にキザミや方形の刺突文を施している。380・383 は隆帯文土器 1c 類である。383 は下部の隆帯だけキザミを施す。386・387 は爪形文土器 1 類である。388 は不明土製品である。下部を欠損しており全体の形状は不明である。現状では船の舳先か注ぎ口のような形状を呈する。389 は打製石鏃 D 類である。390 はホルンフェルス製のスクレイパーで、光沢が見られる。使用石材やバルブがはっきり見られないことから石斧の



第67図 10号住居跡出土遺物実測図① (S=1/3・2/3)

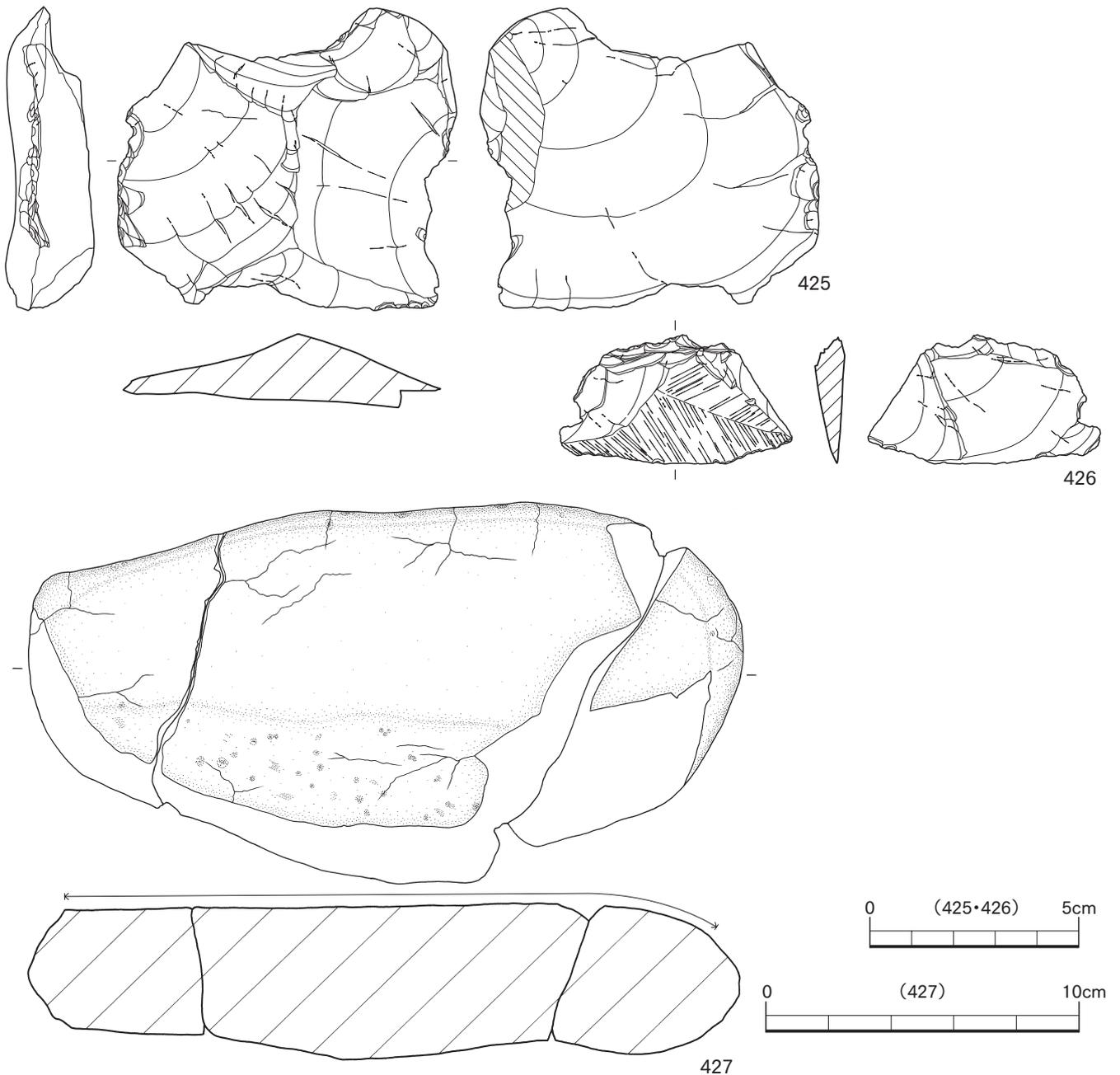
調整剥片を使用したものの可能性がある。391は扁平な砂岩礫を使用する敲石で、使用痕の剥離面が見られる。

9号住居跡は南西部を旧石器時代の遺物包含層の確認トレンチによって掘削してしまい、また北西部は7号住居跡に切られているため平面形は不明瞭だが、現状では5.26m以上×5.2mの不整円形プランを呈している。本遺構の深さは土層観察から34cmを測る。遺構埋土からは土器片40点、石器11点(チャート製石鏃2点、砂岩製敲石1点、剥片8点:頁岩4・砂岩3・尾鈴山酸性岩1)、礫47点が出土しており、2号・6号・7号住居跡と土器の接合関係が確認されている。

392～399は隆帯文土器4類である。394は貝殻押圧文が3段施文されており、その1段目と2段目の間には爪形文も施されている。反転復元による口縁部径は22cmを測る。397は肥厚帯部分には縦位の貝殻押し引き文が施文され、下部にはつまみによる隆帯が1条巡らされている。400・401は土製円盤である。両者共に一部を欠損している。400は長さ3.15cm、幅2.4cm以上、厚さ1cmを測る。401は長さ6.75cm、幅6.2cm、厚さ1cmを測り、焼成前の穿孔が確認される。402は打製石鏃D類である。403は打製石鏃C類で、素材の剥片の形状を大きく残す。404は尾鈴山酸性岩製剥片で、405は砂岩製敲石である。

SC-323は2.16m×1.38mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは52cmを測る。遺構埋土からは炭化物が検出されており、放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で11450±40BPという年代が得られている。その他に土器片34点、石器12点(桑ノ木津留産黒曜石製石鏃1点、砂岩製スクレイパー1点、砂岩製敲石1点、剥片8点:頁岩3・砂岩3・ホルンフェルス2)、礫7点が出土しており、5号・7号・8号住居跡と土器の接合関係が確認されている。406は打製石鏃D類である。407はスクレイパーである。408は敲石である。

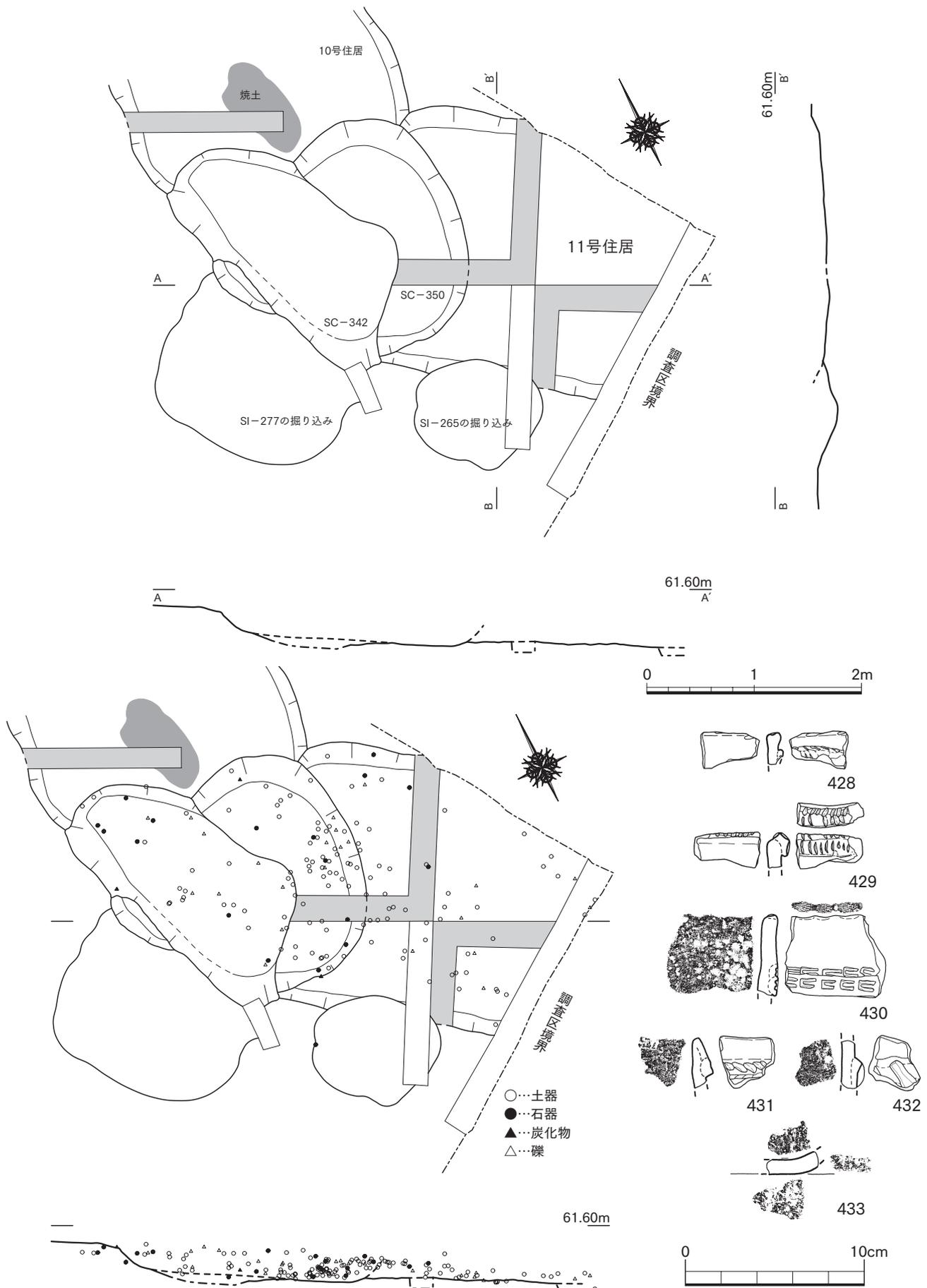
10～11号住居跡は7～9号住居跡の南西側に位置する。これらは縄文早期の集石遺構SI-277及びSI-265によって切られており、またSC-342・350とも切り合い関係にある。その新旧関係は遺構検出時及び土層観察によって11号住居跡→SC-350→10号住居跡→SC-342の順に構築されていたことが分かった。10号住居跡を除くこれらは土層観察用のあぜを一部残して現状保存されている。



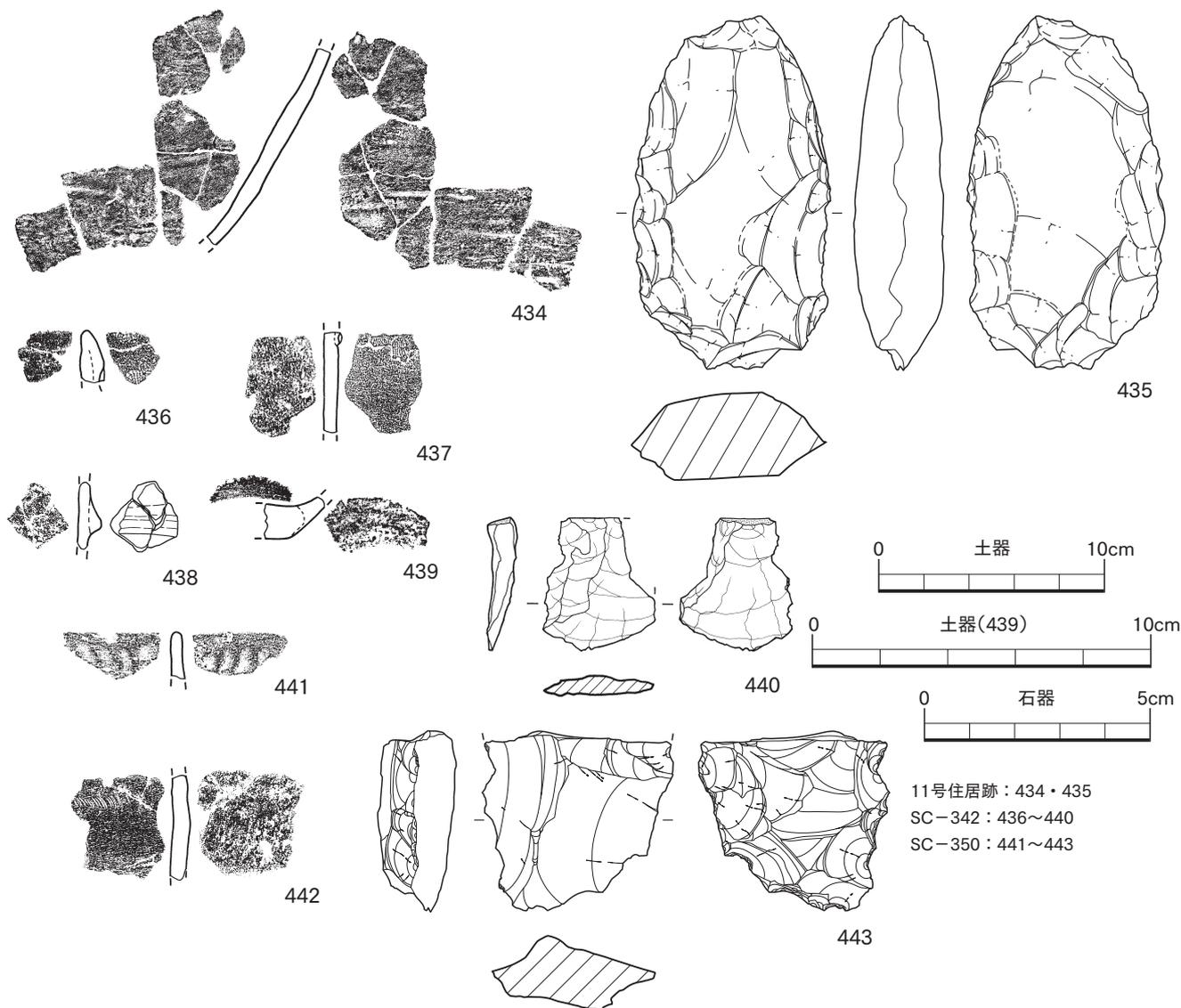
第68図 10号住居跡出土遺物実測図② (S=1/2・2/3)

10号住居跡は南西部をSC-342に切られており平面形は不明瞭だが、現状では4.18m×2.24mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは16cmを測る。床面中央部付近に95cm×47cmの範囲で焼土が検出されており地床炉と考えられる。炉跡付近の炭化物を放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で11470±60BPという年代が得られている。遺構埋土からは土器片86点、石器26点(上牛鼻産黒曜石製細石刃核1点、スクレイパー2点：チャート1・砂岩1、石斧調整剥片6点：頁岩4・緑色堆積岩2、砂岩製石皿1点、剥片16点：頁岩6・チャート1・桑ノ木津留産黒曜石2・砂岩6・尾鈴山酸性岩1)、礫46点が出土しており、11号住居跡・SC-342と土器の接合関係が確認されている。

409・411・412は隆帯文土器2類である。412は内外面共に刺突文が施されている。413は外面に刺突文のみ施されている。414は爪形文土器1類である。415は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器1c類か3類か分類できないが、口唇部直下につまみによる隆帯をめぐらせ、口唇部もつまみ上げて整形している。416～419は隆帯文土器4類である。420は胴部片で、421・422は底部片である。423は細石刃核A類に分類される。424・425はスクレイパーである。424は片面調整で先端部を持つ。426は石斧調整剥片である。427は石皿である。



第69図 11号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50) 及び出土遺物実測図① (S=1/3)



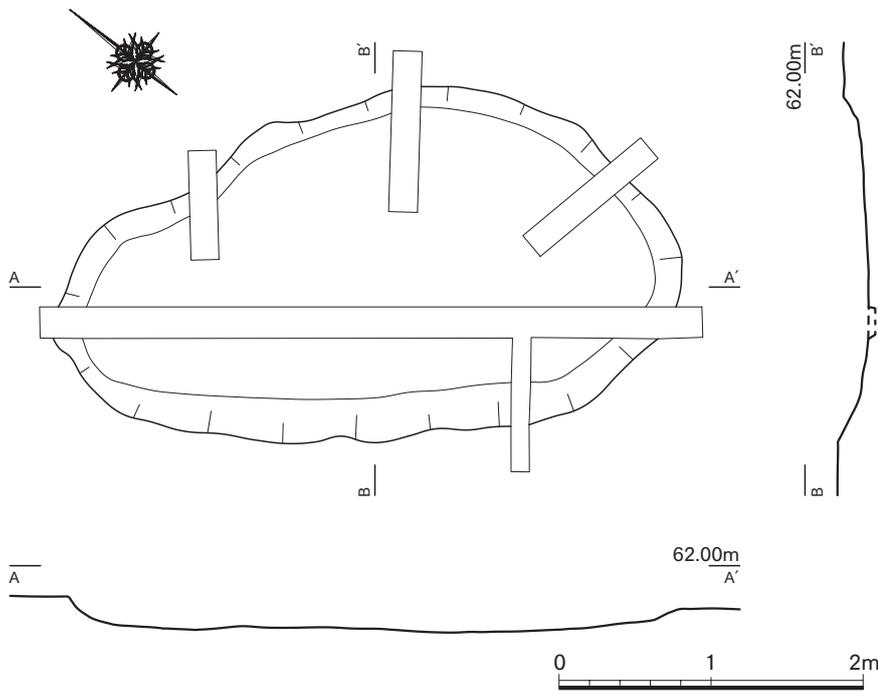
第70図 11号住居跡出土遺物実測図②及びSC-342・SC-350出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2)

11号住居跡は南東部を旧石器時代の遺物包含層の確認トレンチによって掘削してしまい、また北西部を10号住居及びSC-342・350に切られているため平面形は不明瞭だが、現状では2.76m以上×2.08mの不整形プランを呈し、検出面からの深さは20cmを測る。遺構埋土からは土器片49点、石器6点(ホルンフェルス製石斧1点、砂岩製石皿1点、剥片4点:頁岩2・砂岩1・桑ノ木津留産黒曜石1、砂岩製石核1点)、礫12点が出土しており、10号住居跡と土器の接合関係が確認されている。

428は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器2類か3類か分類できない。429は隆帯文土器3類で、口唇部に爪形文が見られる。430～432は隆帯文土器4類である。430は貝殻押圧文と原体が貝殻と推定される押し引き文が施されている。431は肥厚帯下部につまみによる隆帯文がみられ、432はキザミが施されている。433は底部片で、434は胴部片である。435はホルンフェルス製の石斧だが、刃部が不明瞭で未製品の可能性もある。

SC-342は2.6m×1.3mの不整形楕円形プランを呈し、検出面からの深さは28cmを測る。遺構埋土からは土器片26点、剥片6点(頁岩4・チャート1・尾鈴山酸性岩1)、礫11点が出土しており、10号住居跡と土器の接合関係が確認されている。436～438は隆帯文土器4類である。436・437は貝殻押圧文、438はつまみ隆帯文を一条施す。439はミニチュアの皿形土器である。440は尾鈴山酸性岩製の剥片である。

SC-350は2.32m×2.18mの不整形隅丸三角形プランを呈し、検出面からの深さは34cmを測る。遺構埋土からは土器片41点、石器8点(頁岩製スクレイパー1、剥片:頁岩4・桑ノ木津留産黒曜石2・白浜産黒曜石1)、礫



第71図 12号住居跡実測図 (S=1/50)

3点が出土している。441は口縁部片で指頭痕が見られる。442は無文の胴部片で内面に爪形文が見られる。443はスクレイパーで主要剥離面側の調整が著しい。

12号住居跡は10・11号住居跡の北西部に位置する。3.62m × 1.8mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは18.5cmを測る。遺構埋土からは土器片18点、石器14点(砂岩製スクレイパー2点、砂岩製石皿1点、剥片11点:頁岩1・砂岩10)、礫61点が出土している。

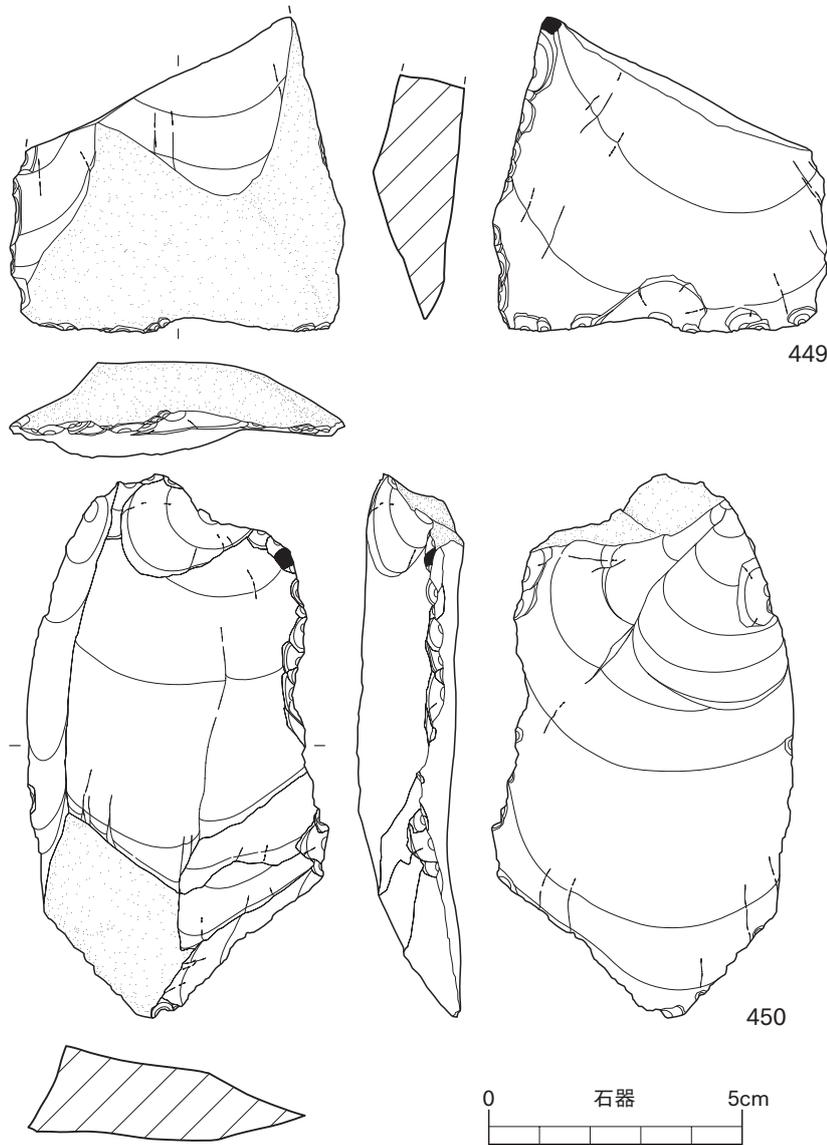
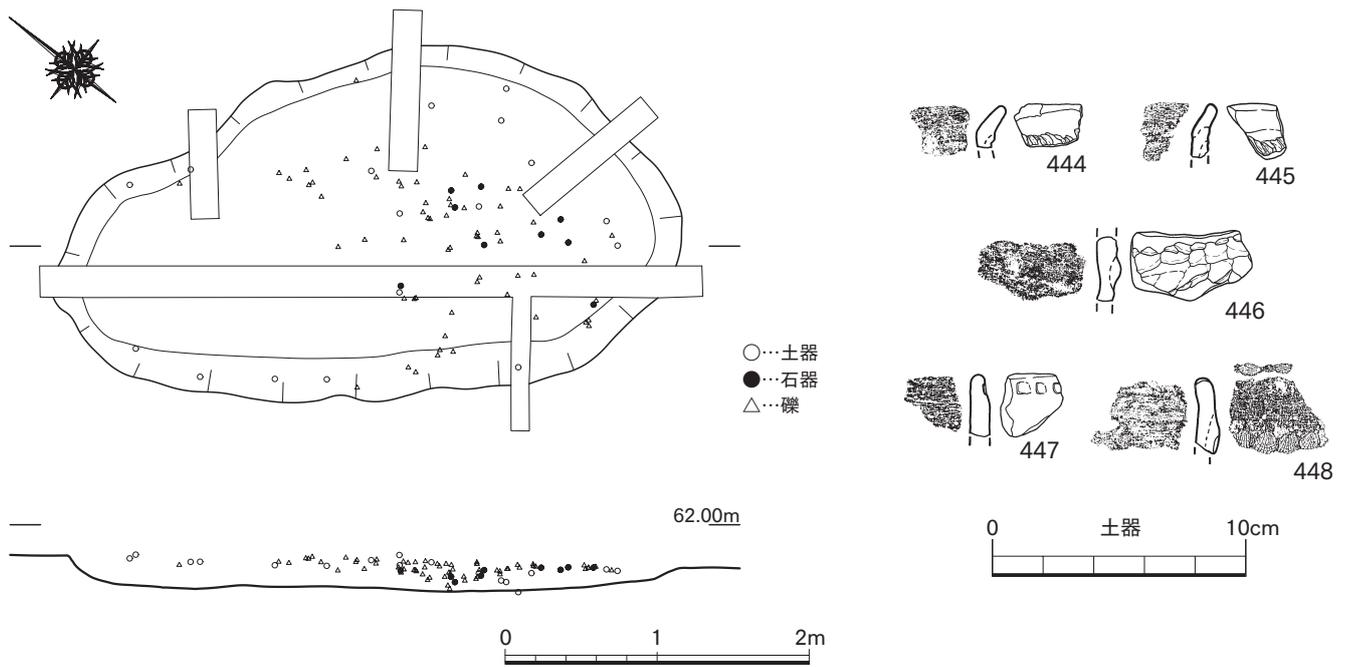
444・445は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器2類か3類か分類できない。446～448は隆帯文土器4類である。449・450はスクレイパーである。449は上部が欠損している。

13号住居跡は12号住居の南に位置する。北側に攪乱を受け、南側はSC-349に切られており平面形は不明瞭だが、現状では4.24m × 2.22mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは17cmを測る。床面中央部付近に65cm × 55cmの範囲で焼土が検出されており地床炉と考えられる。また床面の掘り込みの周囲には2基の柱穴が見られる。これらは直径30cm前後で検出面からの深さは6～7cmを測る。遺構埋土からは土器片54点、石器22点(スクレイパー4点:頁岩1・チャート1・ホルンフェルス1・緑色堆積岩1、緑色堆積岩製石斧1点、砂岩製敲石1点、頁岩製石斧調整剥片1点、剥片14点:頁岩2・チャート2・桑ノ木津留産黒曜石3・砂岩5・尾鈴山酸性岩2、桑ノ木津留産黒曜石製石核1点)、礫25点が出土しており、7号住居跡と土器の接合関係が確認されている。

451～453は隆帯文土器2類である。453は口縁部につまみによる隆帯を巡らせ、その下に押圧による隆帯、その下につまみによる隆帯を施すもので、反転復元による口縁部径は20.2cmを測る。454は底部付近の破片である。455～458はスクレイパーである。459は石斧だが、刃部が不明瞭で剥離面を多く残しているため未製品か再加工品と考えられる。460は尾鈴山酸性岩製の剥片である。461は砂岩製の敲石と磨石の兼用品で平坦面に磨面を両端部に敲打痕がみられる。

14号住居跡は13号住居の南西側に位置する。本遺構の東部は調査区外に延びており、SC-325・326・338・339と切り合い関係にあるので平面形が不明瞭であるが、現況では4.62m以上 × 3.62mの不整円形プランを呈し、検出面からの深さは38cmを測る。床面の掘り込みの周囲には直径24cmで検出面からの深さは16cmの柱穴が1基見られる。切り合い関係にある土坑は全て14号住居跡よりも新しいことが遺構検出時に確認されている。遺構埋土からは炭化物が検出されており、放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で11400 ± 40BPという年代が得られている。西側壁面付近にNo.475がまとまって出土した。その他に土器片153点、石器148点(頁岩製尖頭器1、石鏃17点:頁岩3・安山岩8・チャート9、安山岩製石錐1点、砂岩製スクレイパー3点、砂岩製敲石4点、頁岩製石斧調整剥片1点、剥片117点:頁岩30・チャート24・桑ノ木津留産黒曜石3・安山岩13・砂岩41・緑色堆積岩5・ホルンフェルス1、石核4点:頁岩1・西北九州産黒曜石1・砂岩2)、礫157点が出土しており、7号住居跡と土器の接合関係が確認されている。

462～464は隆帯文土器2類である。465～467は隆帯文部の欠損のため隆帯文土器2類か3類か分類できない。467は不明の押圧文である。468・469は隆帯文土器3類で、468は隆帯上に貝殻腹縁刺突文が見られ、469は無文である。470～481・484～486は隆帯文土器4類である。471は刺突文と貝殻押圧文が施されている。473・474は貝殻押圧文が2段見られる。475は押し引き文と貝殻押圧文が施されており、反転による復元口縁部径は17.6cmを測る。476・477は方形の押圧文が施されている。478は従位の沈線文が施されている。479は押圧文



と2段の爪形文が見られ、反転による復元口縁部径は32.4cm、胴部最大径は33.4cmを測る。482・483は爪形文土器1類である。482は従位の483は横位の爪形文を施している。487・488は底部付近の破片である。489～498は打製石鏃である。489はA類に、490～493はD類に、494～498はF類に分類される。499～502は石鏃の未製品である。503は周辺加工の尖頭器である。素材剥片の形状を大きく残すが平面形は木葉形を呈する。504は石錐である。505はスクレイパーで光沢が見られる。506は石核である。507～510は砂岩製敲石である。

## 2. その他の遺構について

### (第81図～第95図)

本項では竪穴住居跡以外の報告を行う。なお、土坑については形状や出土遺物を考慮し細分している。なお、切り合い関係にある遺構や近接するものは同じ図面上に掲載しているが、所見は各遺構で記載する。

第72図 12号住居跡出土遺物分布図 (S=1/50) 及び出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)

### 貯蔵穴(第 81 図)

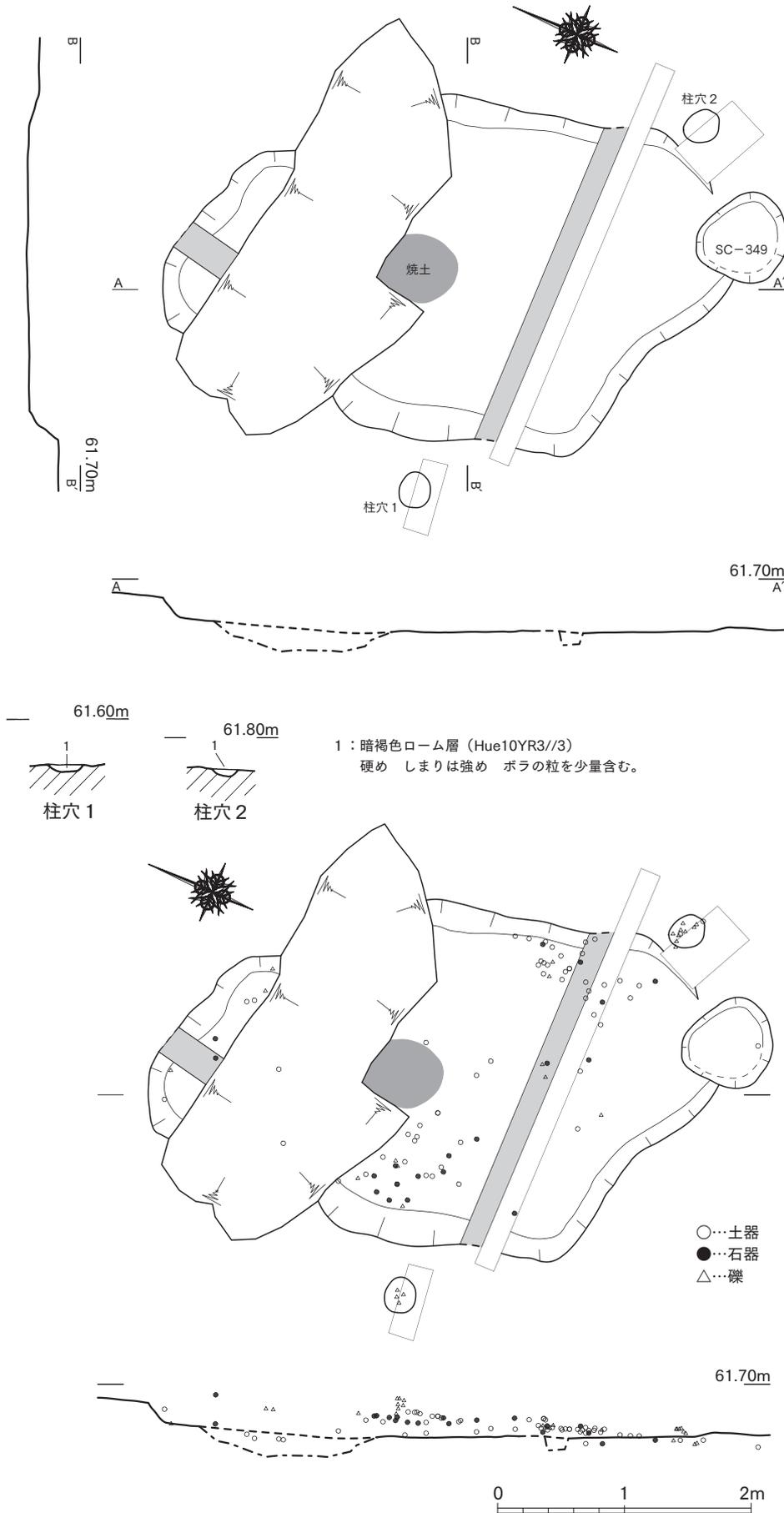
この2基の土坑は断面形が袋状を呈するもので、いわゆる貯蔵穴に分類される土坑である。

SC-327は1号住居跡の北東部に位置する。検出面でのプランは0.93m×0.75mの不整楕円形で、深さは73cmを測る。遺構埋土中からは桑ノ木津留産黒曜石製剥片3点と同石材の石核1点が出土している。

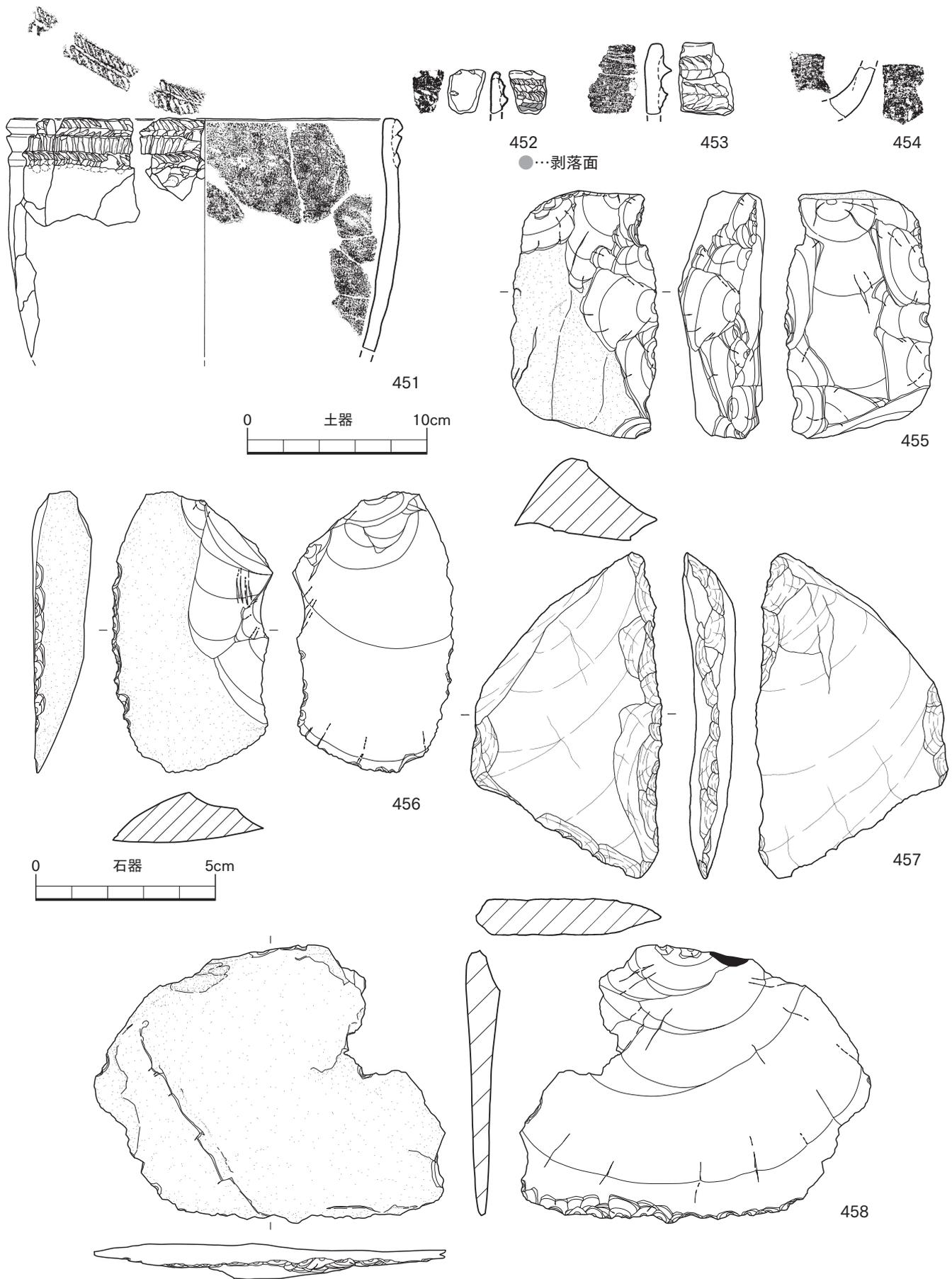
SC-329は14号住居跡の南西部に位置する。検出面でのプランは0.77m×0.69mの不整楕円形で、深さは78cmを測る。遺構埋土中からは土器片4点、石器48点(頁岩製細石刃核1点、石鏃4点:安山岩3・桑ノ木津留産黒曜石1、チャート製石錐1点、剥片42点:頁岩8・チャート5・桑ノ木津留産黒曜石1・安山岩27・砂岩1・ホルンフェルス1)が出土している。511は小片で細分が難しいが爪形文土器1類であろう。512は剥片素材の細石刃核C類に分類される。513～515は打製石鏃で513はD類に、514・515はF類に分類される。516は石錐である。

### 炉跡(第 82 図)

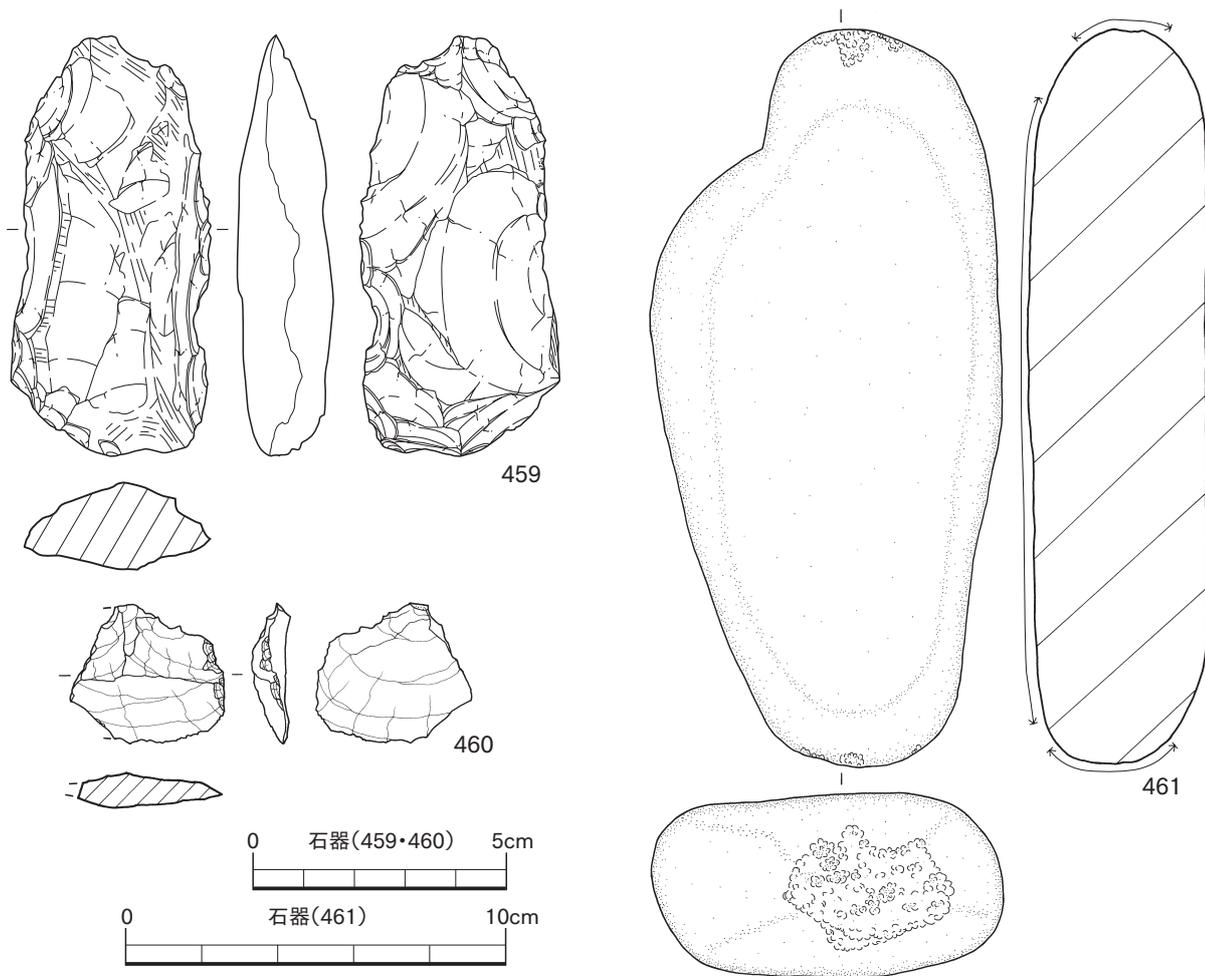
SC-321は2号住居跡の東側に位置する。本遺構は遺構埋土を半分だけ掘削して調査を行い、現状保存されている。0.8m×0.56mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは12cmを測る。床面には焼土が広く検出されており、埋土にも焼土、炭化物粒が混入していた。屋外炉の可能性が考えられる。



第73図 13号住居跡実測図及び出土遺物分布図 (S=1/50)



第74图 13号住居跡出土遺物実測図① (S=1/3・2/3)



第75図 13号住居跡出土遺物実測図② (S=2/3・1/2)

#### 炉穴(第 82 図)

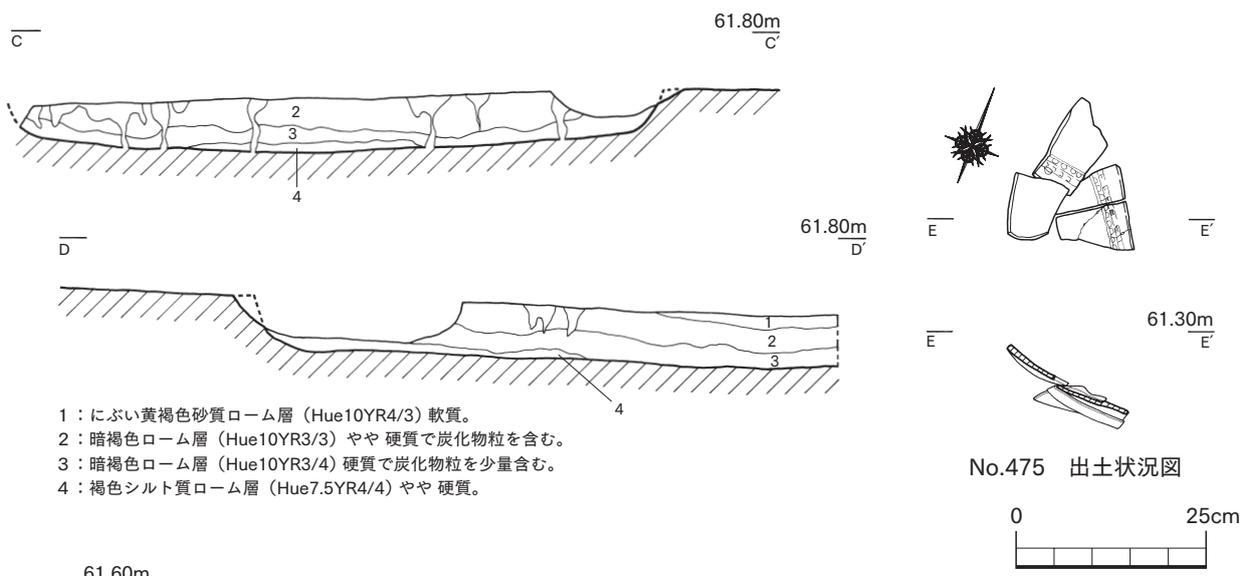
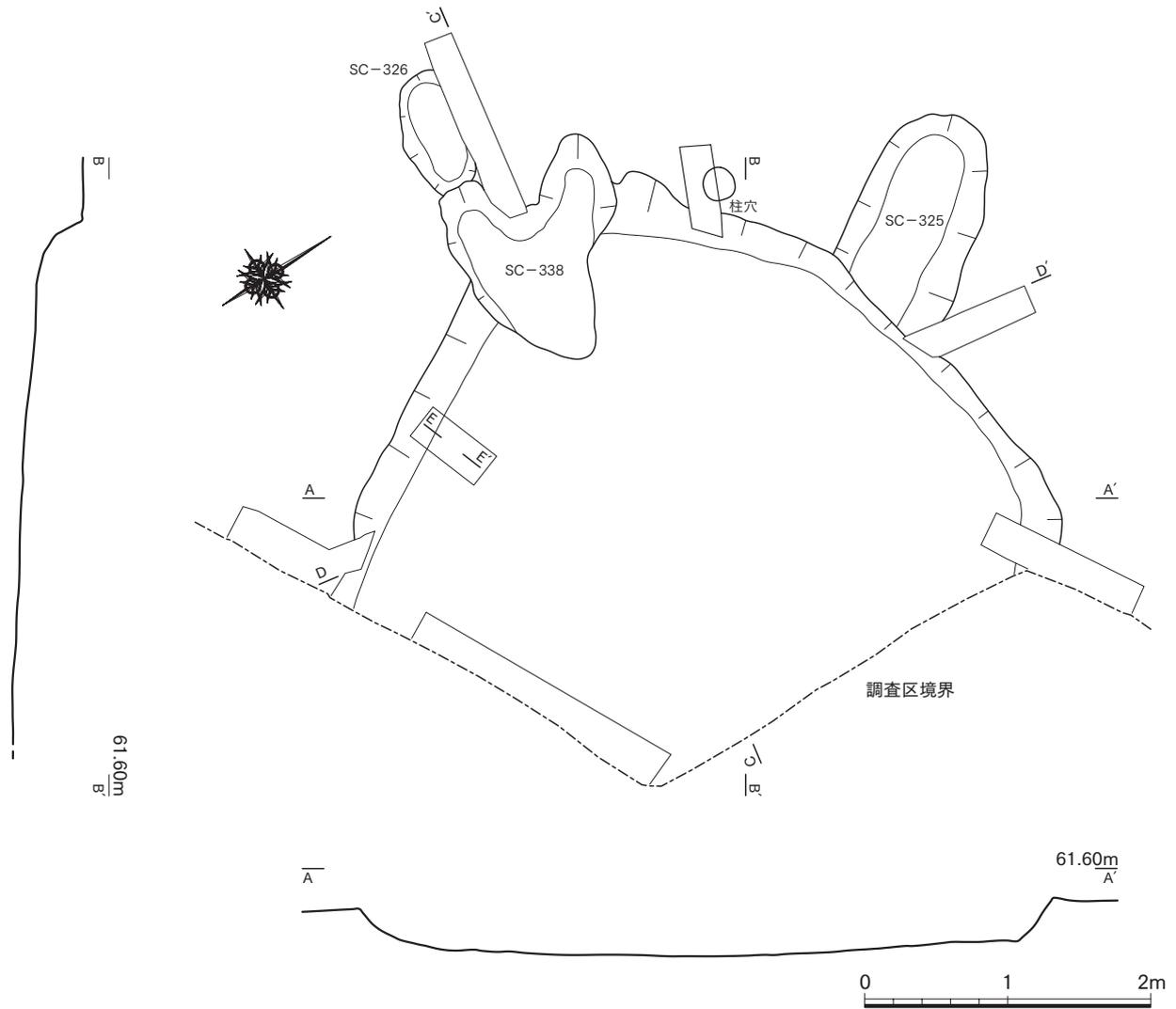
SC-338 は 14 号住居跡と SC-326 と切り合い関係にあり、遺構検出時の平面プランの観察及び土層観察から 14 号住居よりも新しく、SC-326 に切られていることがわかっている。北側には SC-339 が近接している。1.56m×1.52m の二股に分かれる平面形状で、西側に向けて深くなっており検出面からの最深部は 40cm を測る。二股に分かれる床面部分には広く焼土が見られ、分かれた北側部分には一部、南側部分のほぼ全面に焼土が検出されている。平面プランは縄文早期にもみられる炉穴によく似た形状で同様の用途が想定されるが、床面の焼土の範囲が広く見られる点が相違点である。遺構埋土から土器片 3 点、剥片 3 点(頁岩 1・砂岩 1・安山岩 1)が出土している。518 は隆帯文土器 4 類である。

#### 集石遺構(第 83 図)

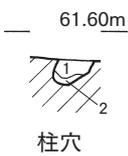
SI-56 は 12 号住居跡の北側に位置する。規模は 0.92m×0.83m の不整円形プランで検出面からの深さが 25cm の掘り込みを有し、礫の総数は 154 個、総重量 8.1kg を量る。敷石はなく掘り込みの上部に礫はとどまり、その下からは土器片 1 点、剥片 5 点(頁岩 1・砂岩 4)が出土している。遺構内からは炭化物が検出されており、放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で 11480±60BP という年代が得られている。

SI-85 は 2 号住居跡の北側 43m ほど離れたところで検出された。規模は 1.6m×1.3m の不整楕円形プランで検出面からの深さが 24cm の掘り込みを有し、礫の総数は 517 個、総重量 141.9kg を量る。敷石はなく比較的大振りの礫がぎっしりと詰まっている印象を受けた。遺構内からは炭化物が検出されており、放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で 11690±40BP という年代が得られている。

SI-55 は 2 号住居跡の北側 31m ほど離れたところで検出された。縄文早期の炉穴 SC-31 に切られている。規模は 1.12m×0.79m の不整楕円形プランで検出面からの深さが 15cm の掘り込みを呈し、礫の総数は 84 個、総重量 15.1kg を量り、敷石はない。遺構内からは炭化物が検出されたため、放射性炭素年代測定を行ったが補

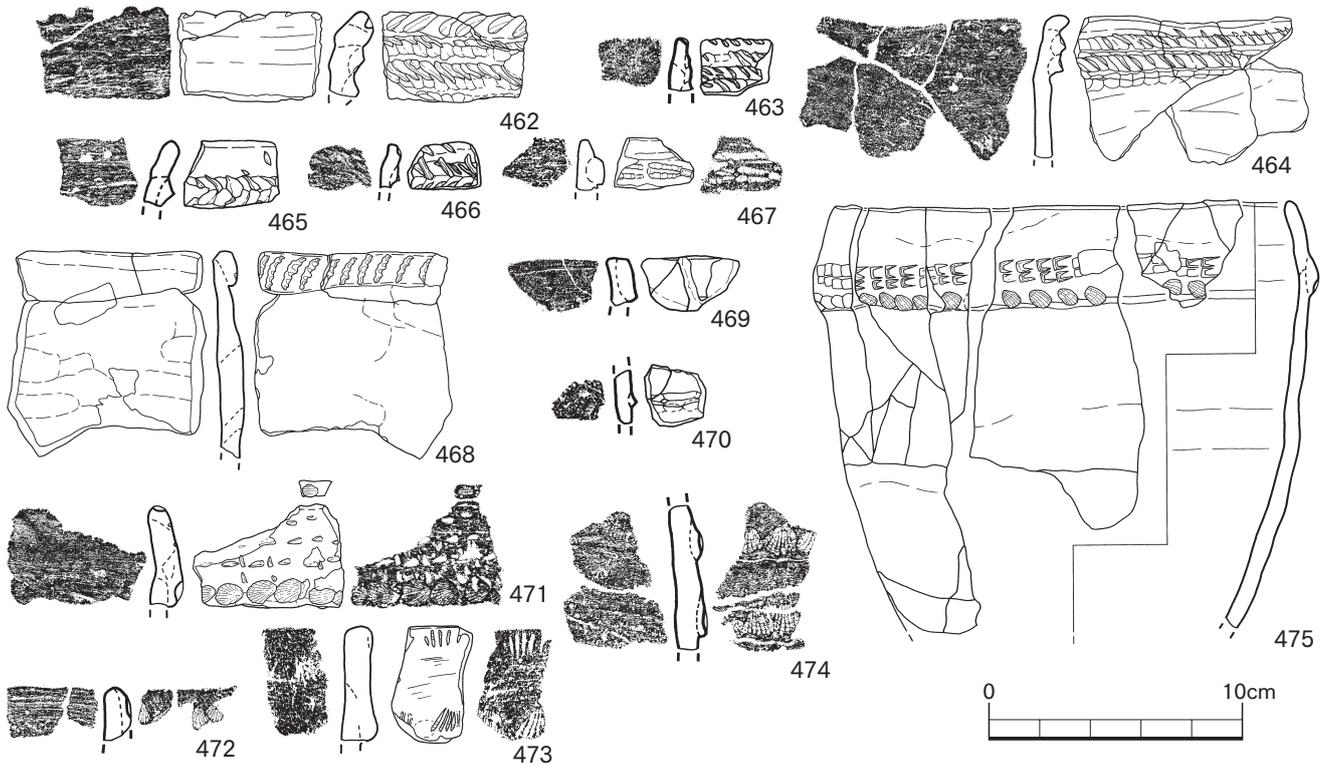
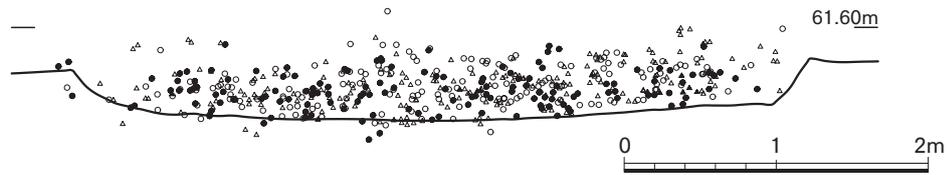
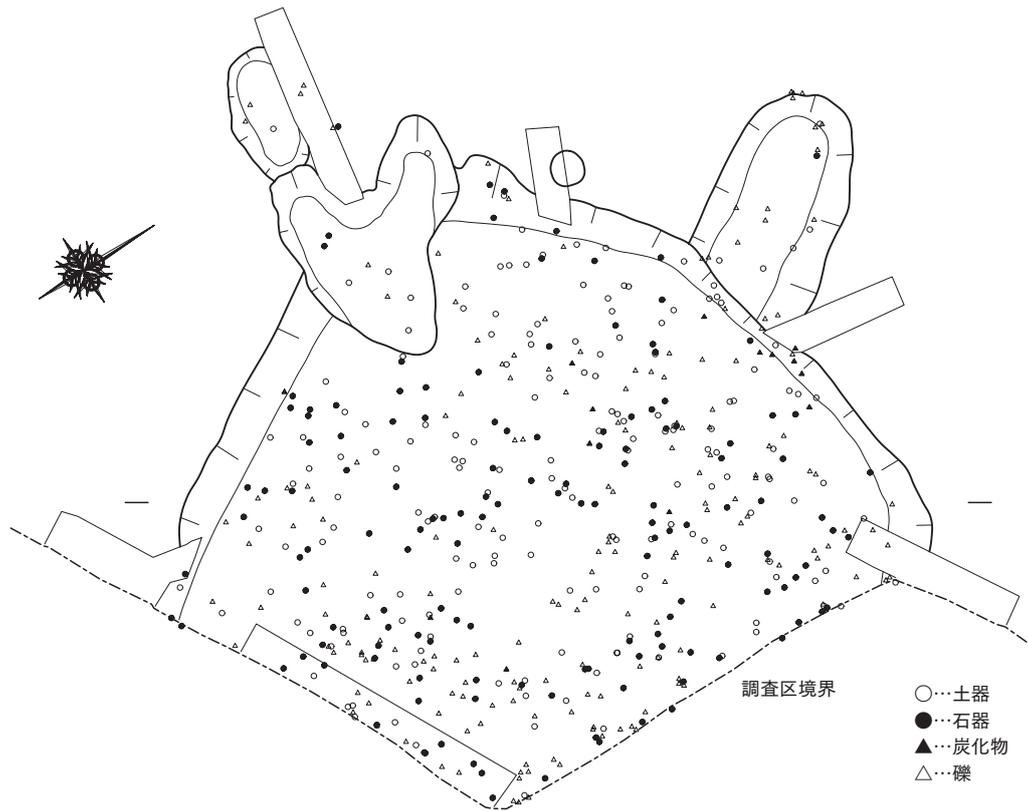


- 1：にぶい黄褐色砂質ローム層 (Hue10YR4/3) 軟質。
- 2：暗褐色ローム層 (Hue10YR3/3) やや硬質で炭化物粒を含む。
- 3：暗褐色ローム層 (Hue10YR3/4) 硬質で炭化物粒を少量含む。
- 4：褐色シルト質ローム層 (Hue7.5YR4/4) やや硬質。

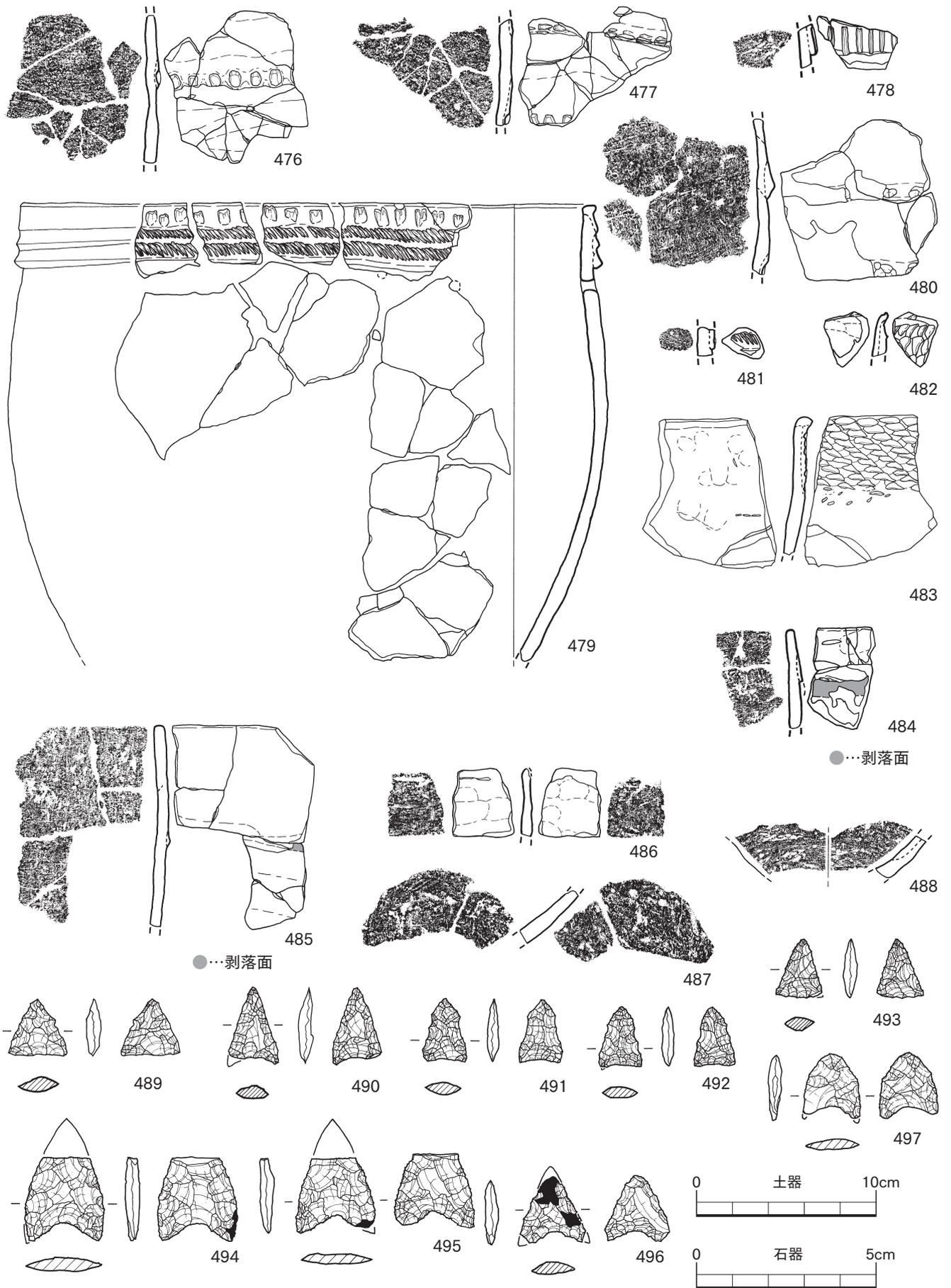


- 1：暗褐色ローム層 (Hue10YR3/4) 硬め しまりは強め ポラの粒を少量含む。
- 2：黒褐色ローム層 (Hue10YR3/2) 硬め しまりは強め ポラの粒を少量含む。

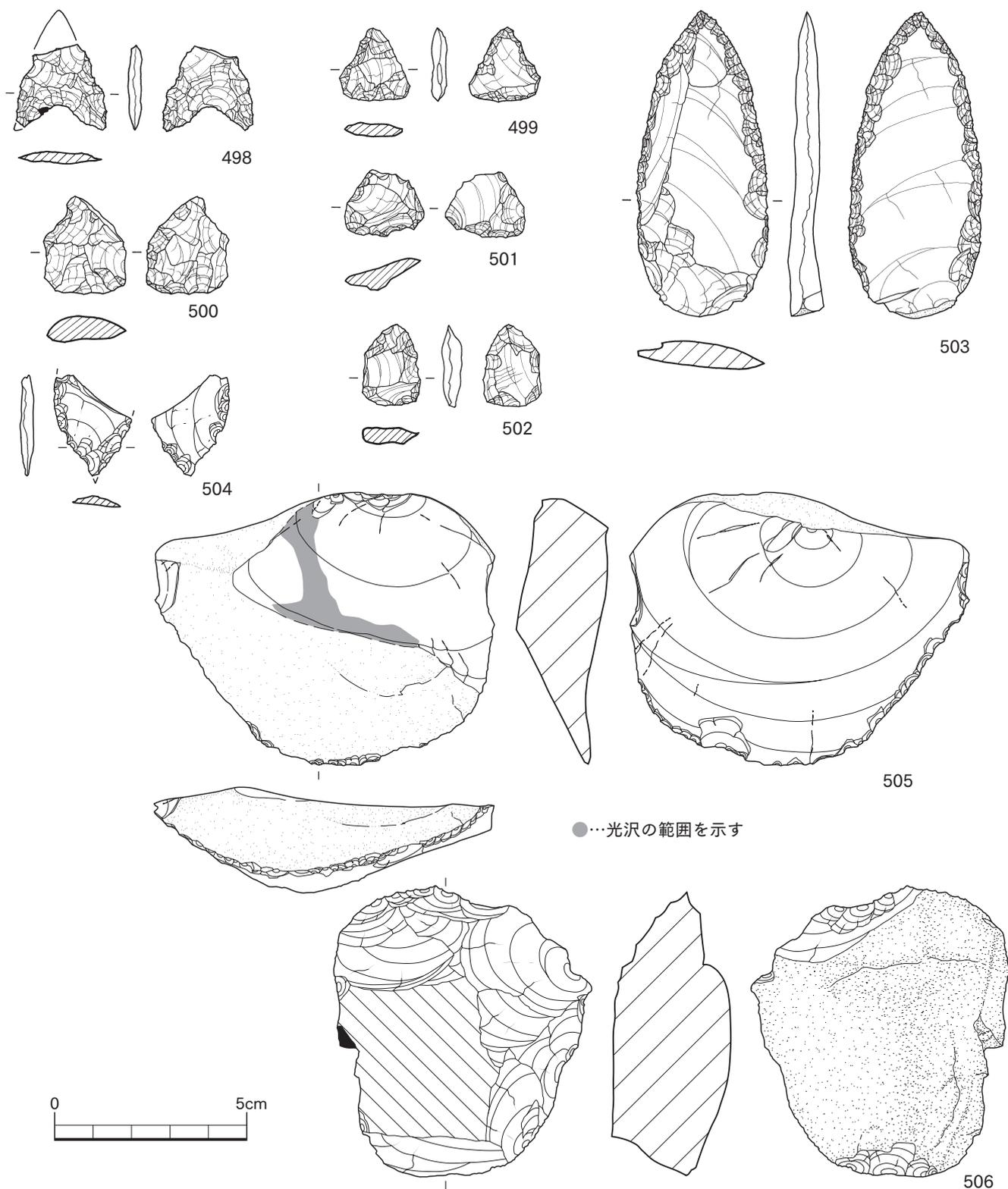
第76図 14号住居跡実測図 (S=1/50) 及び遺物出土状況図 (S=1/10)



第77図 14号住居跡出土遺物分布図 (S=1/50) 及び出土遺物実測図① (S=1/3)



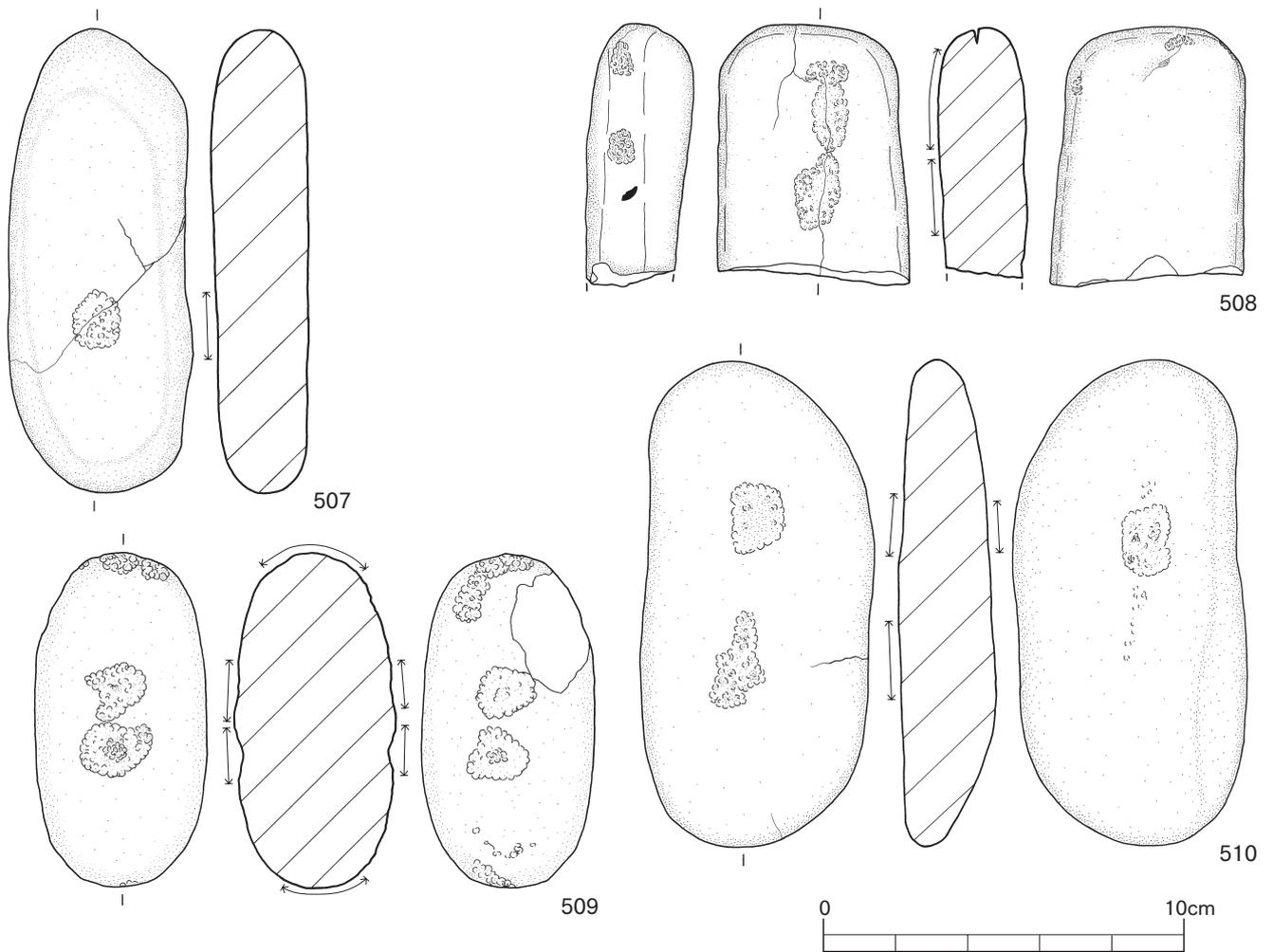
第78图 14号住居跡出土遺物実測図② (S=1/3・2/3)



第79図 14号住居跡出土遺物実測図③ (S=2/3)

正年代で  $2010 \pm 40\text{BP}$  という草創期とはかけ離れた結果が出ている。

SI-279 は 9 号住居跡と 11 号住居跡の間で検出された。縄文早期の集石遺構 SI-253 に切られており平面プランは不明瞭だが、現状での規模は  $0.99\text{m} \times 0.9\text{m}$  の不整円形プランで検出面からの深さが  $17\text{cm}$  の掘り込みを呈し、礫の総数は 132 個、総重量  $15.6\text{kg}$  を量り、敷石はない。遺構埋土は SI-85 とよく似た印象を受けた。遺構内からは炭化物が検出されたため、放射性炭素年代測定を行ったが補正年代で  $1320 \pm 40\text{BP}$  という草創期とはかけ離れた結果が出ている。



第80図 14号住居跡出土遺物実測図④ (S=1/2)

その他の土坑(第 82 図・第 84 図・第 85 図)

SC-218 は 1・34m×0.99m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 26cm を測る。東側は緩やかに立ち上がる。遺構埋土から土器片 5 点、剥片 4 点(頁岩 1・チャート 1・砂岩 2)が出土している。

SC-246 は南東部が調査区外に延びており、平面形が不明瞭だが現状で 1.1m 以上 × 1.06m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 18cm を測る。遺構埋土からは土器片 8 点、チャート製石鏃 1 点、剥片 7 点(頁岩 3・チャート 2・安山岩 2)が出土している。520 は打製石鏃 E 類である。

SC-250 は SC-349 に切られ、南東部が調査区外に延びており、平面形が不明瞭だが現状は 1.53m 以上 × 0.99m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 27cm を測る。遺構埋土から土器片 18 点、石器 7 点(チャート製石鏃 1、頁岩製石核 1、剥片 5: 頁岩 3・チャート 2)が出土している。521 は隆帯文土器 4 類である。

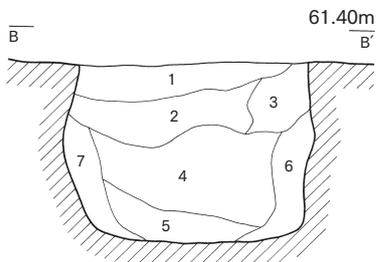
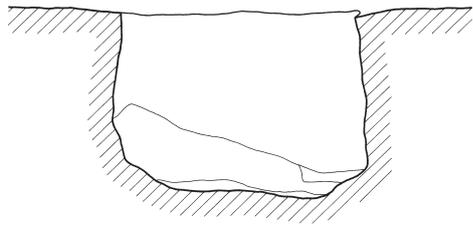
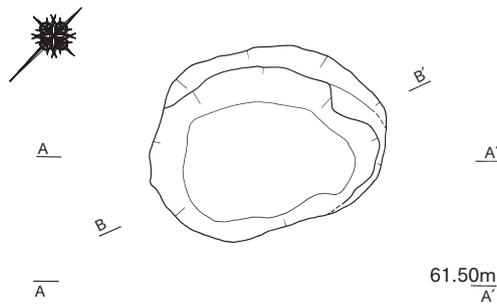
SC-296 は縄文早期の集石遺構 SI-187 に切られ平面形が不明瞭だが、現状で 0.7m 以上 × 0.65m 以上の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 18cm を測る。遺構埋土から土器片 1 点が出土している。

SC-298 は 1・18m×0.95m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 45cm を測る。遺構埋土から土器片 1 点が出土している。

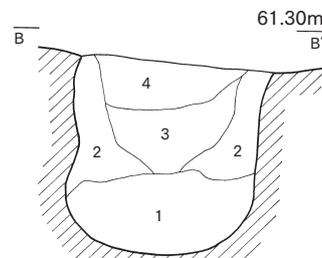
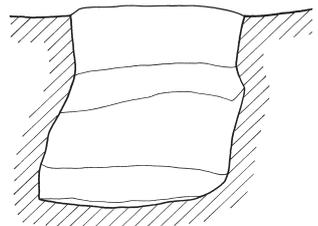
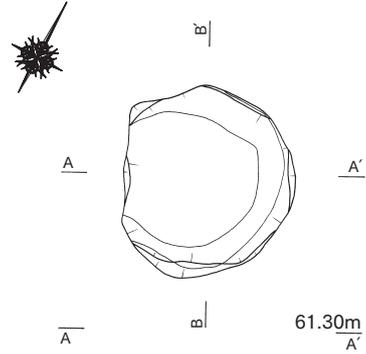
SC-301 は 5 号住居跡を切っている。0.95m×0.83m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 19cm を測る。

SC-306 は 1.49m×1.22m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 9cm を測る。床面の東側で大振りの扁平礫が、中央部では No. 522 まとまって出土した。522 は隆帯文土器 2 類で反転復元による口縁部径は 17.4cm を測る。

SC-319 は 2.18m×1.41m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 7cm を測る。遺構埋土からは土器片 6 点、緑色堆積岩製石斧調整剥片 2 点が出土している。



SC-327



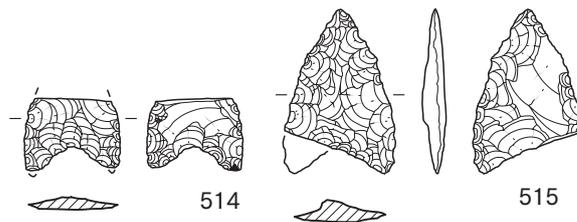
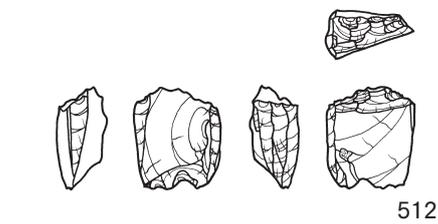
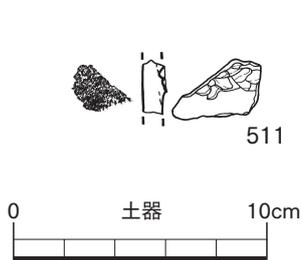
SC-329



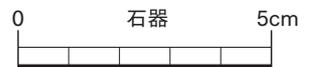
- 1：褐色ローム層 (Hue10YR4/4)。
- 2：暗褐色ローム層 (Hue10YR3/3)。
- 3：褐色ローム層 (Hue10YR4/4)。
- 4：暗褐色シルト質ローム層 (Hue10YR3/4)。
- 5：暗褐色シルト質ローム層 (Hue10YR3/4)。
- 6：にぶい黄褐色ローム層 (Hue10YR4/3)。
- 7：褐色シルト質ローム層 (Hue10YR4/4)。

- ※1・3はやや軟質。
- 2・5・6はやや硬質。
- 4・7は硬質。
- 2は炭化物を少量含む。
- 5～7はシラスブロックを少量含む。

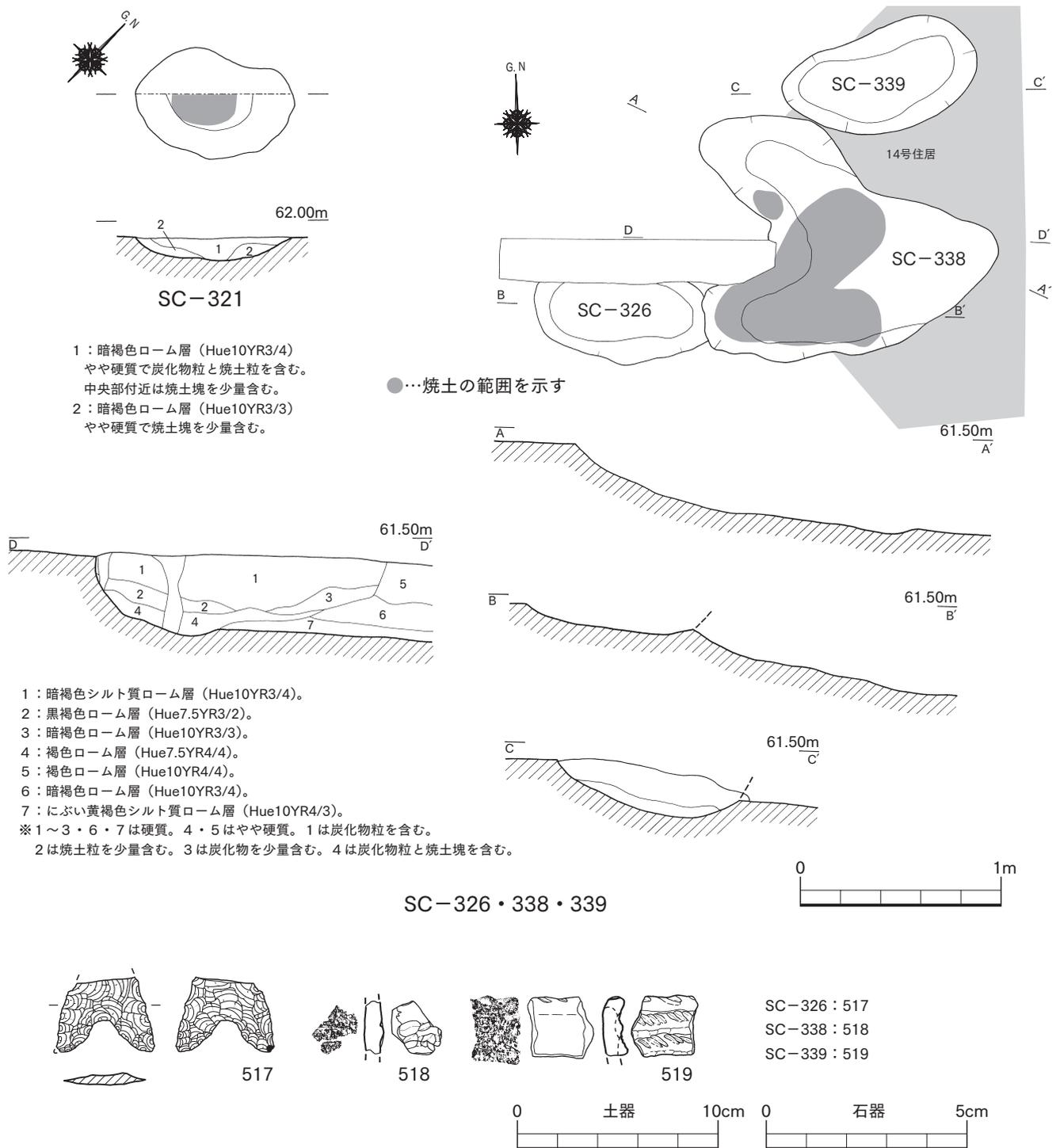
- 1：褐色砂質ローム層 (Hue10YR4/4)。
- 2：褐色砂質ローム層 (Hue10YR4/4)。
- 3：暗褐色シルト質ローム層 (Hue10YR3/4)。
- 4：黒褐色シルト質ローム層 (Hue10YR3/2)。
- ※全て硬質。1・2はシラスを多く含む。
- 3はシラスを少量含む。



SC-329: 511~516



第81図 縄文草創期貯蔵穴実測図 (S=1/30) 及び出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)

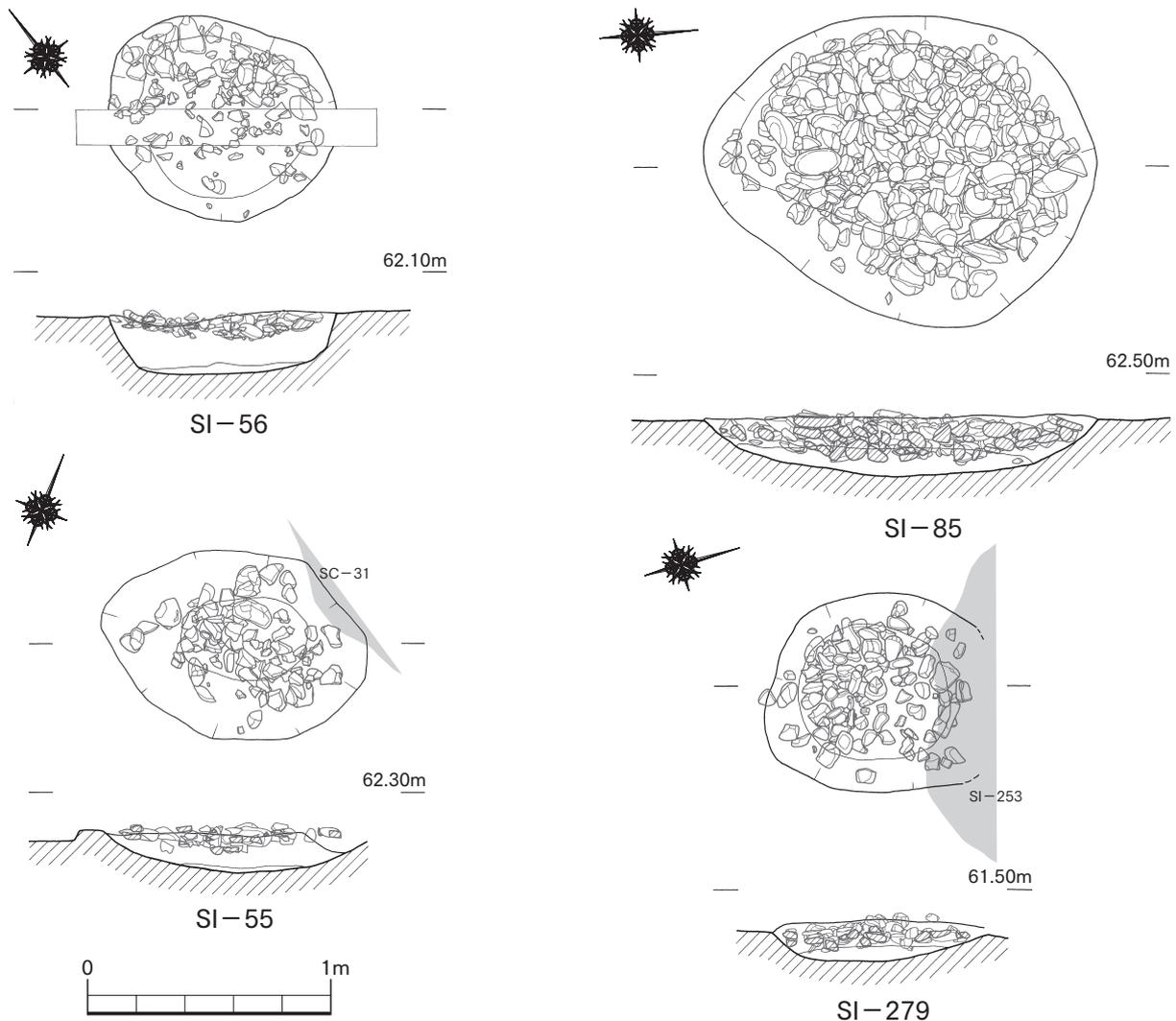


第82図 縄文草創期炉跡・炉穴及び土坑実測図 (S=1/30) 及び出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)

SC-325は14号住居跡を切っている。2.07m×0.9mの不整長楕円形プランを呈し、検出面からの深さは25cmを測る。遺構埋土からは土器片18点、剥片2点(頁岩1・ホルンフェルス1)、が出土している。523・524は隆文土器4類である。525は底部片である。

SC-326はSC-338を切っている。0.83m×0.41mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは14cmを測る。遺構埋土からは土器片1点、安山岩製石鏃1点、砂岩製剥片1点が出土している。517は打製石鏃F類である。

SC-339は14号住居跡を切っている土坑で、0.98m×0.52mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは22cmを測る。遺構埋土からは土器片2点、石器4点(砂岩製石皿2点、剥片2:砂岩1・ホルンフェルス1)



第83図 縄文草創期集石遺構実測図 (S=1/30)

が出土している。519 は隆帯文土器 2 類である。

SC-347 は 0.83m×0.64m の不整形円形プランを呈し、検出面からの深さは 33cm を測る。遺構埋土からは砂岩製剥片 1 点が出土している。

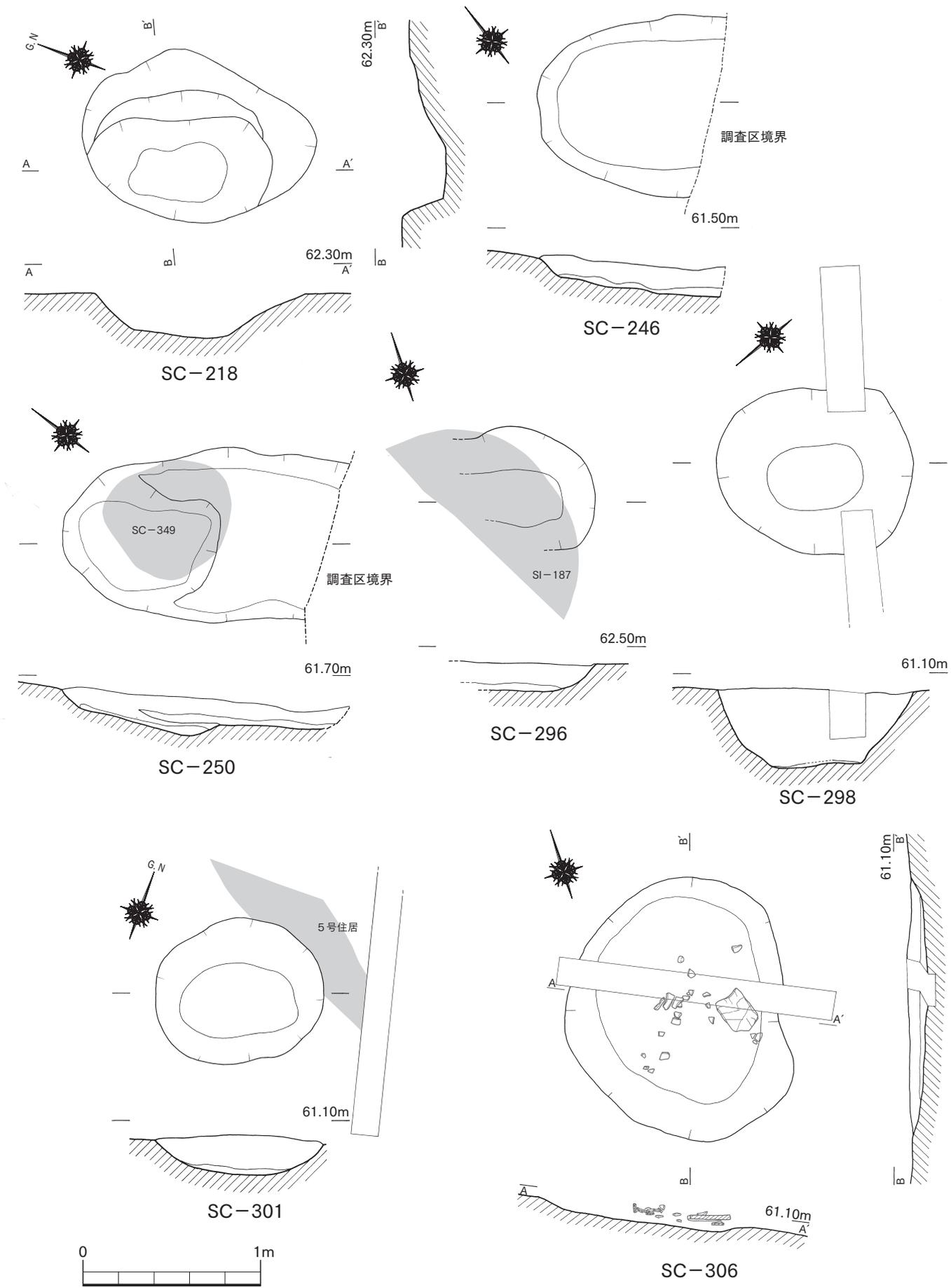
SC-349 は 13 号住居跡と SC-250 を切っている。0.75m×0.65m の不整形円形プランを呈し、検出面からの深さは 14cm を測る。遺構埋土中からは土器片 2 点が出土している。526 は隆帯文土器 2 類である。

#### 遺物集中地点(SZ-273)と SC-281・SC-282(第 86 図)

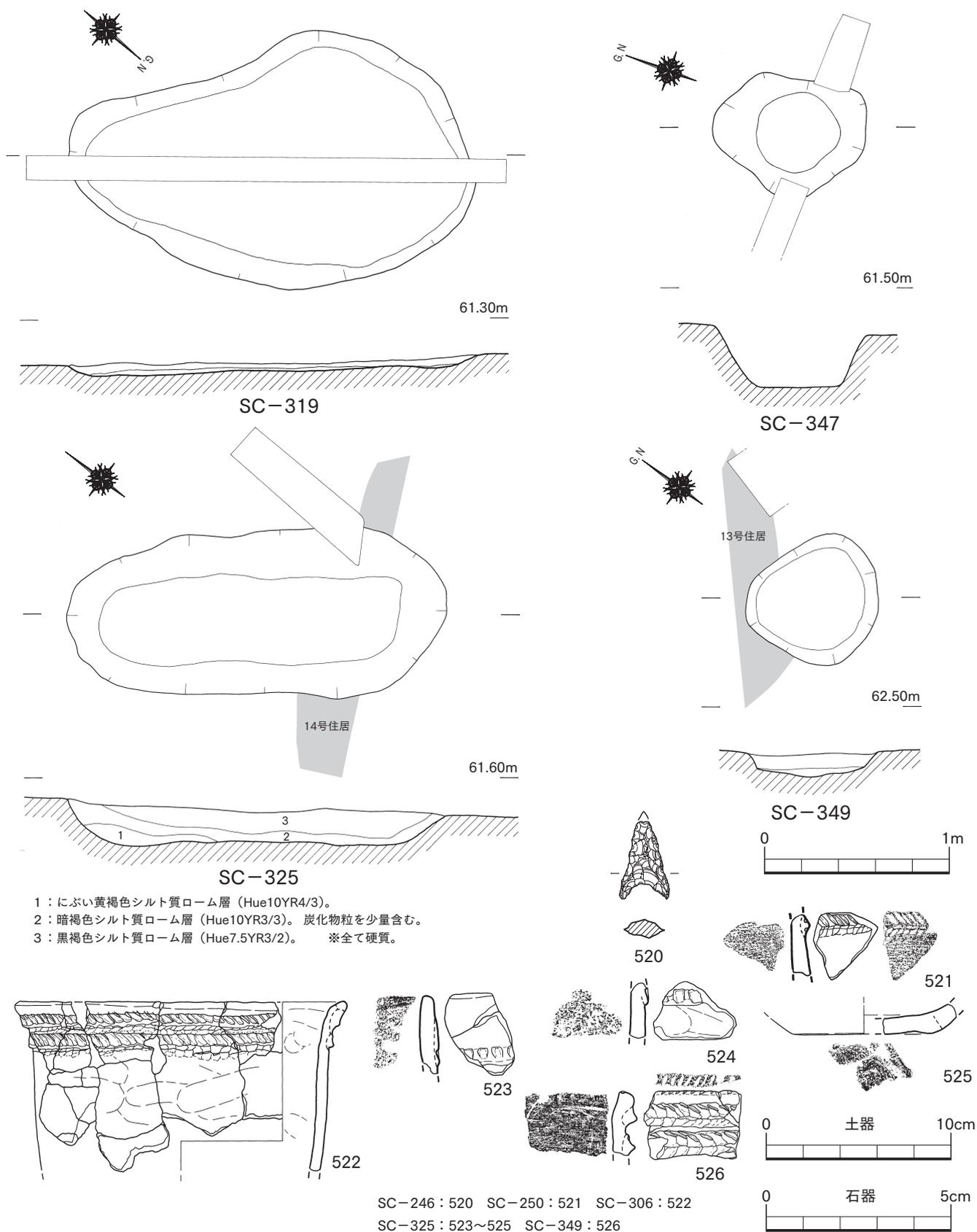
この 3 基の遺構は 7～9 号住居跡の北西方向にある。これらは近接しており、また遺物包含層の遺物分布をみるとこの 3 基の遺構周辺に特に遺物が集中している様子が見られる。また後述する SC-282 は多くの炭化物が分布しており炉跡の可能性がうかがえる。これらのことを総合的に考えるとこのあたりに竪穴住居跡があり、この 3 基はその住居跡に付随する施設であった可能性が考えられる。調査中にそのことに気が付かず遺構埋土を遺物包含層として掘削してしまったかもしれない。遺物が大量に出土している段階でもう少し慎重に精査をおこなう必要があったことを反省してこの 3 基については個別に報告する。

SZ-273 は基本土層Ⅷ層中で円礫等が密集する箇所が確認されたため、それらの礫を検出してみるとその中に土器片や石器が混じっていることが分かった。この範囲は 1.65 m × 0.75m にみられ、遺物の出土する深さは 26cm にも及んだ。結局礫の総数は 44 点で、その中には砂岩製の石皿 1 点・敲石 2 点・磨石 1 点が含まれていた。その他に風化が著しく小片が多かったため正確に計測できなかったが、土器片 30 点以上と砂岩製の剥片 4 点が出土している。527 は隆帯文土器 4 類である。528 は磨石である。

SC-281 は遺物包含層の掘削作業中に南東側を一部壊してしまい、平面形状が不明瞭となってしまった。現



第84図 縄文草創期土坑実測図① (S=1/30)

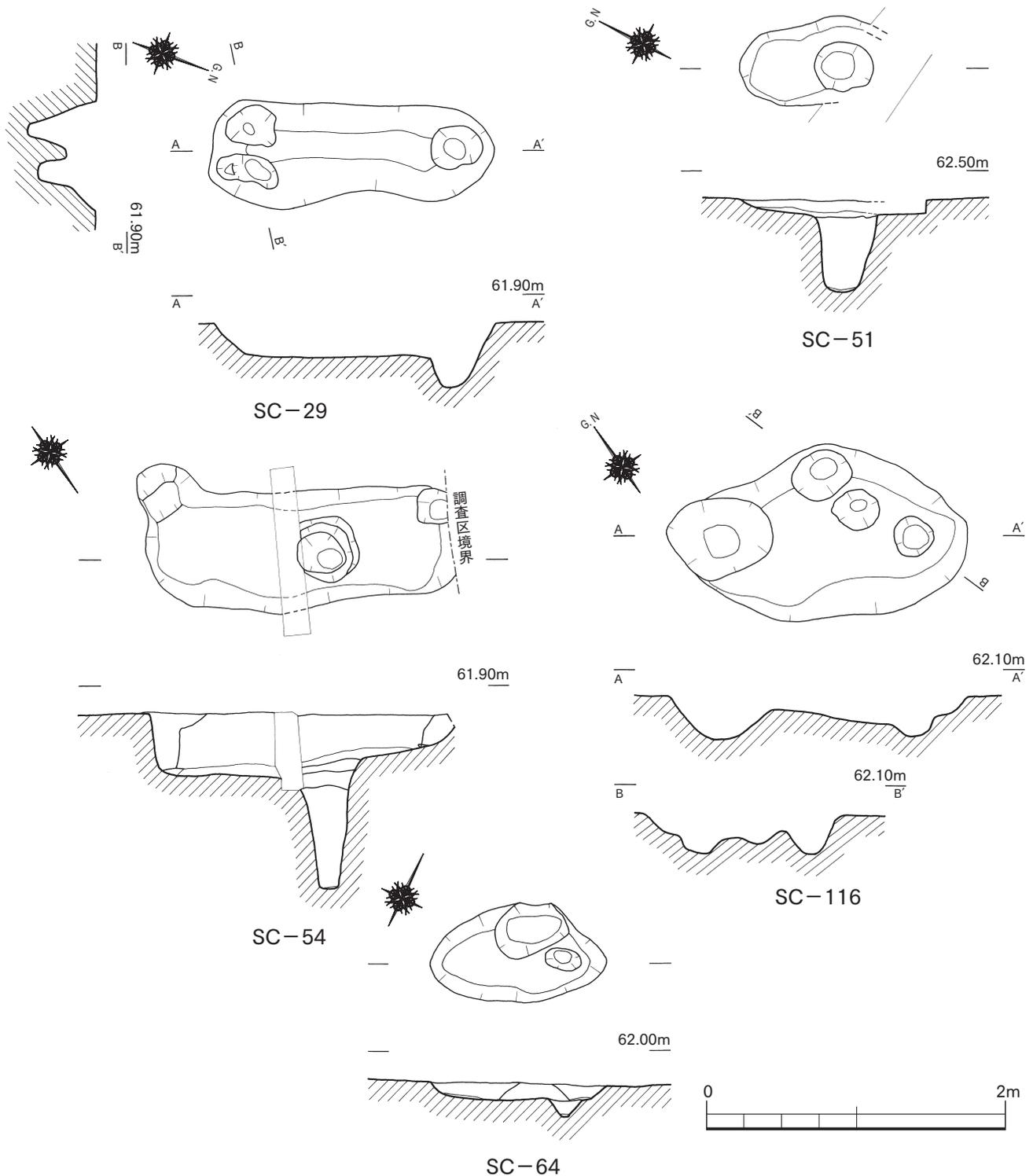


第85図 縄文草創期土坑実測図② (S=1/30) 及び出土遺物実測図① (S=1/3・2/3)

状では0.96m×0.8mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは21cmを測る。遺構埋土からは土器片11点、砂岩製剥片1点が出土している。529は補修孔のみられる土器片である。

SC-282は基本土層IX層中部にて多くの遺物と共に炭化物の分布する状況が見られたため、その出土状況を



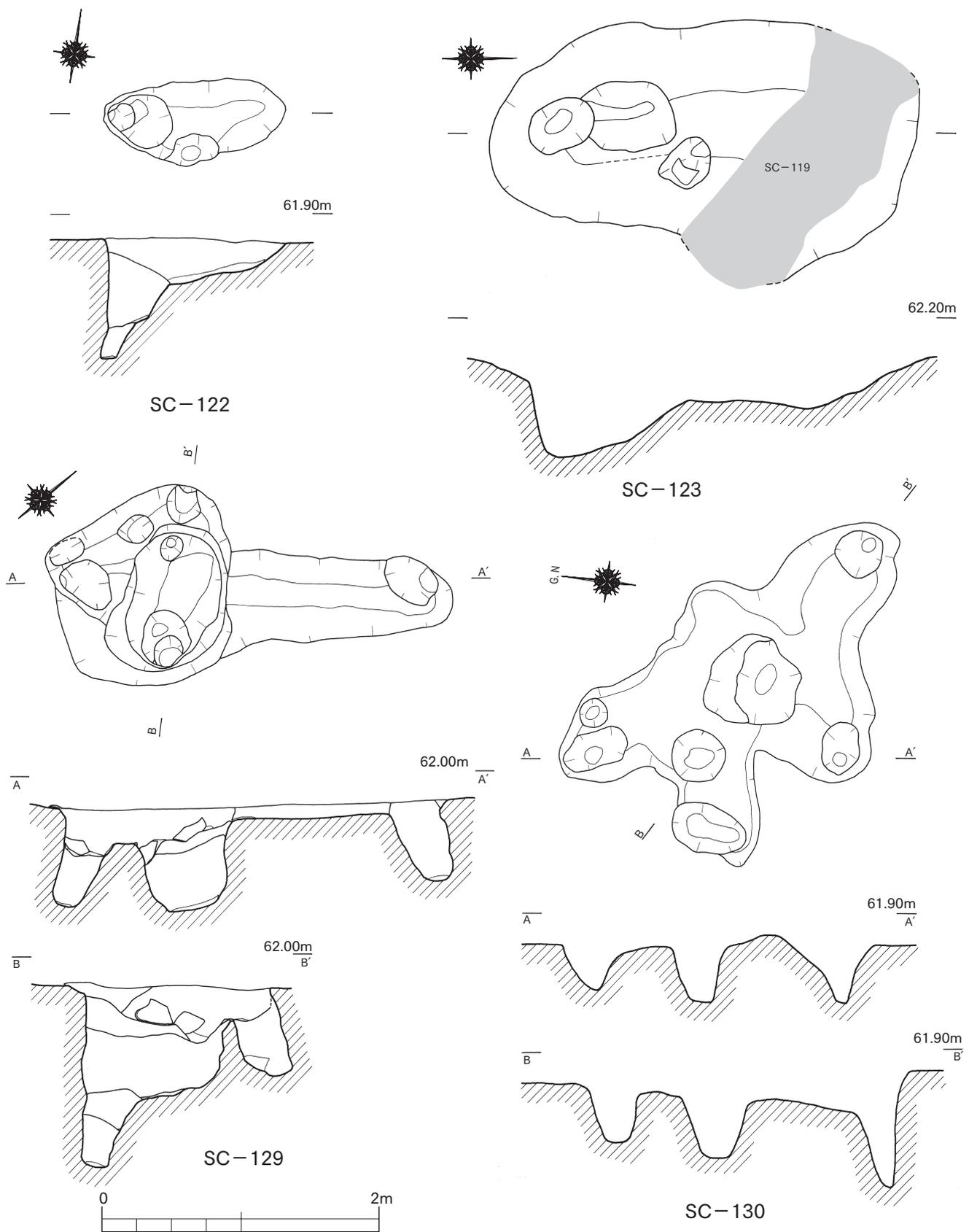


第87図 縄文草創期ハイヒール状土坑実測図① (S=1/40)

認められなかったが炭化物が多くみられる状況から炉跡の可能性が考えられる。掘り込み上部で密集する遺物及び遺構埋土からは風化が著しいものが多く正確に計測できなかったが土器片90点以上、砂岩製敲石2点、剥片9点(頁岩2・砂岩7)が出土している。530～535は隆帯文土器4類である。531は補修孔が見られる。533は肥厚帯に貝殻押圧文、貝殻押引文、爪形文が確認される。536～538は底部片である。536は屈曲部分に押圧文が見られる。538は補修孔が見られる。539は磨石である。

ハイヒール状土坑(床面に掘り込みのある土坑：第87図～第93図)

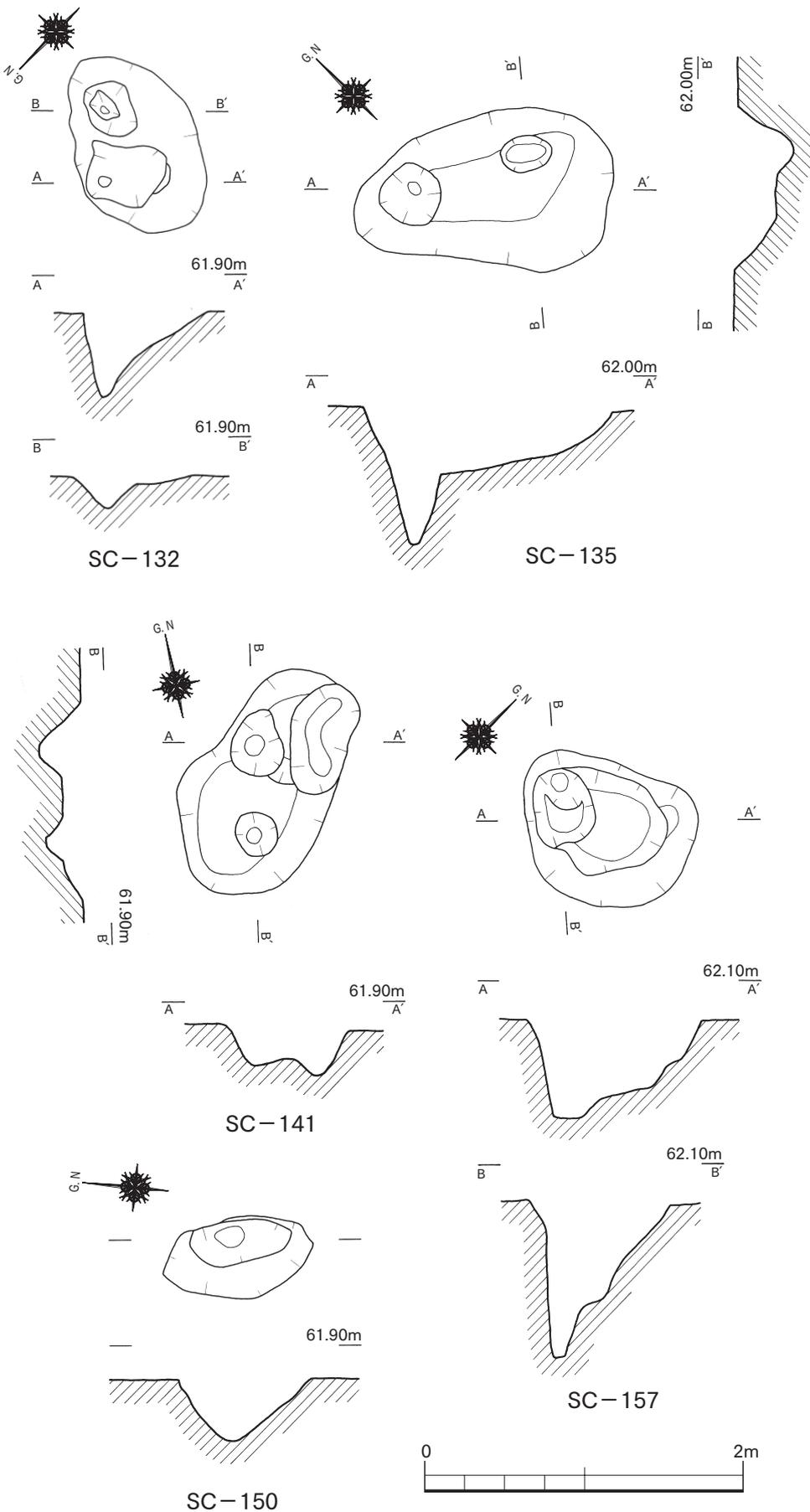
これらの遺構は多くは不整形な楕円形プランを呈して、床面に1～数箇所の柱穴状の掘り込みを有するものである。床面にある掘り込みの規模に規格性はなく、斜め方向に掘り込まれているものも見られる。



第88図 縄文草創期ハイヒール状土坑実測図② (S=1/40)

SC-29 は 1.92m×0.72m の不整長楕円形プランを呈し、検出面からの床面の深さは0.22mを測る。床面の北側端部に1箇所、南側端部に2箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片1点が出土している。

SC-51 は検出時に不明瞭だったのでトレンチを設定して一部を地山ごと掘り下げたため、平面形が不明瞭と



第89図 縄文草創期ハイヒール状土坑実測図③ (S=1/40)

なってしまった。現状では0.9m以上×0.56m以上の不整楕円形プランを呈し、検出面からの床面の深さは10cmを測る。床面中央に掘り込みが1箇所見られる。

SC-54は西側が調査区境界にのびており、平面形が不明瞭であるが2.03m以上×0.92mの不整長方形プランを呈し、検出面から床面の深さは42cmを測る。床面には3箇所の掘り込みが見られる。

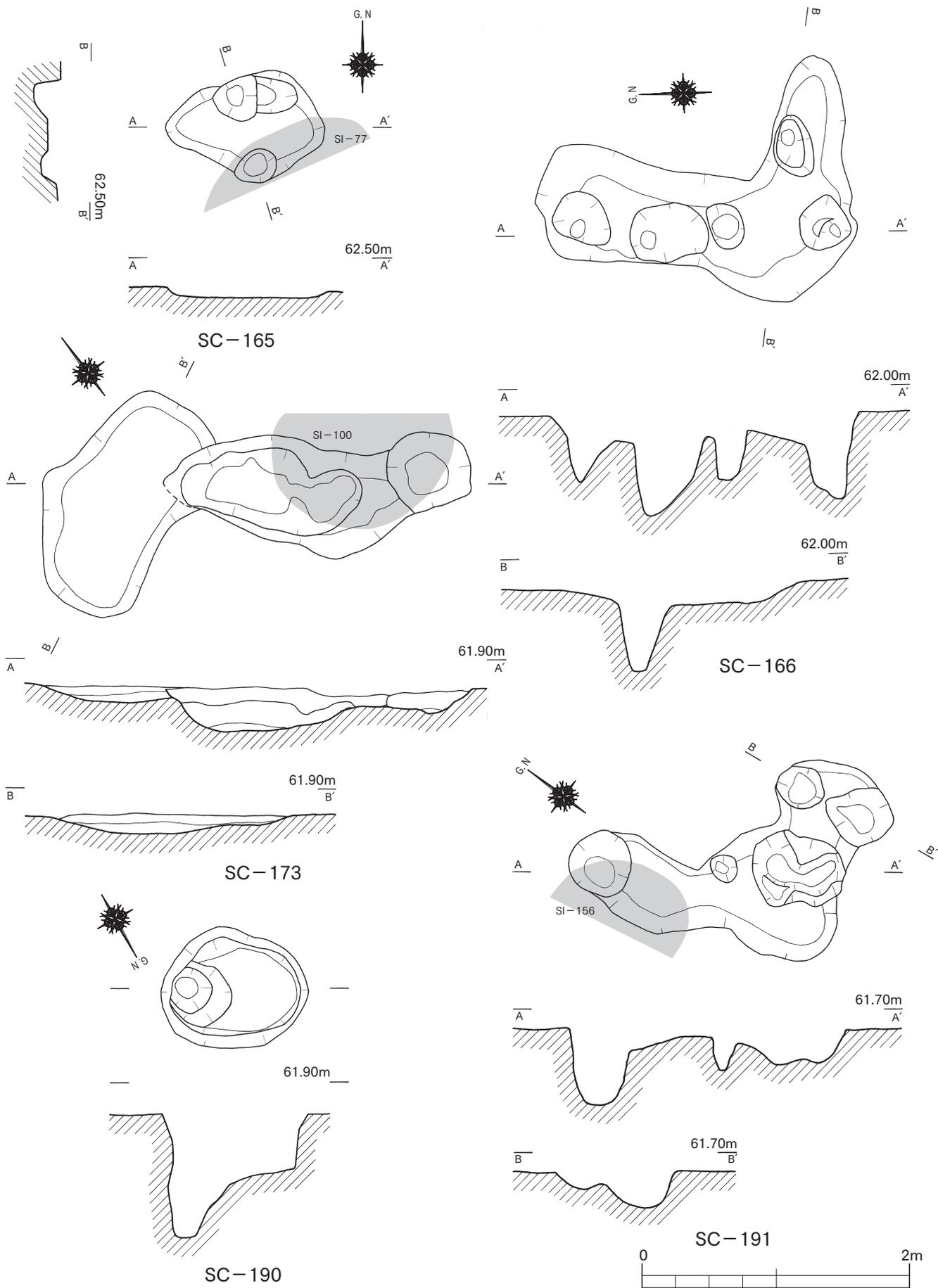
SC-64は1.17m×0.62mの不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは11cmを測る。床面には2箇所の掘り込みが見られる。

SC-116は2.02m×1.16mの不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは10cmを測る。床面には4箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは頁岩製スクレイパー2点、姫島産黒曜石製剥片1点が出土している。540はスクレイパーで、素材剥片の一侧縁に刃部加工を施している。

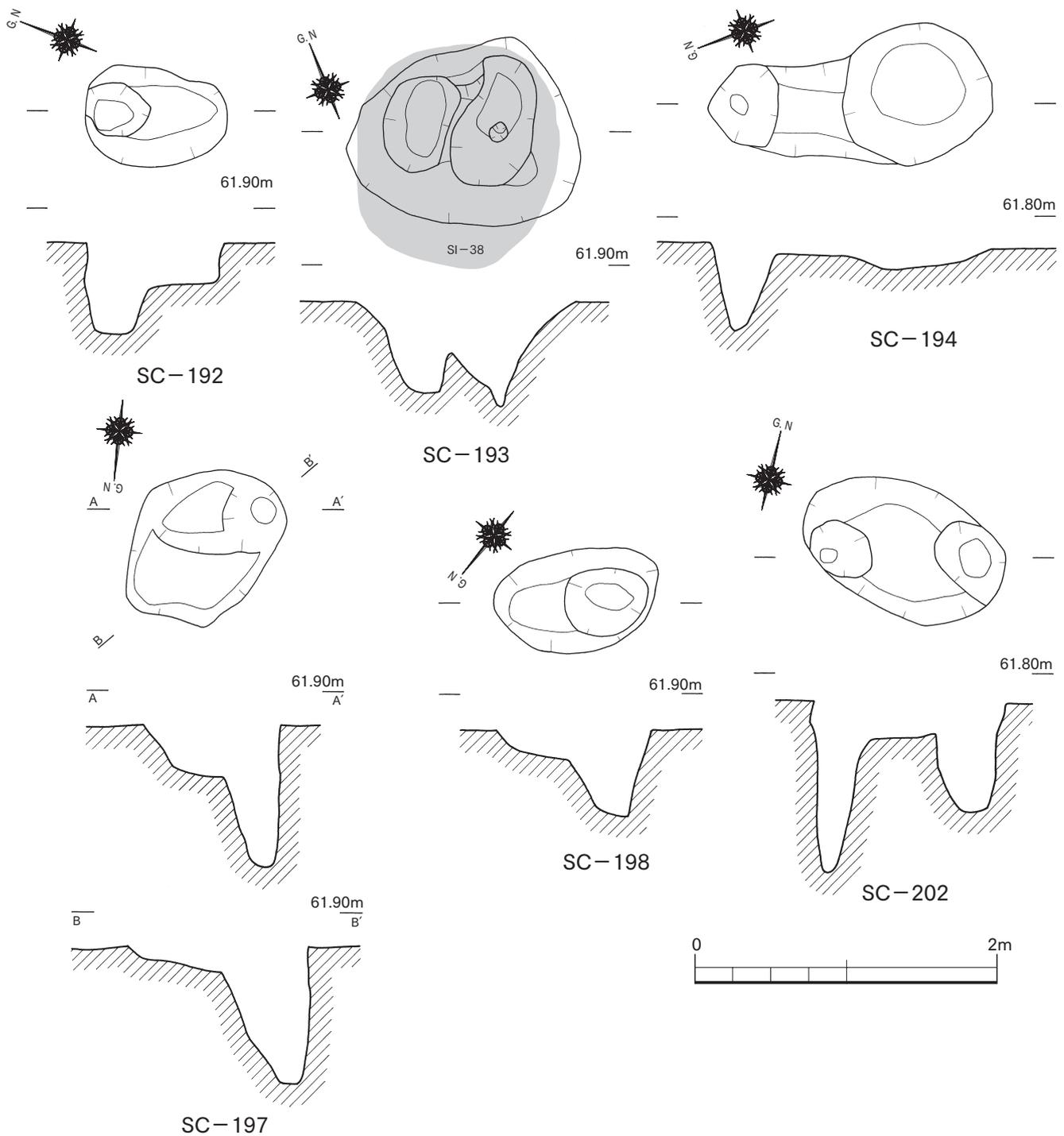
SC-122は1.29m×0.61mの不整長楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは26cmを測る。床面には2箇所の掘り込みが見られる。

SC-123は縄文早期の炉穴SC-119に切られており平面形状が不明瞭だが、現状で3.1m×1.88mの不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは19cmを測る。床面には3箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片1点が出土している。

SC-129は長さ2.94mで南側に最大幅1.45mを



第90図 縄文草創期ハイヒール状土坑実測図④ (S=1/40)



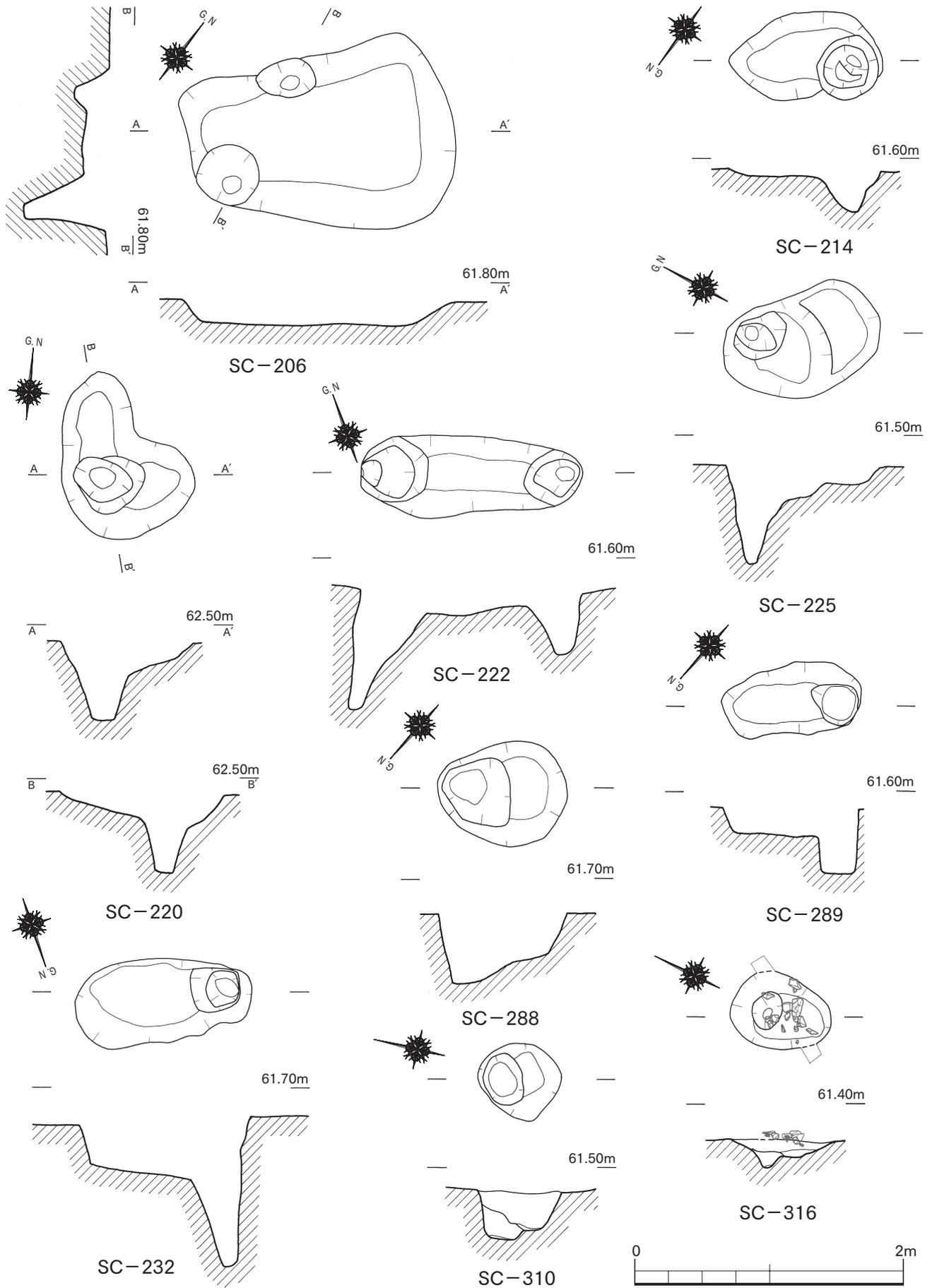
第91図 縄文草創期ハイヒール状土坑実測図⑤ (S=1/40)

持つ柄鏡形の不整形なプランを呈する。検出面から床面の深さは12cmを測る。南北側の床面端部には3箇所の掘り込みが見られる。また中央よりやや南側は広く78cm程掘りこまれており、その床面には5箇所の掘り込みが見られる。本遺構は2基以上のハイヒール状土坑が切り合っていた可能性も考えられる。遺構埋土からは土器片3点が出土している。

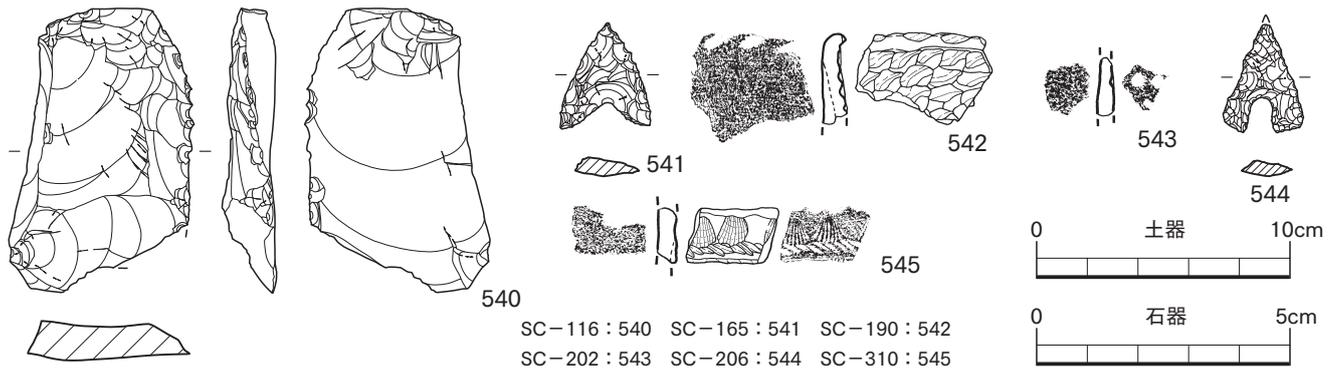
SC-130は2.96m×1.8mの不整形な星形のプランを呈し、検出面から床面の深さは20cmを測る。床面には7箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片3点が出土している。

SC-132は1.22m×0.8mの不整形楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは18cmを測る。床面には2箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは剥片2点(頁岩1・桑ノ木津留産黒曜石1)が出土している。

SC-135は1.66m×1.04mの不整形楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは30cmを測る。床面には2箇所の掘り込みが見られる。



第92図 縄文草創期ハイヒール状土坑実測図⑥ (S=1/40)



第93図 縄文草創期ハイヒール状土坑出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)

SC-141 は 1.54m×0.92m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 13cm を測る。床面には 3 箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片 1 点、チャート製剥片 1 点が出土している。

SC-150 は 0.96m×0.54m の不整楕円形プランを呈し、床面中央部に大きな掘り込みを有する。その床面は検出面から深さは 40cm を測る。

SC-157 は 1.08m×0.96m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さ 50cm を測る。床面西側の端に掘り込みが 1 箇所見られる。遺構埋土からは遺物包含層から出土した皿形土器(遺物No. 718)と接合する破片 1 点、桑ノ木津留産黒曜石製剥片 8 点が出土している。

SC-165 は縄文早期の集石遺構 SI-77 に切られる。1.18m×0.86m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 10cm を測る。床面には 2 箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは安山岩製石鏃 1 点、砂岩製剥片 1 点が出土している。541 は打製石鏃 F 類である。

SC-166 は 2.43m×1.88m の不整形な L 字形プランを呈し、検出面から床面の深さは 20cm を測る。床面には 5 箇所の掘り込みが見られる。

SC-173 は縄文早期の集石遺構 SI-100 に切られる。3.2m×1.75m の不整形な L 字形プランを呈し、検出面から床面の深さは 13～19cm を測る。東側の床面には 2 箇所の不整形な皿状の掘り込みが見られる。

SC-190 は 1.08m×0.92m の不整円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 44cm を測る。床面東側には 1 掘り込みが 1 箇所見られる。遺構埋土からは土器片 3 点、剥片 2 点(頁岩 1・桑ノ木津留産黒曜石 1)が出土している。542 は爪形文土器 1 類に分類される。

SC-191 は縄文早期の集石遺構 SI-100 に切られる。2.06m×1.58m の不整形な L 字形プランを呈し、検出面から床面の深さは 12cm を測る。床面には 5 箇所の掘り込みが見られる。

SC-192 は 0.92m×0.66m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 28cm を測る。床面北側には掘り込みが 1 箇所見られる。遺構埋土からは土器片 1 点が出土している。

SC-193 は縄文早期の集石遺構 SI-38 に切られる。1.56m×1.26m の不整円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 34cm を測る。床面には 2 箇所の掘り込みが見られる。

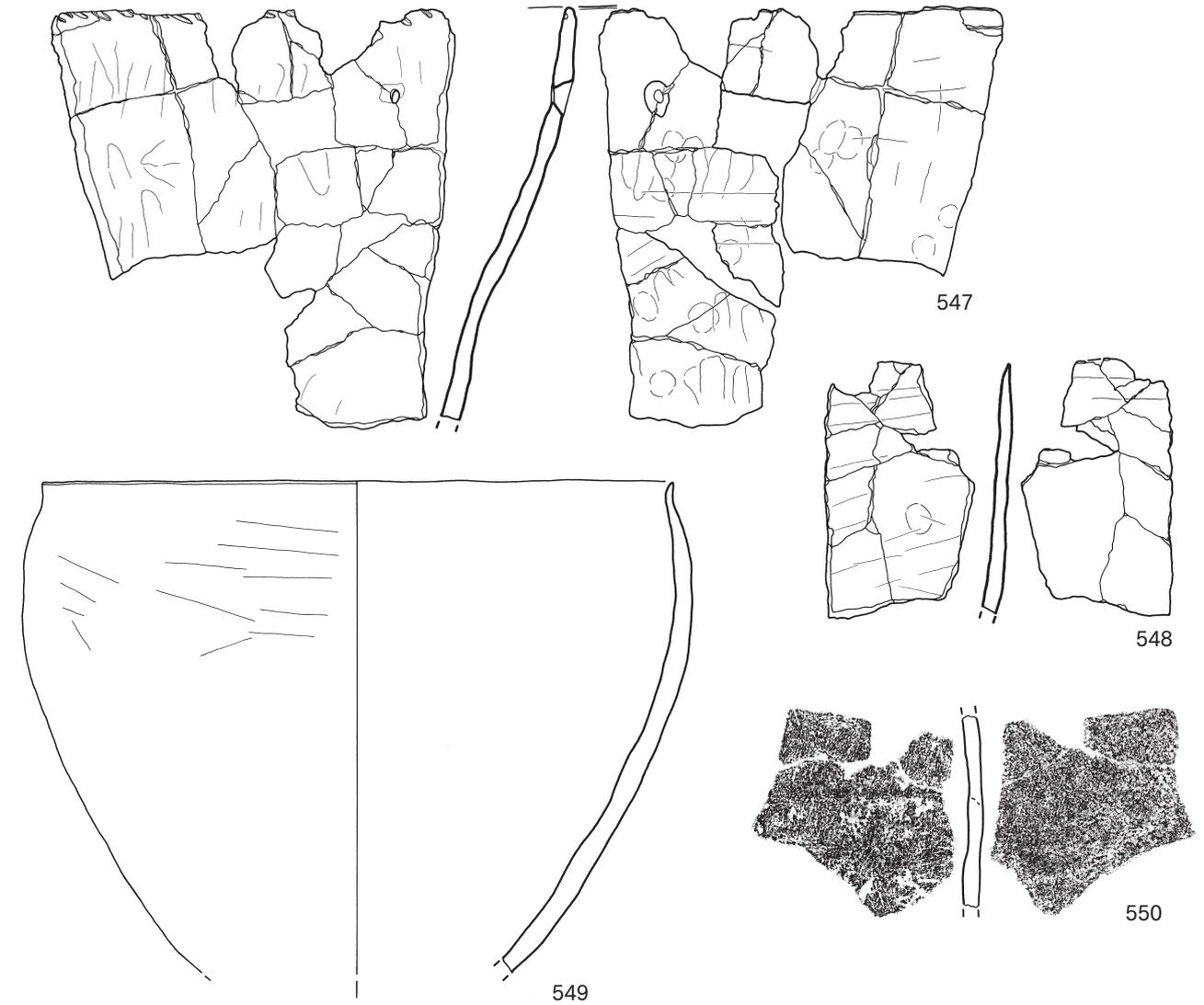
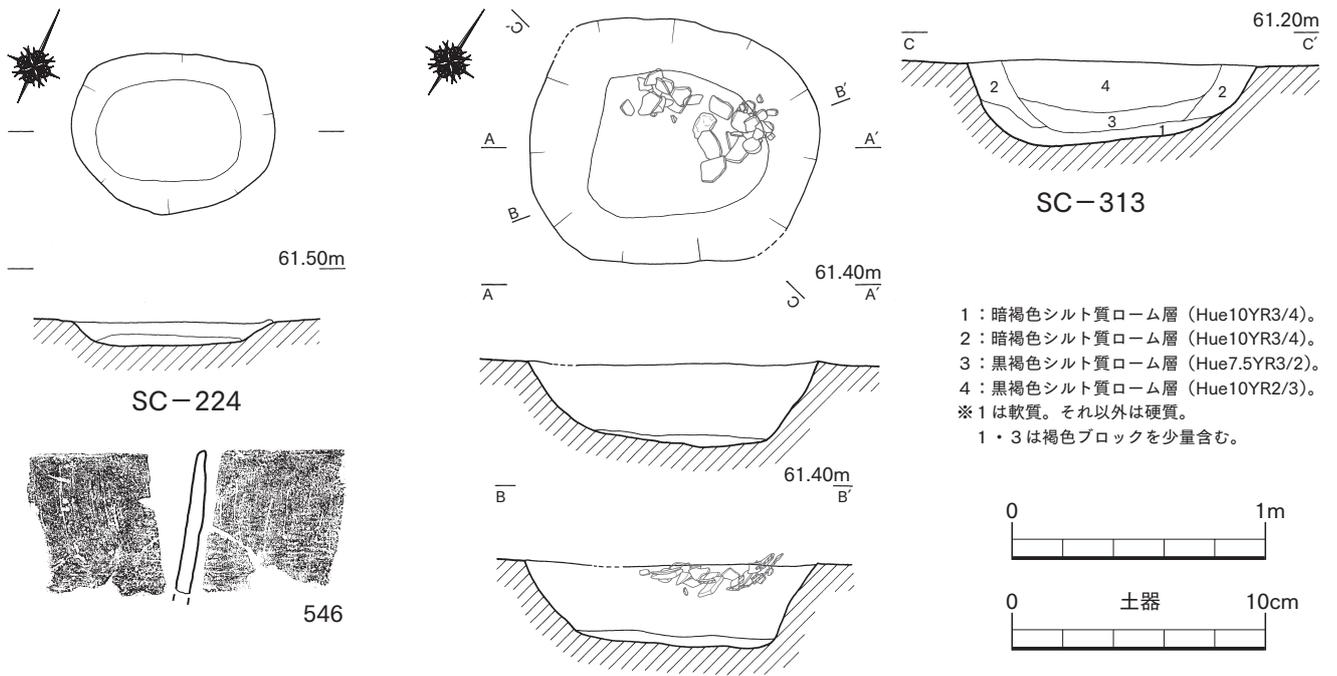
SC-194 は 1.88m×0.96m の不整形な柄鏡形のプランを呈し、検出面から床面の深さは 8cm を測る。床面北側に柱穴状の掘り込みが 1 箇所、南側には皿状の掘り込みが 1 箇所見られる。

SC-197 は 1.2m×0.92m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 14cm を測る。床面南側には 1 掘り込みが 1 箇所見られる。遺構埋土からは土器片 1 点が出土している。

SC-198 は 1.1m×0.68m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 18cm を測る。床面南東側には掘り込みが 1 箇所見られる。

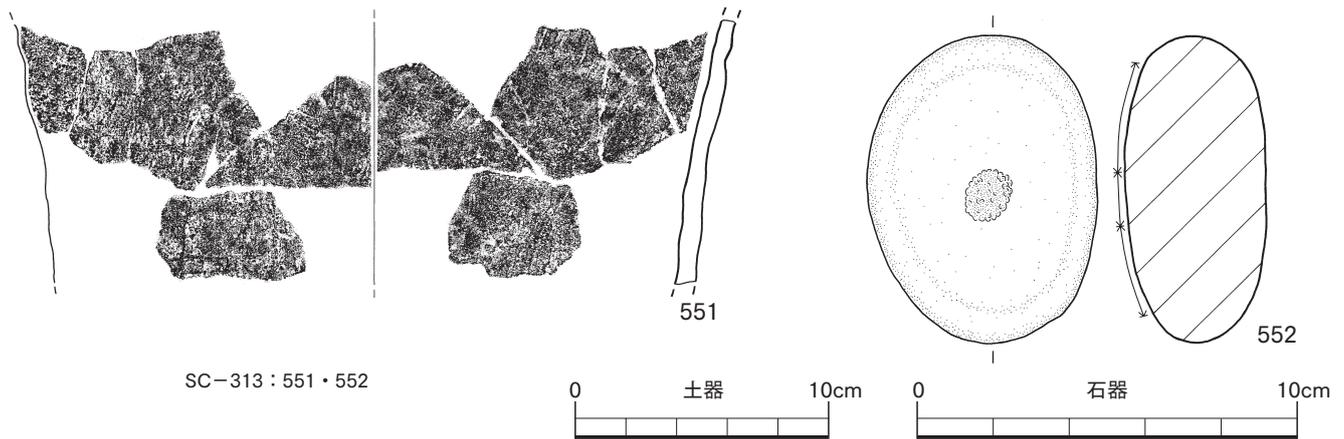
SC-202 は 1.36m×0.86m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 24cm を測る。床面には 2 箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片 6 点、桑ノ木津留産黒曜石製楔形石器 1 点、剥片 13 点(頁岩 3・チャート 2・桑ノ木津留産黒曜石 5・西北九州産黒曜石 1・安山岩 1・砂岩 1)が出土している。543 は円形の刺突文を施すものである。

SC-206 は 2.12m×1.5m の不整形なプランを呈し、検出面から床面の深さは 18cm を測る。床面には 2 箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片 7 点、チャート製石鏃 1 点、剥片 8 点(頁岩 1・チャート 1・桑ノ木津留産黒曜石 3)が出土している。544 は打製石鏃 E 類に分類できるが、縄文早期の鋳形鏃にも見える。



SC-224 : 546 SC-313 : 547~550

第94図 縄文草創期土坑実測図③ (S=1/30) 及び出土遺物実測図② (S=1/3)



第95図 縄文草創期土坑出土遺物実測図③ (S=1/3・1/2)

SC-214 は 1.14m×0.64m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 6cm を測る。床面の南西側には掘り込みが 1 箇所見られる。

SC-220 は 1.28m×1m の不整形な L 字形プランを呈し、検出面から床面の深さは 14cm を測る。床面中央には掘り込みが 1 箇所見られる。

SC-222 は 1.66m×0.63m の不整長楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 18cm を測る。床面の両端部には 1 箇所ずつ掘り込みが見られる。

SC-225 は 1.20m×0.77m の不整楕円形プランを呈し検出面から床面の深さは 14cm を測る。床面の北側には掘り込みが 1 箇所見られる。

SC-232 は 1.33m×0.64m の不整長楕円プランを呈し、検出面から床面の深さは 40cm を測る。床面東側端部には掘り込みが 1 箇所見られる。

SC-288 は 0.96m×0.79m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 33cm を測る。床面北西側には掘り込みが 1 箇所見られる。

SC-289 は 1.04m×0.55m の不整長楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 40cm を測る。床面南西側端部には 1 箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片 1 点が出土している。

SC-310 は 0.62m×0.55m の不整円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 29cm を測る。床面北側には 3 箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片 7 点、頁岩製剥片 2 点が出土している。545 は隆帯文土器 4 類に分類され、貝殻押圧文の下に爪形文が見られる。

SC-316 は 0.75m×0.59m の不整楕円形プランを呈し、検出面から床面の深さは 13cm を測る。床面北側には 1 箇所の掘り込みが見られる。検出時に礫が多く見られた。

### 3. 無文土器を伴う土坑 (第 94・95 図)

これまでは主に隆帯文土器を伴う遺構を報告してきたが、ここでは隆帯文土器ではなく無文土器を主体とする土坑を報告する。これらは縄文草創期に該当するものの、隆帯文土器とは時期差があるものと考えられる。

SC-224 は 0.82m×0.65m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 10cm を測る。遺構埋土からは土器片 2 点が出土している。546 は直口する無文土器の口縁部片で従位のナデ調整が顕著にみられる。

SC-313 は 1.15m×0.9m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 0.35cm を測る。床面から 20cm 程浮いた状態で 4～5 個体の土器が密集して出土した。接合状況も良好で本遺構が埋没する過程で一括廃棄されたものと考えられる。その他に遺構埋土から石器 6 点(砂岩製敲石 1、剥片 5: 頁岩 1・チャート 1・桑ノ木津留産黒曜石 2・砂岩 1)が出土している。547 は器面に指頭痕が明瞭にみられる。また口唇部にキザミが施され、補修孔も存在する。548 は直口する無文土器の口縁部片である。549 は胴部からやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。反転復元が可能であり口縁部径は 27cm、胴部形は 28.6cm を測る。550・551 は無文の胴部片である。551 は反転復元が可能でその径は 28.2cm である。547・550・551 は炭化物が付着しており、それを放射性炭素年代測定にかけた結果、補正年代で 547 は 10920±60BP、550 は 10900±40BP、551 は 10840±60BP という年代が得られている。552 は砂岩製敲石である。

第3表 縄文草創期遺構内出土土器観察表

遺物No.	遺構	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	実測No.		
			外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐色	透明・半透明			金雲母	
208	2号住+Ⅷ	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	948	
209	2号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/2(灰褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	○	-	-		815	
210	2号住居	口縁部	つまみによる隆帯文(不明瞭)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	-	-	○	-		874	
211	2号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/2(灰褐)	7.5YR6/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	-		825	
212	2号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	○	○	-	口唇部キザミ	882	
213	2号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	○	○	-	隆帯文の剥落痕有	946	
214	2号住居	口縁部	つまみによる隆帯上に斜め方向キザミ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	945	
215	2号+4号+Ⅷ	口縁~底部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ・指頭痕有	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR3/1(黒褐)	-	○	-	○	-	-		60	
216	2号住+Ⅷ	口縁~胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	-	○	-		949	
217	2号住+Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	-	-	-		947	
218	2号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	-	○	-		835	
219	2号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	-	-		831	
220	2号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	7.5YR4/1(褐灰)	-	○	-	○	○	-		833	
221	2号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	-	-	-	-	スス附着	834	
222	2号住居	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	7.5YR4/1(褐灰)	-	○	-	○	○	-		820	
223	2号住+Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	○	-	-		824	
224	2号住居	胴部	肥厚帯に羽状の爪形文	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	-	○	-		818	
225	2号住居	胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文か	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-		819	
226	2号住居	胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	5YR6/4(にぶい橙)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-		826	
227	2号住居	胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	-	-	-	-		827	
228	2号住居	口縁部	肥厚帯下部にキザミ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	-	-		944	
229	2号住居	口縁部	肥厚帯下部に刺突文	圧痕有・ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-		829	
230	2号住+Ⅷ	口縁~胴部	肥厚帯に沈線文・下部に押圧文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-		2372	
231	2号住居	口縁部	肥厚帯下部に押圧文	ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	830	
232	2号住居	口縁部	肥厚帯に刺突文・つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	○	-	-	スス附着	828	
233	2号住居	胴部	肥厚帯下部にキザミ	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR4/2(褐灰)	○	○	-	-	○	-	スス附着	817	
234	2号住居	胴部	口縁部下をやや肥厚させた後爪形文	ナデ	5YR6/3(にぶい橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	○	○	-	スス附着	832	
235	2号住+Ⅷ	胴部	肥厚帯	指押さえ・ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR3/1(黒褐)	-	○	-	-	○	-	焼成後穿孔有	スス附着	812
236	2号住居	底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		813	
237	2号住居	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	-	-	-		814	
238	2号住居	胴部~底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	-	-	-		809	
239	2号住居	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	-	-	○	-		808	
240	2号住+Ⅷ+Ⅸ	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	-		810	
241	2号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	811	
242	2号住居	胴部	ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	-	○	-	○	○	-	ミニチュア土器	2236	
260	3号住居	口縁~胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	-	○	-	○	○	-	スス附着	908	
261	3号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-		931	
262	3号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	-	-	スス附着	926	
263	3号住居	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	925	
264	3号住+Ⅸ	口縁~胴部	肥厚帯下部に刺突文か	指押さえ・ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	936	
265	3号住居	口縁~胴部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	-	-	-		937	
266	3号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	933	
267	3号住居	胴部	つまみによる隆帯文の後ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	-		932	
270	4号住居	口縁~胴部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○	-	○	-	口唇部キザミ 隆帯文の剥落痕有	492	
271	4号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	-	隆帯文の剥落痕有	789	
272	4号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	-	○	○	○	○	-		506	
273	4号住+Ⅵ	口縁部	沈線文・つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 波状口縁	783	
274	4号住居	口縁部	つまみによる隆帯上に縦方向キザミ	指押さえ・ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	-	-	-	口唇部キザミ	787	
275	4号住居	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	2.5Y6/2(灰黄)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	-	-	-		793	
276	4号住居	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	貝殻条痕文	2.5Y6/1(黄灰)	10YR6/2(灰黄褐)	-	○	-	-	○	-		792	
277	4号住居	口縁部	肥厚帯に刺突文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	○	○	-		934	
278	4号住居	口縁部	肥厚帯に刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-		935	
279	4号住居	口縁部	肥厚帯下部に押し引き文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	スス附着	784
280	4号住居	胴部	肥厚帯に刺突文・下部につまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	-	-	○	-	スス附着	788	
281	4号住+Ⅵ+Ⅸ	口縁部	肥厚帯に羽状の爪形文・下部につまみによる隆帯文の後ナデ	指押さえ・ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	785	
282	4号住居	胴部	つまみによる隆帯文・ナデ	指押さえ・ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	-	-	○	-		791	
283	4号住居	胴部	肥厚帯に貝殻押圧文・下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	-	-	-	-	スス附着	794	
284	4号住+Ⅸ	胴部	肥厚帯に押圧文	指押さえ・ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	-	-	-		796	
285	4号住居	底部	ナデ	ナデ	2.5Y6/3(にぶい黄)	10YR5/2(灰黄褐)	-	○	-	-	-	-		790	
294	5号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	-	-	○	-		953	
295	5号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	954	
296	5号住+Ⅸ	口縁~頸部	つまみによる隆帯文の後ナデ	ナデ	2.5YR5/3(にぶい赤褐)	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	939	
297	5号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	縦方向の施文有	950	
298	5号住+Ⅷ	口縁部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	-	○	○	-	隆帯文の剥落痕有	940	
299	5号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	-	-	口縁部直下にキザミ	952	
300	5号住居	口縁~胴部	つまみによる隆帯文の後キザミ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	951	

遺物No.	遺構	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	実測No.	
			外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐色	半透明・金雲母			
301	5号住+IX	口縁部	口縁部下をやや肥厚させた後爪形文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	941
302	5号住居	口縁部	ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	-	-		942
303	5号住居	胴部	ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	938
304	5号住+SC323	胴部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/4(にぶい黄褐)	○	○	-	○	○	-	スス附着	895
309	6号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR7/1(明褐灰)	○	○	○	-	○	-	口唇部キザミ	500
310	6号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	5YR5/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ スス附着	768
311	6号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○	-	○	-	口唇部キザミ スス附着	775
312	6号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	一部指押さえ・ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	-	-	○	-		776
313	6号住+VI+IX	口縁部	つまみによる隆帯文の後斜め方向のキザミ	ナデ	7.5YR7/1(明褐灰)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○	-	-	○	-		2217
314	6号住+VI+VII	口縁～胴部	つまみによる隆帯文の後刺突文	一部指押さえ・ナデ	7.5YR7/2(明褐灰)	2.5YR7/2(明赤灰)	○	○	-	○	○	-	隆帯文の剥落痕有	491
315	6号住居	口縁部	つまみによる隆帯文の後斜め方向のキザミ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	-	-	口唇部キザミ	773
316	6号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-		778
317	6号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	剥落により不明	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	-	○	-	-	-	-		777
318	6号住+VII+IX	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	一部指押さえ・ナデ	5YR7/1(明褐灰)	2.5YR7/2(明赤灰)	-	○	○	-	○	-	スス附着	499
319	6号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-		766
320	6号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	5YR6/4(にぶい橙)	-	○	○	-	○	-		767
321	6号住居	口縁部	つまみによる隆帯文の後斜め方向のキザミ	指押さえ・ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	771
322	6号住+IX	胴部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	○	○	-		779
323	6号住居	胴部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	-	○	○	-	○	-		781
324	6号住居	胴部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR4/1(褐灰)	○	○	-	-	○	-	スス附着	780
330	SC-305	口縁部	つまみによる隆帯文の上爪形文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-	スス附着 隆帯文の剥落痕有	1210
331	SC-305	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		1211
332	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/2(灰褐)	-	○	-	○	○	-	口唇部キザミ	877
333	7号住+VI+VII	口縁部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	-	-	口唇部キザミ	864
334	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	-	○	-	-	○	-	口唇部つまみによる隆帯文	858
335	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	10YR5/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	-	○	-	-	○	-		860
336	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	○	-	-		872
337	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-		873
338	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/1(褐灰)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	867
339	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	-	-	口唇部キザミ	869
340	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-		859
341	7号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR6/2(灰黄褐)	-	○	-	-	○	-		866
342	7号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	-	○	○	-	-	-		876
343	7号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	878
344	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文の後斜め方向のキザミ	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-		2218
345	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文・ナデ	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-		871
346	7号住居	口縁部	ナデ	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	-	隆帯文の剥落痕有	890
347	7号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	指押さえ・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/2(灰褐)	○	○	-	○	-	-	口唇部貝殻押圧文	856
348	7号住+SC323	口縁～胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	○	○	-	穿孔有	134
349	7号住居	口縁部	肥厚帯上部と下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-		907
350	7号住居	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	880
351	7号住居	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	-	○	-	○	○	-	スス附着	879
352	7号+SC323+VI+VII	口縁～胴部	肥厚帯上部と下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	○	-	-	スス附着	884
353	7号+9号+VI	口縁～胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	○	○	-		896
354	7号住居	口縁～底部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ・ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	-	-	○	-		61
355	7号住居	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/1(褐灰)	○	○	-	-	○	-		888
356	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR5/2(灰褐)	-	○	-	-	○	-	口唇部刺突文 スス附着	857
357	7号住居	胴部	つまみによる隆帯文(不明瞭)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	889
358	7号住+IX	胴部	肥厚帯下部に押圧文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/3(にぶい褐)	○	○	-	○	-	-		875
359	7号住居	胴部	隆帯文	ナデ	5YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	-	○	-	-	-	-	スス附着	870
360	7号住居	口縁部	つまみによる隆帯文か	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	5YR4/1(褐灰)	-	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	868
361	7号住+SC323	胴部	ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○	○	-	○	-		2234
362	7号+8号+VI	胴部	ナデ	ナデ(不明瞭)	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	-	○	○	-	スス附着	881
378	6号+7号+8号+VII+IX	口縁～底部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-		63
379	8号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	-		914
380	8号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	-	○	○	-		927
381	8号住+SC323	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	883
382	7号+8号+SC305+VII	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-		929
383	8号住居+VI	口縁部	つまみによる隆帯文の後斜め方向のキザミ	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	-		900
384	8号住居	口縁部	つまみによる隆帯文の後斜め方向のキザミと刺突文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		928
385	8号住居	口縁部	つまみによる隆帯文の後縦方向のキザミ	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	波状口縁か	964
386	8号住居	胴部	口縁部下をやや肥厚させた後爪形文か	ナデ	10YR4/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	スス附着	930
387	8号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-		915
388	8号住居	土製品	ナデ	ナデ・工具による押さえ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	不明土製品 下部欠損	2122

遺物No.	遺構	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	実測No.	
			外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐色	半透明・			金雲母
392	9号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5Y6/2(灰黄)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	-	○	-		912
393	9号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-	スス付着	892
394	7号住+9号住+IX	口縁部	肥厚帯上部に貝殻押圧文と爪形文・下部に貝殻押圧文	指押さえ・ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	-	○	-	○	○	-	スス付着	894
395	9号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ(不明瞭)	10YR6/3(におい黄橙)	10YR6/3(におい黄橙)	○	○	-	○	○	-		901
396	9号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	○	○	-	口唇部貝殻押圧文	886
397	9号住居	胴部	肥厚帯に貝殻押引き文	ナデ	10YR6/4(におい黄橙)	10YR6/3(におい黄橙)	○	○	-	○	-	-		902
398	9号住居	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(におい黄橙)	10YR5/3(におい黄褐)	○	○	-	○	○	-		893
399	9号住居	口縁部	肥厚帯	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	-	-		891
400	9号住居	土製品	ナデ	ナデ	10YR6/4(におい黄橙)	10YR5/3(におい黄褐)	○	○	-	○	○	-	土製円盤 隆帯文土器の転用か	913
401	9号住居	土製品	ナデ	ナデ	10YR6/3(におい黄橙)	10YR6/3(におい黄橙)	○	○	-	○	-	-	土製有孔円盤 焼成前穿孔か	53
409	10号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(におい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部押圧	921
410	10号住+Ⅷ	口縁部	隆帯・ナデ	ナデ	7.5YR5/3(におい褐)	10YR6/3(におい黄橙)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	923
411	10号+11号住	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR6/3(におい褐)	7.5YR6/4(におい橙)	○	○	-	-	○	-		885
412	10号住+Ⅵ	口縁部	つまみによる隆帯文の後刺突文	刺突文・ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(におい褐)	○	○	-	-	○	-		920
413	10号住居	胴部	刺突文・粗いナデ	ナデ	7.5YR6/4(におい橙)	10YR6/3(におい黄橙)	-	○	-	-	○	-		917
414	10号住居	口縁部	つまみによる隆帯文の後指頭押圧文	ナデ	5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	-	○	-	○	○	-	口唇部刺突	909
415	10号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR4/3(におい赤褐)	7.5YR5/3(におい褐)	○	-	-	-	○	-	口唇部つまみによる隆帯文 刺突文	910
416	10号住居	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-		916
417	10号住居	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	-	-		911
418	10号住+Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR5/3(におい黄褐)	○	○	-	-	○	-		922
419	10号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/3(におい赤褐)	7.5YR5/3(におい褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部爪形文 スス付着	919
420	10号住+SC342	胴部	指押さえ・ナデ	指押さえ・ナデ	5YR4/6(赤褐)	5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		2233
421	10号住居	底部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(におい橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-		924
422	10号住+Ⅷ	底部	不明	不明	5YR6/4(におい橙)	7.5YR6/4(におい橙)	○	○	-	○	○	-		918
428	11号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	-	○	○	-	口唇部キザミ	898
429	11号住居	口縁部	隆帯上に爪形文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(におい褐)	○	○	-	-	○	-		903
430	11号住居	口縁部	肥厚帯下部に隆帯及び押引き文	ナデ	5YR5/3(におい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部貝殻押圧文	897
431	11号住居	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		905
432	11号住居	口縁部付近	隆帯上にキザミ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	-	-		899
433	11号住居	底部	ナデ	ナデ	7.5YR6/3(におい褐)	5YR5/3(におい赤褐)	○	○	-	-	○	-		906
434	11号住+Ⅷ+IX	胴部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(におい褐)	2.5YR5/4(におい赤褐)	○	○	-	-	○	-		904
436	SC-342	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	○	○	-	スス付着	1212
437	SC-342	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		1201
438	SC-342	胴部	隆帯文	ナデ	7.5YR5/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		1195
439	SC-342	底部	ナデ	ナデ	10YR5/3(におい黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	皿型土器か	2235
441	SC-350	口縁部	指押さえ	指押さえ・ナデ	10YR5/3(におい黄褐)	10YR5/1(黒褐)	○	○	-	○	○	-		1217
442	SC-350	胴部	指押さえ・ナデ	爪形文・ナデ	7.5YR6/4(におい橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	-	○	-		1218
444	12号住居	口縁～頸部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(におい黄橙)	7.5YR6/3(におい褐)	○	○	-	-	○	-		958
445	12号住居	口縁～頸部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-		957
446	12号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(におい黄橙)	10YR5/3(におい黄褐)	○	○	-	○	○	-		960
447	12号住居	口縁部	肥厚帯上部に刺突文	ナデ	2.5Y7/3(浅黄)	10YR7/3(におい黄橙)	○	○	-	-	○	-		956
448	12号住居	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR5/3(におい黄褐)	○	○	-	○	○	-	口唇部貝殻押圧文	955
451	13号住+Ⅵ+Ⅷ	口縁～胴部	つまみと押圧による隆帯文の後工芸による整形か	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR6/3(におい褐)	-	○	-	○	-	-	口唇部キザミ 口縁部つまみによる隆帯文	131
452	13号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 隆帯文の剥落痕有	962
453	13号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-		961
454	13号住居	胴部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(におい橙)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-		963
462	14号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR6/3(におい褐)	-	○	○	-	○	-	口唇部キザミ	799
463	14号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(におい黄橙)	10YR6/3(におい黄橙)	○	○	-	-	-	-	口唇部キザミ	805
464	14号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	5YR7/1(明褐灰)	○	○	-	○	○	-		108
465	14号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5YR5/3(におい赤褐)	5YR5/4(におい赤褐)	○	○	-	-	○	-		851
466	14号住居	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5R4/1(暗赤灰)	5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ	850
467	14号住居	口縁部	隆帯上に貝殻押圧文か	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		861
468	14号住居	口縁～胴部	隆帯上に貝殻腹線刺突文	指押さえ後ナデ	7.5YR6/3(におい褐)	10YR6/3(におい黄橙)	○	○	-	-	○	-	スス付着	106
469	14号住居	口縁部	肥厚帯	指押さえ・ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	-	-	○	-		803
470	14号住居	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR4/1(褐灰)	10YR6/2(灰黄褐)	-	○	-	-	○	-		855
471	14号住居	口縁部	肥厚帯上部に刺突文・下部に貝殻押圧文	ナデ	7.5YR6/3(におい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	-	口唇部貝殻押圧文	798
472	14号住居	口縁部	肥厚帯に貝殻押圧文	ナデ	5YR4/1(褐灰)	2.5YR5/4(におい赤褐)	-	○	-	-	○	-		852
473	14号住居	口縁部	肥厚帯上部と下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(におい黄橙)	○	○	-	-	○	-		1203
474	14号住+Ⅷ	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR6/3(におい褐)	○	○	-	-	○	-		839
475	14号住+Ⅷ	口縁～胴部	肥厚帯に押引き文・下部に貝殻押圧文	ナデ	5YR5/4(におい赤褐)	10YR5/3(におい黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス付着	795
476	14号住居	口縁～胴部	肥厚帯下部に刺突文	指押さえ後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		863
477	14号住居	胴部	肥厚帯下部に押引き文と刺突文	ナデ	7.5YR5/3(におい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-		862
478	14号住居	胴部	肥厚帯下部に沈線文	ナデ	10YR5/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	-	○	-	○	-	-		806
479	14号住+Ⅷ	口縁～胴部	肥厚帯に上部に刺突文・下部に爪形文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/4(におい褐)	○	○	-	-	○	-	穿孔有 スス付着	800
480	14号住居	胴部	肥厚帯下部に刺突文	指押さえ・ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/3(におい黄褐)	○	○	-	-	○	-	スス付着	836
481	14号住居	胴部	肥厚帯下部に爪形文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR6/3(におい黄橙)	○	○	-	-	-	-		849

遺物No.	遺構	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	実測No.
			外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐色	半透明・透明		
482	14号住居	口縁部	口縁部下をやや肥厚させた後爪形文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	-	○	-	-	-	口唇部キザミ スス付着	807
483	14号住居	口縁部	口縁部下をやや肥厚させた後爪形文	指押さえ・ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○	-	-	○	スス付着	107
484	14号住居	口縁部	肥厚帯	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	-	-	○	肥厚帯の剥落痕有 スス付着	109
485	14号住居	口縁～胴部	微隆帯・ナデ	ナデ	5YR5/2(灰褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	-	○	-	スス付着 隆帯の剥落痕有	837
486	14号住居	口縁部	ナデ	ナデ	5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	スス付着	854
487	14号住居	胴部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	-	-	○	○	-	840	
488	14号住居	胴部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	○	-	838	
511	SC-329	胴部	やや肥厚させた後爪形文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	2216	
518	SC-338	胴部	口縁部下をやや肥厚させた後つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	-	○	-	○	-	887	
519	SC-339	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	-	-	○	口唇部キザミ	1209
521	SC-250	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○	-	-	○	1592	
522	SC-306	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	-	1204	
523	SC-325	口縁部	肥厚帯下部にキザミ	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	-	○	-	スス付着	1185
524	SC-325	胴部	肥厚帯下部にキザミ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	スス付着	1184
525	SC-325	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	-	-	○	1186	
526	SC-349	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	○	-	口唇部キザミ	1207
527	SZ-273	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	-	1208	
529	SC-281	胴部	ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	-	穿孔有	1202
530	SC-282	口縁部	肥厚帯上部に貝殻押圧文・下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	-	○	1191	
531	SC-282	口縁部	肥厚帯	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	-	○	-	口唇部貝殻押圧文 穿孔有	1190
532	SC-282	口縁部	肥厚帯下部に押し引き文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	-	○	-	口唇部貝殻押圧文	1205
533	SC-282	口縁部	肥厚帯上部に貝殻押圧文・下部に貝殻押し引き文及びつまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○	○	-	○	スス付着	1206
534	SC-282	胴部	隆帯文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○	-	○	1192	
535	SC-282	胴部	つまみによる隆帯文か	ナデ	2.5YR4/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	-	○	○	-	○	1194	
536	SC-282	底部	肥厚帯下部に押し引き文	不明	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	-	-	○	1193	
537	SC-282	底部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	○	-	1189	
538	SC-282	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	-	○	スス付着	1188
542	SC-190	口縁部	口縁部下をやや肥厚させた後爪形文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR8/1(灰白)	○	○	-	○	-	口唇部キザミ	2231
543	SC-202	胴部	刺突文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	-	-	○	2225	
545	SC-310	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文の後貝殻押圧文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	2.5Y6/3(にぶい黄)	○	○	-	-	○	1613	
546	SC-224	口縁～胴部	ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR4/2(灰黄褐)	-	○	-	-	○	スス付着	1608
547	SC-313	口縁～胴部	指押さえ後ナデ	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○	-	-	○	口唇部キザミ 縦長の穿孔有	110
548	SC-313	口縁～胴部	ナデ	指押さえ後ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	112	
549	SC-313	口縁～胴部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	-	-	○	スス付着	111
550	SC-313	胴部	ナデ	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○	-	-	スス付着	1951
551	SC-313	胴部	指押さえ・ナデ	指押さえ・ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	-	○	-	スス付着	1952

第4表 縄文草創期遺構内出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
204	2262	石鏃	1号住居		黒曜石(桑ノ木津留)	(1)	1.05	0.25	(0.3)	先端部欠損
205	2253	石鏃	1号住居		真岩	(2.3)	1.7	0.4	(1.7)	先端部欠損
206	2287	石鏃	1号住居		真岩	4.35	2.25	1.25	6.5	
207	2299	石核	1号住居		チャート	3.05	4.55	1.6	20.2	
243	2258	石鏃	2号住居		チャート	(1.15)	1.3	0.3	(0.4)	先端部欠損
244	2243	石鏃	2号住居		チャート	(1.45)	1.15	0.35	(0.6)	先端部脚部欠損
245	2244	石鏃	2号住居		チャート	1.9	1.25	0.4	0.8	
246	2245	石鏃	2号住居		※黒曜石(桑ノ木津留)	(1.95)	(1.2)	0.5	(0.8)	脚部欠損 先端部礫状剥離 試料№KIH1-017
247	2242	石鏃	2号住居		黒曜石(桑ノ木津留)	1.75	1.1	0.25	0.5	
248	2182	スクレイパー	2号住居		真岩	(3.6)	(3.8)	(0.65)	(10.06)	上下両端部欠損
249	2336	剥片	2号住居		尾鈴山酸性岩	2.1	2.7	0.8	3.8	
250	2400	石斧	2号住居		真岩	13.45	6.2	2.6	209.1	接合資料⑧ 未製品
251	2404	石斧調整剥片	2号住居		真岩	4.15	2.1	0.4	2.9	接合資料⑧
252	2403	石斧調整剥片	2号住居		真岩	2.4	4.55	0.5	3.8	接合資料⑧
253	2401	石斧調整剥片	2号住居		真岩	8.1	5.1	2.2	73.4	接合資料⑧
254	2402	石斧調整剥片	2号住居		真岩	5.35	4.2	0.6	11.1	接合資料⑧
255	1353	石斧	2号住居		緑色堆積岩	(6.4)	(5.9)	(2.4)	(108.1)	刃部欠損
256	2203	石斧調整剥片	2号住居		緑色堆積岩	2.95	5.2	0.75	7.05	
257	1849	敲石	2号住居		砂岩	14.7	8.5	5.9	1049.2	
258	1829	敲石・磨石	2号住居		砂岩	10.8	8	4.7	513.6	
259	1852	石皿片	2号住居		砂岩	12.5	14.3	8.8	1620	
268	77	敲石	3号住居		砂岩	10.3	4.5	3.6	242.8	
269	1836	磨石	3号住居		砂岩	6.9	5.55	4.1	186.3	
286	2259	石鏃	4号住居		ホルンフェルス	(1.6)	1.2	0.35	(0.7)	先端部欠損
287	2174	スクレイパー	4号住居		砂岩	4.85	4.7	2.55	54.72	
288	2205	石斧調整剥片	4号住居		緑色堆積岩	(3.7)	4.6	0.8	(10.38)	側縁部欠損
289	2361	石斧調整剥片	4号住居		緑色堆積岩	(2.2)	(3.9)	0.4	(3.8)	上下両端部欠損
290	2202	石斧調整剥片	4号住居		ホルンフェルス	2.4	3.8	0.85	6.74	表面に光沢有
291	2337	剥片	4号住居		尾鈴酸性岩	3.5	(4.8)	0.8	(7.2)	左下部欠損
292	1843	敲石	4号住居		砂岩	11.4	6.4	4.7	491.3	
293	1842	敲石	4号住居		砂岩	(12.55)	(4.7)	(1.9)	(186.7)	下部欠損
305	2246	石鏃	5号住居		黒曜石(桑ノ木津留)	(1.9)	1.2	0.35	(0.6)	先端部欠損

蛍光X線分析による原産地推定結果あり(※は原産地が判別できなかったもの)

( )の値は残存値を示す

## 第3節 遺物包含層中の出土遺物について

### 1. 縄文土器(第96図～第105図)

本調査区から出土した縄文草創期の土器については有文のものを中心に以下の基準で分類を行った。なお欠損等によって分類が難しい資料については分布図から除外している。本文中の出土点数は有文の分類可能な遺物とそれに接合した無文部位のもので、分類できなかった資料数は記入されていない。なお本分類は本調査区における資料の分類であり、他の遺跡と共通するものではない。今回は器表面に張り付けられた粘土紐をの幅が6mmを境にそれより太いものを隆帯、それ以下のものを隆線と分類している。掲載資料の個別の詳細については第5表を参照していただきたい。遺物包含層中の縄文草創期の土器の分布状況をみると、ほとんどが調査区の中央より南側で出土しており、その中でも特に竪穴住居群が分布する付近において出土量が多いことが特徴的である。

#### 隆線紋土器(553～555)

器表面に隆線を貼り付けるもので7点出土している。そのうちのほとんどが555の資料の破片で接合しており、全体の形状が復元できる資料となっており、口縁部径14.2cm、器高12.8cmを測る。隆線上には工具による刺突(553)、指頭による押圧(555)、工具による「×」状の文様のもの(554)が見られる。

#### 隆帯文土器1類(556～561)

器表面に隆帯を数条貼り付けるもので、各隆帯は密接していない。28点出土している。隆帯を指押さえるによって爪先圧痕を施すもの(1a類：556・557、9点出土)、隆帯上に貝殻押引文を施すもの(1b類：558～560、3点出土)、隆帯をつまんで貼り付けることにより横「ハ」の字の爪形文を施すもの(1c類：561、16点出土)に細分される。556は隆帯の下位に、557は内面に爪形文が見られる。

#### 隆帯文土器2類(562～612)

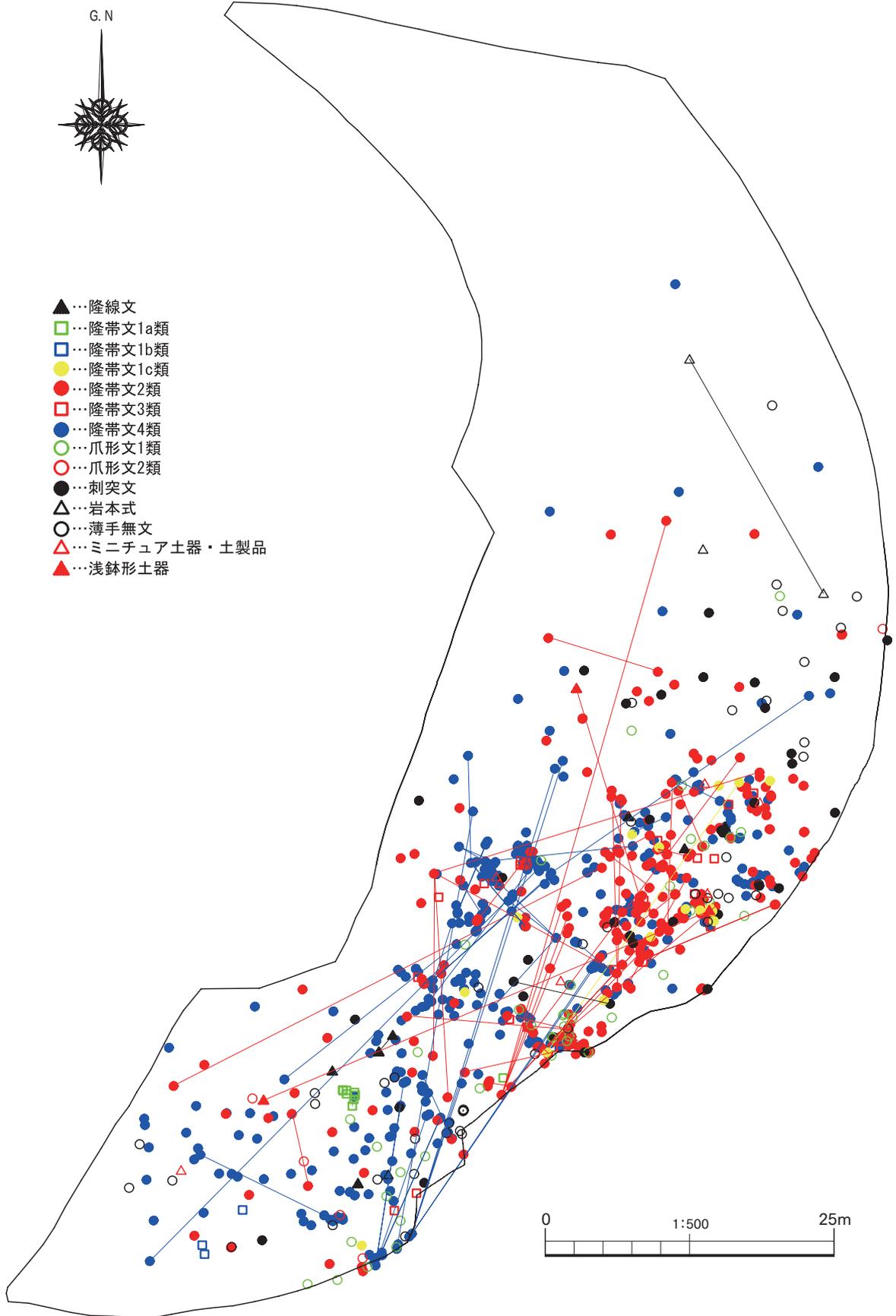
器表面に隆帯を数条貼り付けるもので、各隆帯は密接している。分類可能な資料は254点見られる。隆帯は上から下へ貼り付けられており、その隆帯をつまんで貼り付けることにより横「ハ」の字の爪形文を施す(562～608)、この隆帯は基本的に土器を逆位に持って左から右向きに貼り付けを行っている。この土器については破片資料で隆帯が1条しか見られないものだと後述の隆帯文土器3類との分類が困難で分布図上に反映できなかったものも多い。その他に指頭押圧によって貼り付けるもの(609・610)、隆帯上に爪形文を施すもの(611・613)、隆帯上に工具で施文するもの(612)に細分される。この中でも特に横「ハ」の字の爪形文を施す502～608はバリエーションが豊富で隆帯上の爪形文の上の方の文様がより大きく残るもの(569～573)、口唇部にキザミを施すもの(574～585)、隆帯が分厚いもの(586～589)、口唇部に刺突文を施すもの(590～591)口唇部付近を大きく肥厚させ斜位に大きなキザミを施すもの(592～594)、密接する数条の隆帯上に大きなキザミを施すもの(595～597)、各隆帯の横「ハ」の字の爪形文を消すようにキザミを施すもの(598)、口唇部から隆帯上にまとめてキザミを施すもの(599)、口唇部にもつまみによる隆帯を貼り付け横「ハ」の字の爪形文を施すもの(600)、つまみによる隆帯の貼り付けの向きが上下で異なるもの(601)、口唇部に突起があるもの(602)、内面にも隆帯を貼り付けるもの(603・604)、密接する隆帯がうねりをもつもの(605～607)、隆帯が通常と逆の右から左につまんでいるもの(608)などが見られる。565・567・609・612は口縁部が反転復元できる資料で、その径は565が28.4cm、574は32.4cm、609は28.2cm、612は32cmを測る。

#### 隆帯文土器3類(613～623)

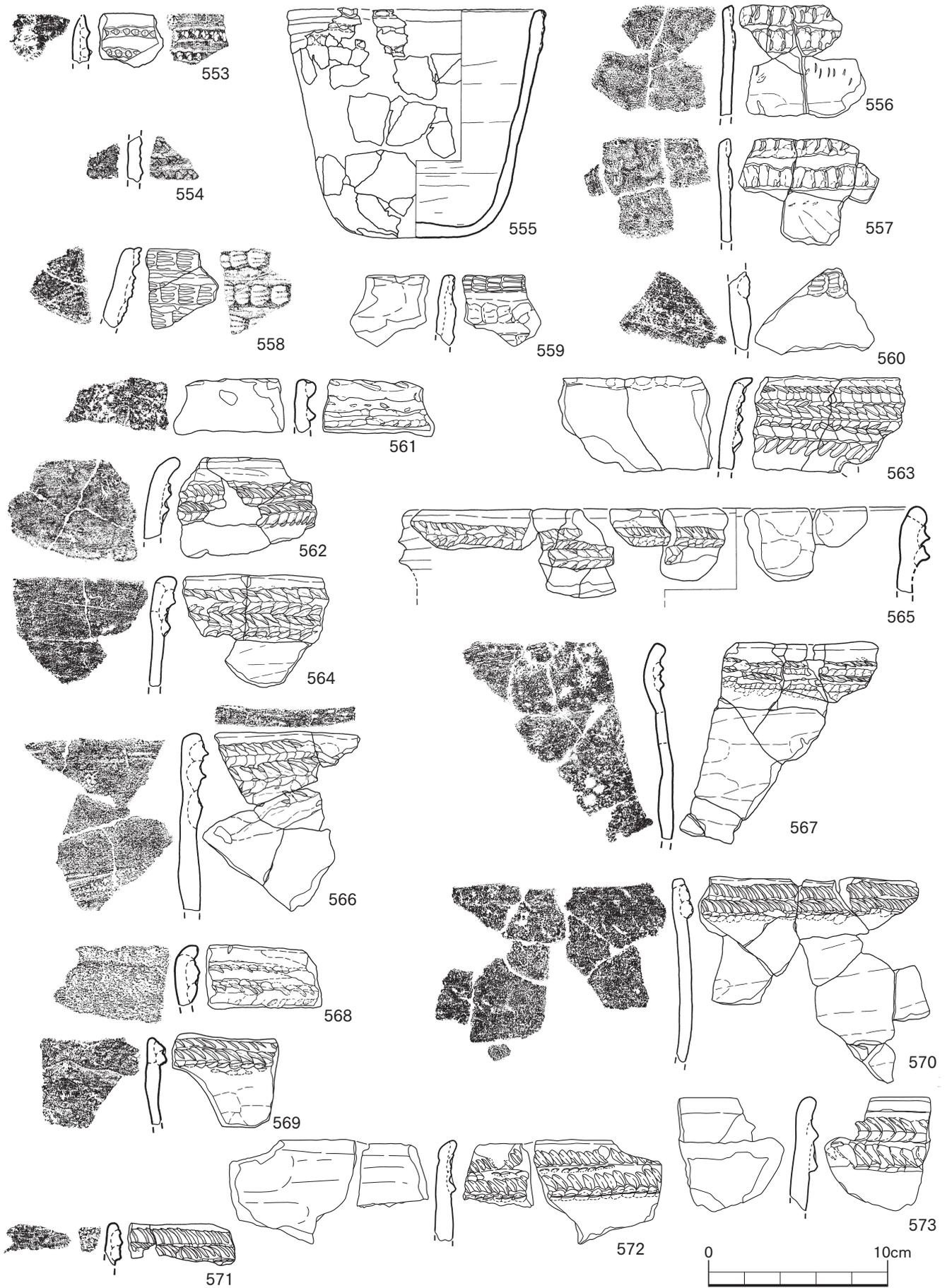
器表面に隆帯を一条貼り付けるもので28点出土している。口唇部と隆帯上に爪形文を施すもの(613・614)、隆帯上にだけ爪形文を施すもの(615・616)、口唇部よりやや下方につまみによる隆帯を貼り付けることによって横「ハ」の字の爪形文を施すもの(617～619)、隆帯にキザミを施すもの(620・621)、隆帯上に貝殻押圧文を施すもの(622)、隆帯上に指頭押圧を施すもの(623)とこちらもバリエーションに豊富である。617の反転による口縁部径は19.4cmを測る。

#### 隆帯文土器4類(624～669)

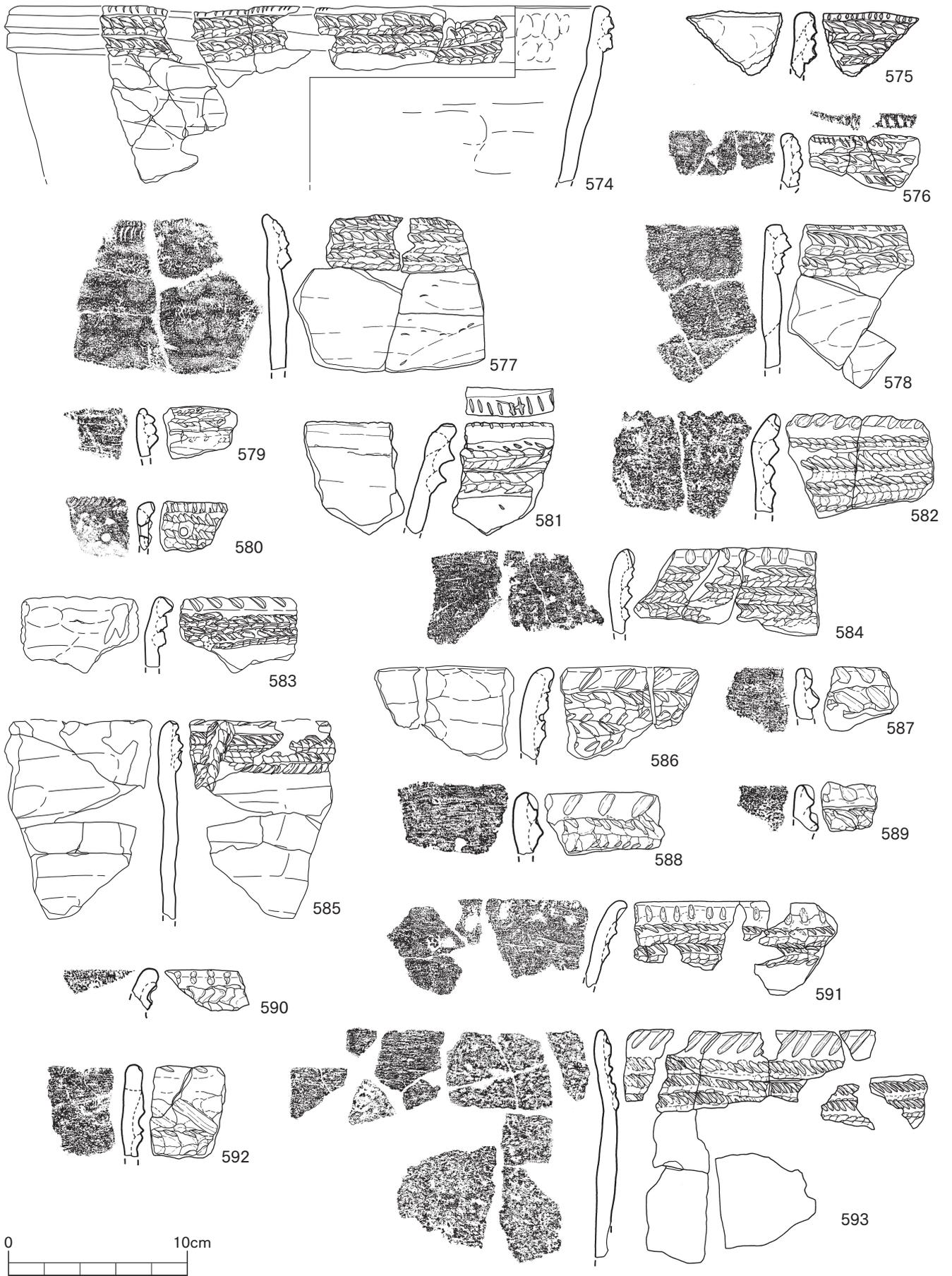
口縁部の下方に一条から数条の隆帯を巡らせるがその単位は不明瞭で、口縁部全体を肥厚させているように見えるもの。343点出土している。肥厚帯は胴部にも見られるものもある。肥厚帯下部に貝殻押圧文を施すもの(624～634)、貝殻条痕を施文するもの(635～637)、口唇部に貝殻押引文を施して肥厚帯下部に円形の刺突文を施すもの(638)、口唇部に貝殻押圧文を施して肥厚帯下部の隆帯上におそらく貝殻による押引文を施しているもの(639～641)、肥厚帯に縦位の沈線文を施すもの(642・643)、肥厚帯下部に方形の押圧文を施すもの(644



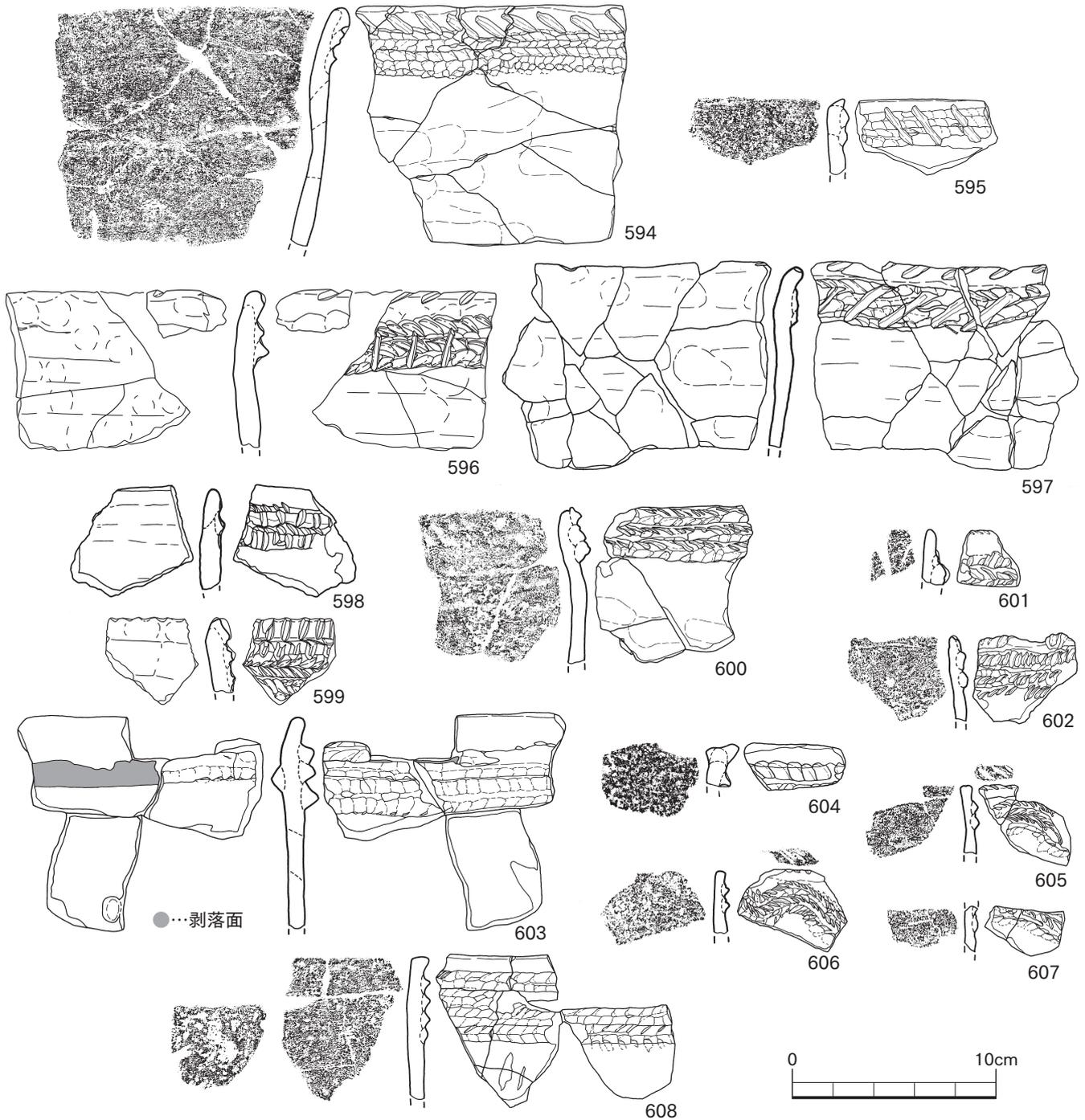
第96図 縄文時代草創期遺物包含層出土土器分布図 (S=1/500)



第97图 縄文草創期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)



第98図 縄文草創期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)

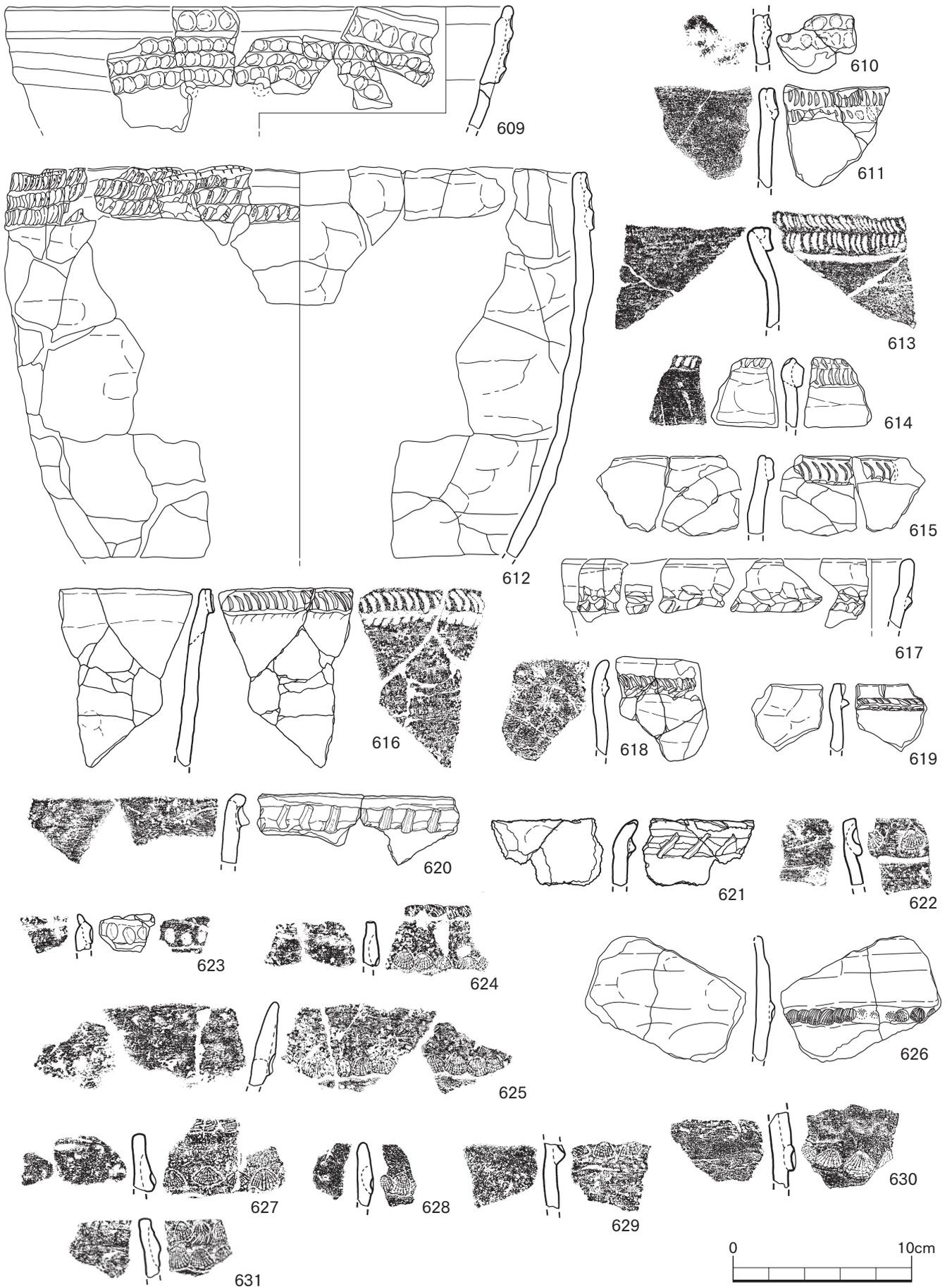


第99図 縄文草創期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3)

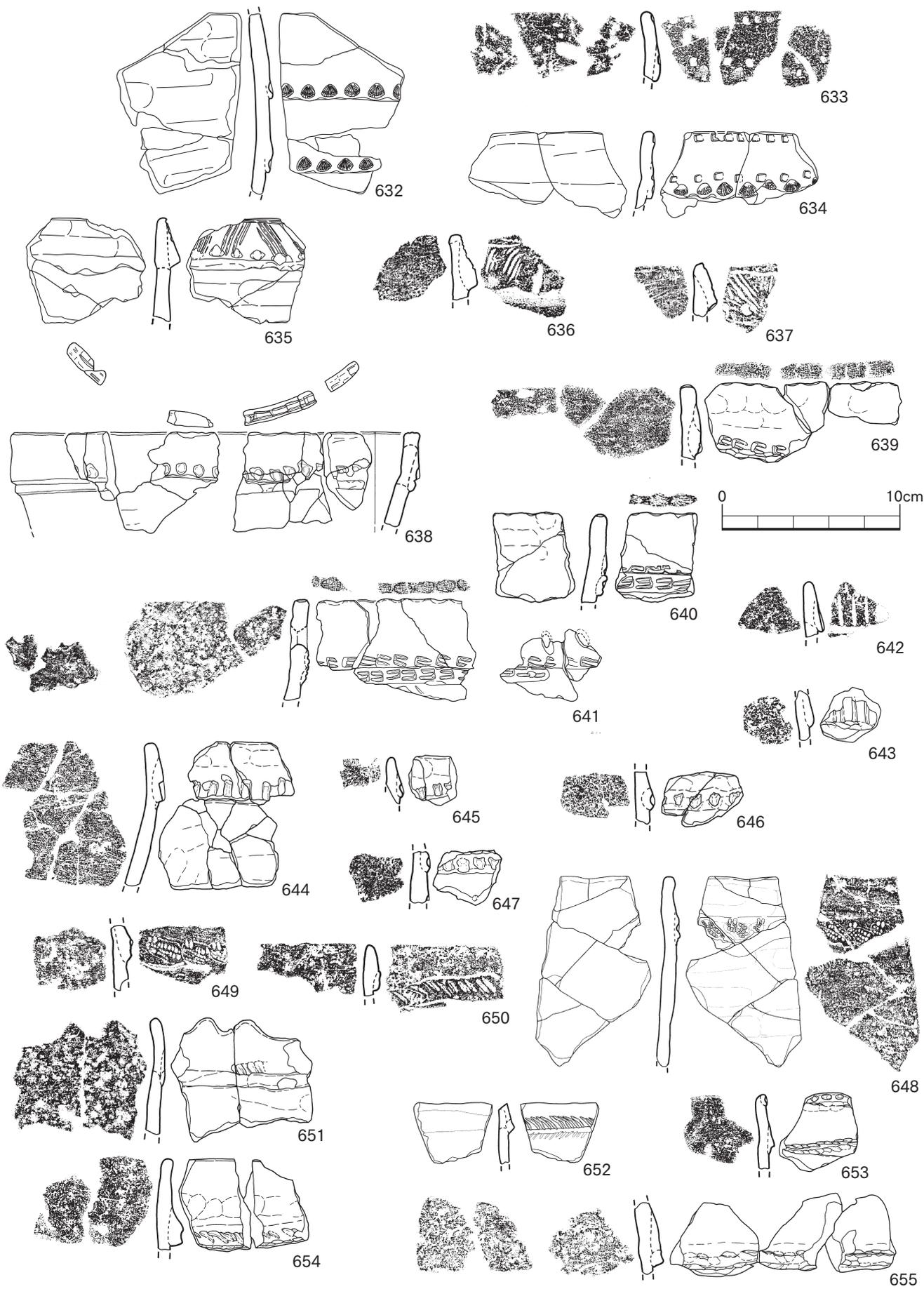
～647)、肥厚帯下部に不明原体による押圧文を施すもの(648・649)、肥厚帯下部に一条の隆帯を巡らせて爪形文を施すもの(650～662)、肥厚帯上部に刺突文その下に爪形文を施すもの(663)、肥厚帯上部に爪形文その下に刺突文を施すもの(664)、肥厚帯下部に無文の隆帯を巡らすもの(665～667)、肥厚帯に貝殻押圧文と爪形文の両者が見られるもの(668・669)と隆帯文土器2類・3類と同様にバリエーションが豊富である。638・668は口縁部が反転復元できるもので、その径は638が23cm、668は26cmを測る。また656・658・659は胴部が反転復元できるものでその径は656が17.5cm、658は14.5cm、659は20cmを測る。

#### 爪形文土器1類(670～675)

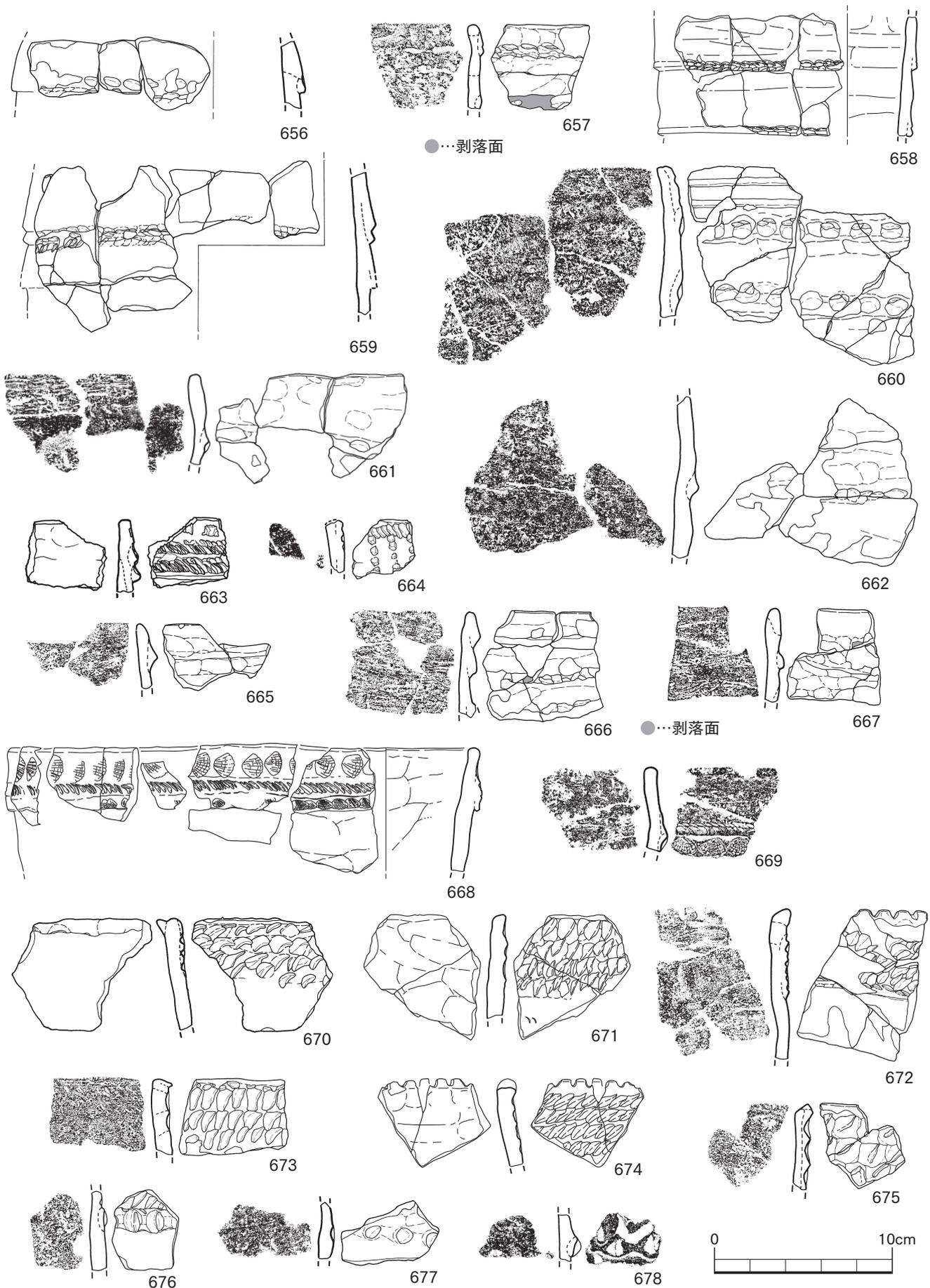
口縁部全体を薄く肥厚させてその上に爪形文を施すもので、その爪形文は爪を差し込んだ後に爪の表面を押しつけるように施文するもの(670～674)と爪と共に指頭の押圧も見られるもの(675)とに細分される。これらはいわゆる南九州型爪形文土器と呼ばれるもので41点出土している。内面に隆帯を巡らすもの(670)や口唇部に



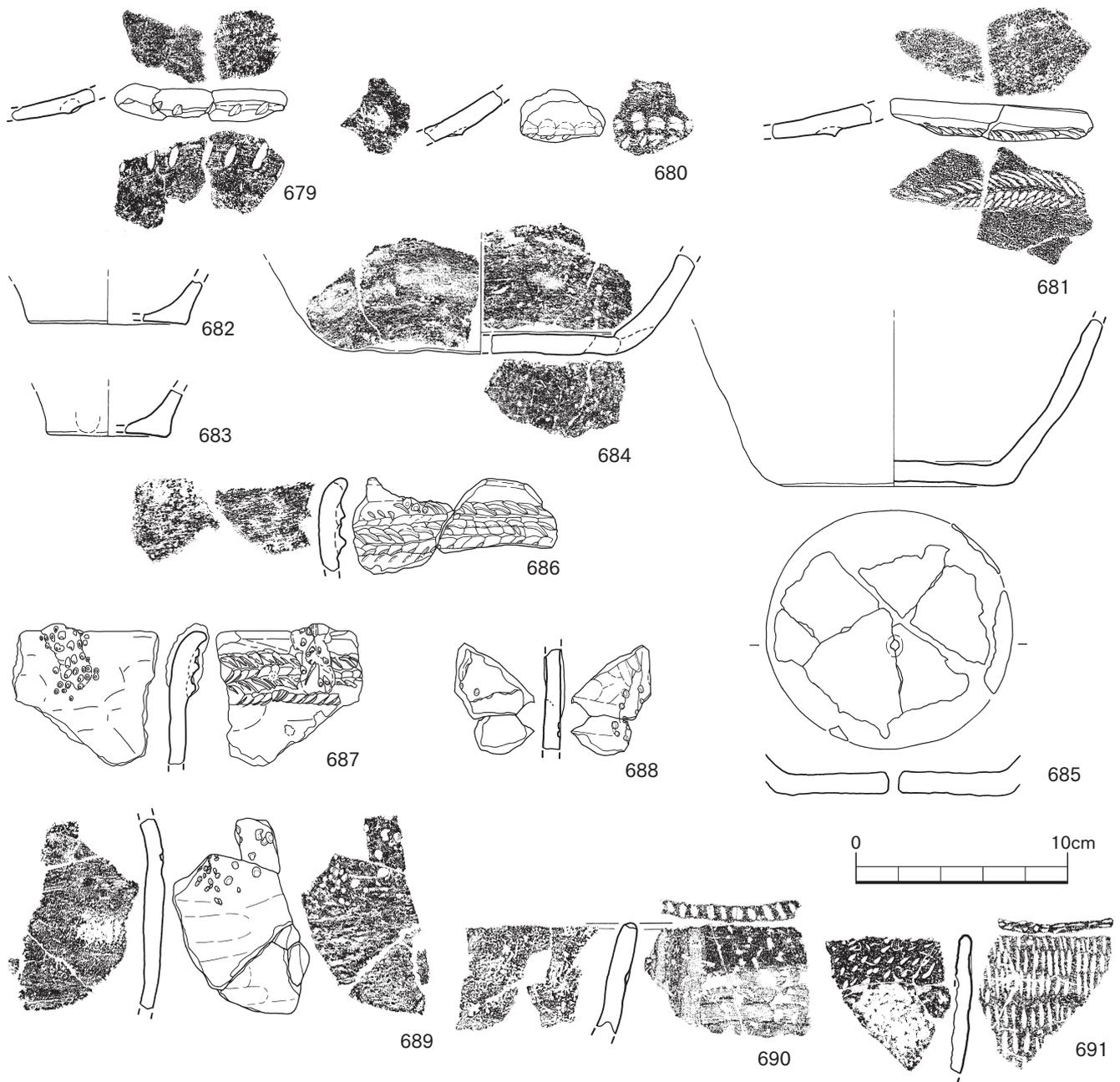
第100図 縄文草創期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3)



第101図 縄文草創期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)



第102図 縄文草創期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3)



第103図 縄文草創期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3)

キザミを施すもの(672・674)も見られる。673は内面にも爪形文が見られる。

**押圧文を施す土器(676～678)**

一条の隆帯上に押圧文を施すもので3点出土している。676は隆帯の上位に爪形文が見られる。

**浅鉢形土器(679～681)**

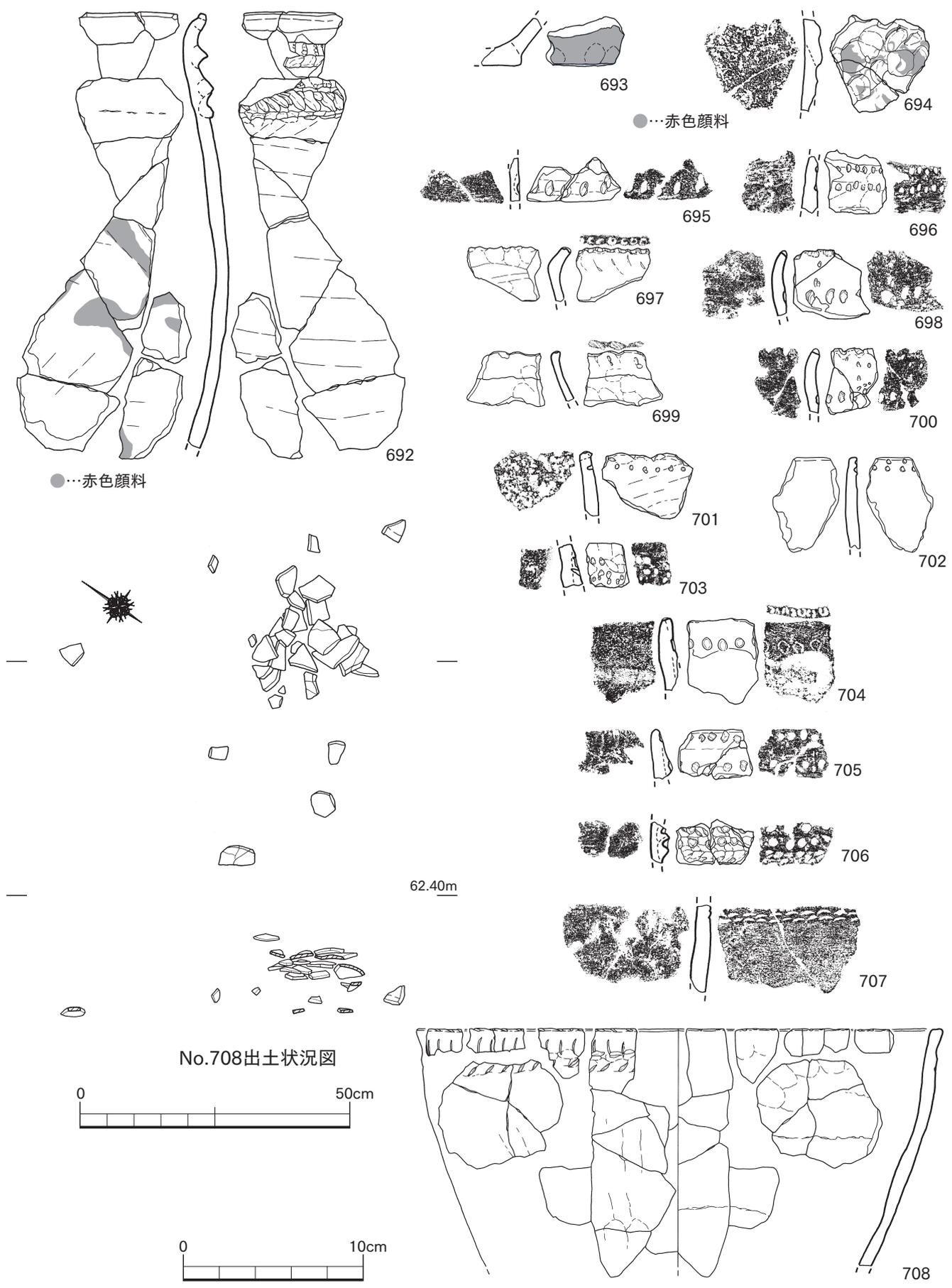
破片資料ばかりで全体の形状は不明だが、一条の隆帯が弧状に巡る状況から器形の傾きを推定し、浅鉢型の底部付近の破片と判断された資料である。隆帯の施文方法から隆帯上にキザミを施すもの(679)、つまみによる隆帯を貼り付けもの(680・681)に細分される。5点の破片資料で3個体が出土している。

**底部片(684～685)**

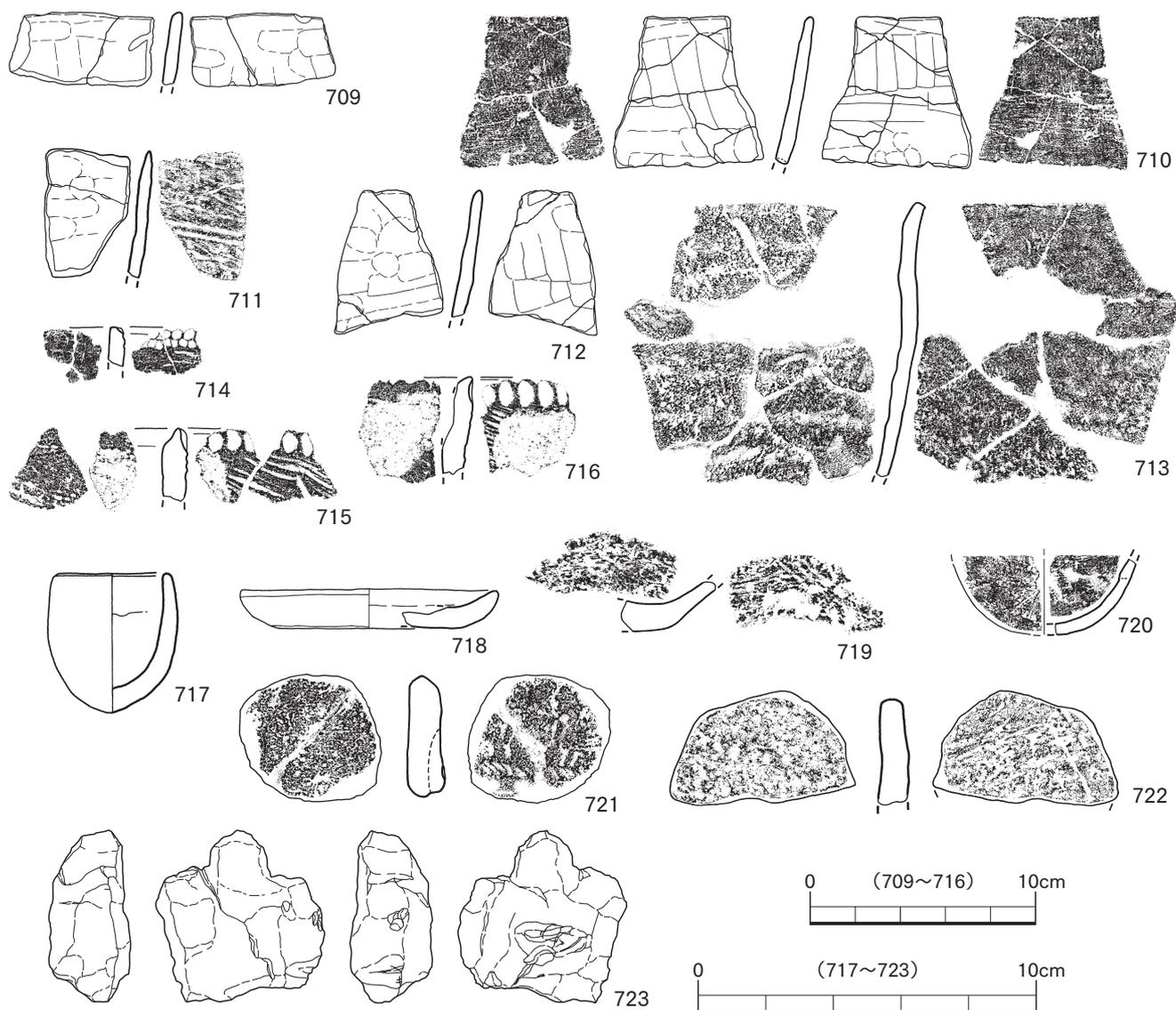
平底の底部片で出土層位及び胎土から隆帯文土器の底部と判断された資料である。全て底部の反転復元は可能で、その径は682が7.6cm、683は5.3cm、684は12cm、685は11.3cmを測る。なお685は底部中央付近に径4mm程度の焼成後の両面からの穿孔が見られる。

**串状工具によって刺突文を施すもの(687～691)**

串状の工具によって刺突文を施すもので14点の破片資料で6個体が出土している。686・687は隆帯文土器2



第104図 縄文草創期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3) 及びNo.708出土状況図 (S=1/10)



第105図 縄文草創期遺物包含層出土土器及び土製品実測図 (S=1/3・1/2)

類に刺突文を施すものである。690も隆帯部分が剥落しているがおそらく同様のものであろう。687は横方向に隆帯を巡らせ、その上に縦方向の隆帯を内面から外面にかけて貼り付けている。688も縦方向に隆帯をもつ。この両者は内面にも刺突文が見られ、特に隆帯付近の施文が顕著である。689と691は隆帯施文のない資料である。691は串状工具によって外面に縦方向に短沈線を施し、内面に刺突文を施している。

#### 丹塗り土器(692～694)

赤色顔料を施すものである。3点全てで図示している。692は隆帯文土器1c類で内面に顔料が見られる。693・694は外面に確認される。694は爪形文土器1類に分類される。

#### 刺突文土器(695～706)

円形や楕円形の刺突文を施すものである。既存の分類で円孔文土器に分類されるが、刺突文が貫通しているものは確認されていない。18点の破片資料で12個体が出土している。695・698・700は楕円形の刺突文で、その他は円形の刺突文である。口唇部についてはキザミを施すもの(701)、円形などの押圧文を施してキザミを付けたように見えるもの(697・704)とみられる。697は口縁部に爪形文が確認される。703・705は隆帯文土器4類に、706は隆帯文土器2類に円形の刺突文を施すものである。

#### 爪形文土器2類(707・708)

1類とは異なり、器面を肥厚させずに爪形文を施すもので5点出土している。707は横位2条の爪形文を施す。708は口唇部下につまみによって横「ハ」の字の爪形文を施した後、その上に縦位の爪形文を施している。後円部

は反転復元することができ、その径は 28.7cm を測る。

#### 無文土器(709～713)

器面にはナデ調整を施して隆帯文土器よりも薄手で仕上げられており、特別に文様を持たないもので 45 点出土している。713 以外は直口する口縁部で、胎土は SC-313 出土の 547・548 に似ている印象を受ける。710・712 はナデの工具痕が明瞭に見られる。711 は条痕の後にナデ調整を施すものである。713 はやや厚手で口縁部がやや外反するものである。

#### 岩本式土器(714～716)

口唇部にはキザミや刺突文を施して口縁部内面には段を持つ。器表面は貝殻条痕、内面は貝殻条痕の後にナデ調整を施すもので 4 点出土している。

## 2. 土製品（ミニチュア土器を含む：第 105 図）

遺物包含層からはミニチュア土器(717～720)、土製円盤(721・722)、胸像形土製品(723)が出土している。717 はやや尖り気味の丸底の深鉢形で自立はしない。内面には粘土の輪積みの単位が確認される。口縁部径は 3.2cm、器高は 4.1cm を測る。718・719 は皿形の器形である。718 は醤油皿のような大きさで、反転復元が可能で口縁部径が 7.5cm、器高は 1.15cm、底部径は 5.6cm を測る。720 も破片資料で分類が難しいが丸底の深鉢形と考えられる。721・722 は土製円盤である。両者とも土器片を転用したのと考えられる 721 は表面に横「ハ」の字の爪形文が確認され、残存する長さは 3.7cm、幅は 4.9cm、厚さは 1cm を測る。722 は下半部を欠損するが、現状では長さ 3.4cm 以上、幅は 5.5cm、厚さは 1cm を測る。723 は人の上半身のような形態を想定することができるが、いわゆる土偶にみられるような乳房の表現は見られない。本資料の胎土は隆帯文土器と異なる印象を受ける。また表面には数か所の刺突が確認される。長さは 5.1cm、幅は 4.9cm、厚さは 2.45cm を測る。

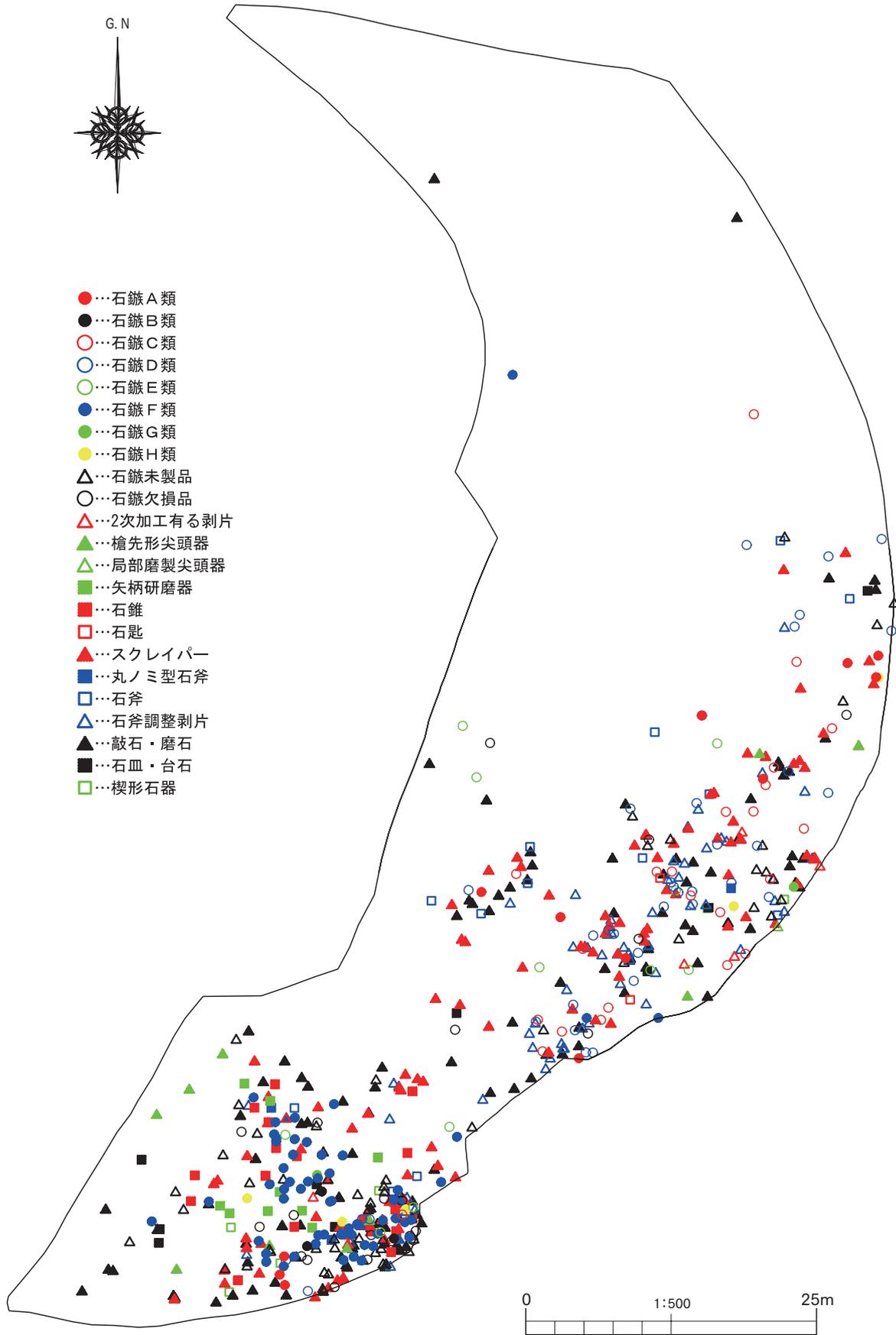
## 3. 石器（第 106 図～第 119 図）

各器種の分類については第 4 章の第 3 節の分類基準を用いている。なお、使用石材については大半が肉眼観察によるものである。掲載資料の個別の詳細については第 6 表を参照していただきたい。遺物包含層中の縄文草創期の石器の出土状況をみると土器と同じように調査区の南側からほとんど資料が出土している。しかし、竪穴住居群周辺よりもその南西部付近のほうにより分布が集中することが特徴的である。

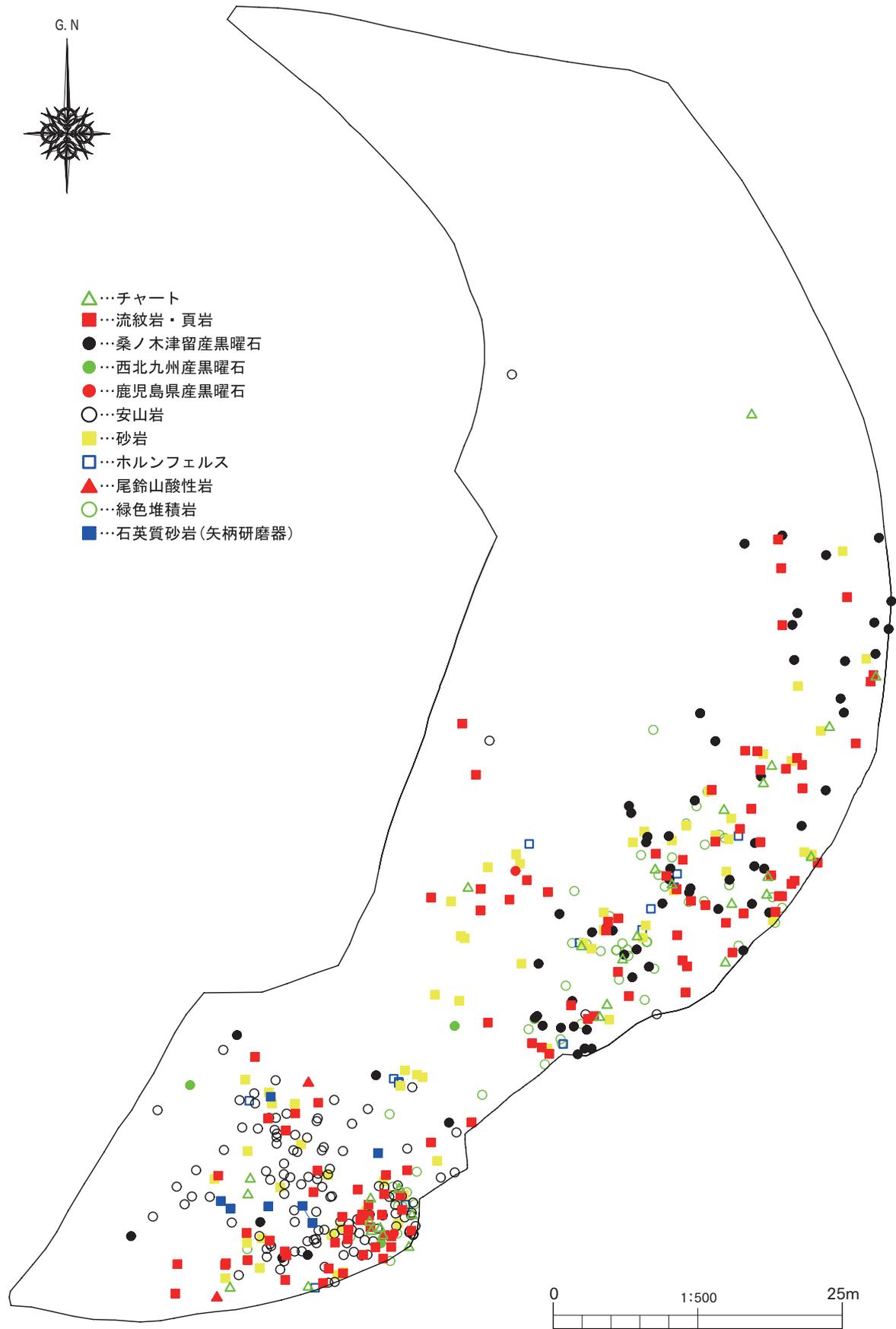
#### 石鏃(724～828)

本文化層のナイフ形石器は未製品や欠損品も含めて 227 点出土しており、以下の 9 種類に分類される。

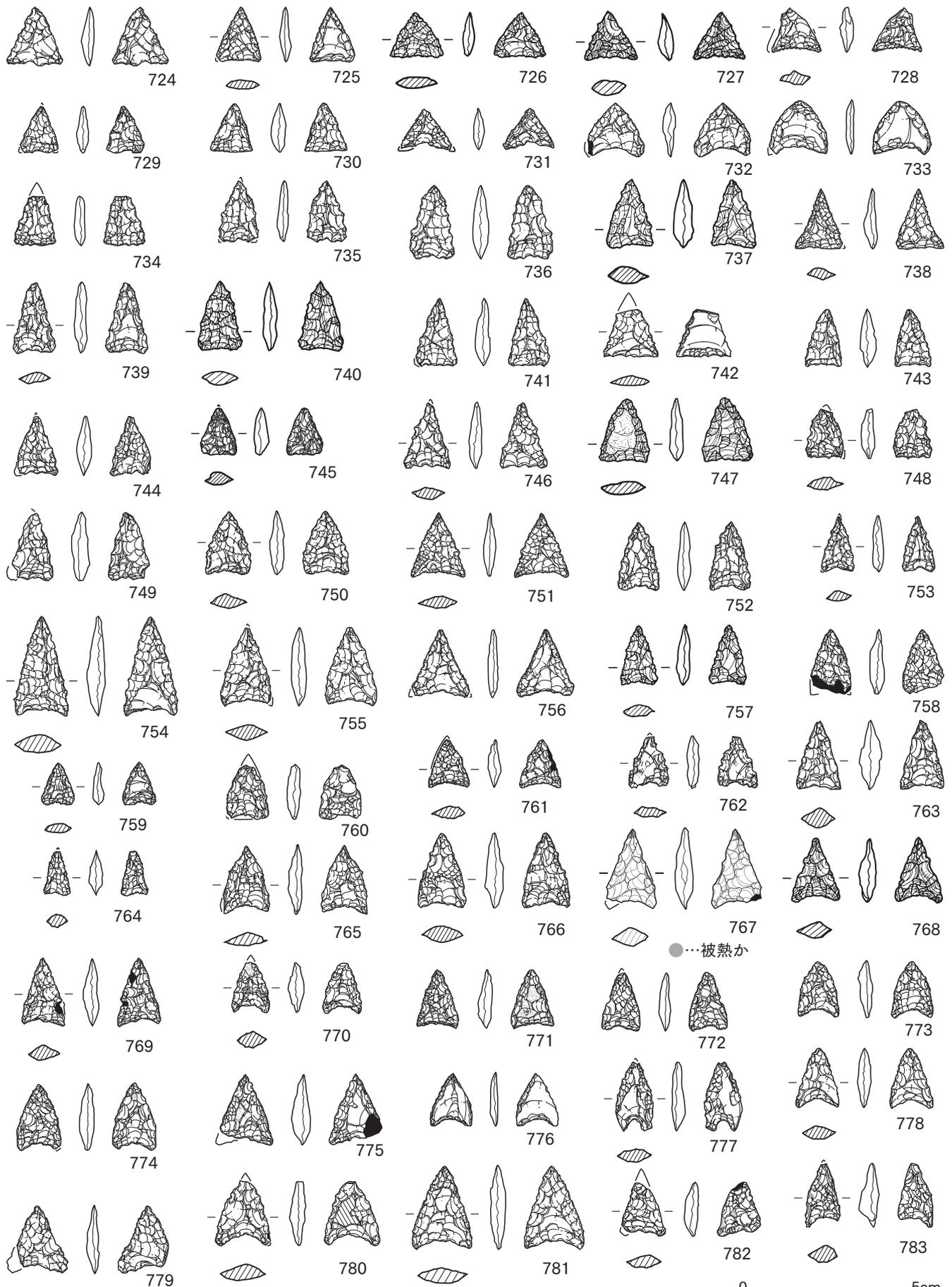
- ・A 類(724～730): 平面形が概ね正三角形で基部の挟りのないもの、浅いもの。12 点出土している。頁岩・桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立つ。725 は素材剥片の主要剥離面を大きく残す。
- ・B 類(731～733): 平面形が概ね正三角形で基部の挟りが深いもの。3 点出土している。733 は調整が中心まで及んでおらず、素材剥片の形状を大きく残している。
- ・C 類(734～749): 平面形が概ね二等辺三角形で基部の挟りが浅いもの。23 点出土している。チャート・頁岩・桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立ち、多くが竪穴住居周辺より出土している。736・740 は先端部に屈曲が見られる。742 は素材剥片の主要剥離面を大きく残す。747 は自然面を大きく残している。
- ・D 類(750～776): 平面形が概ね二等辺三角形で基部の挟りが浅いもの。36 点出土している。チャート・頁岩・桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立ち、多くが調査区中央部の東側から竪穴住居周辺に分布が集中している。765・762・773 は先端部に屈曲が見られる。762・776 は素材剥片の形状を大きく残している。
- ・E 類(777～787): 平面形が概ね二等辺三角形で基部の挟りが深いもの。11 点出土している。頁岩・桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立つ。777 は調整が中心まで及んでおらず、素材剥片の形状を大きく残している。781 は F 類との分類に迷う資料である。
- ・F 類(788～812): 基部の挟りが深く、脚部の先端が屈曲して尖るもの。55 点出土している。安山岩の使用が目立ち、特に調査区の南西部に分布が集中している。793・794・801・805・807・808・810・811 は先端部にも屈曲が見られることからこれらの一部は再加工されたものの可能性がある。
- ・G 類(813・814): 研磨を施すもの。2 点出土している。813 は緑色堆積岩製の全面磨製のもので、814 は頁岩製の局部磨製のものである。
- ・H 類(815): 上記分類に当てはまらないもの。5 点出土している。この他に欠損によって分類できなかった資料が 22 点出土している。815 はホルンフェルス製のもので基部が欠損しており、全体の形状が把握しづらいが



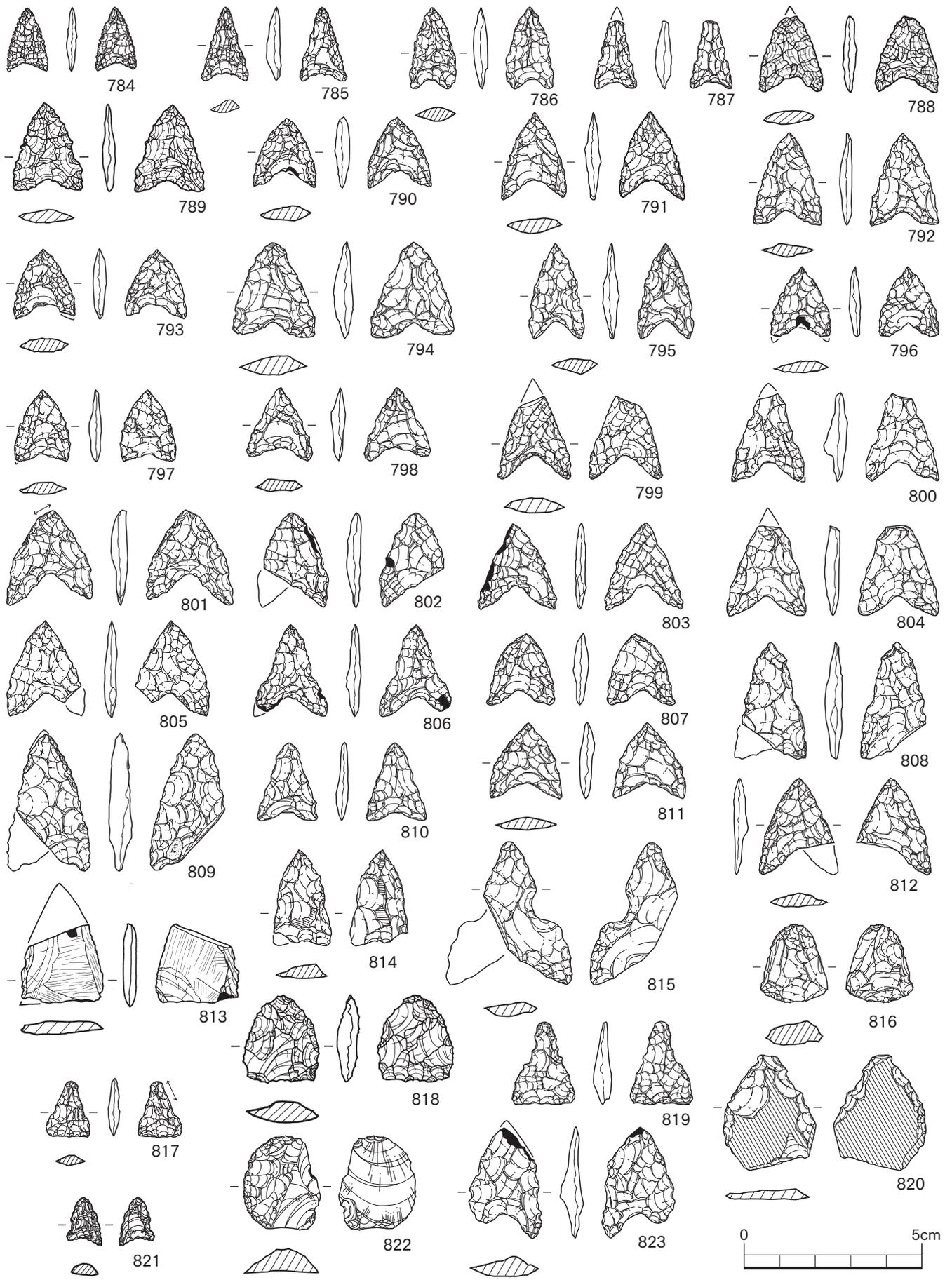
第106図 縄文時代草創期遺物包含層出土主要石器分布図①【器種別】(S=1/500)



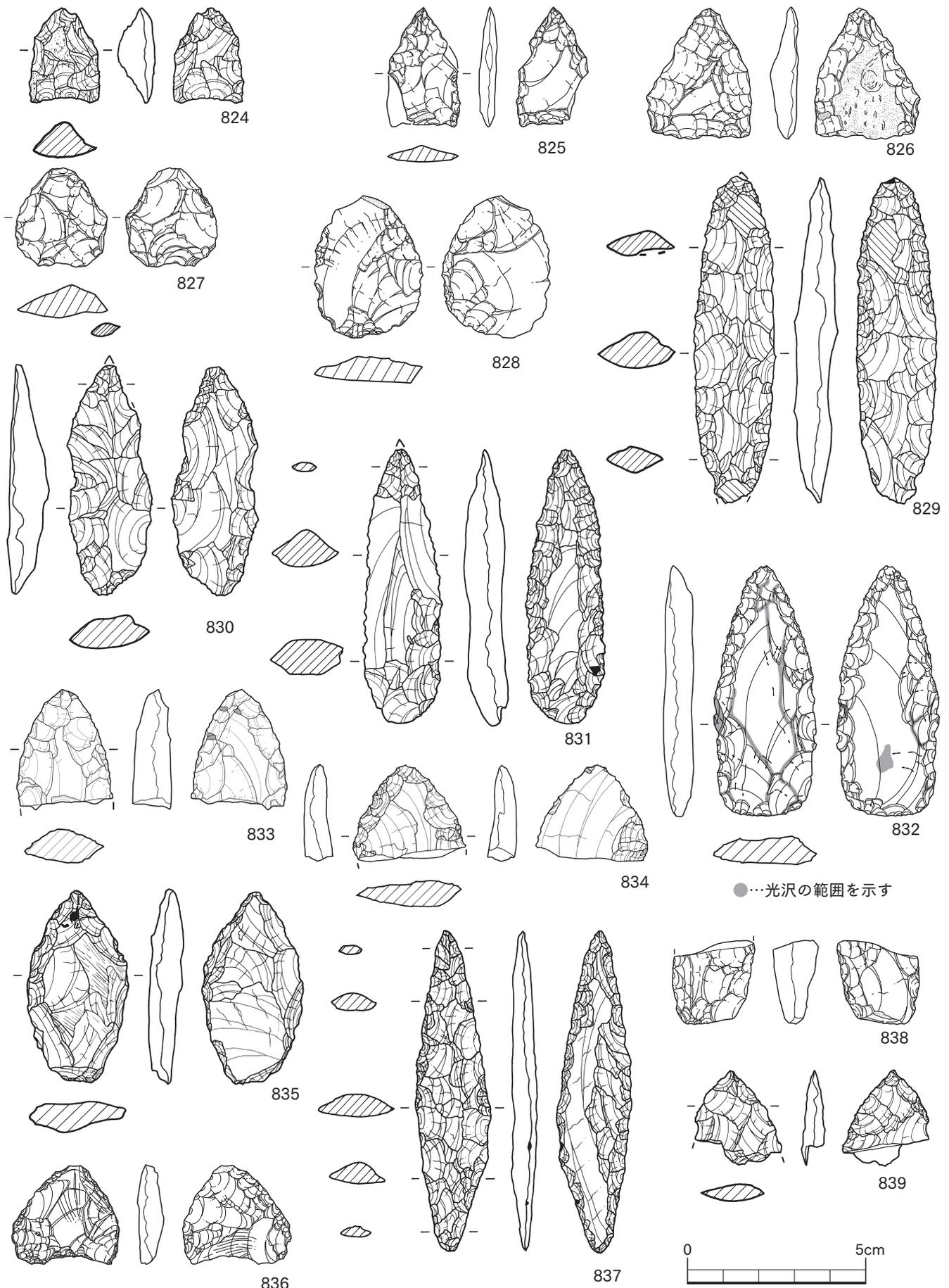
第107図 縄文時代草創期遺物包含層出土主要石器分布図②【石材別】(S=1/500)



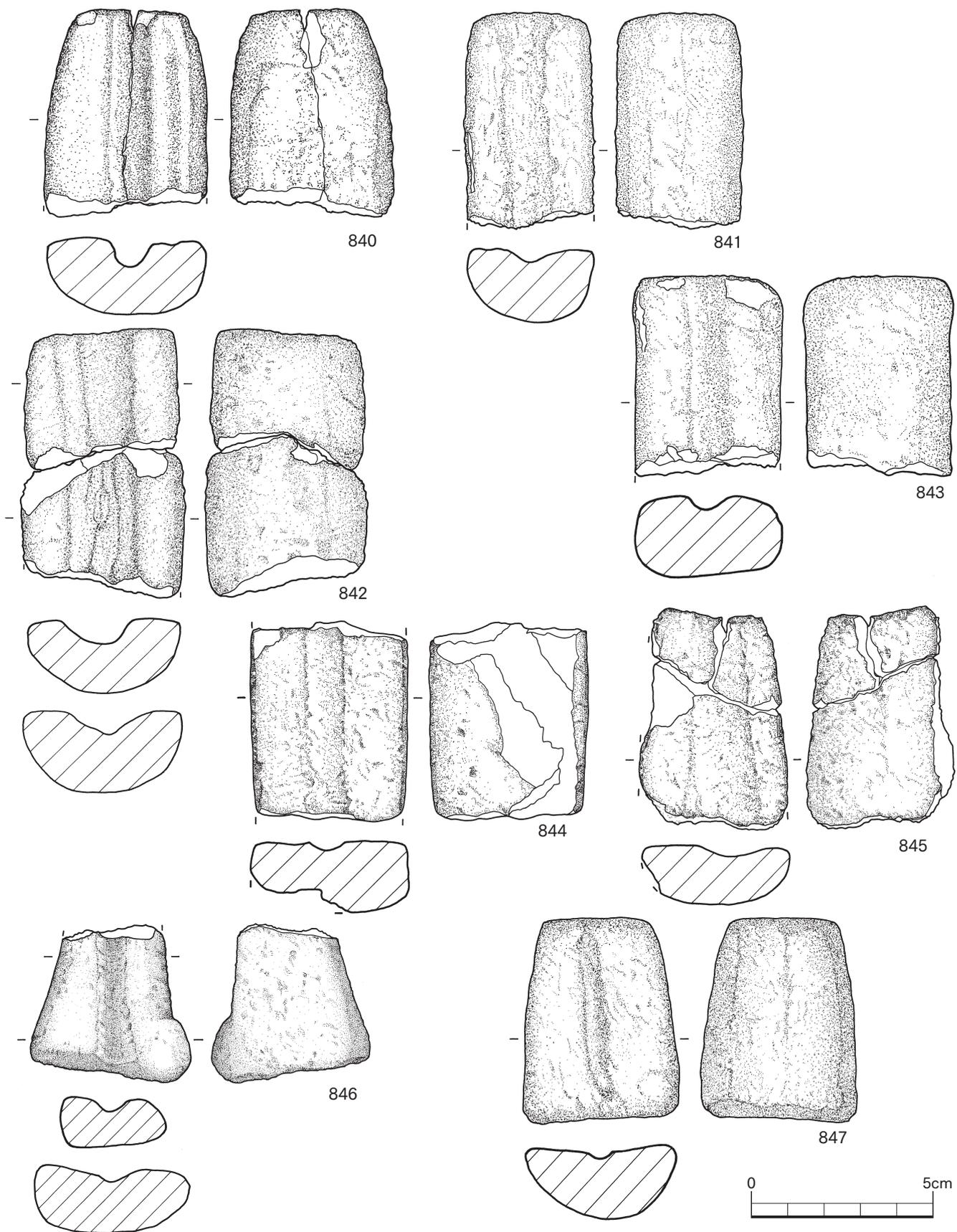
第108図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



第109図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)



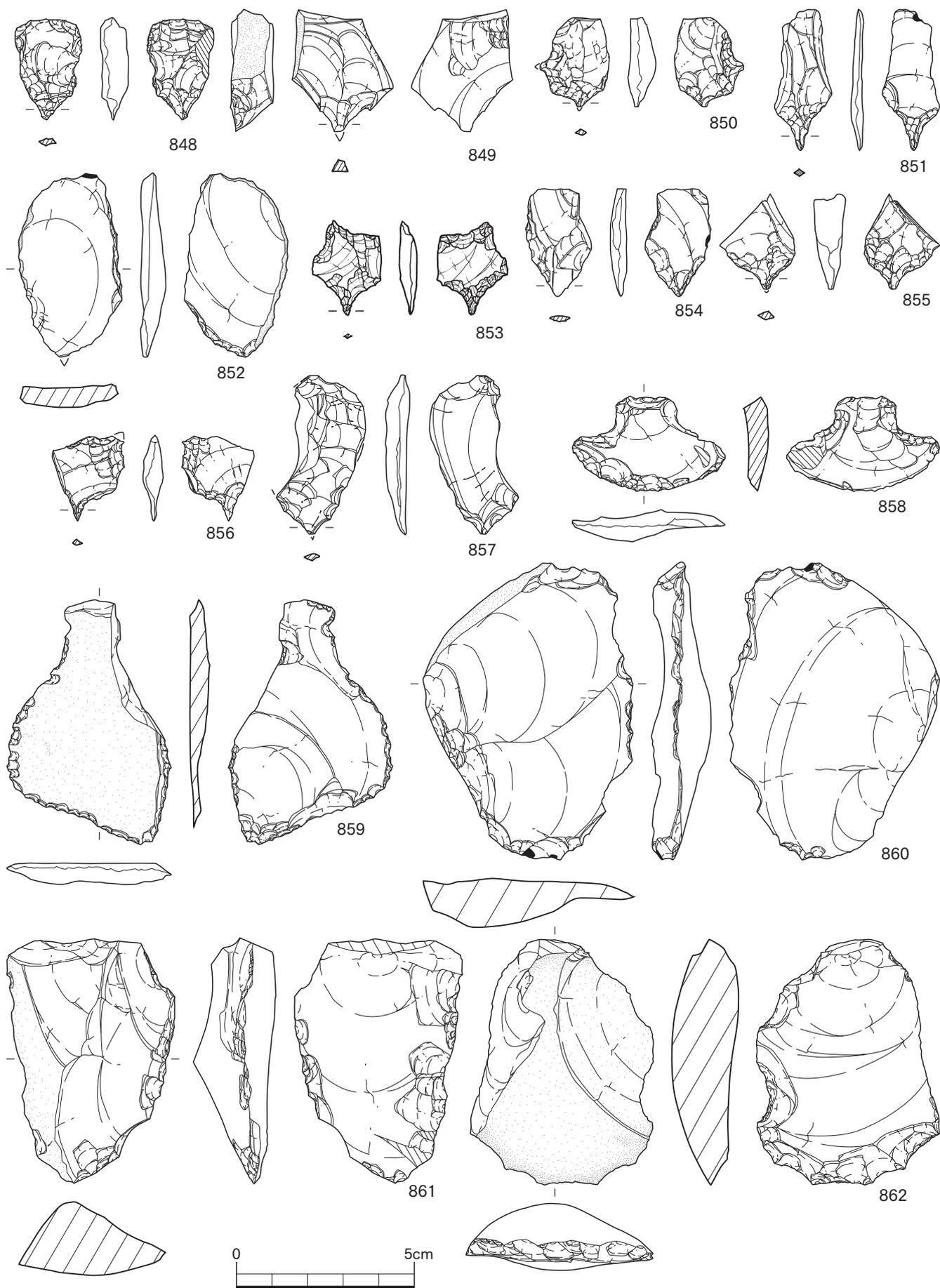
第110図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)



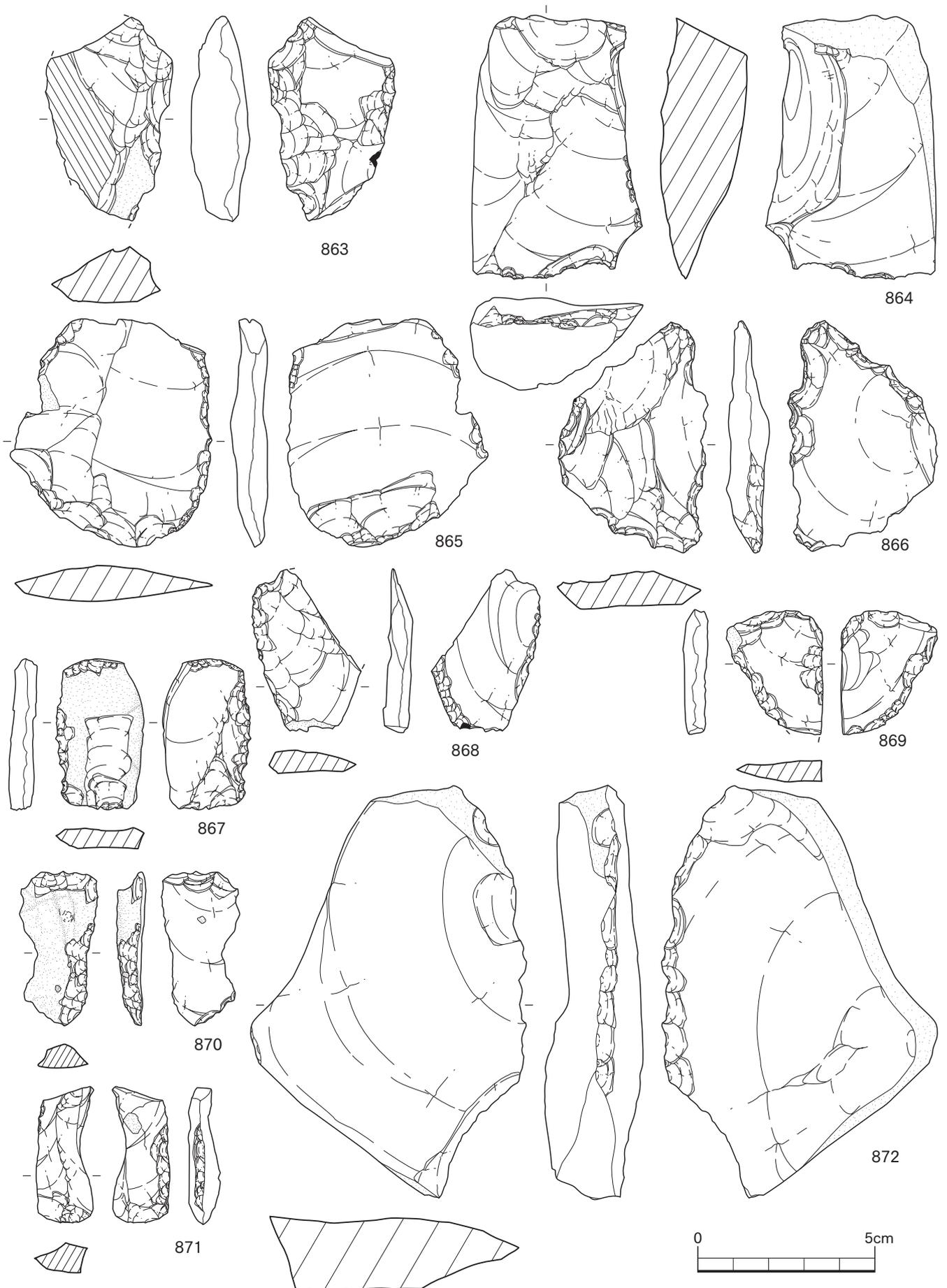
第111図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)

基部と尖端部の間に挟りが見られるような特徴的な形態である。

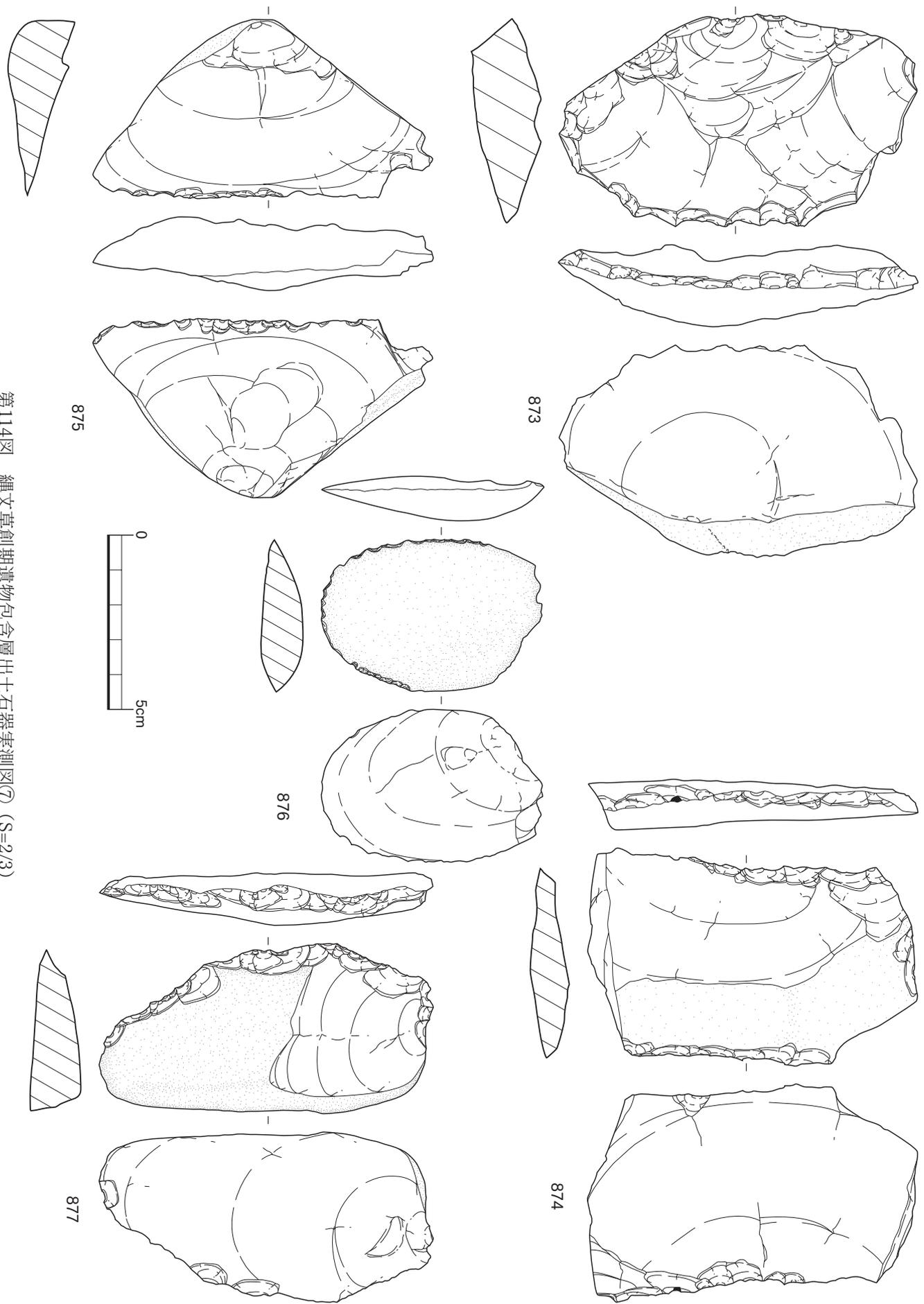
・未製品(816～828)：押圧剥離による調整がみられ、一部は平面形が三角形に近い形状に整えられているが、上記の資料らに比べると分厚いものや尖端部が見られないものなどである。一部は尖頭状石器と分類される可能



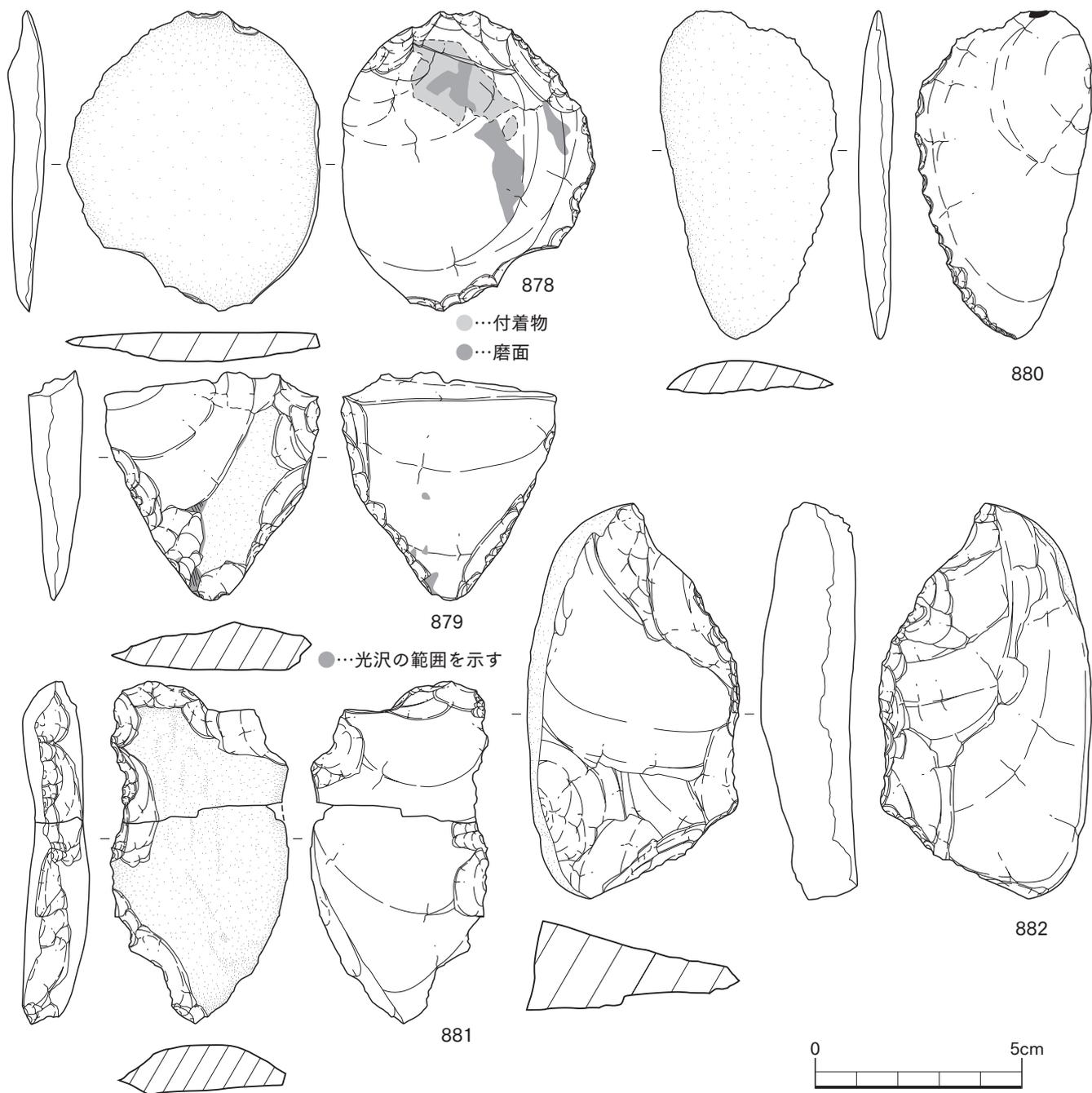
第112図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



第113図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)



第114図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3)

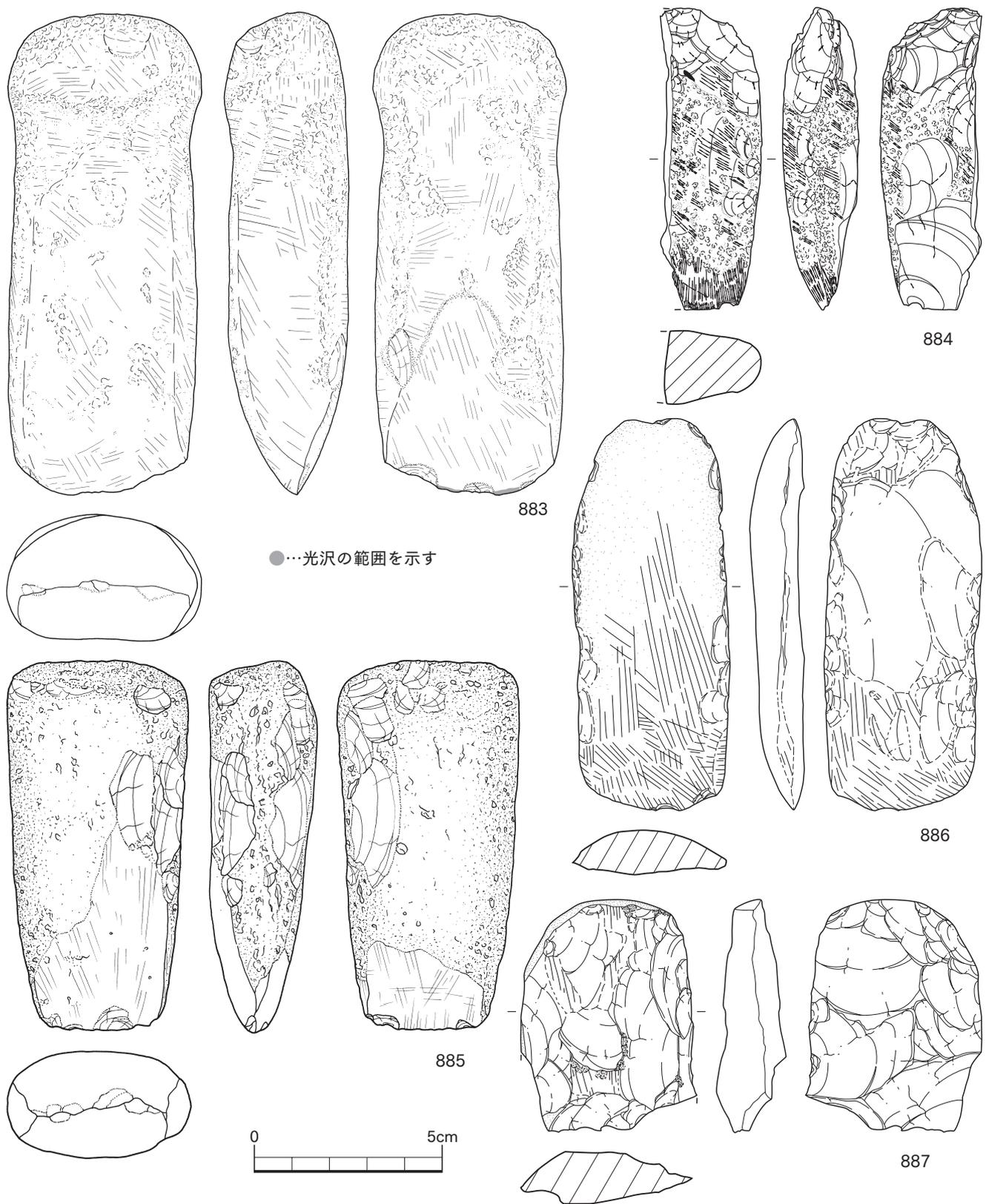


第115図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3)

性もある。58点出土しており、そのほとんどが調査区南西部に分布する。817は先端部付近が磨滅しており、稜線が鈍くなっている。石錐として使用された可能性もある。

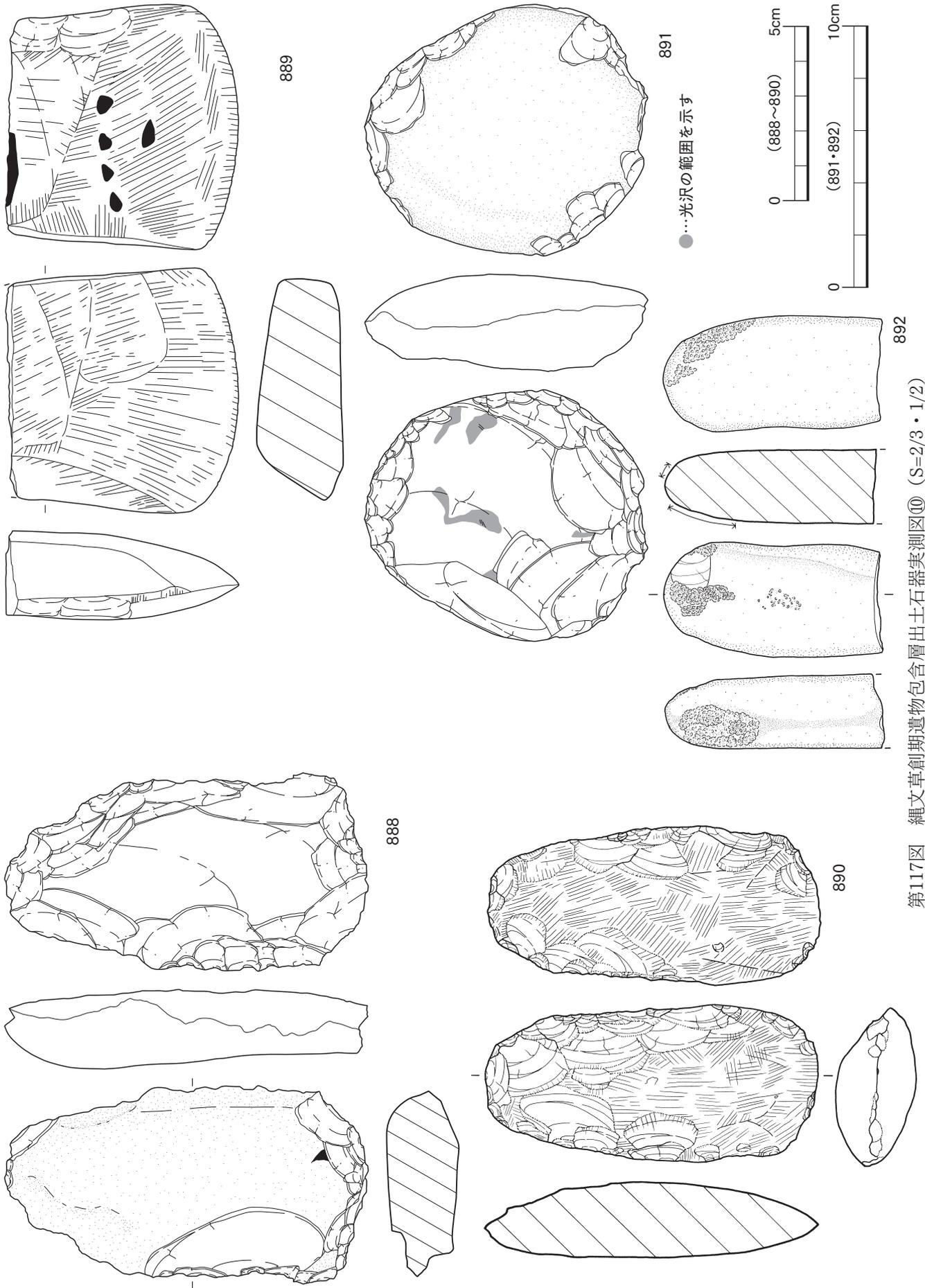
**槍先形尖頭器(829～839)：**安山岩・頁岩・黒曜石・緑色堆積岩のものが見られ、11点出土している。829～834は頁岩製のものである。829は平面形が柳葉形で先端部と基部が欠損している。830は先端部が欠損している。基部と先端部周辺以外は加工が粗い印象を受ける。831～834は素材剥片の形状を大きく残すものである。835は緑色堆積岩製のもので全体の形状を木葉形に整え、一部の研磨を施している。836は腰岳産のもので、平面形が三角形に近いので石鏃未製品の可能性もあるが、非常に分厚く下部に大きな剥離が見られたため、製作途中で廃棄されたものと判断した。837～839は安山岩製のものである。837は有肩型に該当するか、838は基部の破片である。839は先端部の破片のため、全体の形状は不明瞭だが薄手幅広の両面加工尖頭器と考えられる資料である。

**矢柄研磨器(840～847)：**平面形が不整長方形(841～846)や卵形(840・847)を想定させるもので、断面形は

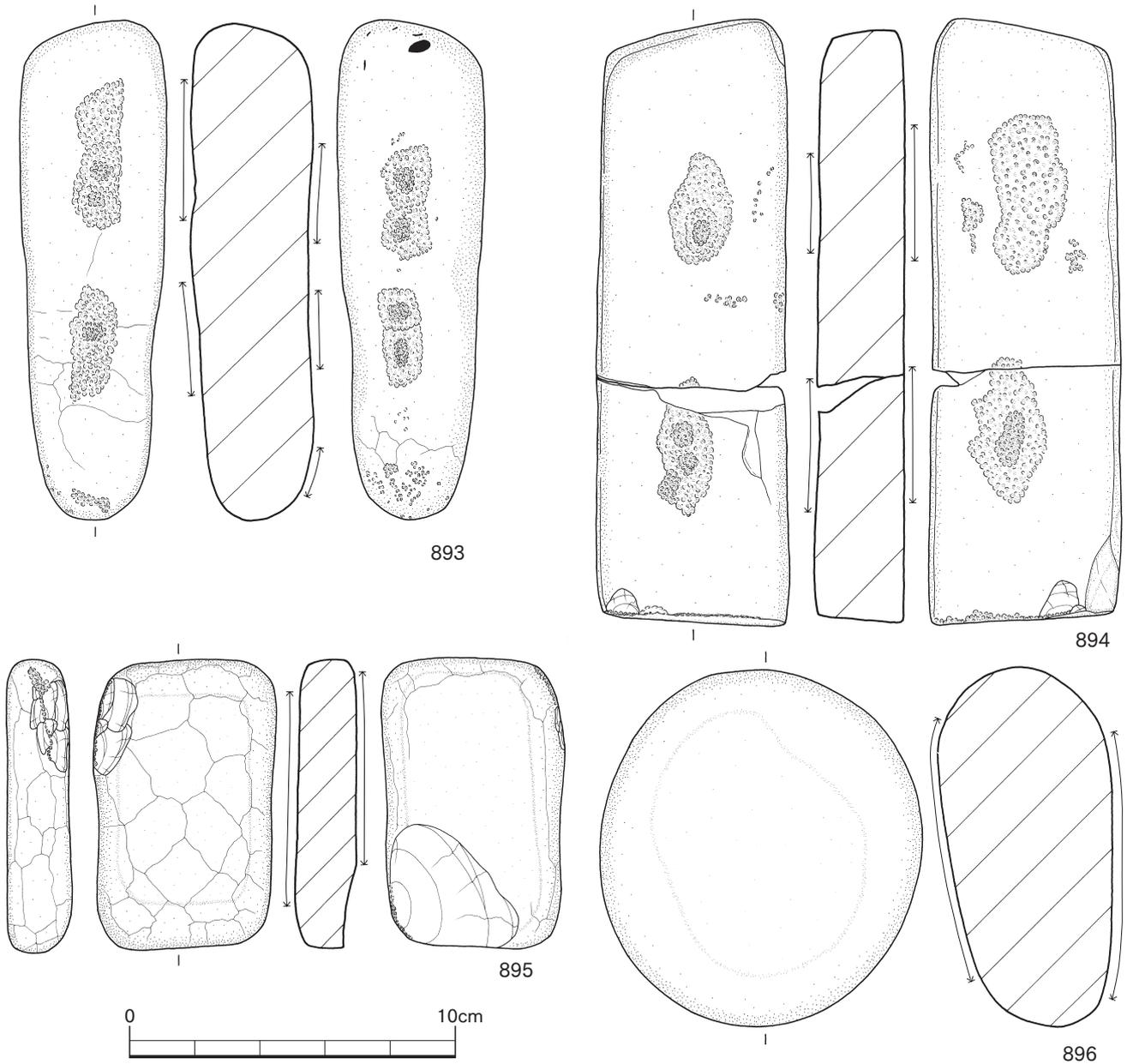


第116図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑨ (S=2/3)

かまぼこ状を呈し、その平坦面の方に一条の溝を有する有溝砥石である。全て砂岩製の9点の破片資料で接合結果から8個体であることがわかった。全て調査区の南西部から出土するという分布状況も特徴的である。840～844は石英質砂岩で、現在の色調は黄褐色だが、新鮮面は白色である。840は平坦面の溝の右側に浅い溝状の痕跡が確認される。842は平坦面の溝の深さが均一でない部分がある。846・847は前述のものとは色調が異なる。



第117図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑩ (S=2/3・1/2)



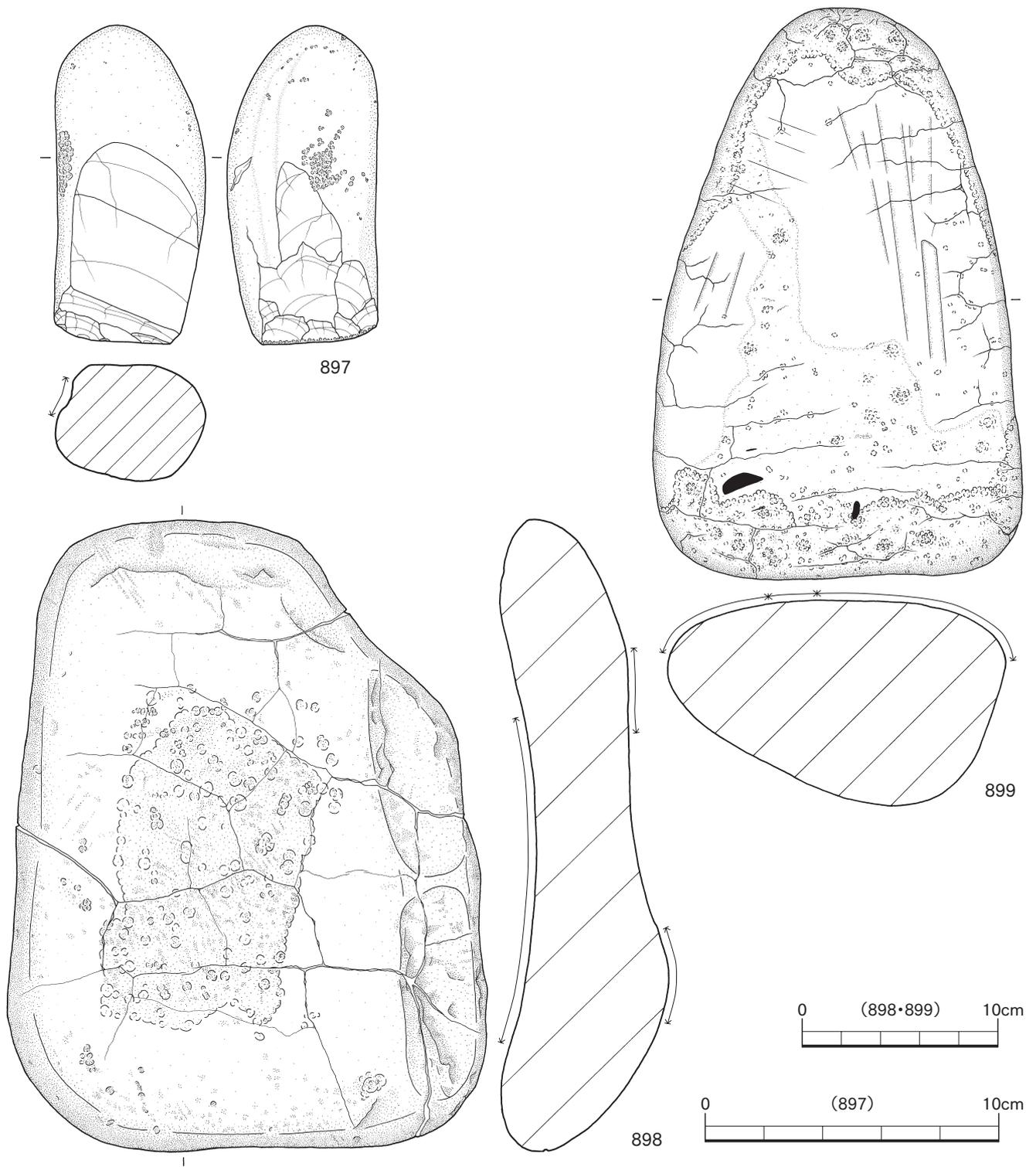
第118図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図① (S=1/2)

846 は末広りの形態で平坦面の右側には不整形な突起がある。847 は青色の色調で平坦面の溝が貫通していない。完形品ともみえるが、端部がやや不整形でもあり再加工品の可能性もある。

**石錐(848～857)：**848 以外は素材剥片の一部だけを加工して錐部を作り出すものである。安山岩の使用が目立つ。16 点出土しており、多くが調査区南西部から出土している。851・853・855・856 は錐部が細く鋭く作られている。850・856 は錐部が2箇所を設定されている。

**スクレイパー (858～881)：**104 点出土しており、砂岩・頁岩の使用が目立つ。大振りなものには砂岩の使用が目立つ。858・859 は上部につまみ状の突起が見られるため石匙に分類できるかもしれない。864 は錐部も認められる。867 は楔形石器の可能性もある。878 は稜線が一部不明瞭になっている箇所があり、これは研磨が装着痕、握り箇所の痕跡の可能性が考えられる。その他に何か付着している箇所もある。879 には光沢が見られる。

**石斧(883～890)：**18 点出土しており、頁岩・緑色堆積岩の使用が目立つ。883～885 はいわゆる丸ノミ形石斧で、いずれも敲打の後に研磨されている。883 は基部の突起が顕著で、刃部には光沢が見られる。884 は刃部と基部に剥離が見られるので再加工品の可能性がある。885 は刃部周辺のみ研磨が顕著で、体部には剥離面が残存している。886・890 は全面に研磨痕が確認されるが、敲打は行われておらず剥離面の稜線が鈍く見られる。886 は特に薄手で、片刃である。888 は研磨痕が見られないので未製品であろう。889 は刃部の破片で、全面磨



第119図 縄文草創期遺物包含層出土石器実測図⑫ (S=1/2・1/3)

き上げられている。破片のため不明瞭だが刃部に向けて幅が広がっているため、撥形になる可能性が考えられる。

敲石(891～895・897)・磨石(896): 121点出土しており、砂岩製のものばかりだが、尾鈴山酸性岩・頁岩がわずかに使用されている。使用礫の形態は円礫(891・896)、棒状礫(892・893・897)、扁平な角礫(894・895)と様々である。891・895・897は使用痕の剥離面が顕著である。

石皿・台石(898・899): 9点出土しており、全て砂岩製である。898は中央がくぼんでおり、敲打痕が確認される。899は中央に磨面があり、部分的に浅い溝状のくぼみも見られることから砥石のように使用された可能性もある。磨面の周囲には敲打痕が見られる。

楔形石器・石斧調整剥片・2次加工有る剥片：図示していないが楔形石器が5点、石斧調整剥片が61点、2次加工有る剥片が11点出土している。石斧調整剥片が堅穴住居跡周辺で多く見られることが特徴的である。

剥片・碎片・石核：縄文草創期の遺物包含層から出土したこれらの各石材の点数と重量は以下のとおりである。頁岩・流紋岩 1036点(9994.2g)、チャート 884点(3138g)、砂岩 779点(30951.1g)、黒曜石：桑ノ木津留産 421点(437.7g)・鹿児島県産 12点(10.6g)、西北九州産 29点(26.8g)、姫島産 10点(10g)、安山岩 311点(604.7g)、ホルンフェルス 42点(460.6g)、水晶 5点(16.2g)、その他 4点(8.6g)。

第5表 縄文草創期遺物包含層出土土器観察表

遺物No.	層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	実測No.
			外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐色	半透明・金雲母		
553	VII	口縁部	隆線上に刺突文	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	-	-	1545
554	VIII	胴部	隆線文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	1978
555	VI	口縁～底部	隆線上に指頭押圧	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR3/1(黒褐)	○	○	-	-	○	-	62
556	VI+VII	口縁～胴部	指押えによる隆帯上に爪先圧痕	ナデ	7.5YR4/3(褐)	5YR7/1(明褐灰)	○	○	-	-	○	-	81
557	VII	口縁部	指押えによる隆帯上に爪先圧痕	ナデ・指押さえ	5YR5/3(にふい赤褐)	5YR5/4(にふい赤褐)	○	○	-	○	○	-	965
558	VI	口縁部	隆帯上に貝殻腹縁押引文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR5/4(にふい赤褐)	○	○	-	-	○	-	84
559	VI	口縁部	隆帯上に貝殻腹縁押引文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	5YR5/4(にふい赤褐)	○	○	-	-	○	-	1374
560	VI	胴部	隆帯上に貝殻腹縁押引文	ナデ	5YR5/4(にふい赤褐)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	-	-	○	-	1551
561	VIII	口縁部	隆帯文(無文)	ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR6/4(にふい橙)	○	○	-	○	○	-	口唇部キザミ 975
562	IX	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	89
563	VIII	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にふい黄橙)	○	○	○	-	○	-	穿孔有 88
564	VII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	10YR5/3(にふい黄褐)	○	○	○	-	○	-	1510
565	VI+VII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ・指押さえ	7.5YR5/3(にふい褐)	5YR5/4(にふい赤褐)	○	○	○	-	○	-	1061
566	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	○	○	-	口唇部一部刺突有 1513
567	IX	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	-	-	○	-	1516
568	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	7.5YR5/3(にふい褐)	-	○	○	-	-	-	42
569	IX	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にふい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	1215
570	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR6/4(にふい黄橙)	○	○	○	-	○	-	1070
571	VIII+IX	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	1106
572	VI	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	○	-	○	-	1366
573	VIII+IX	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	-	○	○	-	1370
574	VI+VII	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	指押さえ・ナデ	10YR6/3(にふい黄橙)	10YR6/3(にふい黄橙)	○	○	-	○	○	-	口唇部キザミ 1365
575	VII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ・指頭圧痕	10YR6/4(にふい黄橙)	10YR5/3(にふい黄褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 40
576	VIII+IX	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ・指押さえ	10YR6/3(にふい黄橙)	10YR6/3(にふい黄橙)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 1392
577	VI+VII	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	ナデ・爪形文	10YR6/3(にふい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 1214
578	VI+IX	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ・指押さえ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にふい黄橙)	○	○	-	○	○	-	口唇部キザミ 1213
579	VII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にふい黄橙)	○	○	-	-	○	-	口唇部爪形文 1417
580	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 穿孔有 1395
581	IX	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にふい赤褐)	-	○	○	○	○	-	口唇部キザミ 82
582	VI	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	-	○	○	-	口唇部キザミ 1514
583	VI	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にふい黄褐)	2.5Y5/2(暗灰褐)	-	○	-	○	○	-	口唇部キザミ 1379
584	VI	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ・指押さえ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 1063
585	IX	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	10YR5/3(にふい黄褐)	○	○	○	-	○	-	口唇部キザミ 1371
586	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	○	-	○	-	口唇部キザミ 1381
587	IX	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/4(にふい赤褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 1405
588	III b	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にふい黄褐)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 1110
589	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 1406
590	VI	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部刺突文 1398
591	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部刺突文 992
592	VI	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR7/1(明褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	-	○	-	口唇部キザミ スス付着 1511
593	VI+VIII+IX	口縁～胴部	つまみによる隆帯文	ナデ(不明瞭)	7.5YR6/4(にふい橙)	7.5YR6/4(にふい橙)	○	○	-	○	-	-	口唇部キザミ 隆帯上に一部刺突? 968
594	IX	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にふい黄橙)	10YR5/3(にふい黄褐)	○	○	○	○	-	-	口唇部キザミ 1040
595	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR6/3(にふい黄橙)	○	○	-	○	○	-	1512
596	IX	口縁～胴部	つまみによる隆帯文に斜め方向のキザミ	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	5YR5/3(にふい赤褐)	○	○	-	○	○	-	口唇部キザミ 1377
597	IX	口縁～胴部	つまみによる隆帯文に斜め方向のキザミ	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	5YR5/3(にふい赤褐)	○	○	-	-	○	-	口唇部キザミ 93
598	VI	口縁部	つまみによる隆帯文に不定形なキザミ	ナデ	5YR5/4(にふい赤褐)	7.5YR5/4(にふい褐)	○	○	○	-	○	-	22
599	IX	口縁部	つまみによる隆帯文に縦方向のキザミ	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	5YR5/4(にふい赤褐)	○	○	○	○	-	-	口唇部キザミ 1380
600	VI	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にふい黄橙)	10YR6/3(にふい黄橙)	○	○	-	-	○	-	口唇部つまみによる隆帯文 1387
601	VI	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にふい黄褐)	○	○	-	-	○	-	1425
602	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にふい黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	-	○	○	-	口唇部に突起とキザミ 1216
603	VII	口縁～胴部	つまみによる隆帯文の後にナデ	つまみによる隆帯文・ナデ	7.5YR6/4(にふい橙)	7.5YR6/4(にふい橙)	○	○	-	○	○	-	内面に隆帯文の剥落痕有 1523
604	V	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	2.5Y6/4(にふい黄)	-	○	-	○	○	-	1977
605	VIII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	○	-	○	-	口唇部キザミ 隆帯はうねる 1389
606	VII	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/4(にふい赤褐)	5YR5/4(にふい赤褐)	○	○	-	○	○	-	口唇部キザミ 隆帯はうねる 1388
607	VIII	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	7.5YR5/3(にふい褐)	○	○	-	-	○	-	隆帯はうねる 1390